

長崎縣

不振で、福日、九日及び大阪新聞等の移入紙の跳梁に委してゐる形である。

▼大小合せて十七新聞
▼大毎、大朝、二萬五千

長崎縣は人口百十三萬五千(大正九年國勢調査)世帯數二十二萬七千で、内に人口十七萬六千の長崎市と、八萬七千の佐世保市とが包含されてゐる。新聞の第一中心地は勿論長崎市で、目下同市から發行されてゐる主なる日刊新聞は長崎民友新聞(朝刊四頁夕刊四頁)長崎日日新聞(朝刊四頁夕刊四頁)長崎新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、東洋日の出新聞(朝刊四頁)の四紙、外に長崎商報(朝刊四頁)及び英字新聞長崎プレス(朝刊四頁)がある。長崎民友は昨年十一月二十四日前中正俱樂部代議士西岡竹次郎君の創刊にかゝり、縣下に十一萬七千餘の無代紙を配布し、目下残つてゐるのは二萬五千と自稱してゐる。同紙は最近七月一日より佐世保に姉妹紙佐世保民友新聞を發行した。

長崎日日は政本黨の代議士則元由庸君が社長で、健實なる歩みを運び、發行部數二萬前後と推定され、最も信用ある新聞とされてゐる。

長崎新聞は日日とは對蹠的に頗る華やかな經營振りであり、經營は神戸新聞の進藤信義君に依頼されてゐた。が最近之れと手を離れ憲政黨所屬代議士橋本喜造君一手で經營される事と決定したやうである。發行部數は日日よりはやく少ないであらう。

東洋日の出は鈴木天眼君等の創刊したもので、近時あまり振はな

佐世保諸紙

次に第二の中心地たる佐世保市には佐世保新報(朝刊八頁夕刊四頁)、軍港新聞(朝刊四頁)、佐世保民友新聞(朝刊四頁)、佐世保日日新聞(朝刊八頁夕刊小型二頁)、佐世保新聞(朝刊四頁)等があるが、其の内、佐世保新報は九州日報の切替版、佐世保日日は福岡日日の切替版、佐世保民友は長崎民友の姉妹紙で、結局獨立せる地元新聞

は軍港新聞と佐世保新聞あるのみである。

發行部數は新報最も多く軍港と日日相匹敵し、民友と新聞は創刊まだ日が浅い。

右の外縣下發行日刊紙の主なるものには鳥原の鳥原新聞(夕刊四頁)、長崎鳥原毎日新聞(朝刊四頁)鳥原時事新聞(朝刊四頁)、めざまし新聞(朝刊四頁)、諫早町の諫早毎日新聞(朝刊四頁)、及び對馬國嚴原町の對馬日日新聞(朝刊四頁)等がある。

移入紙は大毎、大朝を第一として兩紙合せて二萬五千、次は福日三千内外と推定されてゐる。

熊本縣

▼九州日日と九州新聞
▼合せて七萬乃至十萬

熊本市は本年新聞協會大會の開催された地。福岡市につぐ九州に於ける新聞中心地で、此地から發行される代表的日刊新聞は、九州日日新聞(朝刊十二頁)、九州新聞(朝刊十頁)の二紙である。九州新聞は政友本黨の機關、九州日日は憲政會の機關、旗幟頗る鮮明で、編

輯に對策に、猛烈な競争を繰りかへしてゐる。

兩紙の發行部數は熊本縣警察部の推定では、合せて四萬前後と見てゐるらしいが、これは過少に失し七萬前後乃至十萬前後と推定する方が事實に近いであらう。輪轉機の臺數は、九州日日が五臺で九州新聞が三臺。

因みに熊本縣の人口は、七萬の熊本を包含して百二十三萬(大正九年國勢調査)。

尙熊本市には右の外、九州毎日新聞(朝刊四頁)、熊本毎日新聞(夕刊四頁)、大熊本新聞(朝刊四頁)の三紙がある。

縣下の移入紙について、熊本縣警察部が本年六月中推定報告する處は次の如くである。

- 大阪毎日新聞 一、七二三部
- 大阪朝日新聞 七、五七〇部
- 福岡日日新聞 一、一九九部
- 萬朝報 二、三〇〇部
- 國民新聞 一九〇部
- 東京日日新聞 一六九部
- 大阪時事新報 一六九部
- 東京朝日新聞 一六六部
- 以下讀賣、報知、中外等の順となる。

宮崎縣

▼宮崎新聞、日州新聞
▼宮崎日日、宮崎日報

宮崎縣は人口六十五萬(大正九年國勢調査)、世帯數十三萬、從來は交通不便の爲めに文化が遅れてゐたが、近年は其の發達普及に伴ひ、著しく向上した。従つて新聞の發行部數も漸増の傾向にあるが、一般的には讀者の新聞鑑識眼がまだ頗る幼稚である。

縣下發行の主なる日刊新聞は、宮崎市の宮崎新聞(朝刊八頁)、日州新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、宮崎日日新聞(夕刊四頁)、宮崎日報(夕刊八頁)の四紙で、外に都城町に三州日日新聞(朝刊四頁)、及び宮崎日報の姉妹紙として都城町に都城新聞、延岡町に延岡新聞がある。

宮崎の四紙

日州新聞(中立)は宮崎縣で發行する唯一の新聞で最古の歴史を有してゐるが、近來はやゝ他紙に押され氣味である。夕刊を發行するので縣下の記事は最も敏速に報道し得る立場にあり、地方的色彩を

出してはゐるが、最新ニュースを登載する朝刊が市内のみで地方に出ない爲め、延岡や都城新聞に先を越されることが多い。部數はさまでいもないが、古いだけに讀者は全縣下に及んでゐる。

宮崎新聞(本黨系)は鹿兒島新聞の切替版で、創刊以來十年になる元の政友會全勢時代に擴張に腐心し、日州より營業がうまい爲め順調に伸びて行つた。締切の早いのは缺點だが、大した影響なく、編輯は網羅主義をとり、地方通信の豊富な特長を有してゐる。

宮崎日日新聞(本黨系)は豊州新聞の切替版、四頁で紙面は他紙よりも小さいが比較的安いのが強味。今年が創刊三年目で、また各地に手が伸びず、宮崎市を中心に、延岡と都城附近へ出てゐる。

宮崎日報(憲政系)は昨年三月の創刊、大分新聞の切替版である。姉妹紙に延岡新聞、都城新聞を有し、他紙の宮崎中心主義に對して地方分散主義をとり、整つた特色ある編輯振りを示してゐる。

又中央記事が他紙より早く、第五十議會記事の如きも成功であつた。

三州日日新聞(本黨系)は都城で發行する純然たる地方紙、都城及び西北諸縣郡地方に讀者を有してゐる。

其發行部數

以上各紙の發行部數は、合せて二萬八千前後と推定するものもあり、又三萬八千前後と見るものもある。前者に従へば日州新聞が七千五百として宮崎新聞がやゝこれに勝り、宮崎日日と宮崎日報(都城延岡、二紙も合せて)とは六千乃至五千と算定される。更に後者はその多い丈けを主として日州新聞と宮崎新聞とに加ふるものであり、宮崎は日州よりも二三千多く見られてゐる。兎に角、三州日日は純然たる地方紙だけに部數は最も少ない。

移入紙では鹿兒島新聞、大分新聞、豊州新聞が主なるもの。

尙宮崎市の記者團には府市の重要問題など對し、政黨政派を超越して一致協力するの風があり新聞研究なども眞面目に行はれてゐる模様である。

鹿兒島縣

▼鹿兒島朝日、鹿兒島朝日
▼尙ほ開拓の餘地未だ充分

鹿兒島縣は人口百四十一萬(大正九年國勢調査)、世帯數二十九萬八千、福岡につぐ九州での大縣である。

此の地の日刊新聞は、鹿兒島新聞(朝刊八頁)、鹿兒島朝日新聞(朝刊八頁)の二大紙の外に、夕刊鹿兒島商報が鹿兒島新聞社から發行されてゐる。政黨關係は、鹿兒島朝日が中立で、他は政友本黨系。由來鹿兒島は、其地理的關係から、他府縣發行紙の脅威を受ける事少なく、鹿兒島二紙は、比較的順調に今日の大をなした。而して兩紙の勢力は、餘り大差ない模様であるが、鹿兒島新聞は其の創刊が古い丈けに地盤鞏固である。併し鹿兒島朝日は前者のやゝ保守的なに對して積極的經營方針をとり、敏活なる活動振りを示してゐる。今秋、豫て建設中の鐵筋三層樓八百坪の新館竣工、各種の記念事業が催される筈である。鹿兒島新聞も近く新社屋建築に決定した

一紙の部数

兩紙の發行部数は、合せて五萬五千、乃至三萬六千前後と推定する向もあるが、最近某方面からの報告では、大約八萬と推定されてゐる。但し、右の數字については種々異論があるであらう。従つて斷定する事は避けねばならぬ。

次に、移入紙の状態も、見る人により、或は調査の材料其他の關係により、一致しないが、此處には單に一個の參考資料として、某方面からの報告を紹介する。勿論此の推定部数を其儘信頼する事は難い。

- 大阪朝日新聞 六、〇〇〇部
- 大阪毎日新聞 五、〇〇〇部
- 九州日日新聞 五、〇〇〇部
- 福岡日日新聞 五、〇〇〇部
- 國民新聞 二、〇〇〇部
- 時事新報 二、〇〇〇部
- 讀賣新聞 一、五〇〇部
- 萬朝報 一、〇〇〇部
- 東京日日新聞 一、〇〇〇部
- 東京毎日新聞 一、〇〇〇部
- やまと新聞 一、〇〇〇部
- 兎に角、鹿児島縣は其の人口の割に、地元新聞の部数も少なけれぬ。

大分縣

大分縣の新聞界は文化的交通機關の遅れた爲めに、幾分立ちおくれの氣味であつたが、最近十年間に、異数の發達を遂げ、今では地元新聞全盛の地となつた。

- ▼豊州新聞と大分新聞
- ▼地元新聞が全盛の地

目下縣下に發行される日刊新聞は、大分市に豊州新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、大分新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、大分日日新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、大分民友新聞(夕刊四頁)の四紙、別府町に温泉タイムス(夕刊四頁夕刊四頁)、臼杵町に東九州新聞(夕刊四頁)がある。中にあつて最も有力なのは、豊州新聞、大分新聞の二紙であり、大分日日新聞これにつぐ。

豊州と大分

豊州新聞は、縣下に壓力的勢力を有する政友本黨に屬し、創立も最も古く、信用も亦第一である。

大分新聞は憲政會系で、地盤關係や信用の點では豊州新聞に及ばないが、其の他の點では大差なく、若し此の二紙を大母、大朝に比較すれば、大分日日は差しつめ大時といふ立場にある。而して大分日日も政友本黨系に屬する。

大分新聞は編輯に於て地方本位をとり、全紙面悉く純地方記事と特種の政治記事をもつて網羅し、地方色の濃厚なる點に於て歡迎されてゐる。今秋社屋を新築し輪轉機購入の準備がある。

豊州新聞は本年四月十九日を以て創刊四十週年を迎へたので、記念號を發行し、各種の記念出版をなし、又種々の催しを行つた。

尚大分新聞は縣内臼杵町に姉妹紙日民友新聞を發行してゐるが日豊線開通の結果大分縣の勢力範圍に入れる宮崎縣に、豊州新聞は姉妹紙宮崎日日新聞を、大分新聞は同じく宮崎日報を發行し、何れも獨立の經營をなし、縣外でまで相對峙して競争してゐる。又最近愛媛縣下宇和四郡にも大分縣の新聞が相當侵入し、豊州新聞は宇和高市其地數ヶ所に支局を設け、大分新聞も販賣店を設けてゐる。大

阪新聞より早着するので相當受けて居るらしい。

發行部数は、豊州新聞、大分新聞の二紙を合せて六萬前後と推定され、豊州は大分よりやゝ多いが大差なきものゝ如くである。大分日日はずつと下る。其他は論ずる程でない。尚ほ參考までに本年五月七日付大分縣警察部の報告にかゝる同縣各紙の推定發行部数を示せば次の如くである。

- 大分新聞 約四〇、〇〇〇部
 - 豊州新聞 約四〇、〇〇〇部
 - 大分日日新聞約三〇、〇〇〇部
 - 東九州新聞 約 九八〇部
 - 大分民友新聞 約五、〇〇〇部
 - 温泉タイムス 約二、〇〇〇部
- 次に移入紙では大朝、大母最も多くして各七千五百、大時一千二百、福日一千五百と推定され、東京紙は合せて一千八百前後であるが、中にあつて萬朝報が最も多いと見られてゐる。

各社の幹部

最後に縣下新聞界の主要人物を一瞥するに、豊州新聞社長長野深君は早大出身の米國歸りで新進氣鋭、政友本黨常任幹事である。同

主筆の荒木貞雄君は考練の名家且つ人格者。大分新聞社長大津津三君は斯界の先輩で憲政會支黨顧問、副社長大津征夫君は社長の息で新法學士、主筆東清次郎君は手腕ある活動家にして又社交家。大分日日社長衛藤又三郎君は現縣會議員で老練なる社交家、主筆前田多三郎君は最も古き新聞記者である。

沖繩縣

- ▼琉球新報、外二新聞
- ▼部数合せて七千餘か

沖繩縣は人口五十七萬一千(大正九年國勢調査)、世帯數十一萬九千、中に人口五萬三千の那覇市を包含する。

那覇市の新聞界は明治二十六年琉球新報創刊以來興亡窮まりなき有様だつたが、目下は三種の日刊新聞が發行されてゐる。琉球新報(朝刊四頁)、沖繩朝日新聞(朝刊四頁)、沖繩タイムス(朝刊四頁)がそれだ。

琉球新報は創立最も古い。近來は編輯經營主腦者の頻繁なる更迭の爲めやゞダレ氣味であるが、多

年培つた地盤は容易に他紙の侵入を許さず、部数は尙ほ三千二百を推定されてゐる。憲政會の機關本年二月十一日の紀元節をトシ九ポイント半の新活字に改めた。

沖繩朝日新聞は大正四年十一月の創立で、政友本黨系、紙面整ひ廣告も他を壓し、發行部數二千九百餘と稱される。新進氣鋭。

沖繩タイムスは、其の前身沖繩時事新報時代に一時五千を出した事もあつたが、近來甚だ不振、毎月食ひ込む一方で、發行部數二千二百内外と推定されてゐる。準憲政系。

那覇市の移入紙推定部数は、大毎六百、大朝五百、報知五十、讀賣、國民、櫻各三十、東朝、東日各五十、やまと十、鹿児島二百、鹿児島朝日百五十、臺灣日日十五前後と報告がある。

北海道

附樺太

- ▼タイムスと小樽新聞
- ▼大いで函館旭川各紙

北海道は人口二百三十五萬九千(大正九年國勢調査)、世帯數四十四萬九千を算し、略兵庫縣に匹敵するが、密度は我國の最下位にある。新聞中心地は、札幌、小樽、函館の三市を第一として、旭川、釧路、室蘭これにつぎ、外にも二三注目すべき處がある。而して其の代表的新聞は、札幌の北海道タイムス(朝刊十二頁)小樽の小樽新聞(朝刊十二頁)を第一とし、ついで函館の函館毎日新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、函館新聞(夕刊四頁)、旭川の旭川新聞(朝刊八頁)等を擧げねばならぬ。

一二代代表新聞

北海道に於ける二代勢力であつて、嶄然一頭地を抜き、編輯に營業に盛んな競争をしてゐるが、兩社の經營振りや活躍振りを見るに、大朝、大母等の如く、漸次資本の競争となりつゝあることが窺取される。而してタイムスは東武君を理事とする資本金三十二萬圓の合資會社、小樽は上田輝久君を社長とする資本金十萬圓の株式會社である。

兩紙の編輯振りに對しては、タイムスは老人に好まれ、小樽は青年に愛讀される、といふ批評があるが、小樽は、此の二年来紙面に大改善を加へ、きびきびした編輯振りを見せてゐる。併し、肝腎の販賣方面では、小樽はタイムスの鋭い活躍振りに及ばず、一長一短は免がれない。タイムスは、昨秋東社長の選擧地盤の爲め旭川方面へ注意を向け、從來の旭川支局を支社に昇格し、同紙最初の試みたる地方版川上宗谷版を發行したこれに對して小樽も十月から中部版を出して對抗してゐるが、タイムスに一步を先んぜられた形である。併し編輯方面では、本年一月中旬より、小樽取引所が組織を變更し、業務を擴張して米の外に雜穀及び海産物の取引を開始するに至つたので、小樽は新取引所の報道を一手に引受ける決心を以つて逸早く從來の經濟面を擴張し、毎號十二頁中二頁を經濟商況に割き社員數名を増員した。

次に工務方面を一瞥するに、タイムスは目下輪轉機五臺を有してゐるが、別館を建て、之れに折式輪轉機二臺を添付ける事になつて

る。又同社は木工、彫刻師等を置いてゐるが、これは他に比を見ない所である。社屋は新しいので防火、保温設備も行き、立派なものである。

小樽新聞は輪轉機四臺を有してゐるが、社屋狭隘の爲め一臺は別の場所に据附けられてゐる。社屋は古く且つ狭いが、別に敷地を求め、新社屋建築の計畫があると傳へられる。而して其の或る種の設備に就いては、タイムスに一步を先んずべく、極秘裡に計畫を進めてゐる模様である。

右の外、小樽市には北門日報(夕刊四頁)、小樽毎日新聞(夕刊四頁)、小樽商業新報(夕刊四頁)があり、札幌市には札幌毎日新聞(朝刊六頁)がある。北門日報は十萬圓の株式會社で、七、半活字の輪轉機刷、夕刊新聞として侮る可らざる勢力を占めてゐる。札幌毎日には本年二月北海道報の改題せるもの。

函館の三新聞

函館市では、函館毎日及び函館新聞が最も有力であるが、最近頻りに擴張に努力しつゝある函館日日新聞(夕刊四頁)も相當勢力を占

め、外に北海商報(夕刊四頁)函館商報(夕刊四頁)、函館北海新聞、函館民友、函館朝日等の小新聞がある。

毎館毎日は、市内に於ては函館新聞に及ばないが、郡部に勢力を有し、部数は函館合せて五萬前後と推定されてゐる。而して函館の間には殆んど大差なく、若し函館を三萬と算すれば、函館は二萬四五千位に見るべきか。函館日日はずつと下つて萬以下となり、函館北海其他は更に又一層少くなる。函館は、最近人口十六萬五千に上り、購買力も大であるが、小新聞の競争は、相互に生存を危殆に陥らしむる結果となり、地元新聞發達の爲めには、餘りよろこばしからぬ現象とせられてゐる。

政黨關係では、函館が中立、函館が憲政、函館が政友派に好意を有してゐる。紙面は、函館、函館とも四頁夕刊として綜合編輯に傾き函館は朝夕八頁で、紙面の改革は困難らしい。販賣額では、最近函館最も成績を挙げたものゝ如く、毎日市内に相當数を固定せしめる事に成功した。函館も昨年来地方に擴張員を出してゐるが、また

著しい結果は見えない。

函館市、及び渡島半島の移入紙では、北海タイムス最も多くして市四二千、市外一千と推定され、小樽新聞は市内千五百、市外八百餘と推定されてゐる。次に東京紙では、東朝、東日各二千、時事國民各一千前後と見るべきか。

旭川室蘭釧路

旭川市は北海道の中部に位し、近年樺太連絡の開始、北見、十勝、諸平野へ鐵道の開通、及び七十萬石の産米を有する上川平野を控へてゐるだけ、最近頗る發達した。従つて發行人の數も非常に多く、有保證紙、札幌の四十八に次いで四十種に上る。其中、日刊紙は旭川新聞(朝刊八頁)、北海日日新聞(朝刊四頁)、北都毎日新聞(四頁)の三紙で、北海日日は一昨年内訌休刊したが總選舉と共に復活し、北都毎日も日刊と前後して創刊した。

移入紙の部数

以上各紙の外、根室町に根室新聞(朝刊四頁)網走町に日東新聞、野付牛町に北見新聞(朝刊四頁)稚内町に宗谷新報(朝刊四頁)帯廣町

が最も優勢と見てよいであらう。而して近く札幌東京間の電話が全通するに至れば、北海道の地元新聞が非常な影響を受けるであらう事を豫見し得る。

樺太

樺太は人口僅かに十五萬内外に過ぎないが、内地からの新聞が少なくなる爲め、比較的地元新聞が一般に購讀されてゐる。

五月一日現在の新聞紙法による新聞は豊原町の樺太日日新聞(朝刊四頁)、サガレン新聞(夕刊四頁)大泊町の樺太民友新聞(夕刊四頁)日刊新日本(夕刊四頁)大泊毎日新聞(夕刊四頁)眞岡町の樺太時事新聞(朝刊四頁)、眞岡日日新聞の日刊七紙の外、隔日刊、旬刊等合せて十數種に上る。

樺日最も優勢

右の中、最も有力とせられるのは第一に樺太日日で、部数六千前後と推定され、創刊廿年に及び、樺太廳の公文登載紙である。本島

唯一の輪轉機印刷紙でもあり經營狀態も餘裕あるものゝ如くである。次ぎは樺太民友と樺太時事で共に發行部数二千から三千の間に推定され、兩者の間には大差ない。其他の新聞は多くて七八百、少ないのは二三百のものもあり、殆ど問題とするに足りない。

樺太には今夏議政官殿下が行啓案はさるゝ事に内定してゐるので各紙とも、種々の準備をしてゐる。移入紙では、北海タイムス、小樽新聞の兩紙最も多く、共に二千内外は入つてゐるが、タイムスは別に赤も相當に入れてゐるやうである。東京新聞では、東日が一時期活動宣傳したので最も多く、一千内外と推定される。外に報知も相當に入つてゐる。東朝はつひ最近まで手をつけなかつたが、部数は可也に入つてゐる。併し冬期は内地と聯絡が悪く、新聞が舊聞になり勝ちなので、擴張の尻から落ちて行くのはやむを得ない。

臺灣

一市に一紙許可主義
三紙で部数四萬前後

臺灣の日報新聞は、臺北の臺灣日日新報(朝刊六頁夕刊四頁)、臺南の臺灣新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、臺南の臺灣新報(朝刊八頁)の三つであるが、此外東部臺灣に、花蓮港及臺東廳の一部に頒布せられる東臺灣と稱するものがある。之は臺灣新報の東部附録であつたが近頃日刊紙として獨立したものである。併しまだこれを一個の勢力として觀察すべき時でない。

行政區劃

臺灣行政區劃五州二廳の總人口は、最近の調査によると、三百八十八萬三千四百五十一人、この人々に直接効果及ぼす法令は、州令として頒布せられ、その五州より發布せらるゝ公布式は、何れも前記三新聞の附録として發行せられる規程である。而して其の區別は、臺灣日日は臺北州令、臺灣新聞は臺中及び新竹州令、臺灣新報は臺南及び高雄州令の公布紙として指定されてゐる。而して其の人口は臺北七十九萬六千二百六十九人、臺中、新竹、合せて百四十二萬八千七百三十九人、臺南、高雄合せて百五十七萬二千六百三十八

に十勝新聞、(夕刊四頁)、十勝毎日新聞(夕刊六頁)、江差町に江差日日新聞(朝刊四頁)、名寄町に名寄新聞等がある。

右の中、宗谷新報からの報道によると、同紙の發行部数は一日平均五千六百部で、一ヶ月の収入平均千六百圓、支出千五百圓、又同地方の移入紙は東京、其他總てを合せて千三百部見當である。

向全北海道への移入紙の推定部数について、五月中北海道警察部からの報道によると、
東京日日新聞 一一、四四六部
報知新聞 一一、三八〇部
國民新聞 一一、八五〇部
東京朝日新聞 八、二二五部
時事新報 二、四八二部
萬朝報 一、六二一部
大阪朝日新聞 一、三三五部
大阪毎日新聞 九二八部
讀賣新聞 五六八部
東京毎日新聞 一、七七〇部
といふ事であるが、最近に於て、東京朝日は一萬八千内外を出してゐるといふ事であり、東京毎日も五千内外少く推定されてゐると主張してゐる。兎に角、北海道の移入紙では東朝、東日、報知の三紙

となり、それ等の人は、それぞ
れ其の州の公布式の掲載せられる
新聞の、固定讀者となり易い理由
が充分にある。従つて、此處から
推斷すれば、臺南新報最も有望で
臺灣日日は最も損のやうであるが
事實は決して左様でない。
それは、總督府が臺北にある事
及び人口の大部分を占める臺灣人
に、新聞讀者が極めて少ない事な
どの爲めであつて、遠い將來は知
らず、現下にあつては、臺灣日日
が最も優勢と認められ、三紙の總
發行部數四萬前後の中、臺灣日日
は其の約半數を占めてゐると推定
されてゐる。

三紙三態

臺灣日日は、輪轉機を増設し、
又昨夏夕刊四頁を發行、朝刊には
經濟面を一頁獨立させて六頁とな
り、更に活動寫眞班や運動器具部
を新設したりして従來兎角引込み
思案と云はれてゐた同社としては
大奮發である。又先頃、附録に子
供新聞(新聞一頁大)を作つて、其
の創刊祝に三日間子供デーを催し
た。社員海外派遣は石原支配人、

朝鮮

朝鮮は臺灣と等しく新聞發行の
許可主義を取つてゐるが、一市一
紙主義でないから、新聞の數は可
可澤山ある。即ち、全鮮を通じて
日刊邦字紙十九、鮮文新聞四、英
字一、計二十四種であるが、外に
通信風のもの數種ある。

而して新聞の中心地は、京城を
第一として、次は釜山、大邱、つ
いて平壤、元山其他である。

即ち、京城には京城日報(朝刊
四頁夕刊六頁)、朝鮮新聞(朝刊八
頁、京城日日新聞(朝刊八頁)の外
仁川に本社があるが殆んど京城を
根據として發行してゐる朝鮮毎日
新聞(朝刊八頁)があり、又諺字新
聞に東亞日報(夕刊四頁)、毎日申
報(朝刊四頁)、朝鮮日報(朝刊二頁
夕刊四頁)、時代日報(休刊中)の四
種、及び英字新聞セウルプレス(朝
刊四頁)がある。次に地方の主な
ものとしては、釜山に釜山日報
(朝刊四頁夕刊四頁)、大邱に朝鮮
民報(朝刊四頁夕刊四頁)、平壤に

有力邦字新聞

京城日報は、總督府の機關で、
別に諺字紙毎日申報を經營し、基
礎でも信用でも、朝鮮の第一流で
ある。同社は昨秋幹部の更迭を行
ひ、副島道正伯が新たに社長に就
任し、副社長支那人に宮部敬治君
主筆に丸山幹治君等が入り、角田
編輯、河谷營業の兩局長を督して
益々内容の充實と紙面の刷新に努
めてゐる。其の通信網の如きも、
モスコ、北京に新たに通信員を
設け、廣告方面では、東京が十萬
行を抜いてゐる。

朝鮮新聞は、京城日報に對抗す
る民間紙で、政本代議士牧山藤藏
君の個人經營であつたが、今春五
十萬圓の株式會社は組織變更を決
定し、株式の募集中である。發行
部數は京城日報と合せて三萬乃至

四萬と想定され、京城日報を三と
し、朝鮮新聞を二と見るものもあ
る。

京城日日や朝鮮毎日、紙面も
振はないが、經營も困難らしい。
元々、京城日報、朝鮮新聞の二社
の存在してゐる中へ喰込んで行か
うとするのだから無理もない。

主要諺字新聞

次に地方紙では、社會の信用で
も、營業の成績でも、釜山日報が
第一である南鮮一帯を勢力範圍と
し、發行部數も京城二紙に匹敵す
ると稱される。同じ釜山に朝鮮時
報(朝刊四頁)があるが、これは餘
り問題とならず、寧ろ大邱の朝鮮
民報と勢力争ひをしてゐる事の方
が興味がある。平壤の平壤毎日
が可成りしいが同社からの報
告では、發行部數約九千八百、月
收平均一萬一千圓で、支出は約七
千圓であるといふ。即ち、一ヶ月
約四千圓、年に四萬八千圓の利益
がある譯で、此の調子で行つたら
大したものだ。一週一回、黄海、
平北版を發行し、輪轉機を註文中
である。因に同方面に於ける移入
紙は大毎、大朝、京城日報を筆頭
に、約八千である。

有力紙の發奮

之れを要するに、朝鮮は人口一
千七百萬と稱するも、和文を解す
る鮮人は極めて少數であるから、
今の處、邦字紙の數はやゝ多すぎ
るやうである。従つて、將來、三
四の有力なる邦字紙が順調に發展
した曉には、小新聞は勢ひ存在の
理由を失ふ事となるであらう。併
し、一方には又、大毎、大朝の侵

滿洲

關東州を含む

漢字紙では盛京時報
滿洲には邦字新聞と漢字新聞の
二種類が發行されてゐるが、邦字
紙は主として日本人を讀者とし、
漢字新聞は主として支那人を讀者
としてゐる。而して一般に、人口
の密度に比較して發行部數は多い
やうであるが、これは居住民の知
識富力が平均してゐる爲めと、今
一つは産業の關係もあり、殊に最
近は、日支關係、日露交渉の成立
等の爲めに、活況を呈してゐる。

關東州をも包含する滿洲の新聞
中心地は、勿論大連市で、目下此
地から發行されてゐる主要日刊新
聞は、邦字新聞では滿洲日日新聞
(朝刊八頁夕刊四頁)、遼東新報(朝
刊八頁夕刊四頁)、大連新聞(朝刊
四頁夕刊四頁)の三派、漢字新聞
では泰東日報(朝刊十頁)、滿洲報

此の外の地方紙は、皆な其の發

行地元だけのもので別段取りたて
ていふ程のことはない。今や朝鮮
の新聞界は、地元新聞同志の競争
よりも、大資本を擁して侵入し來
る内地新聞、殊に大毎、大朝に對
して、如何に備へんか問題であ
るといふてよい。

會女子雄辯大會等を開催した。
李商在君を社長とする朝鮮日報
は、最近大いに勢力を伸した。輪
轉機三臺を有し、東亞日報に先ん
じて二頁の朝刊を發行した。矢張
り一部からは無内容とか煽動的だ
とかと稱されるが、東亞日報と猛
烈な競争を行ひ、人氣を呼ぶ事
に全力を擧げてゐる。その爲め兩新
聞とも、毎月四五回以上の差押へ
を喰はずに済んだ事がないといふ
毎日申報は、京城日報の經營で
確實性を帯び、健全な歩みを選ん
でゐる。讀者が永續的で、あらゆる
階級に行渡つてゐるのが同紙の
特長であらう。最近活字も入替へ
編輯も非常に研究してゐる模様で
ある。

朝刊八頁、關東報(朝刊八頁)の三紙である。

二大代表紙

右の中、滿洲日日と遼東新報は共に滿洲を代表する二大新聞で、滿日は滿鐵を背景とし、遼東は純然たる民間紙として立つてゐる。

其の勢力及び信用も、兩紙略匹敵し、大通新聞これにつぐ。滿洲日日は、小山内大六君の社長就任以來、種々の改革が行はれ、營業成績も非常に良好の結果を示してゐる。又同社は、滿洲が日本の大陸發展の第一線たるに鑑み、徒らに内地延長主義の模倣を排して、滿洲新文化の開發に勢力を集中し、滿洲各地は勿論、朝鮮、支那各地に支社支局を置き通信網の完全を期してゐる。遼東新報も滿鐵沿線に主力を注ぐの外、近來は支那の時事にも力を入れ、北京、天津等に特置員を置いてゐる、又同紙は、以前は比較的紙面は地味であつたが、近來派出に作る傾きあり、家庭ものに力を注いでゐる、經濟關係、兩紙とも滿洲に於て有力なものであるが、元來、滿洲の一般住民は、日本人と云はず支那人と云

はず、其の生活が常に大豆、豆粕、豆油、高粱等の特産相場の高低に依つて支配され又撫順炭坑、鞍山製鐵所、更に北上して吉林材木蒙古牛羊等と密接な關係があるので産業や經濟に關する記事には非常に注意を拂つてゐる。

大連新聞は、三新聞中最も遅く發刊されたものであり、勢力は前記の二紙に及ばないが、時々問題を捉へて徹底的な別扱を試み、やや整はぬ感みはあるが、派手に派手に行き編輯振りは、一部の興味を呼んでゐる、同社は昨秋大連市飛彈町に新社屋を建築し、今春盛んな披露會を催した。

尙三社とも事業方面に活躍してゐるが、滿洲日日は小學校兒童母國見學團等の年中行事の外、今年は東京出版業者の一團を滿鮮に招待した。

三漢字紙では、滿洲報最も優勢で泰東日報、關東報これにつぎ、發行部数は三紙合せて約一萬五千と推定される。滿洲報は最近奉天へ進出の計畫ありと傳へられてゐる。又同社からの報告では、一ヶ月間の巻取使用量約五十本で、収支は各約五千圓である。

奉天の諸紙

次に大連方面への移入紙は大毎大朝最も多く、福日これにつぎ、東京紙も東朝、東日、時事、國民萬朝、讀賣等相當に入つてゐる。其の部数は、大毎を三千とすれば大朝二千五百、福日一千他は五百部前後と推定される。大毎は昨年暮大連市大山通りに敷地約五十坪、總建坪四百二十坪、五階建鐵筋コンクリートの支局を新建した。

更に第二の新聞中心地奉天に來ると、此處には我々新聞に奉天毎日新聞(朝刊四頁夕刊四頁)、大陸日日新聞(夕刊四頁)、奉天新聞(夕刊四頁)の三紙、漢字新聞に盛京時報(朝刊八頁)がある。

廣告反響調べ

大正十三年十二月一日、大阪の廣告代理業各萬年社は、全國七十六新聞に一頁を十六區劃した商標廣告を掲載し、其の品名又は店名の回答を懸賞募集した。左表は其の結果の統計で、各紙の廣告反響及び其の勢力分野を推知する一つの參考資料たるを失はぬ。現勢の結尾となす所以である。

望展別社及別方地

Table with columns for newspaper names, circulation figures, and regional distribution. Includes titles like '新愛知', '關東報', '滿洲日日', etc.

各新聞地方別回響票數

Table showing the number of responses received by various newspapers from different regions. Columns include newspaper names and response counts.



新人により更始經營
 せられたる二六新報
 が新聞紙本來の使命
 に驀進せんが爲め權
 威富豪を屑もせず
 劍にも挫せず血にも怖れず銳志横溢
 意氣衝天二十年以前に於ける本紙の
 歴史に溯り名實共に若返りたる活動
 振は今日以後の本紙々上に徴せ



誠實、それが東京毎夕

の全使命であります

努力は勝てり

東京毎夕は日曜も休

まない夕刊であります

前驛京東
社聞新夕每京東

却新聞は總ての點に於て最も優越せり。
而も経済面に於て益々其特色を發揮す。



黨せず偏せず新聞中の新聞

夕刊 東京大勢新聞

本紙一ヶ月(税共)前金七十錢三ヶ月貳圓拾錢六ヶ月參圓九拾錢
東京市日本橋區堀越町一丁目二番地

東京大勢新聞社

電話 浪花 振東
一〇五 一〇五 一〇五 一〇五
二一〇 二一〇 二一〇 二一〇
三三〇 三三〇 三三〇 三三〇
八五四 八五四 八五四 八五四
番〇二九九一

最も組織立ちたる電信通信社にして支那及び露國に
支社及通信員を置き政治、經濟、社會一般のニュースを
相互に迅速正確に報導す。英字、露字、漢字、邦字の四種の
通信を發行す、又南洋及び南米の各新聞と無線電信
によるの連絡を有す

極東新聞 東方通信社

東京市京橋區日吉町十五番地

電話銀座 九五〇・九五二・九五三・九五七
四三〇五・二三〇六・二三〇七

支社及
通信員
所在地

北京・天津・上海・廣東・奉天・ハルビン
モスクワ・ウラジオ・吉林・長春・大連・濟南
青島・漢口・重慶・長沙・成都・雲南
鄭州・南昌・南京・福州・香港

河北新報

白雲に聳ゆる俊嶺の如く

新愛知

新愛知は新聞界の泰山なり



北海タイムス

●每號總督府々報 臺北州報臺北市報を附録として添ふ

●無休刊新式輪轉機三臺使用每號八頁乃至十頁二版刷朝刊、夕刊、發行

臺灣日日新報

●南支及南洋に通信機關を有し報道迅速

●新聞發行の外圖書の出版販賣各種の印刷、寫眞及印刷機械材料運動用品、理化科學機械の販賣並に代辯業を兼營す

臺北市榮町四丁目三十二番地

株式會社臺灣日日新報社

電話 三〇三、三〇四、三〇五、三〇六、三〇七、三〇八、三〇九、三一〇、三一〇

振替口座東京二〇番

臺中市費町

同 臺中支局

電話 一〇七番

臺南市錦町二丁目七十七番地

同 臺南支局

電話 二〇番

振替口座臺南二〇番

東京市京橋區銀座一丁目九番地

同 東京支局

電話 銀座四六九番

振替口座二六〇二番

同 大阪支局

電話 島土佐橋七四三番

振替口座大阪四三三五番

威權の界論言鮮朝

寵兒「朝鮮日報」を支持する

膨沛たる一千七百萬民衆の

「力」を記憶せられよ

朝鮮日報

新事業

- (一) 折疊式輪轉機貳臺増設
- (二) 活動寫真自動車隊全鮮巡回
- (三) 廣告主の爲めの新案代理部設置

休無中年



頁八號每

▲關東北に於ける新聞界の權威

記事正確——報道敏速

不偏不黨——嚴正中立

▲縣内版の外福島版、栃木版、發行

町南市上市戸水

社聞新きらばい

新潟時事新聞

社屋改築竣工

七月十五日より朝夕刊八頁發行

前進！寫真部の新設

創刊後纔に一年!!

此の努力と精進を見よ!

本社 新潟市西堀通六番町
東京支社 京橋區宗十郎町十一番地
大阪支局 此花區青日出町北港住宅三七

唯一の標語
く日

一覽

- 一、全國新聞社一覽表.....一
 - 二、全國通信社一覽表.....三
 - 三、廣告代理業者一覽.....四
 - 四、在東京地方新聞社支局一覽.....四
 - 五、新聞關係諸機關一覽.....四
 - 六、東京大阪各社別全社員表.....六
- (補込) 東京大阪各社幹部表

全國新聞社一覽表

本表は全國の主要日刊新聞を地方別にした一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたものであるが中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料により記入した分も多少はある。

一、各社配列の順序は、東京、大阪は創立の年代順により、其他の各地は一定しない。
二、海外では特に關東州及滿洲だけを加へた。
三、各社の記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれ／＼の略號)

記述の順序

新聞名。發行社名。所在地。創立年月日。組織。資本金。政黨關係。朝刊頁數(朝)。夕刊頁數(夕)。社長。社主。副社長。專務。主幹。支那人。編輯局長又は編輯長(編)。主筆。營業局長又は營業部長(營)。輪轉機臺數。平盤臺數(平)。字母。ステロ。寫眞版設備の有無。活字。一行字數。一段行數。一頁段數。一ヶ月の購讀料金。廣告料一行單價(廣料)。兼營業業又は發行物(兼營)。其他の特殊設備或は事項(特設)。
右以外の特殊事項も必要に應じて記入す。又發行社名の記入なきものは總て其の新聞名と同一名の社から發行せらるゝ場合、其他不用又は不明のものは記入せず。

一、東京

東京府

東京毎日新聞 京橋區西紺屋町十番地。明治三十二年拾二月創立。個人經營。夕四頁。(社長)千葉博己。(主幹)座間止水(編)座間止水(主筆)倉計明義。(營)

平野長成。(輪)四臺。(平)壹臺字母。ステロ。寫眞版設備あり(活字)七ポイント七五、拾五字八拾五行、拾貳段。一ヶ月五拾錢。(廣料)普通壹圓貳拾五錢、雜報欄一行金貳圓五拾錢、指定一行拾錢増。附屬雜誌「家庭娛樂」發行。

東京日日新聞

大阪毎日新聞社東京支店東京日日新聞發行所發行。麹町區有樂町一丁目二番地明治五年二月廿一日創立。株式。五百萬圓。朝八頁、夕四頁。(社長)本山彦一。(副社長)矢野文雄。(專)高木利太、桐原捨三。(常務)城戸元亮。(編輯主幹)城戸元亮。(營業局理事)吉武鶴次郎。(輪)高速度機六臺マリノニ式九臺。(平)二臺。字母設備あり。ステロ自働式六臺寫眞版三臺凸版設備あり。(活字)七ポイント半、十五字、百四十三行、十二段。一ヶ月金九十錢(廣料)一圓三十錢。(特設)傳書鳩、電送寫眞機、ラヂオ機、城、モノタイプ、活動寫眞班、助産事業、巡回病院、飛行機、大阪への専用電話。

報知新聞

麹町區有樂町三丁

用一。明治五年六月創立。株式百十萬圓。朝六頁、夕四頁。(社長)町田忠治。(社主)三末善八(副社長)太田正孝。(編)高田知一郎。(營)箕浦多一。(輪)高速度一、マリノニ式十四。(平)五。字母、ステロ、寫眞版設備あり活字七、半十五字、百四十三行十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)普通一圓五十錢、雜報欄三圓五十錢。代理部あり。

讀賣新聞

京橋區西紺屋町十一。明治七年十一月二日創立匿名組合。百五十萬圓。朝八頁日曜祭日十二頁。(社長)正力松太郎(理事)櫻井貢。(編)千葉龍雄。(營)櫻井貢。(輪)五臺。(平)三臺。字母設備あり。(活字)七半、十五行百三十九行十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)普通一圓三十五錢、雜報欄二圓五十錢、場所指定二十錢増、兼營業業又は發行物ブック婦人と小供(月一回)發行。

中外商業新報

日本橋區北島町一丁目卅六番地。明治九年創立。株式。壹百五十萬圓。朝八頁夕四頁。(社長)專務)藤田欽次郎(編)佐藤三郎。(主筆)藤

週刊朝日コドモアサヒ、アサヒスポーツ、アサヒグラフ、其他及臨時出版物。(特設)獨逸製ラヂオア輪轉機、電氣動力、蒸氣動力設備、東京大阪間専用電話。

株式日報 東區北濱一丁目二丁目。明治十五年創立。個人經營。夕四頁。(社長)野口欣一。(編輯)池田留三郎。(營業)岸和田勝。(平)六頁。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八、半、十四字詰、七十九行、七段。一ヶ月六十錢。(廣料)普通五十錢。

大阪都新聞 北區西梅ヶ枝町八五一。明治二十三年十月創立。株式。百三十五萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)福田英助。(編輯)マリノニ三三。(平)一頁。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポイント、十四字詰、百二十三行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)普通一圓十錢。

大阪時事新報 北區曾根崎上四丁目三三、三四。明治卅八年三月十五日創立。株式。一百五十萬圓。朝六頁、夕四頁(專務)堀勲一。(編輯)上杉彌一郎(輪)六頁(平)一頁字母、ステロ

大阪朝報 西區北堀江上通一丁目三九。明治四十一年二月創立。株式。十萬圓。夕四頁。(社長)白神邦二。(專務)鷺谷武(編輯)白神邦二。(營業)葛山正道(輪)二頁(平)五頁。ステロ設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)普通一圓五十錢、特別二圓。

大阪朝報 西區北堀江上通一丁目三九。明治四十一年二月創立。株式。十萬圓。夕四頁。(社長)酒井猪太郎。(副社長)杉本又三郎、三好貴次。(編輯)岡島松太郎。(營業)和田喜一郎。(輪)日比新之輔。(社主)日比孝次郎(編輯)西田正雄。(營業)安平恒雄(輪)一頁(平)三頁。ステロ、寫眞版設備あり。十五字詰、百卅五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓二十錢。

大阪商工新聞 南區末吉橋通二丁目十七。大正十三年三月廿六日創立。個人經營。三萬圓。朝四頁。(社長)中尾源四郎(編輯)堀田芳壽。(營業)重光梅平(輪)一頁。ステロ設備あり。(活字)八ポイント、十四字、百三十三行、十二段。一ヶ月五十錢(廣料)七十錢。

大正日報 大阪府濱寺町驛前大正十三年三月創立。個人經營。二萬圓。朝二頁。夕二頁。(社長)森猛。(副社長)森綱子。(支配人)大石史郎。(編輯)森猛(主筆)森猛(營業)小泉俊雄(輪)一頁(平)二頁(活字)ポイント、十三字詰、百廿行、十二段。一ヶ月三十錢(廣料)七十錢。印刷業兼營。

大阪今日新聞 東區大川町大正十二年二月十一日創立。匿名組合。十五萬圓。夕四頁。(社長)藤浪健二。專務同上(主筆)藤浪健二(編輯)藤浪健二(營業)藤田寅治。(輪)一頁。一頁附附。中。(平)十六面二。(活字)七、半、十五字、七十五行、十二段一ヶ月五十錢。印刷業兼營。

國粹日日新聞 此花區上福島上二丁目。大正十二年八月創立。合名會社。朝四頁。(社長)

寫眞版設備あり。(活字)七、半、十五字詰、百四十行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓十五錢。

大阪經濟日報 東區北濱一丁目。明治四十四年四月一日創立。個人經營。夕四頁。(社長)野口欣一。(編輯)笹山雅夫。(主)筆笹山準式。(營業)中村貞一。(輪)二頁(平)六頁。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八、半、十四字詰、百二十五行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)普通八十錢。

大阪每夕新聞 北區堂島中一丁目三九。明治四十一年二月創立。株式。十萬圓。夕四頁。(社長)白神邦二。(專務)鷺谷武(編輯)白神邦二。(營業)葛山正道(輪)二頁(平)五頁。ステロ設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十七行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)普通一圓五十錢、特別二圓。

大阪朝報 西區北堀江上通一丁目三九。明治四十一年二月創立。株式。十萬圓。夕四頁。(社長)酒井猪太郎。(副社長)杉本又三郎、三好貴次。(編輯)岡島松太郎。(營業)和田喜一郎。(輪)日比新之輔。(社主)日比孝次郎(編輯)西田正雄。(營業)安平恒雄(輪)一頁(平)三頁。ステロ、寫眞版設備あり。十五字詰、百卅五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓二十錢。

大阪商工新聞 南區末吉橋通二丁目十七。大正十三年三月廿六日創立。個人經營。三萬圓。朝四頁。(社長)中尾源四郎(編輯)堀田芳壽。(營業)重光梅平(輪)一頁。ステロ設備あり。(活字)八ポイント、十四字、百三十三行、十二段。一ヶ月五十錢(廣料)七十錢。

大正日報 大阪府濱寺町驛前大正十三年三月創立。個人經營。二萬圓。朝二頁。夕二頁。(社長)森猛。(副社長)森綱子。(支配人)大石史郎。(編輯)森猛(主筆)森猛(營業)小泉俊雄(輪)一頁(平)二頁(活字)ポイント、十三字詰、百廿行、十二段。一ヶ月三十錢(廣料)七十錢。印刷業兼營。

大阪今日新聞 東區大川町大正十二年二月十一日創立。匿名組合。十五萬圓。夕四頁。(社長)藤浪健二。專務同上(主筆)藤浪健二(編輯)藤浪健二(營業)藤田寅治。(輪)一頁。一頁附附。中。(平)十六面二。(活字)七、半、十五字、七十五行、十二段一ヶ月五十錢。印刷業兼營。

國粹日日新聞 此花區上福島上二丁目。大正十二年八月創立。合名會社。朝四頁。(社長)

二頁。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰、百卅八行、十二段。一ヶ月五十錢(廣料)九十錢、特一圓八十錢。出版部事業部あり。

大阪日日新聞 東區北濱四丁目。明治四十四年四月創立。夕四頁(社長)吉弘茂義。(專務)藤木重次郎。(編輯)上總天香(營業)辻庄之助。(輪)五頁。字母、ステロ三頁。寫眞版設備あり。(活字)七、二五、十五字詰、百卅二行、十二段。一ヶ月五十五錢(廣料)普通一圓、記事欄二圓。

關西日報 東區北濱四丁目。大正十一年一月創立。朝四頁。(社長)吉弘茂義。(專務)藤木重次郎。(主筆)藤木重次郎。(編輯)松田正吉。(營業)辻庄之助。(輪)五頁。字母、ステロ三頁。寫眞版設備あり。(活字)七、二五。十五字詰、百卅二行、十二段。一ヶ月五十五錢(廣料)普通一圓、記事欄二圓。

大阪萬朝報 南區安堂寺橋通二丁目三六。大正五年一月創立。個人經營。朝四頁。(社長)上野聖三郎。(編輯)國井豐吉(主筆)國井豐吉。(營業)三橋龍造(輪)一頁(平)三頁。字母、ステロ

(副主筆)女鹿田觀虎。(編輯)阪田國三郎。(營業)女鹿田觀虎。(輪)二頁(平)一頁。ステロ設備あり。(活字)七、半、十五字詰、百六十四行、十二段。一ヶ月六十錢(廣料)一圓。(特設)東京の中外商業新聞、同名古屋支局との専用電話を有す。

三、關 東

神奈川縣 橫濱貿易新報 橫濱市本町六丁目。明治二十三年二月十一日創立。個人經營。朝六頁。(社長)三宅繁。(編輯)岩田四郎(輪)一頁。モノタイプ二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十六行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)金七十五錢。月刊雜誌新報の續行發行通四丁目七十三番地。明治三十一年創立。株式。二十萬圓全額持込済。朝四頁及六頁。(社長)牧内元太郎。(主筆)片山修吾。(支配人)牧内政治郎。(輪)茂出

木源太郎。(主筆)茂出木源太郎(營業)主幹、兼務。(輪)二頁(平)五頁。モノタイプ二。ステロ、完備。寫眞版設備あり。(活字)七、半、十五字詰、百三十八行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)九十錢。印刷製本及出版物兼營。

軍港よろづ新報 橫濱市市。大正十年十二月創立。個人經營。五萬圓。夕六頁。(社長)飯田三太郎。(主筆)樋口琢三郎(營業)高田伴三郎。(平)三頁。十四字詰、八十行、十二段。一ヶ月六十五錢。(廣料)一圓六十錢指定一圓。活版印刷業兼營。

相模中央新聞 須賀野市元町。明治三十八年九月二十五日創立。個人經營。十萬圓。夕四頁。(社長)飯塚竹治(編輯)新倉

寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰、百三十五行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓八十錢。一般印刷並に公衆食堂を兼營。

大阪新日報 此花區上福島一丁目。大正五年六月一日創立。個人經營。夕四頁。(社長)野田廣二。(編輯)外山白嶺。(營業)田中作次郎。(輪)二頁。字母、ステロ寫眞版設備あり。(活字)八ポイント、十六字、百卅二行。十一段。一ヶ月五十錢。(廣料)普通九十錢特別一圓八十錢。

大正日日新聞 東區北濱四丁目六。大正八年十一月廿五日創立。個人經營。一百萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)米田誠夫(社主)三谷先見。(理事)小和田嘉一、三谷先見、編米田誠夫。(主筆)江上嘉隆。(營業)岸田介郎(輪)二頁(平)一頁。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百卅六行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣料)一圓。週刊大正發行。

大阪商業新報 東區島町三丁目四六。大正九年四月五日創立。個人經營。十萬圓。夕四頁。(社

橫濱經濟日報 橫濱市南仲通二丁目。大正九年六月二十日創立。個人經營。七萬五千圓。朝四頁(社長)吉田弘。(編輯)川上潔。(營業)水野也壽次。(輪)一頁(平)四頁。字母、ステロ設備あり(活字)七、七五、十五字詰、百三十二行、十二段。一ヶ月六十錢(廣料)普通一圓、特別一圓五十錢。

相模中央新聞 須賀野市元町。明治三十八年九月二十五日創立。個人經營。十萬圓。夕四頁。(社長)飯塚竹治(編輯)新倉

相模中央新聞 須賀野市元町。明治三十八年九月二十五日創立。個人經營。十萬圓。夕四頁。(社長)飯塚竹治(編輯)新倉

次郎(主筆)内田誠三。(管)實藤富之助(平)三。ステロ設備あり(活字)八、半。十四字詰。百二十行。十二段。一ヶ月五十五錢(廣)普通六十錢、特別七十錢

武相新報

廣須賀市大福十三番地。明治三十八年五月創立。個人經營。五萬圓。夕四頁(社長)荒尾慎一郎。(編)平松華城(主筆)荒尾慎一郎。(平)三。字母、ステロ設備あり。(活字)九ポイント、十五字詰、百十行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣)普通七十錢、特別一圓

廣須賀毎日新聞

廣須賀市大福町九番地。大正十三年五月五日。個人經營。夕小四頁。(社長)松戸美之松。(專務)大浦金二。(編)石原務。(主筆)佐藤清(輪)一。(平)一。ステロ設備あり。十二字詰。四十五行一ヶ月五十錢。(廣)五十錢

相模毎日新聞

小田原町五二。明治四十年五月創立。個人經營。朝四頁。(社長)荒尾慎一郎。(專務)荒尾哲。(主筆)高野濱吉。(管)竹中春吉。(平)二。ステロ二臺。寫眞版設備あり、十三字詰、百行。一ヶ月

五十錢(廣)二行一圓二十錢

埼玉縣

新埼玉新聞

浦和町一四四八。大正十三年十一月創立。個人經營。朝四頁。(社長)藤原秀太。藤原叶。(支配人)藤原頼象。(主筆)正木鐵雄。(管)樋口清太郎。(輪)二。平。九。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七、五、十五字詰、百三十五行、十二段一ヶ月五十五錢。(廣)七十錢

武州新聞

上野新聞の經營。浦和町。個人經營。四頁。(社長)中島喜平。

千葉縣

房總日日新聞

千葉市。明治三十年十月四日創立。株式。五萬圓。朝四頁。(社長)浦邊眞夫。(專務)齋藤亨。(常務)大立目直武。(編)宮内保次郎。(主筆)大立目直武。(管)豐島昭。(輪)一。(平)二。字母、ステロ寫眞版設備あり。(活字)七、七、五、十五字詰、百三十三行、十二

段。一ヶ月七十錢。(廣)六十錢。出版部、事業部あり。

千葉毎日新聞

千葉市本千葉。明治三十六年四月三日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁(社長)五十嵐重郎。(副社長)五十嵐雄。(支配人)五十嵐理亮。(編)五十嵐重郎。(主筆)五十嵐雄。(管)豊田乙次郎。(平)三。ステロ設備あり。(活字)八、半。十四字詰、百二十行、十一段。一ヶ月八十錢。(廣)普通六十錢特別一圓五十錢

茨城縣

いはらき新聞

水戸市上市南町。明治二十三年七月創立。株式。金三萬圓。朝八頁。(社長)飯村丈三郎。(編)伊東利男(主筆)本多文雄。(管)宮田三朗(輪)三。(平)二。字母、ステロ寫眞版設備あり。(活字)七、七、五、十五字詰、百三十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(廣)普通一圓一圓五十錢、雜報一圓一圓。色刷一圓

群馬縣

上毛新聞

前橋市曲輪町。明治十九年創立。個人經營。夕六頁。大正十年三月一日創立。個人經營。朝四頁。(社長)堀込方一。(編)荒川順平。(管)小澤幸太郎。(平)一。ステロ設備あり(活字)九ポイント。十三字詰、百二十六行、十二段。一ヶ月五十錢。(廣)一圓五十錢

福島縣

福島民報

福島市築町二十一番地。明治廿九年五月廿一日創立。匿名組合。二十萬圓。政友会。朝四頁、夕四頁。(社長)八田宗吉。(去幹)中目元治。(主筆)大内一郎。(管)齋藤秋治。(輪)一。(平)一。字母、ステロ寫眞版設備あり。(活字)七、七、五、十五字詰、百三十三行、十二段。一ヶ月八十錢(廣)一圓八十錢

福島民友新聞

福島市大町七十九。明治廿八年五月創立。株式。八萬圓。憲政會系。朝四頁。(社長)幸澤之良。(編)田子健吉。(管)富士崎和一郎。(輪)一。(平)二。ステロ設備あり

上野新聞

高崎市本町六九。明治三十五年創立。個人經營。夕四頁。(社長)中島喜平。(編)神津賢二。(主筆)中島喜平。(管)内村字之吉。(平)一。ステロ設備あり。(活字)八、半。十五字詰、百二十行、十一段。一ヶ月五十錢。(廣)普通八十錢。市公文及登記公告掲載。(兼)武相新報

兩毛織物新聞

桐生市末廣町。大正三年十月十八日創立。個人經營。夕四頁。(社長)榎浦勇次郎(編)藤澤章次。(管)石田留松。(平)二。活字八、五。十三字詰、百〇五行、十一段。一ヶ月五十錢

栃木縣

下野新聞

宇都宮市池上町五

足利産業新聞

足利市三丁

福島新聞 福島市上町十三。明治七年四月創立。中外商業新報社經營。朝四頁。(社長)築田次郎。(主幹)佐藤三郎。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半、十五字詰、百三十五行、十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)普通七十錢。

宮城縣

東北毎日新聞 株式會社三泰社發行。白河町。大正九年五月創立。株式會社。三萬五千圓。朝四頁或六頁。(社長)大越軍三(編)三田恒雄。(管)小松彌作。(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ポイント十五字詰八十行、十二段。一ヶ月四十錢(廣料)六十錢場所指定五割増。(兼管)印刷業。

青森縣

青森日報 青森市柳町五一。明治十三年六月創立。株式。十二萬圓。政友本黨。朝四頁。(主幹)竹内清明。(主筆)堀田源藏。(管)堀田源太郎。(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十二行、十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別七十錢。

山形縣

山形新聞 山形自由新聞社發行。山形市七日町四七一。明治九年九月創立。株式。十萬圓。政友系。朝刊六頁。(社長)橋尾彌門。(支配人)服部敬吉。(編)服部敬吉。(主筆)米本厚。(管)新關太右衛門。(輪)一(平)一。一(活字)七、七五、十五字詰。百三十四行、十二段。月七十五錢(廣料)普通七十錢、特別一圓五十錢。

岩手縣

岩手日報 盛岡市內丸。明治九年七月廿一日創立。株式。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(事務)禰尾清郎。(主筆)岩淵榮男。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)八十錢。

青森縣

青森新報 青森市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

酒田新聞

酒田新聞 酒田町上内匠町九五。明治十三年五月創立。株式。五萬圓。朝四頁。(社長)池田藤彌。(主筆)中村弘。(編)松澤泰一郎。(主筆)佐藤良次。(管)柴田養浩。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九、半、十三字詰。百十行、十一段。月七十錢(廣料)普通五十錢。

岩手縣

岩手新報 盛岡市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

山形縣

山形新報 山形市香澄町八幡石五八。明治二十三年四月創立。株式。六萬圓。朝四頁、日曜六頁。(社長)主筆)大石五郎(編)川崎浩良。(廣告部長)安藤子孝(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、半、十五字詰。百三十行、十二段。月六十五錢(廣料)普通五十錢、特別一圓五十錢。

弘前新聞 弘前市一番町七。明治三十年五月十五日創立。個人經營。朝四頁。(社長)工藤十三雄。(編)齋藤三郎。(主筆)菅)櫻田清芽。(平)一。(活字)舊。十五字詰。九十六行、九段。月六十錢。(廣料)普通二十錢。

岩手縣

岩手日報 盛岡市內丸。明治九年七月廿一日創立。株式。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(事務)禰尾清郎。(主筆)岩淵榮男。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)八十錢。

青森縣

青森日報 青森市柳町五一。明治十三年六月創立。株式。十二萬圓。政友本黨。朝四頁。(主幹)竹内清明。(主筆)堀田源藏。(管)堀田源太郎。(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十二行、十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別七十錢。

山形縣

山形新聞 山形自由新聞社發行。山形市七日町四七一。明治九年九月創立。株式。十萬圓。政友系。朝刊六頁。(社長)橋尾彌門。(支配人)服部敬吉。(編)服部敬吉。(主筆)米本厚。(管)新關太右衛門。(輪)一(平)一。一(活字)七、七五、十五字詰。百三十四行、十二段。月七十五錢(廣料)普通七十錢、特別一圓五十錢。

岩手縣

岩手日報 盛岡市內丸。明治九年七月廿一日創立。株式。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(事務)禰尾清郎。(主筆)岩淵榮男。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)八十錢。

青森縣

青森新報 青森市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

酒田新聞

酒田新聞 酒田町上内匠町九五。明治十三年五月創立。株式。五萬圓。朝四頁。(社長)池田藤彌。(主筆)中村弘。(編)松澤泰一郎。(主筆)佐藤良次。(管)柴田養浩。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九、半、十三字詰。百十行、十一段。月七十錢(廣料)普通五十錢。

岩手縣

岩手新報 盛岡市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

山形縣

山形新報 山形市香澄町八幡石五八。明治二十三年四月創立。株式。六萬圓。朝四頁、日曜六頁。(社長)主筆)大石五郎(編)川崎浩良。(廣告部長)安藤子孝(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、半、十五字詰。百三十行、十二段。月六十五錢(廣料)普通五十錢、特別一圓五十錢。

弘前新聞 弘前市一番町七。明治三十年五月十五日創立。個人經營。朝四頁。(社長)工藤十三雄。(編)齋藤三郎。(主筆)菅)櫻田清芽。(平)一。(活字)舊。十五字詰。九十六行、九段。月六十錢。(廣料)普通二十錢。

岩手縣

岩手日報 盛岡市內丸。明治九年七月廿一日創立。株式。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(事務)禰尾清郎。(主筆)岩淵榮男。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)八十錢。

青森縣

青森日報 青森市柳町五一。明治十三年六月創立。株式。十二萬圓。政友本黨。朝四頁。(主幹)竹内清明。(主筆)堀田源藏。(管)堀田源太郎。(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十二行、十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別七十錢。

山形縣

山形新聞 山形自由新聞社發行。山形市七日町四七一。明治九年九月創立。株式。十萬圓。政友系。朝刊六頁。(社長)橋尾彌門。(支配人)服部敬吉。(編)服部敬吉。(主筆)米本厚。(管)新關太右衛門。(輪)一(平)一。一(活字)七、七五、十五字詰。百三十四行、十二段。月七十五錢(廣料)普通七十錢、特別一圓五十錢。

岩手縣

岩手日報 盛岡市內丸。明治九年七月廿一日創立。株式。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(事務)禰尾清郎。(主筆)岩淵榮男。(輪)一(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字詰。百三十五行、十二段。一ヶ月八十錢(廣料)八十錢。

青森縣

青森新報 青森市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

酒田新聞

酒田新聞 酒田町上内匠町九五。明治十三年五月創立。株式。五萬圓。朝四頁。(社長)池田藤彌。(主筆)中村弘。(編)松澤泰一郎。(主筆)佐藤良次。(管)柴田養浩。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九、半、十三字詰。百十行、十一段。月七十錢(廣料)普通五十錢。

岩手縣

岩手新報 盛岡市仁王通り。大正三年十一月三日創立。朝二頁、夕二頁。(社長)宮永佐吉。(編)信夫源一。(管)大澤龍太郎。

山形縣

山形新報 山形市香澄町八幡石五八。明治二十三年四月創立。株式。六萬圓。朝四頁、日曜六頁。(社長)主筆)大石五郎(編)川崎浩良。(廣告部長)安藤子孝(輪)一(平)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、半、十五字詰。百三十行、十二段。月六十五錢(廣料)普通五十錢、特別一圓五十錢。

信濃日報

松本市大名町。明治五年十月創立。個人經營。憲政會。朝四頁。(社長)降旗元太郎。(副社長)百瀬渡。(支那人)藤卷九郎。(編)山田奇作。(平)三。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八ボイント。十五字。百三十行。十二段。月七。錢。(廣料)四十五錢。

信濃民報

松本市神明町。明治三十二年八月創立。株式。十二萬圓。政友會。朝四頁。(社長)三澤啓一郎。(副社長)三澤眞澄(支那人)三澤千里。(編)野村信次郎。(營)支那人兼務。(輪)一。ステロ設備あり。(活字)八ボイント。十五字。百三十行。十二段。月七十錢。(廣料)普通四十五錢。特別九十錢。

北信每日新聞

上田市。明治三十六年三月六日創立。株式三萬圓。夕四頁。(社長)武市如意。(專務)柴崎泰彦。(編)長谷部賢。(輪)準備中。(平)三。ステロ設備あり。(活字)八ボイント。十五字。百三十行。十二段。一ヶ月六十錢。(廣料)普通四十五錢。特別九十錢。

南信每日新聞

飯田町。明治三十四年十二月創立。株式。一萬八千圓。政友會。夕四頁。(社長)平野繁四郎。(專務)林雅次。(支那人)前島貫一。(編)山田不二夫。(輪)一。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。半。十五字。百四十行。十二段。月六十錢。(廣料)六十錢。

南信每日新聞

伊那町。大正二年創立。株式合資。五萬圓。夕四頁。(社長)藤原謙。(主幹)藤原監。(編)宮下良夫。(營)村田芳嗣。(平)三。ステロ設備あり。(活字)八。半。十四字。七十二行。十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢。特別一圓二十錢。

愛知縣

新愛知 新愛知新聞社發行。名古屋市中區本町。明治二十一年七月一日創立。合資。七十萬圓。朝八頁又は十頁、夕四頁。(社長)大島吉吉。(支那人)大島慶次郎。(編)小原謙馬。(主幹)信夫淳平。(營)岡田伊三郎。(輪)八。字。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。七。半。十五字。百三十五行。十二段。月八十錢。

名古屋新聞

名古屋市中區東區針屋町。明治十七年創立。同三十九年改題。株式合資。六十萬圓。朝八頁。夕四頁。(社長)小山松壽。(主幹)與良松三郎。(編)小林清川。(編)長塚三三。(營)森一兵。(輪)七。字。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。七。半。十五字。百三十五行。十二段。月八十錢。(廣料)一圓二十錢。代理部及文化研究所の設備あり。

愛知新聞

名古屋市中區小林町。明治三十二年三月創立。個人經營。夕四頁。(社長)橋本壽一。明治三十三年十一月創立。個人經營。二萬圓。朝四頁。(社長)遠藤長三郎。(主幹)遠藤定一(主筆、編)山口光園。(廣告部長)井澤欣三郎。(平)二。(活字)七。十五字。百行。九段。月五十錢。(廣料)普通五十錢。

名古屋日報

名古屋市中區西瓦町四ノ切六三。大正二年九月二日創立。個人經營。朝四頁(社長)春日井豐。(支那人)稻垣一郎。(編)青山証一。(營)近藤松次郎。(平)二。字。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)九。半。十五字。ルビ付七十八行。十二段。月五十錢。(廣料)普通八十錢。

東海朝日新聞

豊橋市西八町七四。大正十一年十一月三日創立。個人經營。現在投資額八萬圓。朝四頁。(社長)岡田賢。(專務)福淺徳賢。(編)小野三郎。(營)專務兼任。(平)三。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)八ボイント。十四字。百三十行。十二段。一ヶ月五十五錢。

岡崎朝報

岡崎市康生町。明治三十四年四月一日創立。個人經營。十萬圓。朝、四頁(社長)竹内京治。(副社長)竹内誠男。(編)井上儀三郎。(主筆)田中龍三郎。(營)清水喜平。(平)二。ステロ設備あり。(活字)七。七。半。十五字。百三十五行。十二段。月五十錢。(廣料)普通七十錢。特別一圓五十錢。指定二倍増。

新二河

岡崎市豊田町五十一番地。明治十八年六月一日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁。(社長)手島喜代三郎。(主筆、編)小田庄三郎。(營)梅村園作。(平)二。(活字)七。七。半。十五字。百三十行。十二段。月十五錢。(廣料)特別一圓五十錢。普通七十錢。場所指定一割増。

名古屋毎日新聞

名古屋市中區新築町三丁目。明治九年八月八日創立。個人經營。十萬圓。朝六頁。(社長)吉弘茂壽。(副社長)野村浩司。(理事)豊田半之助。(編)早川友吉。(營)坂野謙次郎。(輪)一。平。二。字。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七。半。十五字。百三十五行。十二段。月六十錢。(廣料)普通九十錢。特別一圓四十錢。

中京毎夕新聞

名古屋市中區南伊勢町二丁目六。大正四年十二月二十四日創立。合資。一萬圓。朝小四頁。夕小四頁(代表社員)川村金雄。(理事)渡邊榮三郎。(編)山田善衛。(理事)(營)川村金雄。(平)六。(活字)八ボイント。十五字。八十五行。八段。月四十錢。(廣料)普通六十錢。

豊橋新報

豊橋市中八町一〇八番地。大正十年十二月二十二日創立。株式。五萬圓。朝四頁(社長)大口喜六。(副社長)小山信。(專務)安藤角次郎。(編)關口孤樹。(主幹)主筆 近藤慶堂(營)大田幸次。(平)一。十二字。百行。十一段。月五十錢。(廣料)六十五錢。特別倍。

岡崎毎夕新聞

岡崎市。大正十二年一月一日創立。個人經營。三千圓。夕二頁。(社長)山

名古屋毎日新聞

名古屋市中區門前町五丁目。大正四年六月創立。個人經營。七萬圓。朝四頁。(社長)横木三郎。主筆、編)横田真人。(營)雄井慶次郎。(輪)一。平。二。字。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七。半。十五字。百三十行。十二段。月四十五錢。

中央商業新聞

名古屋市中區米屋町。明治廿五年創立。合名會社。五萬圓。正午刊四頁。(社長)原健外。(主幹)原兵一郎(專務)加藤光次郎。(主幹)藤原雅市。(編)村瀬秀一。(主筆)社長兼務。(平)二。(活字)九ボイント。十四字。五十五行。八段。

新朝報

豊橋市上傳馬町七

本喜雄。(營)前田藤作。(平)二
ステロ設備あり。(活字)舊十
五字詰、七十行、十段。月三十
錢(廣料)十錢。

春秋新報

(大牛田改題)牛田
町。大正十一年十月卅一日創立
匿名組合。二萬圓。夕四頁(社
長)加藤今一郎。(副社長)近藤市
九郎。(編)加藤眞吉。(主筆)社
長兼任。(支配人)國間朝彦。(平)
二。(活字)九ポイント。十四字
詰、四十六行、八段。一ヶ月三
十錢(廣料)一圓(兼營)印刷、圖
書出版。

知多新聞

半田町北條一。明
治三十一年一月十日創立。合資
三萬圓。夕小四頁(社長)日
比格。(編)稻田廣(廣告部長)日
比三。十六字詰、六段。月二
十五錢(廣料)普通三十錢。

尾三新聞

東春日井郡額戸町
二〇六番地。大正十年四月十
三日創立。個人。一萬圓。政友
本黨。朝二頁。(社長)杉本鎌吉
(副社長)川本海一。(主筆)野崎
千壽(主筆)山岡留吉。(輪)一。
字母、ステロ寫眞版設備あり。
(活字)ポイント、十三字、七十
四行、十二段。月十五錢(廣料)

普通六十錢(兼營)活動寫眞部。
尾三新聞 西尾町。大正五年
六月五日創立。個人。二萬圓。
朝四、六頁。(社長)小野目盛壽
(支配人)藤本與吉。(編)高野珍
念。(主筆)高野珍念。(營)阿部
鉄夫。(平)二。寫眞版設備一。
十二字詰。八十行、八段。月四
十錢(廣料)三十錢。(兼營)印刷
部。

一宮日報

一宮市大字一宮字
須賀崎。大正九年九月一日創立
合資。二萬。夕四頁。(社長)内
藤繁。(副社長)林藤一郎(事務
長)矢吹賢三。(主筆)林藤一郎(支
配人)渡邊松三郎。(編)林藤一
郎。(主筆)門田一衛。(營)出口
竹三。(輪)一。(平)二。字母、ス
テロ、寫眞版設備あり。(活字)
新活字一切揃。十五字詰。八十
七行、十二段。一ヶ月五十錢(廣
料)一行五十錢。

山梨日報新聞

山梨新聞株
式會社發行。甲府市百石町二八
八番地。明治五年四月創立。株
式。十二萬圓。朝四頁。(社長)

山梨縣

山梨縣新聞 山梨新聞株
式會社發行。甲府市百石町二八
八番地。明治五年四月創立。株
式。十二萬圓。朝四頁。(社長)

十錢。(廣料)五十錢。
駿遠日報社 濱松市千歲町
百〇四番地。一。明治四十四年
十月廿八日創立。個人經營。二
萬圓。朝二頁。(社長)大島吉吉
(主筆)小川惠見。(支配人)主筆
名倉吉平。(營)小池傳策。(平)
二。ステロ設備あり。(活字)普
通活字近日ポイントに改正。十
二字。百行。十一段。月四十錢
(廣料)六十錢。

夕刊熱海新報

熱海町。大
正十年十一月十日創立。個人經
營。一萬五千圓。夕四頁。(社長)
神保彌三郎。(編)鈴木喜代二
(平)三。十一字詰。四十三行。
一ヶ月三十錢。(兼營)普通活版
印刷。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

編)野口二郎。(主筆)小林彦太郎
(營)清水富十郎。(輪)一。(平)
三。ステロ、寫眞版設備あり。
(活字)七、七五、十五字詰。百
三十行、十二段。月五十錢(廣
料)八十錢(兼營)印刷部。山梨
縣報、山梨警察報、山梨農務時
報。

山梨縣

山梨縣新聞 山梨新聞株
式會社發行。甲府市百石町二八
八番地。明治五年四月創立。株
式。十二萬圓。朝四頁。(社長)

山梨縣

山梨縣新聞 山梨新聞株
式會社發行。甲府市百石町二八
八番地。明治五年四月創立。株
式。十二萬圓。朝四頁。(社長)

月七十錢(廣料)九十錢。(兼營)
印刷部。
岐阜新聞 (濃飛日報の改題)
岐阜市今澤町八。明治二十一年
十一月二十日創立。合資。朝二
頁。夕四頁。(社長)清寛。(專
務)武藤傳治。(輪)一。(平)二。
字母、ステロ。寫眞版設備あり
(活字)七、七五、十五字。百三
十行。十二段。一ヶ月七十錢。
(廣料)普通九十錢。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

川安藏。(輪)一。(平)一。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十行
十二段。月五十五錢。(廣料)普
通六十錢。

静岡縣

静岡新聞 静岡市東服町。明
治廿六年二月創立。合資會社。
十萬圓。政友本黨。朝四頁。夕
四頁。(社長)松浦五兵衛(支配
人)橋本喜作。(主筆)寺崎乙治
郎。(輪)二。字母、ステロ。
寫眞版設備あり。(活字)七、七五
十五字詰。百卅五行。十二段。
月九十錢。(廣料)八十錢。こ
も新聞毎週一回發行。

静岡縣

静岡新聞 静岡市東服町。明
治廿六年二月創立。合資會社。
十萬圓。政友本黨。朝四頁。夕
四頁。(社長)松浦五兵衛(支配
人)橋本喜作。(主筆)寺崎乙治
郎。(輪)二。字母、ステロ。
寫眞版設備あり。(活字)七、七五
十五字詰。百卅五行。十二段。
月九十錢。(廣料)八十錢。こ
も新聞毎週一回發行。

十四字詰、七十三行、十一段。
月四十錢。(廣料)普通七十錢。
特別一圓、雜報一圓二十錢。(兼
營)印刷部。
伊勢新聞 津市丸ノ内四番地
明治十一年一月創立。個人經營
二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社
長)松本恒之助(副社長)松本
宗重。(編)若林義夫。(營)黒木
多喜彌。(輪)三。(平)八。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十五
行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通七十錢。コードモ新聞發行。

三重縣

伊勢新聞 津市丸ノ内四番地
明治十一年一月創立。個人經營
二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社
長)松本恒之助(副社長)松本
宗重。(編)若林義夫。(營)黒木
多喜彌。(輪)三。(平)八。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十五
行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通七十錢。コードモ新聞發行。

三重縣

伊勢新聞 津市丸ノ内四番地
明治十一年一月創立。個人經營
二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社
長)松本恒之助(副社長)松本
宗重。(編)若林義夫。(營)黒木
多喜彌。(輪)三。(平)八。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十五
行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通七十錢。コードモ新聞發行。

三重縣

伊勢新聞 津市丸ノ内四番地
明治十一年一月創立。個人經營
二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社
長)松本恒之助(副社長)松本
宗重。(編)若林義夫。(營)黒木
多喜彌。(輪)三。(平)八。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十五
行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通七十錢。コードモ新聞發行。

三重縣

伊勢新聞 津市丸ノ内四番地
明治十一年一月創立。個人經營
二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社
長)松本恒之助(副社長)松本
宗重。(編)若林義夫。(營)黒木
多喜彌。(輪)三。(平)八。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
七、七五、十五字詰、百三十五
行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通七十錢。コードモ新聞發行。

二。明治三十八年一月一日創立
個人經營。三萬圓。朝四頁。(社
長)中西覺次郎。(主筆)鈴木長
一郎。(編)白井吉一。(營)杉山
佐一。(輪)一。平)四十六大
頁一。夕四頁一。ステロ設
備あり。(活字)九ポイント。十
三字。百十二行。十二段。月五
十錢。(廣料)七十錢。(兼營)諸
印刷。

濱松新聞

濱松印刷株式會社
發行。濱松市田町一番地。明治
卅二年一月三日創立。株式。二
萬圓。朝四頁。夕二頁。(社長)
佐藤章次。(專務)中村啓太郎。
(主筆)松浦鏡太郎。(主筆)上泉
義雄。(輪)一。平)二。ス
テロ、寫眞版設備あり。(活字)
八。半。十四字。百十八行。十
二段。月六十錢。(廣料)六十錢
(兼營)濱松市公報印刷。夕刊靜
岡縣報其他。

夕刊静岡日報

静岡日報社
發行。濱松市紺屋町一〇九。匿
名合資。三千五百圓。夕二頁。
(社長)松浦鏡太郎。(營)本多榮
一。(輪)一。ステロ設備。寫眞
版設備あり。(活字)八。半。十
四字。百十八行。十二段。月三

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

岐阜縣

岐阜縣新聞 岐阜市今小
町。明治十四年五月創立。個人
經營。朝八頁。(社長)主筆)西田
銳吉。(社主)高橋嘉津美。(編)
宮脇朝民。(營)青木九十六。(輪)
一。(平)二。字母、ステロ。寫
眞版設備あり。(活字)八。半。
十四字。百二十五行。十二段。

表覽一社開新國全

之吉(編)北山定。(平)三。字母
ステロ、寫眞版設備あり。(活字)
八ボイント、十五字詰、百三十
行。十二段。月七十五錢。(廣料)
普通六十錢。

伊勢朝報 宇治山田市本町。
明治三十三年四月創立。個人經
營。朝四頁。(社長)西田周吉。
(主筆、編)中北直藏。(營)中川
經三郎。(平)二。寫眞版設備あ
り。(活字)八、五。十五字詰、
百二十行、十一段。月四十五錢
(廣料)普通四十錢。

吃驚新聞 宇治山田市。明治
四十年五月創立。個人經營。二
萬圓。夕四頁。(社長)國府重周
(平)二。(活字)舊。十三字詰、
七段。月四十二錢。(廣料)普通
四十五錢。

松次新聞 松阪町。大正九年
十一月創立。個人經營。夕四頁
(社長)池田景彦。(主幹)松井龜
治郎。(編)竹内勲次郎。(主筆)
荒井深彦。(營)中西佐太郎。(平)
十六頁一、八頁一。字母。寫眞
版設備あり。(活字)九、半。十
三字詰、八十行、十二段。一ヶ月
四十五錢。(廣料)普通五十錢
特別一圓。

南勢新聞 松坂町殿町。明治
三十二年十月十八日創立。個人
經營。夕四頁。(社長)須田好
(營)中村利三郎。(活字)舊。十
五字詰、九十五行、九段。月五
十五錢。(廣料)普通六十錢。

伊勢新報 桑名町。明治三十
五年創立。個人經營。三萬圓。
朝四頁。(社長、主筆)三井博
(編)田中辰三郎。(營)紀平芳太
郎。(平)二。十一字詰、百十行
十二段。月六十錢。(廣料)普通
八十錢。

伊賀時報 上野町丸之内。大
正九年四月三日創立。個人經營
一萬圓。憲政會。夕四頁。(社長)
中林正三。(副社長)村主孝太郎
(支那人)菊岡庄太郎。(編)村主
孝太郎。(主筆)宮崎光雄。(平)
二。十二字詰、九十八行、十一
段。月三十錢。(廣料)普通十錢
特別三十錢(兼營)滋賀縣水口町
に華正事報發行。

伊賀日報 上野町、朝四頁。
紀南新報 南牟婁郡木本町。
明治三十五年四月三日創立。個
人經營。十萬圓。夕四頁。(社長)
岩本繁。(主筆)武上登石。(平)
二。(活字)舊。十二字詰、六十
五行、十一段。一ヶ月六十錢。
(廣料)普通六十錢。特別一圓二
十錢。

南海新報 紀州尾鷲町。大正
七年二月十一日創立。個人經營
五萬圓。朝四頁。(社長)肥田喜
次郎。(專務)浦田孤堂。(營)村
田博美。(平)二。字母、ステロ
設備あり。(活字)ボイント。十
二字詰、九十五行、十一段。月
五十錢。(廣料)三十錢。

石川縣

北國新聞 金澤市南町九三。
明治二十六年八月五日創立。個
人經營。十萬圓。朝六頁、夕四
頁。(社長)林政武。(理事)飯
尾次郎三郎(編、主筆)爲田健二
(營)林繁。(輪)二。(平)一。字
母、ステロ、寫眞版設備あり。
(活)七、五。十五字詰、百三十
八行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通八十錢。

北陸毎日新聞 金澤市南町
四十一。明治三十三年五月八日
創立。株式會社。五萬圓。朝四
頁、夕四頁。(社長)櫻井兵五郎
(專務)高木八良。(編)武谷基太
郎(主筆)市川源。(營)淺野平成
(輪)一。(平)一。モノタイプ三
ステロ、寫眞版設備あり。十五
字詰、百二十五行、十二段。月
七十五錢。(廣料)普通八十錢。

金澤新報 金澤市南町六二。
大正八年七月三日創立。個人經
營。七萬圓。朝四頁。(社長)北
野庄吉。(副社長)鈴木國助。(主
幹)社長兼務。(營)副社長兼務。
(輪)一。(活字)八、半。十四字
詰、百二十行、十二段。月四十
五錢。(廣料)普通八十錢。

北國夕刊新聞 金澤市。大
正十年四月二十六日創立。個人
經營。五萬圓。夕八頁。(社長)渡
邊詳明。(副社長)大澤晴豐。(主
筆、編)福見貞輔。(營)大澤晴
豐。(平)五。ステロ、寫眞版、
設備あり。十一字詰、六十五行
八段。月四十五錢。(廣料)八十
錢。

北國日報 金澤市。大正三年
十二月一日創立。合資。朝二頁
(社長)大島宇吉。(主幹、主筆)
樺木義一。(支那人)大島慶太郎

(營)村中基太郎。(平)一。字母
寫眞版設備あり。十四字詰百十
行、十二段。一ヶ月三十五錢。
(廣料)普通八十錢。

北國日日新聞 金澤市安江
町七九。大正九年八月三十一日
創立。合資。一萬圓。朝四頁。
(社長)戶部良祐。(編)廣橋學。
(營)館村南枝。(平)二。(活字)
舊。十三字詰、九十行、十段。
月五十錢。(廣料)普通六十錢。

福井縣

福井新聞 福井市九十九町二
番地。明治三十二年八月創立。
株式。四萬圓。朝六頁。(社長)
今村七平。(主筆)土生彰。(營)
小島鐵次郎。(輪)一。(平)一。
字母及びステロ、寫眞版設備あ
り。(活字)七、七五。十五字詰
百三十三行、十二段。月七十錢
(廣料)普通五十錢。

福井日報 福井市佐佳枝下町
明治四十五年五月二日創立。個
人經營。朝四頁。(社長)今井健
彦。(營)村中基太郎。(平)三。
(活字)七、七五。十五字詰、百
三十五行、十二段。月六十錢。

福井毎日新聞 福井市佐佳
枝上町四一。大正三年四月四日
創立。個人經營。五萬圓。朝刊
四頁を發行す。(社長)谷口繁電。
(總務)加藤順平。(編)石丸眞次
(主筆)唐澤斗岳。(營)上島政治
郎。(輪)一。(平)一。字母、ス
テロ、寫眞版設備あり。(活字)
八、半。十四字詰、百二十行、
十二段。月六十錢(廣料)普通七
十錢。

福井毎夕新聞 福井市。大
正十三年創立。

新福井日報 福井市佐佳枝
中町八七。大正十三年三月一日
創立。新愛知の經營。朝四頁。
(社長)大島宇吉。(主筆)小原鶴
城。(營)村中基太郎。(平)二。
字母、ステロ設備あり。(活字)
七、七五。十五字詰、百三十行
十二段。月四十錢。(廣料)普通
五十錢。

みくに新聞 坂井郡三國町
未廣。明治三十六年創立。株式
一萬圓。朝二頁。(社長)渡畑三
郎。(專務)池上佐太郎。(編)牧
野和夫。(主筆)江戸肇。(營)池
上佐太郎。ロール一。十三字詰

六十行、十段。一ヶ月四十錢。
(廣料)四十錢(兼營)普通印刷。

敦賀新聞 敦賀町大島一〇七
明治四十一年九月創立。個人經
營。夕四頁。(社長)大崎喜藏。
(平)二。活字舊。十二字詰、六
十行、八段。月四十錢。(廣料)
普通四十錢。

敦賀中外新聞 敦賀町。大
正七年十月二十二日創立。個人
經營。夕四頁。(社長)小林千代
三郎。

丸岡新聞 丸岡町谷。大正十
一年十二月創立。株式。五萬圓
政友本黨。朝四頁。(社長)藤島
欽二。(編)甲斐慶風。(營)山崎
長吉。(平)二。ステロ寫眞版設
備あり。十五字詰、百〇二行。
十二段。月八十五錢。(廣料)一
圓廿錢。(兼營)活版印刷。

若狹新聞 小濱町。大正十年
一月一日創立。個人經營。二十
萬圓。夕四頁。(社長)河村仁右
衛門(編)日野喜太郎。(營)池田
甚吾。(平)三。ステロ設備あり
(活字)九、半。十三字詰、六十
行、十二段。一ヶ月四十錢(廣
料)六十錢。

若州新聞 小濱町。明治三十

五年十一月二十五日創立。個人
經營。五萬圓。夕四頁。(社長)
中村市五郎。(編)山田勇。(營)
岡部三四郎。(輪)一。(活字)八
半十四字詰。九十行、九段。月
五十錢(廣料)普通六十錢。

敦賀毎日新聞 高濱町。大
正六年六月一日創立。個人經營
五萬圓。朝二頁。(社長)櫻本一
阿。(支那人)櫻本秀治。(主筆)
櫻本淡水。(營)小林ゆた。寫眞
版設備あり。(活字)九、半。十
四字詰、百二十行、十二段。一
ヶ月四十錢。(廣料)四十錢。

富山縣

北陸タイムス 富山市總曲
輪三九九。明治四十一年十一月
五日創立。個人經營。朝四頁。
夕四頁。(社長)田中清文。(主筆)
梅川新多郎。(編)内藤隆。(主筆)
中野富。會計部長)高瀬覺四
郎(輪)一。ステロ、寫眞版設備
あり。(活字)七、七五。十五字
詰、百三十行、十二段。月七十
錢。(廣料)普通五十錢。

富山日報 富山市總曲輪二五
五。明治十七年一月十八日創立

五、十一段。一ヶ月六十錢。
(廣料)普通六十錢。特別一圓二
十錢。

石川縣

北國新聞 金澤市南町九三。
明治二十六年八月五日創立。個
人經營。十萬圓。朝六頁、夕四
頁。(社長)林政武。(理事)飯
尾次郎三郎(編、主筆)爲田健二
(營)林繁。(輪)二。(平)一。字
母、ステロ、寫眞版設備あり。
(活)七、五。十五字詰、百三十
八行、十二段。月八十錢。(廣料)
普通八十錢。

北陸毎日新聞 金澤市南町
四十一。明治三十三年五月八日
創立。株式會社。五萬圓。朝四
頁、夕四頁。(社長)櫻井兵五郎
(專務)高木八良。(編)武谷基太
郎(主筆)市川源。(營)淺野平成
(輪)一。(平)一。モノタイプ三
ステロ、寫眞版設備あり。十五
字詰、百二十五行、十二段。月
七十五錢。(廣料)普通八十錢。

金澤新報 金澤市南町六二。
大正八年七月三日創立。個人經
營。七萬圓。朝四頁。(社長)北
野庄吉。(副社長)鈴木國助。(主
幹)社長兼務。(營)副社長兼務。
(輪)一。(活字)八、半。十四字
詰、百二十行、十二段。月四十
五錢。(廣料)普通八十錢。

北國夕刊新聞 金澤市。大
正十年四月二十六日創立。個人
經營。五萬圓。夕八頁。(社長)渡
邊詳明。(副社長)大澤晴豐。(主
筆、編)福見貞輔。(營)大澤晴
豐。(平)五。ステロ、寫眞版、
設備あり。十一字詰、六十五行
八段。月四十五錢。(廣料)八十
錢。

北國日報 金澤市。大正三年
十二月一日創立。合資。朝二頁
(社長)大島宇吉。(主幹、主筆)
樺木義一。(支那人)大島慶太郎

株式。五千圓。憲政派。朝四頁又八頁、夕四頁。(社長)田村惟島。(支那人)藤村喜三松。(編輯)村井信雄。(營業)五十嵐喜重。(輪)石川式、一。(平)三。字母ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半。十五字詰、百二十八行、十二段。月八十錢。(廣料)六十錢(兼營)活版、石版印刷業、富山縣報、富山縣農産雜誌其他製本。

富山新報 富山市總曲輪二五〇。明治二十六年四月十四日創立。株式。七萬圓。政友會。朝四頁。(事務)藤島藤吉。(主筆)舟木富彌。(主筆)坂本辰之助。(輪)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半。十五字詰、百三十行、十二段。月六十錢。(廣料)普通五十錢。

高岡新報 高岡市末廣町九六四。明治十九年五月創立。一萬圓。夕四頁。(社長)木津太郎平。(編輯)細中久萬吉。(主筆)井上忠雄。(營業)片山繁太郎。(輪)一。ステロ寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十行、十五段。月六十錢。(廣料)普通五十錢。

越中新聞 高岡市御馬出町六

十四番地。大正十二年五月一日創立。個人經營。五萬圓。朝二頁乃至四頁。(社長)小泉左右治(社志)林政武。(事務)上子三郎(主筆)小泉左右治。(主筆、編輯)上子三郎。(營業)玉田一二。(輪)一。(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)ポイント十五字詰、百四十行、十二段。一ヶ月四十錢。(廣料)八十錢。

伏木毎夕新聞 伏木町新町。明治四十三年四月二十日創立。個人經營。夕四頁。(社長)牧野庄太郎。(主筆)森幸吉。(輪)一。字母、ステロ設備あり。(活字)五號。十三字詰、五十行、七段。月三十錢。(廣料)五十錢(兼營)印刷業。

七、關 西

滋賀縣

近江新報 (文化事業株式會社經營) 大津市伊勢屋町。明治二十三年二月十一日創立。株式。十五萬圓。朝、四頁。(社長)藤井善助。(營業)西川太治郎、藤

本藤七。(主筆)編)川村宗太郎。(營業)西川順一。(輪)一。(平)二。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰。百三十七行。十二段。月五十錢(廣料)普通七十錢。(兼營)代理部。

滋賀日報 (文化事業株式會社經營) 大津市伊勢屋町。明治三十四年五月二十六日創立。株式。十五萬圓。夕四頁。(社長)藤井善助。(營業)西川太治郎、橋本藤七。(主筆、編輯)池田百八。(營業)西川順一。(輪)一。(平)二。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字。百三十七行。十二段。月五十錢。普通七十錢。(兼營)代理部。

江州日日新聞 大津市上小唐崎町五番地。大正十年十一月創立。株式。三萬圓(目下増資中)。政友會に關係あり。朝四頁。(社長)井上敬之助。(主筆)山本岩三郎。(主筆)龍川千代喜。(輪)一、目下掲付中。(平)一。(活字)七、七五。十五字。百三十七行。十二段。月五十錢(廣料)七十錢。

滋賀民報 長濱町。明治四十四年創立。個人。夕四頁。(社

長川村秀明。(編)田中流水。(營業)柴山儀三郎。(平)二。(活字)七、七五。十五字。六十行。七段。月五十錢。(廣料)七十錢。

長濱新報 長濱町北門前。大正八年九月六日創立。政友會。夕四頁。(社長)山口三太郎(副社長、主筆)江畑常太郎。(營業)山之内由堂。(平)一。四十行。七段。月四十錢。

近江實業新報 彦根町。明治三十八年創立。個人經營。夕二頁。(社長)赤井安正。(主筆)岩本周平。(營業)大森元明。(平)五。十四字。九十四行。十段。月四十錢。(廣料)七十錢。(兼營)鮮人教育事業全縣團體。

近江毎夕新聞 彦根町。大正四年四月創立。個人經營。一萬五千圓。夕四頁。(社長)陌間萬介。(主筆)谷口雅隆。(營業)江畑公井。(平)二。十三字。四十五行。七段。月四十錢。(廣料)普通四十錢。

京都府

京都日出新聞 京都市御馬出二條下九。明治十二年六月十

五日創立。株式。二十五萬圓。朝八頁、外に遊覽附録二頁。夕四頁。(社長)後川文藏。(事務)松山清松。(輪)二。(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半。十五字。百三十一行。十二段。月八十錢。(廣料)一圓十錢、特別一圓八十錢。(兼營)印刷事業。

京都日日新聞 神戸新聞社京都支局京都日日新聞發行所發行。京都市上京區丸通竹屋町上九大倉町。明治四十五年二月十一日創立。株式。四十萬圓(拂込済)。夕四頁。(社長)進藤信義。(主筆、編輯)山根文雄。(營業)片岡隆。(輪)三。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七半。十五字。百四十二行。十二段。月五十錢。(廣料)普通一圓特別倍額。毎日曜日に二頁の日曜附録を添付す。日本電報通信社京都支局を併置し東京通信は總て専用電話に據る。

京華日報 京都市富小路通三條北入。個人經營。夕四頁。(社長)藤木重次郎。(編輯)村上忠平。(營業)江藤直三郎。(輪)二。(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備

あり。十三字。百十行。月五十錢。(廣料)九十錢。

大京都新聞、西陣新聞 西陣新聞社發行。京都元祿寺通堀川西入。明治三十八年二月二十八日創立。個人。三萬圓。朝四頁。(社長)伊藤近藏。(編輯)岡本榮太郎。(主筆)藤田益。(營業)山下卯三郎。(平)一。十四字。六十行。十段。月三十錢。(廣料)六十錢。

京都日報 京都市下京區四條通小橋西入真町。大正二年二月十二日創立。個人經營。三萬圓。朝四頁。(社長)大久保作次郎。(主筆)松村尚三。(平)三。(活字)九半。十五字。六十五行。七段。月四十錢。(廣料)普通四十錢。

京都新聞 京都市南小路四條南入德正寺町。明治四十四年五月創立。個人經營。五萬圓。朝四頁。(社長)田中健修。(編輯)坂三郎。(主筆)高橋光成。(營業)川中支士。(平)二。(活字)九半。十五字。五十七行。六段。月五十錢。(廣料)普通七十錢。

京都日日新聞 京都市西河院通七條上九。大正七年五月一

日創立。株式。五萬一千圓。朝四頁。(社長)松田作太郎。(編輯)竹田正治。(平)三。(活字)九、七五。十二字。九十六行。十一段。月五十錢。(廣料)普通六十錢。

實業新聞 京都市下京區間町五條下九。明治四十年創立。組合。二萬圓。朝四頁。(社長)青木宗五郎。(副社長)須一彌太郎(營業)服部孝美。(輪)須一彌太郎(營業)服部孝美。(平)四。ステロ設備あり。十三字詰。六十六行。十二段。月七十錢、二圓五十錢二種。(廣料)八十錢。(兼營)「京都仕入案内」發行。株式會社家庭コードモ新聞社京都支局。(特設)京都の博物館問屋殆んど全部を會員組織的讀者とす此分購讀料一ヶ月二圓五十錢。

丹州時報 舞鶴町。明治三十八年十月創立。株式。二萬圓。夕四頁。(事務)河田孝行。(營業)山下石藏。(主筆)河田孝行。(營業)齊藤清藏。(平)三。ステロ設備あり。(活字)九、半。十三字詰。百十六行。十二段。月五十錢(廣料)普通五十錢、特別一圓。(兼營)福知山新聞、丹波毎日新聞。

橋立新聞 宮津町字白田二六五。大正十年四月五日創立。株式。二萬五千圓。夕四頁。(營業)渡谷清助。(平)四。(活字)七、七五。十二字詰。六十六行。十一字詰。九十六行。十二段。月五十錢。(廣料)六十錢。(兼營)一般印刷。

福知山新聞 福知山町宇京。大正十三年一月創立。株式。一萬三千圓。夕四頁。(社長)河内守吉。(事務)與村卯七郎。(主筆)佐藤健吉。(平)二。(活字)七、七五。十二字詰。六十六行。十二段。月五十錢(廣料)五十錢特別倍額。不定期に附録二頁のもの發行。

福知山日日新聞 福知山町宇京。大正十一年十月十五日創立。個人經營。七千圓。朝二頁。(社長)鈴木精一。(活字)九ポイント。十三字詰。七十七行。十一段。月廿五錢。(廣料)一回九十錢。二回以上六十錢。六回以上五十錢。

丹波毎日新聞 篠原町。大正十一年十二月創立。同人組織。二萬圓。朝四頁。同人飯田翠、出口榮藏、遠坂龍一郎。(主筆)飯田翠。(編輯)梅垣虎雄。(平)二。

ステロ設備あり。(活字)九ボイ
ント。十二字詰。百十行。十二
段。月五十銭。(廣料)五十銭。
(兼營)火災社賣店及書籍發行。

奈良縣

奈良新聞

奈良市池ノ町。明
治三十一年八月七日創立。個人
經營。朝四頁。(社長)赤堀自助
(主筆、編)赤堀希雄。(登)能勢
實次郎。(平)二。(活字)七、七
五。十五字詰。百三十五行。十
二段。月五十五銭。(廣料)五十
銭。縣公報及登記公告掲載。

奈良朝報

奈良市陸陽町二。
明治三十六年九月十八日創立。
株式。十二萬圓。朝四頁。(社長)
岡本兼次郎。(編)岡本兼。(平)
二。ステロ、寫眞版設備あり。
(活字)七、七五。十五字。百三
十四行。十二段。月五十五銭。(廣
料)普通五十銭。

大和新聞

奈良市小西町二四
明治二十一年四月一日創立。個
人經營。十萬圓。朝四頁。(社長)
小林榮治郎。(編)東谷俊郎。(主
筆)福岡吉之助。(登)中川丈夫。
(平)三。ステロ、寫眞版設備あり。

り。(活字)九、半。十五字詰。
百〇五行。十段。月五十銭。(廣
料)普通五十銭。

大和日報

奈良市。明治二十
四年六月創立。株式。十萬圓全
額拂込済。政友本黨。夕四頁。
(社長)磯田榮三郎。(事務)森田
宇三郎。淺田好太郎。(支配人)
吉村賢治。(編)前田鏡策。(主筆)
吉村賢治。(登)宇陀英一郎。(輪
一。(平)一。ステロ設備あり(活
字)七、七半。十五字詰。百三十
五行。十二段。月五十五銭。廣
料)七十銭。

大和毎日新聞

奈良市東城
戸町六三。大正十二年一月廿一
日創立。個人經營。朝四頁。(社
長)岩本正吉。(編)東明夫。(主
筆)伊賀秀草(登)南川順治。(平)
十六頁。二。字母、ステロ設備
あり。(活字)七、七五。十五字
詰。百五行。十段。一ヶ月三十
銭。(廣料)五十銭。

兵庫縣

神戸又新日報

神戸市東町
六丁目一番地。明治十七年五
月創立。株式。三十萬圓。朝十

頁。(社長)渡邊尚。(主幹)佐藤
勝三郎。(主筆)渡邊尊丸。(輪
三。(平)二。字母、ステロ、寫
眞版設備あり。(活字)七、五。
十五字詰。百四十二行。十二段
月八十銭。(廣料)一圓廿銭。

神戸新聞

神戸市東町六丁目
六十一。明治三十一年二月十一
日創立。株式。四十萬圓。朝八
頁。(社長)進藤信義(編)和田恒
彦。(主筆)濱田佳澄。(會計部長)
米澤木代松。(廣告部長)向井勲
兵衛。(輪)三。モノタイプ二。
字母、ステロ、寫眞版設備あり
(活字)七、七五。十五字詰。百
三十七行。十二段。月八十銭(廣
料)普通一圓二十銭。特別二圓四
十銭。

兵神日報

神戸市水澤町二丁
目七五番地。明治三十二年創立
個人經營。五萬圓。夕四頁。(社
長)島野二郎。(編)神崎功雄。(主
筆)島田淳郎。(登)社主兼務。
(平)五。十二字、八十行、十段
月八十五銭。(廣料)普通四十銭
(兼營)兵神米肥通信。

神戸ヘラルド

神戸市源花
町明治三十二年七月三日。個人
經營。(社主)アルフレット・ウ

イリアム・カーチス。
ジャパン、クロニクル
神戸市浪花町六五。個人經營。
二十萬圓。朝十頁又は十二頁。
(社長)エリック、エ、ヤング。
(主幹)モルガン、エ、ヤング。
(支配人)エリック、エ、ヤング
(編)モルガン、ヤング(平)九。
ライノタイプ四。一頁七段。一
ヶ月金三圓。(廣料)一時、一回
二圓五十銭。(兼營)印刷營業。
時々書物發行。

中國日日新聞、姫路每 夕新聞

中國日日新聞社發行
姫路市東紺屋町八。明治三十五
年創立。合資。五十萬圓。各夕
四頁。(社長)内田義男。(編)森
米藏。(登)古木森治。(輪)一。
(平)三。字母、ステロ、寫眞版
設備あり。(活字)七、七五。十
五字詰。百三十三行。十二段。
月五十五銭と二十五銭。(廣料)
普通一圓。

姫路日報

姫路市。大正四年
七月二十四日創立。個人。五萬
圓。夕四頁。(社長)三木末之。
(事務)岡崎賢。(支配人)神原健
夫。(編)山本篤司。(主筆)高橋

朝雄(登)樋口正次。(平)十六頁
二。字母設備あり。(活字)五號
舊。十二字詰。九十六行。十一
段。月四十銭。(廣料)九十銭。

播磨毎日新聞

姫路市光源
寺前。明治三十九年二月十一日
創立。個人經營。夕四頁。(社長)
尾高守。(編)田中露山。(主筆)
社長兼務。(登)矢野勝正。(平)
三。字母、ステロ、寫眞版設備
あり。十四字詰。七十行。七段
月二十五銭。(廣料)普通五十銭

關西日日新聞

明石市。明
治三十八年八月廿五日創立。株
式。三萬圓。憲政黨系。朝二頁、
夕二頁。(社長)楠田正俊。(副社
長)加古忠兵衛。(事務)屋敷彌一
(編)中谷吉次郎。(主筆)屋敷彌
一。(登)萩原靜一郎。(平)三。
十二字詰。九十六行。十二段。
月三十五銭。(廣料)並五十銭。
特七十五銭。

但馬日日新聞

但馬國岡
市。大正七年七月二十八日。個
人組織。十五萬圓。朝四頁(社
長)澤田敬三。(主幹)同福枝(支
配人)澤田福治。(編)英保五郎。
(主筆)中島覺一。(登)同力雄。
(輪)一。(平)一。字母、ステロ

あり。(活字)七ボイノト。十五
字詰。百三十五行。十二段。月
五十五銭(廣料)一圓(兼營)各郡
附録。月刊山陰寫眞畫報。

淡路又新

洲本町外通乙二六
二。大正七年一月廿五日創
立。個人經營。四萬圓。朝小型
四頁。(社長)堀口勝(事務)樋口
俊平。(支配人)久次米一郎。(編)
堀口勝。(主筆)春名徳一。(登)
岡本善藏。(平)二。寫眞版設備
あり。(活字)舊。十一字詰。六
十三行。八段。一ヶ月五十銭。
(廣料)七十銭。(兼營)印刷業。

和歌山縣

和歌山新報

和歌山市本町
四。明治二十五年八月創立。個
人。七萬圓。朝四頁。(社長)久
下豊忠(主幹)三井茂。(編)上田
常隆。(主筆)松本周造。(輪)一
(平)二。ステロ、寫眞版設備あり
(活字)七、七五。十五字詰
百三十五行。十二段。月四十五
銭。(廣料)七十銭。

紀伊毎日新聞

和歌山市本
町四丁目二八、二九番地。明治
二十六年五月一日創立。個人經

營。八萬圓。朝四頁。(社長)千
田登(編)黒田清。(主筆)岩崎辰
次郎。(登)京芳一。(輪)一。(平)
二。字母、ステロ、寫眞版設備
あり。(活字)七、七半。十五字
詰。百三十五行。十二段。月四
十五銭。(廣料)特別一圓。普通
七十銭。

和歌山日日新聞

和歌山
市四番町一。明治四十五年七月
十三日創立。株式。八萬圓。朝
四頁。(社長)山崎傳之助。(編)
土井天民。(主筆)河野九兵。(登)
大橋誠吉。(輪)一。(平)四。活
字)七、七五。十五字詰。百三十
行。十二段。月七十銭。(廣料)
普通八十銭。

和歌山實業新聞

和歌山
市三番町。明治二十七年三月十
二日創立。個人經營。朝四頁。
(社長)田井金藏。(副社長)中井
勳。(編)早川晴村。(登)宮本裕
葉。(平)一。(活字)舊。十三字
詰。九十六行。十段。月四十銭
(廣料)六十銭。

和歌山日報

和歌山市小入
町。株式。朝四頁。(社長)津田
清次。(主筆)内田安吉(廣告部
長)山崎重太郎。(平)三。(活字)

七半。十二段。(廣料)普通七
十銭。特別一圓。

熊野新報

新宮町。明治廿九
年十二月八日創立。個人經營。
夕四頁。(社長)渡邊盛三郎。社
主中谷利一郎。(編)永原榮。主
(主筆)社主兼任。(登)仲清一。
(平)二。寫眞版設備あり。(活字)
舊。十二字詰。九十六行。十一
段。月七十銭。(廣料)普通五十
銭。特別一圓。

熊野實業新聞

新宮町。明
治卅三年三月十二日。個人經營
二萬圓。夕四頁。(社長)池田晉
(社主)津田伊作。(登)池田千代
(平)十六頁一。(活字)九ボイノ
ト。十三字詰。百行。十二段。
月七十銭。(廣料)普通一圓。特
別三圓。(兼營)印刷業。

熊野報知

新宮町。明治四十
四年十二月十五日創立。個人經
營。朝四頁。(社長)編)天野日
出吉。(登)山際しん。(平)二。
(活字)舊。十三字詰六十行。九
段。月五十銭。(廣料)普通四十
銭。

熊野毎日新聞

新宮町。大
正二年十月創立。個人經營。三
萬圓。夕四頁。(社長)榎本廣太

郎。(編)稻垣豆花。(主筆)岡本繁一。(寫)櫻木清。(平)二。十三字詰、九十行、十一段。月六十錢。(廣)普通四十錢。

新熊野 新宮町。明治四十四年二月創立。個人。一萬圓。夕四頁。(社長)天野日出吉。(事務)天野清之助。(廣告部長)山際しん。(編)天野流水(主筆)山田翠汀。(寫)角龍庵(平)二。十字詰、四十行、九段。月五十錢。廣料)普通二十錢、特五十錢。(營業)秘探偵所、印刷業。

紀伊新報 田邊町。明治四十四年二月十一日創立。個人。朝四頁。(社長)小山邦松。(編)五井源次。(主筆)松本眞一。(寫)北田兼吉。(輪)一。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九ポイント十三字詰、百十行、十二段。月五十五錢。

八、四 國 德島縣

德島日日新報 德島市富田浦町六四。明治九年四月創立。

株式。三十萬圓。朝四頁。夕二頁。(社長)松島肇。(事務)市原理之(主筆、編)市原理之。(寫)高橋盛一。(輪)一。(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月七十錢。廣料)普通七十錢、特別一圓四十錢。

德島毎日新聞 德島市寺島町。明治三十一年六月十五日創立。株式。四萬五千圓全部拂込夕六頁。(社長)多田爲太郎。支那人渡次郎。(主筆、編)井上一(寫)渡次郎。(輪)一。(平)二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十行、十二段。月七十錢。(廣)五十錢。

香川縣

四國民報 高松市内町二六。株式。八萬圓拂込済。政友會系朝二又は四頁、夕四頁。(社長)瀧尾等(事務)今井浩三(主筆、編)和田潔。(寫)東山半之助。(輪)二連式大型一。(平)十六、一チ一、八、一チ一、一、字母、

ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月七十五錢。(廣)七十五錢。(營業)活版印刷請負及著作物發行。(特)彩色刷輪轉機設備あり。

香川新報 高松市濱ノ町。明治二十二年四月創立。個人經營朝六頁。(社長)小田榮次。(編)玉木正直(寫)江口與一。(輪)一(平)四。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月七十五錢。(廣)普通七十錢。

愛媛縣

愛媛新報 松山市湊町四丁目六十番地。明治二十年十月創立。株式。十萬圓。朝四頁、夕四頁(社長)清水隆徳。(事務)武知勇記。(支配人)玉井喜久馬。(編)高市盛之助(主筆)岩泉泰。(輪)二。(平)一。字母、ステロあり。寫眞版設備有り。(活字)七、七五。十五字詰、百三十二行、十二段。月八十錢。(廣)普通面六十錢、特別面一圓二十錢。

治九年九月創立。株式。八萬圓朝四頁、夕四頁。(社長)成田榮信。(事務)清水勇三郎。(主筆、編)岩橋清二郎。(寫)清水勇三郎。(輪)一。(平)一。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月八十錢。(廣)普通六十錢、特別一圓二十錢。愛媛縣人物名鑑發行。

伊豫新報 松山市。大正十二年八月一日創立。株式。六萬圓政友會。夕四頁。(社長)久松定夫(事務)堀内洋治(主筆、編)栗本諒二。(輪)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十四行、十二段。月五十錢。(廣)普通六十錢、特別一圓二十錢。

伊豫日日新聞 松山市西堀端町一番地。明治三十五年六月廿五日創立。個人經營。七萬五千五百圓。夕四頁。(社長)柳原正之(事務)柳原正春。(編)西田正義。(寫)柳原正春。(輪)一(平)二。ステロ設備あり、十四字詰、百十四行、十二段。一ヶ月五十五錢。(廣)六十錢。

南豫時事新聞 宇和島市。

明治三十五年三月二十一日創立個人經營。五萬圓。朝四頁。(社長)山村豐太郎。(主筆)神森直市(編)久留島豐。(主筆)佐藤秀雄(寫)三善謙。(平)二。十四字詰七十六行、十二段。月五十錢。(廣)普通四十錢、特別八十錢。

高知縣

土陽新聞 高知市本町。明治十年創立。個人經營。朝八頁。(社長)中野寅次郎。(理事)長崎田早苗。(編)石丸重義。(主筆)千頭亨。(寫)吉本重輝。(輪)一(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十六行、十二段。月七十五錢。(廣)普通六十錢。

高知新聞 高知市本町。明治三十七年創立。株式。五萬圓。朝八頁。(取締役)野中楠吉、杉三郎。(編)中島成功。(主筆)楠瀬如龍。(寫)森田唯彦。(輪)二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月七十五錢。(廣)普通四十錢、特別六十錢。

九、中 國

鳥取縣

因伯時報 鳥取市。明治廿五年創立。株式。十萬圓。政友會朝四頁、日曜八頁。(社長)西谷金藏。(事務)木村清一。(主筆)西村邦藏。(編)田中淺太郎。(輪)一。(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)八、半。十五字詰、百廿行、十二段。月六十錢。(廣)六十錢。

鳥取新報 鳥取市、銀治町。明治十六年六月創立。株式。十萬圓。朝四頁。(社長)下田勘次。(支配人)眞島信藏(主筆、編)河野實治。(輪)一。(平)二。字母

ステロ設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十五行、十二段。月六十錢。(廣)普通六十錢。

島根縣

松陽新報 松江市殿町。明治三十四年十一月三日創立。個人經營。二十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)岡崎國臣。(支配人)藤部本右衛門。(編)松井柏軒。(寫)藤部本右衛門。(輪)石川式(輪)一。(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五。十五字詰、百二十五行、十二段。一ヶ月九十錢。(營業)印刷部。

山陰新聞 松江市白濁本町。明治十五年五月創立。株式。十萬圓(全額拂込)朝四頁、夕四頁(社長)綿原武太郎。(事務)小川源太郎、天野種三郎。(支配人)藤原勇造。(編)田井新一。(主筆)藤原勇造。(寫)田中章真。(輪)一。(平)二。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五。十五字詰、百三十三行、十二段。月九十錢。(廣)一行六十錢。

岡山縣

山陽新報 岡山市西中山下。明治十二年一月三日創立。匿名組合。五萬圓。朝六頁、夕四頁(社長)有藝新吉。(編)杉山榮。(寫)高原泰藏。(輪)二、外一製作中。(平)七。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五。十五字詰、百三十三行、十二段。月九十錢。(廣)七十五錢。(營業)活版、石版印刷、切符印刷、發電所及附屬鐵工所を有す。

中國民報 岡山市東中山下四十番地。明治二十五年七月三十日創立。個人經營。五十萬圓。

朝六頁。夕四頁。(社長)佈原政一郎。(支配人)海田鶴一。(編輯)社長兼務。(輪)三。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。(廣料)普通七十五錢、特別三圓。(兼營)活字製造活版印刷。(特設)意匠部。

岡山新聞 岡山市市街町十六大正五年十二月五日創立。株式夕四頁。(社長)赤澤寛一。(理事)編山野邊物集馬。(理事)菅中。原道夫。(輪)一。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)普通七十五錢。

岡山日日新聞 岡山市西中山下。大正十二年一月十四日創立。匿名組合。五萬圓。朝四頁。(社長)西崎佐吉。(同秘書)小林廣太。(主幹)社長兼務。(編)西崎一流。(管)市川滿三。(輪)一。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)七十五錢。

廣島縣

廣島中國新聞

廣島市大手町四丁目四十二。明治二十五年五月創立。合名會社。十萬圓。朝四頁。夕四頁。(社長)山本三朗。(副社長)山本實一。(主筆)編中町國吉田中秀二。(輪)三。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月八十錢。(廣料)普通八十五錢。

廣島毎日新聞

廣島市尾道町。大正七年十二月一日創立。個人經營。朝六頁日曜八頁。(社長)廣平稔。(編)主事西東繁一。(管)出本伊之助。(輪)一。字母ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月六十錢。(廣料)普通九十錢、特別一圓二十錢。吳日日新聞

廣島每日新聞

廣島市尾道町。大正七年十二月一日創立。個人經營。朝六頁日曜八頁。(社長)廣平稔。(編)主事西東繁一。(管)出本伊之助。(輪)一。字母ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月六十錢。(廣料)普通九十錢、特別一圓二十錢。吳日日新聞

社經營の姉妹紙にして、吳日日社又は廣島毎日社の執れにても申込みの廣告は同載す。

廣島新報

廣島市大須賀町。大正十三年一月十日創立。組合立。十萬圓。朝四頁。夕四頁。中野忠孝。(主幹)柴田重暉。(編)主筆)上野卓爾。(管)廣東義幹。(輪)一。(平)一。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)九十錢。

廣島毎日新聞

廣島市市街町二十三。大正二年十一月創立。個人經營。夕四頁。社長)主筆)肥田理吉。(社主)肥田辰之助。(副社長)齋藤正芳。(管)根岸哲爾。(輪)一。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)普通八十錢。

廣島日日新聞

廣島市八丁堀。明治廿年一月一日創立。個人經營。夕四頁。社長)本天輔。(主筆)滿村良次郎。(編)山本天輔。(主筆)滿村素堂。(管)佐受葉幹。(輪)一。(平)三。字母ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)普通九十錢、特別一圓二十錢。

八十五錢。日刊新聞吳公論。吳日々新聞 吳市堺川通三丁目。明治四十二年十月創立。個人經營。朝六頁(但日曜八頁)。(社長)吳幸珍。(編)淺井清亮。(管)出本伊之助。(輪)一。(平)二。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月六十錢。(廣料)普通五十錢、特別一圓二十錢。(兼營)廣島毎日新聞。申込みの廣告は本社の「姉妹紙」たる「廣島毎日新聞」にも同載す。

吳公論

吳市中通。明治三十三年創立。個人經營。五萬圓。夕四頁。社長)滿村良次郎。(副社長)松岡松市。(編)弘中木卯。(主筆)滿村素堂。(管)渡邊免。(輪)一。(平)三。字母ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月六十錢。(廣料)普通八十五錢。

山陽日報

尾道市十四日町。明治三十一年五月二十八日創立。株式。五萬圓。夕八頁。(社長)中山幾太郎。(社主)中山山うめ。(副社長)秋田熊次郎。(事務)豐田光雲。(主幹)豐田變哲。(支那

治十年十二月創立。合資。四十五萬圓。立憲政友會。朝八頁、夕四頁。(社長)庄野金十郎。(副社長)猪俣爲治。(編)阿部鶴太郎。(主筆)猪俣爲治。(廣)廣部部長原田德太郎。(輪)六。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月九十五錢。(廣料)一圓。

九州日報

福岡市中島町二番地。明治二十年八月二十一日創立。個人經營。二十萬圓。朝八頁、夕四頁(社長)大原義隆。(主筆)編)藤崎昇之助。(管)小林麻太。(輪)三。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月九十五錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓四十錢。姉妹紙佐賀毎日、佐世保新報。

九州時事新報 福岡市博多下通町。大正九年十月創立。個人經營。五萬圓。夕四頁。(社長)古川初雄。(主筆)武井志敏。(平)三。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)普通八十錢。平野屋日報其他。一圓。(兼營)平野屋日報其他。門司新報 門司市西本町一、二〇五。明治二十五年五月創

人)字佐春藏。(編)豐田變哲。(主筆)豐田光雪。(管)藤澤壽八。(輪)一。(平)三。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)八、八五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。(廣料)七十五錢。

備後時事新報

尾道市。明治三十八年創立。個人。一萬七千圓。夕四頁。(社主)岩本梅太郎。(主幹)青木茂。(編)青木茂。(主筆)清水建三。(管)金光喜一。(平)二。ステロ設備有り。(活字)八、八五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月五十錢。

福山大日報

福山市延廣市。大正四年十二月三十日創立。個人經營。夕小型二頁。(社長)近藤復巳見。(管)近藤開代。(平)三。ステロ設備有り。(活字)八、八五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月四十五錢。

山口縣

關門日日新聞

下關市東部町。明治十三年一月七日創立。個人。朝六頁、夕四頁。(社長)末光鉄之助。(主筆)鶴崎熊吉。(編)室川義勝。(管)河村峰太郎

(輪)二。(平)二。字母、ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月六十錢。(廣料)普通九十錢、特別一圓二十錢。馬關毎日新聞 下關市西之端町。大正二年十一月一日創立。五萬圓。朝四頁。夕四頁。(社長)秋田貞之介。(事務)布谷二郎。(主筆)兼崎理藏。(管)布谷二郎。(輪)一。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)八、八五、一ヶ月九十錢。百三十三行、十二段。月九十錢。(廣料)七十錢、特別一圓四十錢。

防長新聞

山口町。明治十七年七月十五日創立。合資會社。三萬圓。夕四頁乃至八頁。(社長)吉富寅太。(副社長)原田豐次郎。(支配人、管)中村勉彌。(輪)一。(平)二。ステロ、寫眞版設備有り。(活字)七、七五、一ヶ月九十錢。百三十四行、十二段。一ヶ月七十錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓四十錢。雜報内一圓五十錢、攝所指定二圓(兼營)代理部。

關門報知新聞

下關市赤間町一六。大正五年二月十一日創

福岡縣

福岡日日新聞

福岡市。明

立。個人經營。朝八頁。(社長)毛里保太郎。(編)田中次郎。(輪)一。ステロ、寫眞版設備あり。

門司新聞

門司新聞 門司市舊門司。大正三年一月創立。個人經營。六萬圓。朝四頁。(社長)梅月潮太郎。(編)河村香工。(主筆)宮崎透。(管)石田兵七郎。(平)三。字母、ステロ、寫眞版設備あり(活字)八。半。十四字、百二十四行、十二段。月五十錢。(廣料)普通六十錢。

關州附録新聞

關州附録新聞 門司市楠町三丁目。大正十年十月卅一日創立。個人。五千圓。朝二頁。(社長)岡田保太郎。(平)二。ステロ設備あり。十六字、八十四行。月五十錢。(廣料)七十錢。

八幡新聞

八幡新聞 八幡市春日町二丁目。明治四十一年十一月三日創立。個人經營。朝四頁。(社長)田中隆藏。(理事)大羽武四郎。(主筆)山崎成人。(編)香山篤庵(管)中尾隆高。(平)二。(活字)八。ポイント。十五字、百二十行。月六十錢。(廣料)普通七十錢。

十錢

八幡新聞

八幡新聞 八幡市中央區。大正六年二月十一日。個人經營。五萬圓。憲政派。朝四頁。(社長)梅月潮太郎。(主筆)伊坂寛。支配人)茂倉政雄。(編)本條史郎。(管)沼津龍馬。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。半。十四字、百二十行、十二段。月六十錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓二十錢。

國民朝報

國民朝報 (大正十三年十一月九州八幡朝報より改題)八幡市海岸通。大正十一年三月一日創立。個人。朝四頁。(社長)百武久兵衛。(編)小林英一。(管)百武白石。(平)一。十三字、百五十五行、十一段。月六十錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓、指二圓。

九州毎日新聞

九州毎日新聞 八幡市中央區通町六丁目。大正八年三月創立。個人經營。朝四頁。(社長)主筆)三村香堂。(編)村山嘉一。(管)中野和一。(平)二。十三字、百行、十一段。月六十錢。(廣料)普通七十錢。

若松朝報

若松朝報 若松市西新町五。大正九年八月一日創立。個人經營。三萬圓。政友派。朝四頁。

(社長)才津原積。(社主)平野彦一郎。(副社長)矢根福市。(主幹)田代定義。(支配人)加茂繁明。(主筆)社長兼務。(管)副社長兼務。(平)二。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)九。ポイント。十二字、百〇五行、十二段。月六十錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓二十錢、雜報一圓五十錢(兼管)普通活版印刷業。

小倉新報

小倉新報 小倉市魚町十三番地。明治四十二年創立。個人經營。政友會。朝四頁。(社長)畑野源一郎。(支配人)大谷政次郎(編)山崎成人。(管)桑野光成。(平)二。ステロ、設備あり。十五字、百〇四行、十二段。月六十錢。(廣料)六十五錢(兼管)中海海水浴場。

九州報知新聞

九州報知新聞 小倉市米町大正六年五月一日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁。(社長)峰松太郎。(編)宇山芳水。(主筆)宇山芳水。(管)阿部實一。(平)二。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)八。半。十二字、百七十五行、十二段。月五十錢。(廣料)七十錢以上(兼管)活版印刷。

久留米毎日新聞

久留米毎日新聞 久留米市市吉町三丁目。大正七年四月創立。個人經營。政友本黨。夕四頁。(社長)松井一郎。(社長)野口波四郎。(編)後藤芳子。(主筆)山下露命(管)山下岩雄(平)一。ステロ、設備あり。十五字、百三十行、十二段。月六十錢。雜報一圓五十錢。

大牟田毎日新聞

大牟田毎日新聞 大牟田市不知火町二丁目七九。明治四十年十二月二十一日創立。五萬

東洋民報 小倉市。大正十三年四月八日創立。個人。廿五萬圓。朝四頁。(社長)鮎川賢貞。(管)海保格。(主幹)同人。(編)山本實。(輪)一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。半。十五字、百卅五行、十二段。月五十錢。(廣料)八十錢。

筑後新聞

筑後新聞 久留米市莊島町二五三。明治三十二年八月十五日創立。個人經營。朝十頁。(社長)赤星不羈士。(主筆)編)赤星不羈士。(管)上野俊藏(輪)四。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七。五。十五字、百三十五行、十二段。月九十五錢(廣料)普通八十錢、特別一圓二十錢、雜報一圓五十錢。

久留米毎日新聞

久留米毎日新聞 久留米市市吉町三丁目。大正七年四月創立。個人經營。政友本黨。夕四頁。(社長)松井一郎。(社長)野口波四郎。(編)後藤芳子。(主筆)山下露命(管)山下岩雄(平)一。ステロ、設備あり。十五字、百三十行、十二段。月六十錢。雜報一圓五十錢。

大牟田毎日新聞

大牟田毎日新聞 大牟田市不知火町二丁目七九。明治四十年十二月二十一日創立。五萬

圓。政友系。朝四頁。(社長)平山喜雄。(主筆)若山峻一。(管)古賀久太郎。(平)二。ステロ設備あり。(活字)七。七五。十五字、八十行、十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓。

西海日日新聞

西海日日新聞 大牟田市元町一五。大正五年創立。個人經營。朝四頁。(社長)池末純一。(管)吉永淡山。(管)井口政雄。(平)三。字母、ステロ設備あり(活字)七。七五。十四字、百三十五行、十二段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別八十錢。

筑豊日日新聞

筑豊日日新聞 直方町。大正七年八月十五日創立。個人。政友派。朝四頁。(社長)田尻繁男。(主筆)田尻秀男。(管)柳橋太郎。(平)一。(活字)九。ポイント。十四字、百〇五行、十一段。月六十錢。(廣料)普通七十錢、特別一圓四十錢。(兼管)筑日新聞。

筑日新聞

筑日新聞 直方町新町六七九。明治四十五年創立。個人經營。朝四頁。(社長)藤廣久吉。(主筆)編)蜂谷波南。(管)宮本春陽(平)二。(活字)九。ポイント。十三字、百五行、十一段。月六

十錢。(廣料)普通七十錢。筑日新聞 嘉穂郡飯塚町。大正三年十月創立。個人經營。二萬圓。朝四頁。(社長)田中保藏。(主筆)編)永島芳郎。(平)一。(活字)九。半。十三字、百五十五行、十一段。月六十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓二十錢(兼管)印刷業、姉妹版として鞍馬郡直方町にて筑日新聞を發行し本社にて刷替をなす。

佐賀縣

佐賀新聞 佐賀市唐人町。明治十七年八月創立。個人。朝四頁。(社長)野口藤三。(編)家永盛種。(主筆)與相菊四郎。(管)三好勝一。(平)二。ステロ設備あり。(活字)九。ポイント。十四字、七十行、十一段。月五十錢(廣料)五十錢。

佐賀毎日新聞

佐賀毎日新聞 佐賀市松原町八幡小路。明治十九年二月八日創立。個人經營。朝八頁。夕四頁。(社長)西英太郎。(副社長)主筆)菊地徳治郎。(廣告部長)原口種太郎。十五字、百三十五行、十二段。月九十五錢(廣料)

肥前日日新聞

肥前日日新聞 佐賀市後原町。大正十一年一月一日創立。十五萬圓。政友本黨。朝八頁。(社長)川原茂輔。(副社長)石川三郎。(編)牧瀬新三。(管)木下廣藏(輪)一。(平)一。ステロ設備あり。(活字)七。七五。十五字、百三十六行、十二段。月八十錢。(廣料)五十錢。

佐賀民衆新聞

佐賀民衆新聞 佐賀市。大正十三年十一月廿三日創立。株式。一萬圓。朝四頁。(編)岸川岩次郎。(管)江口嘉六。(平)一(活字)九。ポイント。十三字、百二十行、十一段。月五十錢。(廣料)五十錢。

夕刊佐賀商報

夕刊佐賀商報 佐賀市松原町三五。明治三十四年八月一日創立。合資。五千圓。夕小張四頁。(社長)江頭豐作。(副社長)久池井良吾。(事務)久池井良吾(編)原口利八。(管)澁谷強三。十五字、四十行、五段。一ヶ月二十五錢(廣料)十錢。

唐津日日新聞

唐津日日新聞 唐津町。明治二十九年六月二十五日創立。個人經營。朝六頁。(社長)富永

經之助。(編)熊不伊之助。(管)北崎全一。(平)二。(活字)九。半。十五字、百〇六行、十段。月七十錢。(廣料)普通五十錢。

唐津時事新聞

唐津時事新聞 同名社發行唐津町。大正十一年三月三日創立。個人。五千圓。朝四頁。(社長)小關世男雄。(事務)吉岡時彌。(編)主筆)坂本又一。(管)吉岡時彌。(平)一。字母設備あり。(活字)全備。十五字、五十三行、八段。一月三十錢。(廣料)普通四十錢、特六十錢。(兼管)印刷。

長崎縣

長崎日日新聞 長崎市出島二番地。明治十九年九月創立。株式。三萬五千圓。政友本黨。朝四頁。夕四頁。(社長)則元由庸(編)主筆)中島榮一郎。(管)河野源吉。(輪)二。(平)三。ステロ寫眞版設備あり。(活字)七。七五。十五字、百三十六行、十二段。一ヶ月八十錢。(廣料)一圓。月曜に四頁の附録あり。

長崎民友新聞

長崎民友新聞、ワレラノ夕刊 長崎市大浦町二十二

番地。大正十四年十一月創立。個人經營。十五萬圓。朝四頁。夕四頁。(社長)西岡竹次郎。副社長(倉成庄八郎)(編)黒木治三(管)倉成庄八郎。(輪二)(平)二頁機一。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、八十三行、十二段。民友五十錢。ワレラノ夕刊四十錢。

長崎新聞

長崎市今魚町九。明治三十八年一月創立。個人經營。二十萬圓。朝四頁、夕四頁(社長)橋本喜造。(編)内倉房市(主筆)岩永八之坂。(輪一)(平)三。ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月八十錢。(廣)普通八十錢。

東洋日の出新聞

長崎市。明治三十五年一月創立。個人經營。朝四頁。(社長)鈴木天眼。(編)鈴木間一。(平)二。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月七十錢。(廣)普通七十錢。

長崎商報

長崎市西濱町七。明治三十二年一月創立。株式。一萬圓。朝四頁。(社長)川浪理一。(社主)松本康治。(支配人)

愛敬仁。(編)宮前嘉久成。(主筆)佐藤榮治。十一字詰、四十一行八段。月五十錢。(廣)六十錢(兼)日華宣傳機關とし年刊日華近情、月刊東亞通商發行。目下印刷は獨活版に委託せるも近く直營の筈。

長崎フレズ

長崎市。明治三年創立。四頁(時々六頁)。(主幹)二宮義親。(編)伊藤宗太郎。(管)倉場富三郎。一ヶ月二圓五十錢。(廣)一吋二圓。

佐世保新報

佐世保市本島町四。明治卅六年六月三日創立。個人經營。憲政黨。朝八頁、夕四頁。(社長)遠藤十郎。(主幹)島崎勉次。(編)高島喜一。(管)松永静雄。(輪二)字母。ステロ設備あり。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月九十五錢。(廣)普通五十錢、特別一圓、指定一圓二十錢。

軍港新聞

佐世保市天満町。明治三十八年十月創立。合資。朝四頁。(社長)長野秀夫。(總務)北島榮助。(主筆)田中正輔。(管)北島綱一。十五字、百五十五行、一ヶ月七十錢。(廣)普通五十錢。(特設)市公文登記公告

揚岐。秀太郎。(平)二。ステロあり。(活字)九、九半、十五字、百行、十段。月六十五錢。(廣)普通三十錢。

佐世保民友新聞

佐世保市島瀬町八八。大正十四年六月廿九日創立。個人經營。朝四頁(社長)西岡竹次郎。(編)細田養造。(管)倉成庄八郎。(輪一)寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月五十錢。(廣)一圓。

佐世保日日新聞

佐世保市島瀬町。明治四十四年四月三日創立。個人經營。朝八頁、夕小型二頁。(社長)永安榮作。福岡日日の姉妹紙。

佐世保新聞

佐世保市。(最近發行)朝四頁。(社長)原口徳太郎。(管)福田春舟。

島原新聞

長崎縣島原町四四一。大正二年八月廿五日創立。個人經營。三萬圓。夕四頁。(社長)清水繁三。(管)清水治代。(主筆)清水繁三。(管)清水治代。(平)二。(活字)普通五號。十一字、九十五行、十二段。月六十錢。(廣)五十錢。

長崎島原毎日新聞

島原町。明治三十七年六月十三日創立。個人經營。二萬圓。朝四頁(社長)金森安治郎。(主筆)柴田

めさまし新聞。長崎縣島原町。大正十年七月十日創立。個人經營。一萬五千圓。朝四頁。(社長)酒井初太郎。(副社長)宮崎政吉。(專務)木村亮一。(主幹)鈴木正勝。(支配人)米倉圓通。(編)城田清香。(管)酒井翠波。(平)一。十一字詰、四十二行、八段。一ヶ月三十錢。(廣)四十錢。(兼)鹿兒島出水郡出水町に姉妹紙出水新聞發行。

諫早毎日新聞

諫早町。大正六年一月一日創立。個人經營。朝四頁。(社長)小宮元之助。(社主)金森安治郎。(主筆)酒井初太郎。(平)一。ステロ設備あり。十六字、百行、八段。月六十五錢。(廣)普通三十錢。

對馬日々新聞

對馬縣原町。明治三十六年創立。組合組織。

政友本黨。夕四頁。(社長)松尾鐵次。(社主)古森泰。(主幹)高島金治。(編)山口時太郎。(主筆)社長兼任。(管)主幹兼任。(平)一。十二字詰。九十行。一ヶ月五十錢。

熊本縣

九州日日新聞

熊本市上通町五ノ四二。明治十五年二月創立。個人經營。憲政黨。朝十二頁。(社長)山田珠一。(社主)梅田生一。(編)宇野政行。(主筆)村上圓次。(販賣部長)村本武。(經理部長)草野浩。(輪五)字母設備あり。(活字)七、七半、十五字、百卅五行、十二段。月一圓(廣)八十錢。

九州新聞

熊本市花畑町。明治九年二月十一日創立。株式。三十萬圓。政友本黨。朝十頁。(社長)高木芳四郎。(副社長)仲熊大。(編)池田湖風。(主筆)伴熊大。(管)森實美。(輪三)(平)一。字母、ステロ、寫眞版設備あり。十五字、百三十五行、十二段。月一圓。(廣)八十錢。(特設)價に五百人を收容し得る

廣堂及屋上展望臺屋上運動場の設備あり。

九州毎日新聞

熊本市昇町。大正十一年一月創立。組合。朝四頁。(社長)澤井元善。(管)坂田輝雄。(平)二。字母設備あり(活字)八ポイント。十四字、百二十七行、十二段。月七十錢。

熊本毎日新聞

熊本市寺島町二丁目。明治三十一年五月十八日創立。株式。夕小四頁。(社長)村上友八。(管)石田忠太郎。(平)四。字母設備あり。(活字)十二字、六十五行、八段。月四十錢。(廣)普通六十錢。

大熊本新聞

熊本市新線治屋町四十番地。大正七年八月廿二日創立。個人。一萬圓。夕四頁。(社長)本田眞規。(社主)本田信喜。(副社長)本田康喜。支配人)本田猛登。(編)本田眞花。(管)高本清治。(平)三。十二字、六十三行、十一段。月七十錢。(廣)普通五十錢。特別一圓。(兼)普通印刷業。

宮崎縣

宮崎新聞

宮崎市黒迫町七九

三。大正五年九月創立。鹿兒島新聞經營。政友本黨。朝八頁。(社長)奥田榮之進。(主幹)岩切亨藏。(編)野井憲樹。(主筆)津田武。(管)飯田巽。(輪二)(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月九十錢。(廣)普通五十錢。特別七十五錢。

日州新聞

宮崎市旭通。明治三十四年八月創立。個人經營。五十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)野井慎太郎。(編)益繁太郎。(主筆)野井慎太郎。(輪一)字母、ステロ寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、八十行、十二段。月九十錢。(廣)普通七十錢。

宮崎日日新聞

宮崎市。大正十二年七月一日創立。個人經營。朝四頁。(社長)長野深。(主筆)松尾宇一。(主幹)主幹兼務。(管)松尾宇一。(編)益繁太郎。(管)松尾宇一。(輪二)ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、八十五行、十二段。月五十錢。(廣)普通八十錢。特別一圓。對馬新報の姉妹紙。

宮崎日報

宮崎市高千穂通。大正十三年三月一日創立。個人大分新聞の經營。夕八頁。(社長)

鹿兒島縣

鹿兒島新聞

鹿兒島市山下町一七一。明治十四年二月創立。組合組織。政友本黨。朝八頁。(社長)奥田榮之進。(編)飯田巽馬。(主筆)津田武。(管)飯田巽(輪)内國製二。(平)十二外石版印刷設備あり。字母、ステロ、寫眞版設備あり。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月九十錢。(廣)普通七十錢。特別一圓二十錢。雜報欄一圓六十錢。(兼)宮崎新聞、夕刊鹿兒島商報、及各種印刷部。

鹿兒島朝日新聞

鹿兒島市六日町一六。明治三十二年七

月三日創立。株式會社。三萬五千圓。朝八頁。(社長)藤安辰次郎。(編)藤坂貞盛。(營)青木才熊。(輪)二。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七五、月九十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓。

大分縣

豐州新報 大分市荷揚町。明治十九年四月十九日創立。個人經營。朝四頁、夕四頁。社長(長)長野澤。(理事)津部啓三郎。(編)主筆荒木貞雄。(營)津部啓三郎。(輪)二。(平)一。字母ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七五、月九十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓。

大分新聞

大分市市田橋通。明治二十二年六月創立。個人經營。憲政會。朝四頁、夕四頁。(社長)大津淳三。(副社長)大津征夫。(編)主筆東清次郎。(營)植木善雄。(輪)二。(平)一。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七五、月九十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓。

五行、十二段、月九十錢。(廣料)八十錢。(兼)中津新聞、宮崎日報、延岡新聞、都城新聞、國東時報。

大分日日新聞

大分市唐人町。明治四十四年創立。個人經營。朝四頁、夕四頁。社長(長)衛藤又三郎。(主筆)島山一夫。(支配人)葛城衛。(編)田中保。(主筆)前田多三郎。(營)林直藏。(輪)二。(平)一。ステロ設備あり。(活字)七、七五、月九十錢。(廣料)普通六十錢、特別一圓。

大分民友新聞

大分市大分町。大正十二年九月八日創立。個人經營。夕四頁。(社長)御手洗覺園。(主筆)原田勝彦。(總務)岩崎芳之助。(編)吉野安藏。(主筆)主筆兼務(營)藤野進。(平)一。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)九、九、月九十錢、月六十錢、月六十錢。

沖繩縣

琉球新報 那霸市東町四ノ三。明治二十六年創立。個人經營。憲政會。朝四頁。(社長)葛原安佐。(主筆)眞榮城守行(編)主筆兼務。(平)四。(活字)九、九、月五十五錢、月五十五錢。

沖繩朝日新聞 那霸市。大正四年十一月十日創立。個人。五萬圓。朝四頁。(社長)當眞嗣合。(編)長嶺將快(營)渡邊治朝義。(平)二。(活字)八、八、月五十五錢、七十三行、十一段、月六十錢。(廣料)五號二十錢。(兼營)印刷業。

北海道

北海タイムス 札幌市大通西三丁目六番地。明治十七年創立。合資。三十二萬圓。朝十二頁。(理事)東武、阿部守之。(總支配人)中津井高助。(編)山口喜一。(輪)七。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七五、月五十五錢、月五十五錢、月五十五錢。

札幌每日新聞

札幌市南七條西五丁目。大正五年三月創立。共同組合。五萬圓。朝六頁(社長)吉田重貞。(編)兼田政徳。(平)二。字母、寫真設備あり。(活字)八、八、月十四行、八行、一ヶ月五十錢。(廣料)一行五十錢。

小樽新聞

小樽市。明治廿六年五月八日創立。株式。十萬圓。朝十二頁。(社長)上田壽久。(編)平野文安。(營)坂平直太郎。(輪)四。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七、月十五行、百四十一行、十二段、月一圓。(廣料)普通一圓。(兼營)旬刊附錄

北門日報

小樽市稻穂町西六丁目九。大正六年八月三十一日創立。株式。十萬。政友會。夕四頁。(事務)山口信彌。(編)貴志忠憲。(營)清水義輔。(輪)一。(活字)七、七、月十五行、百三十五行、十二段、月六十錢。(廣料)普通一圓。

小樽毎夕新聞

小樽市東雲町二十五。明治四十一年創立。個人經營。二萬圓。夕四頁。(社長)主筆)河田邦太郎。(編)栗林

小樽商業新報

小樽市色内町八丁目二十五。大正八年八月一日創立。合資。五萬圓。夕四頁乃至六頁。(社長)小山健齋。(支配人)鈴木丈八。(編)阿部金衛。(主筆)宮本佳映。(營)大西作太郎。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九、九、月十五行、百二十行、十段、月六十八錢。(廣料)五十錢、特別八十錢、指定一圓。

函館毎日新聞

函館市鶴岡町一番地。明治十一年一月七日創立。匿名組合。十萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)金澤彦作。(編)千葉稻城。(營)鈴木啓三。(輪)一。字母、ステロ、寫真設備あり。(活字)七、七五、月九十錢、月三十八行、十二段、月九十錢。(廣料)普通八十錢、特別一圓三十錢。(兼營)代理店あり

函館新聞

函館市地蔵町十一。明治二十一年一月十七日創立。個人經營。二萬圓。夕四頁。(社

函館日日新聞

函館市葉菜町百五十五。大正七年四月創立。個人經營。十萬圓。夕四頁。(社長)太刀川善吉。(編)齋藤虎之助。(主筆)林儀作。(輪)一。ステロ設備あり。(活字)八、八、月四十四行、百二十行、十二段、月五十五錢。(廣料)普通五十錢、特別八十錢。

北海商報

函館市豊川町一番地。明治三十一年三月卅一日創立。個人。二萬圓。立憲黨正會。夕四頁。(社長)高田安次郎。(主)高田顯吉。(主筆)奈良文治。(平)四六版十六頁。一十三字、百行、十段。月金五十錢(廣料)普通一行四十錢、特別一行七十錢。(兼營)活版印刷物。

函館商報

函館市大町十九番地。明治廿五年五月創立。個人。夕四頁。(社長)中井多吉。(支配)中井松治郎。(編)主筆、營)西澤和三郎。(平)一。(活字)五號、十三字、七十五行、十段、月五

函館民友新聞

函館市。函館市。朝八頁。(社長)田中秋隆。(編)男季雄。(營)大森龍藏。(輪)三。(平)三。ステロ、寫真設備あり(活字)八、八、月十五行、百三十二行、十二段、月七十五錢(廣料)普通八十錢、特別一圓五十錢(兼營)印刷業。

旭川新聞

旭川市五條通十丁目。大正四年十月創立。個人。朝八頁。(社長)田中秋隆。(編)男季雄。(營)大森龍藏。(輪)三。(平)三。ステロ、寫真設備あり(活字)八、八、月十五行、百三十二行、十二段、月七十五錢(廣料)普通八十錢、特別一圓五十錢(兼營)印刷業。

北海日日新聞

旭川市七條通七丁目。大正十二年十一月二十六日創立。個人經營。夕四頁(社長)大竹輝朗。(社長代理)小林倉造。(理事)小林倉造、山口嗣郎。(編)増村豐藏(主筆)社長兼務、(營)野口義壽。(輪)一。(平)一。ステロ設備あり。十五字、七十八行、十二段。(廣料)普通一圓、特別二圓。

北都毎日新聞

旭川町。大正十三年創立。朝四頁。

室蘭毎日新聞

室蘭市。朝

治四十二年四月創立。組合。五萬圓。夕六頁。(社長)鈴木要吉(編)谷村金次郎。(發)野村耕平。(輪)一。ステロ設備あり。(活字)八。半。十四字。百二十行。十二段。月七十錢。(廣料)普通地元七十錢。

釧路新聞

釧路市入舟町三。明治三十五年七月創立。合資。三萬圓。朝四頁。(社長)遠藤清一。(編)村井英治。(發)小野田勘太郎。(平)二。(活字)八。ポイント。十五字。百二十五行。十二段。月七十錢。(廣料)普通八十錢。

根室新聞

根室町有磯町三ノ三。明治二十二年九月創立。九千六百圓。朝四頁。(社長)兼古萬吉。(主筆)三上忠雄。(平)二。(活字)八。半。十五字。百十五行。十一段。月七十錢。(廣料)普通四十錢。

日東新聞

網走町。北見野付牛町。大正二年三月創立。個人經營。朝四頁。(社長)千葉兵藏。(發)三浦廣吉。(平)二。(活字)八。半。九十五行。十一段。月八十五錢。(廣料)普通八十錢。

浦廣吉。(平)二。(活字)八。半。九十五行。十一段。月八十五錢。(廣料)普通八十錢。

宗谷新報

宗谷郡稚内町本通北三。明治三十六年七月十五日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁。(社長)岡田義胤。(編)社長兼務。(主筆)林澤川。(發)高野新太郎。(輪)準備中。着手中。(平)二。ステロ設備あり。寫眞版設備準備中。(活字)近八。半。改長準備中。目下十一字。九十五行。十二段。月五十八錢。(廣料)普通五十錢。特別欄二倍増。(兼營)農牧業。近かく週刊發行。

十勝新報

十勝國幣廣町西二條八丁目。明治四十年七月創立。個人。二萬圓。夕四頁。(社長)日長安太郎。(庶務局長)日景外二郎。(編)菊地尚一。(發)河上勝治。(平)一。ステロあり。寫眞版設備あり。(活字)九。半。十三字。百五行。十二段。月七十錢。(廣料)五十錢。

十勝毎日新聞

帶廣町。大正八年九月創立。個人經營。五萬圓。夕六頁。(社長)主筆林茂。(編)工藤信三。(廣告部長)堀井守藏。(平)一。ステロ設備あり。

江差日日新聞

江差町。明治三十一年十一月二十五日創立。朝四頁。社長北林乾郎。(社長)北林七郎。(編)上杉廣太郎。(發)片岡次郎。(平)三。十六字。九十六行。八段。月四十錢。(廣料)普通三十錢。

樺太

樺太日日新聞

豊原町大通南六ノ一。明治四十一年八月創立。個人經營。朝四頁。(社長)沖島謙三。(支那人)太田鎮雄。(主筆)藤井尚治。(輪)一。(平)一。字母。ステロ設備あり。(活字)八。半。十四字。七十四行。十二段。月一圓。(廣料)普通九十錢。

サガレン新聞

豊原町東一條南五丁目。大正十年八月十六日創立。個人經營。五千圓。夕四頁。(社長)鈴木誠松。(副社長)片岸伸。(編)主筆高月茂。(發)湯淺語。(平)二。字母設備中。ステロ設備あり。寫眞版設備中。

樺太民友新聞

大泊本町西一條南六。大正三年八月七日創立。合資。二萬圓。夕四頁。(社長)汐留助二郎。(編)高井彌作。(主筆)岡田耕平。(發)本田定一。(平)二。ステロ設備あり。(活字)八。半。十四字。百二十行。十二段。月一圓。(廣料)六十錢。

大泊毎日新聞

大泊本町。大正十二年九月十日創立。個人。五千圓。夕四頁。(社長)鈴木誠松。(理事)井田良三。(編)高橋信一郎。(主筆)佐藤至孝。(平)二。十二字。六十行。十一段。月一圓。(廣料)六十錢。

樺太時事新聞

真岡町。明治四十一年十月創立。個人。二

臺灣

萬圓。憲政會。朝四頁。(社長)栗岡巳入。(副社長)長井準太郎(編)島田德松。(主筆)寺岡正巳(發)木次谷佐平。(平)一。ステロ設備あり。(活字)九。ポイント。十三字。百行。十二段。月一圓。(廣料)六十錢。新社屋百二十坪。建築中。七月末竣工。建築費一萬數千圓。輪轉機附の準備あり。

眞岡日日新聞

眞岡町。

臺灣

臺灣日々新聞

臺北市榮町四丁目卅二番地。明治卅一年四月一日創立。株式。六十萬圓。朝六頁。夕四頁。(社長)井村大吉。(支配人)石原幸作。(編)主筆(谷河梅人)新聞課長(長谷理教)。(輪)三。(平)十一。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七五。十五字。百三十四行。十二段。月一圓五十錢。(廣料)八十錢。(兼營)印刷業。販賣業。

臺灣新聞

臺中市明治町五三六番ノ一二。明治三十四年五月創立。株式。二萬圓。朝

朝鮮

京城日報

京城府太平通一ノ三三。明治三十九年九月創立。合資。十六萬圓。朝四頁。夕六頁。(社長)伯爾副島道正。(副社長)支配人宮部敬治。(編)角田廣司。(主筆)丸山幹治。(發)河谷

京城日日新聞

京城府永樂町二丁目。大正九年七月一日創立。個人經營。二十五萬圓。朝八頁。夕四頁。(社長)有馬純吉。(支配人)熊谷德太郎。(編)龜岡榮吉。(管理)鎌田正一。(輪)一。(平)一。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七五。十五字。百三十五行。十二段。月一圓。(廣料)普通一圓三十錢。特別二圓六十錢。

朝鮮新聞

京城府太平通二丁目一五。明治二十一年三月一日創立。個人經營。五十二萬圓。朝四頁。夕四頁。(社長)牧山耕藏。(副社長)細島四郎介。(專務理事)石森久彌。(編)和田重義。(發)石森久彌。(輪)二。(平)一。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七五。十五字。百三十五行。十二段。月一圓。(廣料)普通一圓三十錢。特別二圓六十錢。

京城日日新聞

京城府永樂町二丁目。大正九年七月一日創立。個人經營。二十五萬圓。朝八頁。夕四頁。(社長)有馬純吉。(支配人)熊谷德太郎。(編)龜岡榮吉。(管理)鎌田正一。(輪)一。(平)一。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。七五。十五字。百三十五行。十二段。月一圓。(廣料)普通一圓三十錢。特別二圓六十錢。

朝鮮毎日新聞

仁川濱町。大正十年八月創立。個人經營。二十萬圓。朝四頁。(社長)後藤

東亞日報

京城府花洞一三八。大正九年四月一日創立。株式。七十萬圓。夕四頁。(社長)金性淳。(副社長)張德秀。(編)主筆宋鎮禹。(發)梁源模。(輪)三。(平)二。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)八。半。十四字。百二十四行。十二段。月八十錢。(廣料)五號一圓。雜報欄內二圓四號一圓五十錢。每週三回附錄發行。

朝鮮日報

京城府水鏡町四三。大正九年三月創立。組合。朝二頁。夕四頁。(社長)李商在。(編)閔泰瑛。(發)洪增植。(輪)三。字母。ステロ。寫眞版設備あり。(活字)七。半。十五字。百三十五行。十二段。月八十錢。(廣料)普通一圓。(兼營)代理部。

每日申報

京城府太平通一丁目三十二番地。明治四十三年九月創立。合資。十六萬圓。朝四

頁(社長)伯備關島道正(副社長)支配人宮部敬治(編)角田廣司(主筆)丸山幹治(管)河谷靜夫(輪)一(平)一。字母ステロ、寫真版設備あり(活字)八ポイント、十四字。百三十五行、十二段。月七十錢。(廣料)一圓十錢。

セウル、プレス(The Seoul Press) 京城長谷川町。明治四十年三月創立。個人經營。朝四頁(社長)三好重彦(支配人)岡與一。(主筆)宮永品吉。六段。月一圓郵稅共。(廣料)一時三回金一圓。

釜山日報 釜山岸本町。明治三十八年二月十二日創立。株式二十五萬圓。朝四頁、夕四頁。(社長)芥川正(支配人)主筆(編輯)藤澤。編輯(支配人)宗良好三。(廣告部長)永延清四郎。(輪)二(平)五。字母、ステロ、寫真版設備あり。(活字)七、七五、十五字。百三十五行、十二段。月一圓。(廣料)平通一圓三十錢、特別二圓六十錢。

朝鮮民報 大邱府。明治三十八年三月創立。個人經營。朝四

頁、夕四頁。(社長)河井朝雄(副社長)野坂茂一(支配人)菅藤勇(編)主筆久納重吉(輪)一(平)五。字母、ステロ寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字。百三十五行、十二段。月七十錢。(廣料)一行一圓(兼營)出版。

平壤每日新聞 平壤府。大正九年四月十日創立。合資。三十二萬七千五百圓。朝四頁(社長)大橋恒藏(副社長)矢橋良胤(支配人)菅小西晴海(編)加藤凡平(主筆)古莊仁太郎(輪)註文中。(平)二。字母三千字、ステロ、寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月七十錢。(廣料)普通一圓、特別二圓(兼營)印刷部一圓、特別二圓。

元山每日新聞 元山府幸町二十六番地。明治四十一年十一月創立。個人經營。十萬圓。朝四頁(社長)西田常三郎(支配人)菅土屋幹夫(編)長谷享(平)二。字母、ステロ、寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字。百三十五行、十二段。月九十錢(廣料)一圓三十錢(兼營)代理部、元山案内、北鮮年鑑、金剛

山寫真帳等種々あり。北鮮日日新聞 羅南生駒町。大正九年四月創立。個人經營。五萬圓。朝四頁(社長)洪鐘華(主筆)編(支配人)菅中川高(平)二。(活字)七、七五、十四字、八十五行、十二段。月九十錢。(廣料)八十錢。

鴨江日報 新義州。明治四十年四月創立。匿名組合。五萬圓。夕四頁(社長)加藤誠治郎(編)渡邊真一郎(主筆)小川延吉(平)二。ステロ、寫真版設備中(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月八十錢。(廣料)普通六十錢。

朝鮮商工新聞 京城府黃金町二丁目一八八。大正九年十一月二十九日創立(週刊)。(十二年七月十九日より日刊となる)個人經營。五萬圓。夕四頁(社長)齋藤五吉(副社長)支配人編(支配人)大野幸貞(平)十六頁。ステロ設備あり、活字八ポイント。十四字、九十七行、十二段。月七十錢。(廣料)五號一圓三十錢、四號一圓八十錢、二號二圓五十錢(兼營)京城株式市場日報。

南鮮日報 馬山府本町五丁目。明治四十年十月創立。共同經營。朝四頁(社長)河谷靜夫(主筆)橫瀬新三郎(編)千葉包二郎(活字)七、七五、十五字、八十一行、十二段。月八十錢(廣料)一圓一十錢。

平南每日新聞 平壤本町一。大正九年四月一日創立。組合。朝四頁(社長)中丸野太郎(輪)一(平)一。ステロ設備あり。十五字、百三十五行、十二段。月七十錢。

朝鮮時報 釜山府大慶町。明治二十五年五月創立。合資。十萬圓。朝四頁(社長)今川廣吉(社長秘書)岩切信武(編)主筆(網)中春汀(廣告部長)崔岩(平)二。(工場長)外務兼務)大島次郎吉(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月七十錢(廣料)一圓。

木浦新報 木浦府仲町二丁目。株式。五萬圓。朝四頁(社長)山野瀧三(社長)全南印刷株式會社(副社長)主筆(支配人)長野虎太郎(支配人)萩野柳太郎(編)主筆(山本精一)。(平)二。ステロ寫真版設備あり(活字)八、半。ステロ、寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月一圓。(廣料)普通八十錢。

十四字、百二十行、十二段。月九十錢。(廣料)一圓。 群山日報 全羅北道群山府明治町通九二。明治四十一年四月十五日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁(社長)高州規(專務)松岡琢磨(編)浦生利雄(主筆)松岡琢磨(管)緒方守雄(平)三。字母註文中。ステロ設備あり。寫真版設備註文中。(活字)現在九、半。注文中七、半。十二字百七行、十二段。月一圓(廣料)一圓

東光新聞 全羅北道全州。大正九年十一月廿一日創立。個人經營。二萬圓。朝四頁(社長)松波千海(理事)林昌燾(編)徐相睦(管)梁昌林(平)二、ステロ設備あり(活字)九、半。十二字、百六行、十二段。月一圓(廣料)一圓

全北日報 全羅北道全州。明治三十八年十二月廿五日創立。個人經營。五萬圓。朝四頁(社長)松波千海(編)安武可眞(理事)荒木源二(管)新井純二郎(平)二。ステロ設備あり(活字)九、半。十二字、百六行、十二段。月一圓(廣料)一圓

湖南日報 大田春日町。大正一年創立。個人經營。朝四頁。

光州日報 光州府。明治四十年十月一日創立。株式。朝四頁(社長)長野虎太郎(管)網谷藤吉(平)五。(活字)九、半、十五字、百五十五行、十一段。月九十錢。(廣料)普通七十錢。

北鮮日報 清津敷島町。明治四十年八月一日創立。合名。朝四頁(社長)岡本常次郎(管)金田平次郎(平)二、ステロ、寫真版設備あり(活字)九、五、十二字、百〇六行、十二段。月九十錢。(廣料)普通八十錢。

咸南新報 咸興軍國通。明治四十年十二月四日創立。個人經營。朝四頁(社長)堀本進平(主筆)田内武(管)石川深五郎(平)二。(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月九十錢。(廣料)普通八十錢。

一四、滿洲

滿洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

關東洲

滿洲日日新聞 大連市東公團町二十一番地。明治四十年七月創立。株式。五十萬圓。朝八頁、夕四頁(社長)小山内大六(支配人)橋本芳彦(編)錦織昇(東京支社長)兼大阪支社長)小島清友(營業部長)中松國彦(輪)二(平)十六(モノタイプ)五、字母、ステロ、寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字、百卅五行、十二段。月一圓卅錢(廣料)普通一圓卅錢、特別二圓六十錢(兼營)印刷業、紙類販賣、關東縣公布式大連市公布式

遼東新報 大連市。明治三十八年十月創立。株式。五十萬圓。朝八頁、夕四頁(社長)大來修治(編)主筆(支配人)難波勝治(管)吉野直治(輪)二(平)三。字母、ステロ、寫真版設備あり(活字)七、七五、十五字、百三十五行、十二段。月一圓三十錢(廣料)一圓三十錢(兼營)印刷業、代理販賣。

大連新聞 大連市淡路町七。大正八年十一月創立。株式。十四萬圓。朝四頁、夕四頁(副社長)栗木榮太郎(主筆、編)實性確成(輪)一(平)二。字母、

泰東日報 大連市東町。明治四十一年二月創立。個人經營。朝十頁(社長)金子平吉(專務)佐藤長治(管)刻仁山(輪)一(平)三。字母、ステロ、寫真版設備あり(活字)九、半、十、月九十三字、九十六行、十段。月九十錢。(廣料)普通一圓。

滿洲報 大連市山縣通一四二。大正十一年二月一日創立。個人經營。二十萬圓。朝八頁(社長)西片朝三(副社長)太原要(主筆)太原要(橋秀一)金念曾(管)太原要(輪)二(平)二。字母、ステロ、寫真版設備あり(活字)十、半、十四字、六十五行、十段。銀大洋一

35

關東報 大連市泰公橋三八
大正九年一月十一日創立。個人
經營。朝八頁。(社長)永田善三
郎。(事務)市川年房。(監)大村
猿太郎。(平)三。活字九ボイ
ト、十五字、一〇八行、十段。
月八十五錢。(廣)普通五十錢

關東報

奉天每日新聞 奉天市十間
房第四區。明治四十年七月一日
創立。個人經營。二十萬。朝四
頁。(社長)松宮幹樹。(主幹)橋
本松道。(監)尾本拾次郎。(輪
一。(平)三。ステロ、寫眞版設
備あり。(活字)七、七五、十五字
百二十五行。十二段。月一圓。
(廣)普通七十錢。

奉天每日新聞

大陸日日新聞 奉天浪速通
明治四十一年十二月十日創立。
株式會社遠東新報社。夕刊夕
テ四頁。(社長)吉野直治。(社主)
遠東新報社(發行人)難波勝治。
(編輯)矢部健吉。(編)菊池秋
四郎。(監)楠本由吉。(輪)一
注文中。(平)一。ステロ設備有
り。(活字)七、半に改稿中。十四
字、八十行、十二段。月九十錢

大陸日日新聞

盛京時報 奉天。明治三十九
年十月一日創立。個人。三十五
萬圓。日八頁。(社主)中島眞雄
(副社長)染谷保藏。(編、主筆)
菊地貞二。(監)宮川實作。(輪
一。(平)二。字母、ステロ、寫
眞版設備有。(活字)九ボイ
ト、十五字、百三十三行、十段。
一ヶ月現大洋九角五。(廣)一
行現大洋一元。

盛京時報

滿洲新報 營口(牛莊)。明治
四十一年二月十一日創立。個人
一萬八千圓。(社長)岡部次郎。
(主幹、主筆)小川義和。(平)一
ステロ設備有。(活字)九、半
十六字、一〇六行、九段。月七
十錢。(廣)場所指定一圓。普
通五十錢。
鐵嶺時報 錦州元町。明治四

滿洲新報

一、各社配列の順序は東京、及び地方の二種に分ち、東京はイロハ順
により、地方は不同である。
二、各社の記述は大體次の順序による。(括弧内の文字はそれらの略
記述の順序)

一、東京

日本電報通信 麹町區丸ノ
内仲通り十號明治卅四年七月卅
日創立。株式。一百萬圓。(種類)
各種内外通信一般。(社長)光永
星郎。(編)中根榮。(通信部長)
上田碩三。(支局)三十一。(特設)
印刷部、廣告行統計課。(事業)
東京、福岡間電通私設専用電話
完成、記者山内封助、入聲。

日本通信 京橋區元數寄屋町
一丁目二番地。明治二十二年創
立。個人。五十萬圓。(種類)内
外政治經濟宗教教育社會其他全

日本聯合通信 麹町區有樂

奉天新聞 奉天市小西邊門外
大正六年九月一日創立。個人經
營。七萬五千圓。夕四頁。(社長)
佐藤善雄。(理事)内山石松。(主
幹)社長兼務。(編)小松利兵衛。
(監)德澤清臣。(平)二。ステロ
寫眞版設備あり。(活字)七、半
十五字、百三十五行、十二段。
月一圓。(廣)普通五十錢。

奉天新聞

盛京時報 奉天。明治三十九
年十月一日創立。個人。三十五
萬圓。日八頁。(社主)中島眞雄
(副社長)染谷保藏。(編、主筆)
菊地貞二。(監)宮川實作。(輪
一。(平)二。字母、ステロ、寫
眞版設備有。(活字)九ボイ
ト、十五字、百三十三行、十段。
一ヶ月現大洋九角五。(廣)一
行現大洋一元。

盛京時報

滿洲新報 營口(牛莊)。明治
四十一年二月十一日創立。個人
一萬八千圓。(社長)岡部次郎。
(主幹、主筆)小川義和。(平)一
ステロ設備有。(活字)九、半
十六字、一〇六行、九段。月七
十錢。(廣)場所指定一圓。普
通五十錢。
鐵嶺時報 錦州元町。明治四

滿洲新報

一、本表は東京、及び大阪、京都、神戸、名古屋、横濱所在日刊通信
社の一覽表である。表の諸項目は一々各社について問合せたもので
あるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料
により記入した分も多少はある。

全國通信社一覽表

十四年八月一日創立。個人經營
二萬圓。朝四頁。(社長)西尾信
(編、主筆)本多正。(監)阿部萬
吉。(ロー)二。十二字、七十
二行、十段。月七十五錢。(廣)料
四十錢。
開原新報 開原小孫家。大
正八年二月十一日創立。個人。
一萬圓。朝四頁。(社長)山田民
五郎。(平)一。十二字、五十行
九段。月七十錢。
長春實業新聞 長春永樂町
四丁目一番地。大正九年十二月
十五日創立。柏原孝久、染谷保
藏兩人の共同所有。五萬圓。夕
四頁。(社長)柏原孝久。(主幹)
老木近信。(監)石井彦之吉。(平)
二。ステロ設備あり。(活字)八
半。十四字、(但天地半割)アキ十
三字組)百二十行、十二段。一ヶ月
金八十錢。(廣)料)金五十錢。

町二丁目一番地。大正九年八月
十八日創立。個人經營。三萬五
千圓。(種類)政治、經濟、時事。
(發行)一回。(社長)樋口鐵六。
(社主)鈴木啓次。(主幹)須々田
雅信。(編)小島憲一郎。(監)辻
長次郎。(社員)十七名。(支局)
六。(契約新聞)百六十社。(營業)
印刷、製版、代理部。
日本經濟通信 日本橋區新
和泉町一。大正六年九月創立。
個人。(種類)雜物界全般に關する
經濟事項を主とし之に關聯せる
各種材料、及社會、政治、教
育其他。(發行)午前、午後二回
(社長)村井城次。(社主)村井基
一。(主幹)三上正孝。(支配人)
清水岸良。(編)主幹兼務。(監)
速水颯慶。(社員)十九名。(支局)
六。

日本實業興信新報 日本
實業興信所發行。京橋區北紺屋
町二。明治三十九年十一月創立。
合名會社。三萬圓。(種類)土木
建築並に諸官衙通信。(社長)清
水留吉。(社員)三十二名。(支局)
五。(契約新聞)三社。(營業)月
刊雜誌、二種類發行並に土木建
築關係書籍出版。

東方通信 京橋區日吉町一五
大正四年創立。(種類)政治、外
交、經濟、其他一般ニュース。
(發行)數回。(主幹)伊達源一郎
(編)座間勝平。(經理部長)大枝
義祐。(社員)六十五名。(支局)
六。(契約新聞)日本、支那及露
國に於て二百三十社。

東京通信 麹町區永樂町一丁
目一番地。明治二十年五月創立
匿名組合。十五萬圓。(種類)政
治、經濟、社會。(發行)一日三
回。(社長)山口恒太郎。(事務理
事)佐藤謙一。(編)日隈曠。(監)
宇野末雄。(社員)二十五名。(支
局)一。(契約新聞)八十四社。(兼
營)文藝通信。

東京演藝通信 神田區駿河
臺鈴木町十六番地。大正十年七
月創立。合資。一萬圓。(種類)

演劇、映畫、音楽、寫眞。(發行) 一回乃至二回。(社長)桑野正夫 (社員)十三名。(契約新聞)東京十八社。(兼營)出版業、月刊、香樂と映畫「喜劇春秋」

東京米報 深川區佐賀町二ノ五五。明治二十五年五月十一日創立。東京米穀商組合の所有五千圓。(種類)米雜の取引及價格並に之に關係せる統計。(持主)木村德兵衛。(主幹)梅原保。(社員)二名。

東京米穀商品取引所公報 東京米穀商品取引所發行。日本橋區船場一ノ二。大正十一年十二月五日創立。(理事長)指田義雄。(主幹)根岸眞三郎。(備考)當取引所公報は取引所法施行規則第十九條に従ひ發行する相場表なる事を附記す。

豐國通信 京橋區南佐賀町六。明治二十二年二月創立。個人經營。十萬圓。(種類)政治經濟、交通、衛生。(社長)谷口新造。(主幹)渡邊正吉。(編輯)中村耕造。(營)増田大雄。(社員)二十八名。(契約新聞)百八十八社。(兼營)新聞雜誌廣告代理業

千代田通信 日刊千代田通信社發行。永田町一丁目三十番地。大正二年四月二十一日創立。個人經營。六萬圓。(種類)宮内省、内閣、樞密院、陸海軍、社會一般高尚記事。(發行)一日三回若くは五六回。(社長)井原眞明。(編輯)井原眞明。(顧問)長巳豐吉。(營)坂本久吉。(社員)三十二名。(支局)大阪、北海道。(契約新聞)百八十五社。(特設)過急記事電話通信。(兼營)廣告取次及委託事業。

朝野通信 假事務所龜町區内幸町一ノ五。明治三十九年二月十三日創立。個人。政友本黨系。(種類)政治、經濟、教育。(發行)毎日三回配達。(社長)土居貞彌(社員)六名。(契約新聞)都市外地方五十社。(特設)地方特別通信。

中央通信 京橋區宗十郎町七。明治四十五年三月五日創立。匿名。(種類)政治、經濟其他一般。(社長)布屋徹吉。(社主)福澤義男。(主幹)堀井上明夫。(營)安田彦三郎。(社員)十五名(支局)七。(契約新聞)三十五社(特設)教育資料活動寫眞器具及

帝國通信 京橋區南町一ノ十。明治二十二年創立。株式。五十萬圓。(種類)日刊帝國通信電話、電報、郵便、寫眞、紙型無電。(社長)頼母木桂吉。(常務)越野宗太郎。(編輯)久保田治郎吉(營)平野義信。(社員)二百五十

名。(支局)二十三。(契約新聞)二百餘。(特設)寫眞製版其他無電裝置モノタイプ製版市内同報電話、市内專用電話。(兼營)全國新聞雜誌廣告代理業。

帝國興信所内報 帝國興信所發行。京橋區不挽町一丁目十一番地。明治三十三年三月創立。株式。五十萬圓(全額拂込)。(種類)財政、經濟、商業、訴訟事項、登記事項其他。(社長)後藤武夫。(編輯)神村常太郎。(營)藤田守一。(社員)本、支所總員七百五十名。(支所)全國樞要都市五十。(特設)銀行、會社、商店、人事其他の調査設備。

亞細亞通信 京橋區南町二丁目三番地。大正八年五月一日創立。合資。二萬圓。(種類)政治、經濟、社會、植民。(社長)辻村與三郎。(主幹)神阪了逸。(編輯)辻村與三郎。(社員)十二名(支局)一。(契約新聞)六十八社。(兼營)製版、印刷、寫眞通信。

愛國通信 龜町區内幸町一丁目五番地。大正二年十月三十一日創立。個人經營。(種類)内閣宮内省其他一般出來事。(發行)

出張撮影設備。(兼營)圖書出版其他社會事業新聞雜誌廣告代理(事業)講演會開催、新年特別原稿通信。

書夜通信 京橋區西紺屋町五。株式。(種類)社會通信。(社長)降旗元次郎。(專務)植村嘉三郎其の他不明。

よろづ通信 京橋區西紺屋町三。大正九年四月一日創立。個人經營。(種類)主に社會部專門通信。(社長)高橋鐵之助。(編輯)島田信三。(契約新聞)東京各社(兼營)廣告代理業。

大陸通信 四谷區左門町三八。大正九年四月創立。個人。(種類)一般。(發行)二回。(社長)山元龜治郎。(社主)萩原眞。(編輯)上田樹。(社員)十一名。(支局)二ヶ所。(契約新聞)五社。(兼營)出版事業。

大陽通信 龜町區内幸町一丁目五番地。大正四年三月二十五日創立。個人經營。十萬圓。(種類)政治、外交、財政其他。(發行)一日四回乃至五回。(社長)林貞次郎。(主幹)高柳義正。(編輯)中庄吉。(社員)十二名。(支局)三ヶ所。

旭通信 京橋區西紺屋町五。大正十三年四月三日創立。個人經營。(種類)政治、經濟、社會(發行)三便。(社長)福田實甫。(主幹、編輯)福原武。久保田文彦(社員)十九名。(支局)四。(契約新聞)四十六社。(兼營)廣告取次業。

明治通信 赤坂區坂坂町四番地。明治三十三年創立。個人經營。(種類)軍事、外交其他一般(社長)鏡部勉。

自由通信 京橋區新町一。明治三十二年二月十一日創立。個人經營。政友會。(種類)政治經濟。(發行)一日數回。(社長)小高長三郎。(主幹)岡田巖。(社員)四十五名。(特設)印刷工場設備。(兼營)印刷業、廣告取次業

新聞研究所報 新聞研究所發行。京橋區南町二ノ五。大正九年九月創立。個人經營。(種類)新聞關係事項を中心とする日刊。(發行回數)日刊以外號外

臨時増刊等あり。(所長兼主筆)永代靜雄。(主幹兼編輯)光川穆。(副編輯)中村勝治。(總務部長)村上脩。理事兼支那人村松吉太郎。(所員)十五名。(契約新聞)全國各代表新聞通信、雜誌社、廣告代理業其他(兼營)週刊出版内報水曜發行(月刊)新聞及新聞記者。月一回「新聞大學講座」等發行。材料と努力との供給部及び廣告代理事務其他。

政治經濟通信 芝區琴平町二番地。大正十三年二月二十日創立。個人經營。政友本黨機關(種類)政治及經濟、社會事業。(發行)市内版數回及地方版一回外に電報及電話通信。(社長)主筆)里見謙吾。(編輯)政治部若切登經濟部里見敬二、社會事業坂本箕山。(營)井川純平。(社員)十二名、客員四名、囑託五名、外に通信員。(支局)支局の設置なきも全國各市に通信員を置く其方を通じて一百一十一社。(特設)(一)通信印刷用として一時間二千枚を印刷し得る自動輪轉寫真機の設備あり。(二)各政黨機關

出張撮影設備。(兼營)圖書出版其他社會事業新聞雜誌廣告代理(事業)講演會開催、新年特別原稿通信。

書夜通信 京橋區西紺屋町五。株式。(種類)社會通信。(社長)降旗元次郎。(專務)植村嘉三郎其の他不明。

よろづ通信 京橋區西紺屋町三。大正九年四月一日創立。個人經營。(種類)主に社會部專門通信。(社長)高橋鐵之助。(編輯)島田信三。(契約新聞)東京各社(兼營)廣告代理業。

大陸通信 四谷區左門町三八。大正九年四月創立。個人。(種類)一般。(發行)二回。(社長)山元龜治郎。(社主)萩原眞。(編輯)上田樹。(社員)十一名。(支局)二ヶ所。(契約新聞)五社。(兼營)出版事業。

大陽通信 龜町區内幸町一丁目五番地。大正四年三月二十五日創立。個人經營。十萬圓。(種類)政治、外交、財政其他。(發行)一日四回乃至五回。(社長)林貞次郎。(主幹)高柳義正。(編輯)中庄吉。(社員)十二名。(支局)三ヶ所。

旭通信 京橋區西紺屋町五。大正十三年四月三日創立。個人經營。(種類)政治、經濟、社會(發行)三便。(社長)福田實甫。(主幹、編輯)福原武。久保田文彦(社員)十九名。(支局)四。(契約新聞)四十六社。(兼營)廣告取次業。

明治通信 赤坂區坂坂町四番地。明治三十三年創立。個人經營。(種類)軍事、外交其他一般(社長)鏡部勉。

自由通信 京橋區新町一。明治三十二年二月十一日創立。個人經營。政友會。(種類)政治經濟。(發行)一日數回。(社長)小高長三郎。(主幹)岡田巖。(社員)四十五名。(特設)印刷工場設備。(兼營)印刷業、廣告取次業

新聞研究所報 新聞研究所發行。京橋區南町二ノ五。大正九年九月創立。個人經營。(種類)新聞關係事項を中心とする日刊。(發行回數)日刊以外號外

臨時増刊等あり。(所長兼主筆)永代靜雄。(主幹兼編輯)光川穆。(副編輯)中村勝治。(總務部長)村上脩。理事兼支那人村松吉太郎。(所員)十五名。(契約新聞)全國各代表新聞通信、雜誌社、廣告代理業其他(兼營)週刊出版内報水曜發行(月刊)新聞及新聞記者。月一回「新聞大學講座」等發行。材料と努力との供給部及び廣告代理事務其他。

政治經濟通信 芝區琴平町二番地。大正十三年二月二十日創立。個人經營。政友本黨機關(種類)政治及經濟、社會事業。(發行)市内版數回及地方版一回外に電報及電話通信。(社長)主筆)里見謙吾。(編輯)政治部若切登經濟部里見敬二、社會事業坂本箕山。(營)井川純平。(社員)十二名、客員四名、囑託五名、外に通信員。(支局)支局の設置なきも全國各市に通信員を置く其方を通じて一百一十一社。(特設)(一)通信印刷用として一時間二千枚を印刷し得る自動輪轉寫真機の設備あり。(二)各政黨機關

地盤の勢力を一目瞭然とらしむべき調査部の設備あり。(兼營)新聞雜誌廣告取次。新聞經營代理。印刷及出版。

三、地方

日本通信

大阪市南區日本橋筋三丁目五十一番地。大正八年十二月二十二日創立。個人經營。五萬圓。(種類)政治、經濟、社會。(發行)一日一回。(社長)國方直孝。(主幹)中川三郎。(支配人)久見權三郎。(編輯)原田達郎。(營)西田廣吉。(社員)二十七人(支局)十ヶ所。(契約新聞)八十二社。(特設)上海大阪間經濟特報。(兼營)圖書出版。

大阪電報通信

(日本電報通信社兼營)大阪市北區中ノ島三丁目。(社長)能島雄。

大阪共同通信

大阪市東區京橋二丁目廿二。大正十二年二月十一日創立。個人經營。三萬圓。(種類)政治、經濟。(發行)一回。(主幹)伊藤浩逸。(編輯)平川直澄。(營)宮迫秀次郎。(社員)十一名。(支局)五。(契約新聞)三十二社。(兼營)一般廣告代理

及電柱廣告。

中外通信

京都市上京區烏丸二條南入。大正十年二月一日創立。匿名組合。三萬五千圓。(種類)政治、經濟、宗教、文藝、社會一般記事。(發行)三便。(社長)八木敏一(專務)佐々木秀一(理事)佐々木秀一、間宮七太郎、(編輯)海喜一郎。(營)習田愛次郎。(社員)十九名。(支局)神戸大阪。(契約新聞)四十七社。兼營廣告代理業。大谷派本願寺事件最初の摘發。京都藤松竹合名社の無償運送事件を摘發す。

京都通信

京都市上京區丸太町堀川東入。明治二十五年二月二十五日創立。株式。二十萬圓(種類)新聞通信。(發行)一回。(社長)上田莊吉。(專務)上田傳三郎。(營)上田龍之助。(社員)十一名。(契約新聞)十二社。(兼營)城但公論。

神戸新聞通信

神戸市。大正五年四月九日創立。個人經營。五萬圓。(種類)神戸市を中心とする政治、經濟、演説、社會部記事。(發行)正午及夜十時二回(社長)本郷直吉。(主幹)平尾正登。(支配人)山田あさ子。(社員)

名古屋通信

名古屋市東區石町三丁目。大正十年三月一日創立。個人經營。五萬圓。(種類)特殊(社會問題、勞働問題、水平運動、借家運動其他)(發行)日刊一回。(社長)小田莊二。(主幹)早田登。(支配人)平井義雄。(編輯)宮村江東。(營)長谷川留吉(社員)廿六人。(支局)七。(契約新聞)三百餘新聞。(特設)出版部、辯論部。(兼營)廣告代理業、活版及石板印刷業、姉妹通信社に名古屋電報通信社あり。

愛知通信

名古屋市東區石町三丁目。大正十年三月一日創立。個人經營。五萬圓。(種類)特殊(社會問題、勞働問題、水平運動、借家運動其他)(發行)日刊一回。(社長)小田莊二。(主幹)早田登。(支配人)平井義雄。(編輯)宮村江東。(營)長谷川留吉(社員)廿六人。(支局)七。(契約新聞)三百餘新聞。(特設)出版部、辯論部。(兼營)廣告代理業、活版及石板印刷業、姉妹通信社に名古屋電報通信社あり。

商通時報

名古屋市西區米屋町二番地。大正十一年三月創立。株式。十萬圓。(種類)時事經濟其他一般。(發行)一日一回。(社

長 林松太郎。(專務)服部剛之助。(主幹)北岡三郎。(支配人)水谷友石。(編輯)安田善信。(營)大野一二。(社員)八名。(支局)八ヶ所。(契約新聞)八社。(兼營)全國取引所通信用繼。

横濱通信

横濱市。明治二十七年創立。(種類)政治、經濟、社會、文學。(社長)日比野淨。(主幹)宮下愛作。(編輯)神野小志馬(營)福井鬼重。(社員)三十名(支局)東京、神戸、福井、金澤(契約新聞)四十二社。(兼營)廣告取次、諸代理事業。

横濱内外通信

横濱市常盤町三丁目三十四番地。大正五年十一月十一日創立。個人經營。政會系。(種類)政治部、社會部、經濟部。(發行)一日一回(社長)山下精吉。(主幹)伴洋。(社員)十六名。(契約新聞)二十五社。

廣告代理業者一覽

一、表の諸項目は各社に問合せたものであるが、中には期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料によつたものもある。二、各社配列の順序は東京、及び地方の二種に分ち、東京はイロハ順により、地方は不同である。三、各社の記述は大體次の順による。(括弧内の文字は夫々の略號)

記述の順序

代理業者名。所在地。創立年月日。組織。資本金。社長。社主。專務。主幹。支配人。營業部長(營)廣告部長(廣)。全社員數。(社員)支局數。主要得意數(得意)。一年取扱總行數(一年)特別設備。(特設)。兼營事業(兼營)。最近一年間の其社の記録的事件、事業、其他(事業)。不用又は不明のものは記入せず。

一、東京

博報堂

神田區錦町。(社長)瀧木博尚。

博生堂

京橋區南紺屋町十一番地。明治三十三年始業。個人經營。五萬圓。(社主)佐藤春造。(支配人)青木政吉。(社員)十一。(支局)一、横濱市扇町三丁目百三十三番地。

八報社

京橋區西紺屋町六。櫻川八郎。

日本電報通信社

麹町區丸の内通り十號。明治卅四年七月廿一日創立。株式。百萬圓(社長)光永星郎(營)光永眞三。(營業課長)中央課長木下源一郎(地方課長)山口毅。(支局)三十一(特設)印刷部、寫眞部、廣告行數統計課(兼營)通信事業。

日弘社

板橋區寬助。

日進通信社

京橋區桶町十丸山進三郎。

豐國通信社

京橋區南佐柄木町六。明治二十二年二月創立

東洋公益通信社

京橋區西紺屋町五。明治卅八年六月。個人經營。(社長)古谷慶作。(主幹)渡邊長敏。(支配人)福富幸三郎。(營)古谷國太郎。(社員)十一人。(支局)市内三ヶ所。(得意)市内百五十軒内外。(行數)卅五萬行以上。(兼營)日刊通信發行一丁目一番地。明治廿五年五月創立。匿名組合。十五萬圓。(社長)山口恒太郎(專務理事)佐藤藤一(營)宇野末雄。(廣)笠原晋夫。(社員)二十五。(支局)一。(兼營)日刊政治經濟通信文藝通信發行

東京通信社

麹町區永樂町一丁目一番地。明治廿五年五月創立。匿名組合。十五萬圓。(社長)山口恒太郎(專務理事)佐藤藤一(營)宇野末雄。(廣)笠原晋夫。(社員)二十五。(支局)一。(兼營)日刊政治經濟通信文藝通信發行

大河組

京橋區弓町十。大和田善造。

折込廣告社

本郷區彌生町三。大正七年七月卅日創立。個人經營。(社主)東正吉。(支配人)東

幸作。(營)早津辰雄。社員十六名。(支局)四。(得意)六十三。

確報堂

芝區南佐久間町二ノ一八。上山鏡堂。よろず通信社。京橋區紺屋町三。大正九年四月一日創立。個人經營。(社長)高橋謙之助。(廣)島田信三(社員)十五人。(特設)廣告文案並に意匠係あり(兼營)日刊「よろず通信」を發行經營す。

上田三交社

麹町區有樂町二ノ二。上田龜吉。馬淵商會。京橋區北橫町一番地。大正九年五月創立。個人經營。金五萬圓。(店主)馬淵豐喜(社員)二十三名。(得意)約一千(一年)約百萬行。(特設)寫眞廣告に關する諸般の設備を完了しあり。(事業)昨年九月以來時事案内欄中央及東日夕刊講談欄左角に三十行一段の特別欄を買切り寫眞廣告を創始し且つ本年二月以降全國地方新聞に對し演説に關する各種通信を開始せり。

弘報堂

京橋區元數寄屋町二ノ一。明治十九年十一月三日創立。株式會社。二十萬圓。(社長)藤澤三郎(常務)浮田禮太

郎。(社員)五十四名。(得意)七百五十四。(兼)代理購買。
弘業社 京橋區新町。與田利作。
廣告堂 京橋元數寄屋一九佐藤好信。
廣告社 京橋區南鍋町一ノ一。明治二十一年四月十五日創立。個人。百萬圓限度。(社主)湯澤精司(支那人)湯澤清。廣渡邊久二郎。(社員)三十四名。
廣告通信社 京橋區元數寄屋町一ノ三。平澤定次郎。
告天社 麹町區内幸町二ノ三。三ノイヤモンド社内。富永良太郎。
帝國通信社 京橋區南鍋町一ノ十。明治廿二年創立。株式會社。五十萬圓。(社長)頼母木桂吉。(常務)越野宗太郎(營)廣平野義信。(社員)二百五十名。
 (支局)二十三。(特設)モノタイヲ製版部、寫真製版、木版、意匠圖案部其他廣告に關する一切の設備。
三芳社 神田區堅大工町三柏谷芳之助。
三誠社 神田區小川町四。

松村卓爾。
魁通信社 神田區錦町一ノ一。等々力一郎。
金蘭社 神田區錦町二丁目。二ノ部專二。
明信社 芝區新櫻田町十九。明治四十四年九月九日創立。個人經營。(社主)福浦專二。(社員)六人。(兼)北門日報支局、神太民友新聞支局サガレン新聞支局。
明信社 芝區芝口二ノ一。八。大正八年四月一日創立。合資會社。三萬圓。(代表社員)井上信吉。(社員)十五人。(得意)五、(二年)七萬二千行。(特設)意匠部、木版部。文案部。(事業)東京新聞掲載行數及其の廣告種類の分劃の調査に著手。
自由通信社 京橋區新町一番地。個人。(社長)小高長三郎。(主幹)岡田巽。(總務部長)三村秀吉(廣)金子餘郎。(社員)四十六名。
正路社 京橋區宗十郎町十七。明治二十年創立。株式。五十萬圓。(社長)布屋徹吉。(取締役)安川三郎、淺田源一、上條實(兼)日刊中央通信發行。

地方

新報社 日本橋區濱町二ノ一。澤雄男。
正報社 京橋區采女町三六。大正七年一月一日創立。個人經營。五萬圓。(社主)高谷寛三郎(支那人)栗澤賢苗(社員)八名。(得意)約九十三。(二年)東京大阪約四十萬行。地方約十萬行。
世民社 小石川區掃部町三三。吉川字邦。
萬年社 大阪市高麗橋四丁目。明治二十三年六月一日。株式。五十萬圓。(社長)高木貞衛(社員)百五十名。(支店)二、東京銀座二丁目。京都堺町通三條(得意)二千軒。(特設)考案部、立案、文案、圖案、翻譯調查出版。製版部、印刷、銅版。(兼)火災保險代理。(事業)京都支店發成、二社員歐米視察。「廣告」宣傳發行。大正十四年「廣告年鑑」發行。
大阪電報通信社 大阪市北區中之島三丁目。(社長)能島進。
旭廣告株式會社 大阪市東區瓦町三丁目。株式。五十萬圓。(社長)栗野幾次郎。(專務)西池末彦。(營)木村總太郎。
做蟻社 大阪市西區京町堀三丁目。金子普次郎。
金水堂 大阪市東區平野町三丁目。明治廿八年五月五日創立。個人。(社主)堀井健造。(支那人)土川末次郎。(社員)十五人。(得意)二十一年約四百五萬行。
廣知社 大阪市東區本町一丁目。永田正明。
京華社 京都市三條通烏丸東入。明治二十八年十二月一日株式會社。十萬圓。(社長)後川文藏。(專務)佐藤民治。(支店)四、東京丸の内三三二一號館大阪北濱四丁目心齋橋筋。名古屋傳馬町六丁目。神戸榮町通五丁目。
勉強社 神戸市榮町五丁目。明治廿七年創立十萬圓。(社主)高矢朝次郎。(主幹)向井長兵衛(支那人)白紙源四郎。(營)泰一男。(廣)當盤國廣(社員)十一人(支局)二。(得意)船船郵船、三麥、鈴木、内ノ所、鐵道局、郵便局、市役所。

東洋廣告取次會社 神戸市元居留地前二六B(社長)デイ・エム・ヤング。三宅倉太郎。
大洋廣告社 神戸相生町二丁目五〇。大正十一年五月創立。合資會社。三萬圓。(社長)竹中濟。
文信社 神戸市元町六丁目一九九。大正九年九月創立。個人經營。(社主)文谷利恭(支那人)土本功。(社員)五人。(二年)七五五〇〇行。
共同通信社 名古屋市中區。大正七年十月十五日創立。個人經營。十萬圓。(社主)松原繁吉(主幹)林國之助。(支那人)窪田拾五郎(營)廣)山田秀一(社員)七十五人。(支局)十三ヶ所。

名古屋通信社 名古屋中區榮町四丁目。明治二十年一月一日創立。個人經營。(社長)長谷川百太郎(社主)後藤忠弘(營)田端才次郎(廣)川本善雄(社員)三十一人。(支局)一ヶ所(兼)通信發行及信用調査業。
愛知通信社 名古屋市中區石町三丁目。大正十年三月一日創立。(社長)小田莊二。(兼)日刊通信發行。
中京通信社 名古屋市中區新榮町。水野日出夫。

在東京地方新聞社支局一覽

次は大正十三年十月現在全國地方各新聞社の東京支社支局一覽表である。配列の順序は地方別にもイロハ順にもよらず不同。

社名	所在地	電話番號	主任姓名
大阪朝日新聞	京橋區瀧山町四	銀 一一	天野 四郎
大阪毎日新聞	麹町區有樂町	大 四八四〇	缺 員
大阪時事新聞	京橋區南鍋町	銀 六六	小林三太郎
大阪都新聞	丸ノ内都新聞社内	同 三〇五〇	椎名慶太郎
大 阪 朝 報	芝區新櫻田町一九	同 三〇四一	祖上 祐三
夕刊大阪新聞	同風新櫻田町一九	同 三二一	佐山 泰壽
大阪商業新聞	青山區田一四九	青 二五四	杉浦隆五郎
大阪日日新聞	京橋區山城町四	銀 一八〇六	武田 武
關西日報	同 新町一四	銀 一三三三	松田 源重
廣濟貿易新聞	麹町區内幸町一ノ六	同 二八一八	三輪 團堂
廣濟朝報	第二東鳴俱樂部	大 四八六四	藤川 市藏
廣濟經濟日報	神田區表神保町一〇	同 四三九一〇	中田 謙
東海新聞	四谷區龜町二ノ二七	同 四四八六四	渡邊 新
山梨民友新聞	神田區表神保町一〇イノ四	高 六六八〇	高島萬太郎
常陸新聞	芝區愛宕町一ノ二九	同 五七三六	宮澤出三郎
上野新聞	下谷區上野櫻木町一七	同 五七三六	宮澤出三郎
北陸每日新聞	下谷區上野櫻木町一七	同 五七三六	宮澤出三郎
新秋田新聞	下谷區上野櫻木町一七	同 五七三六	宮澤出三郎
東海朝日新聞	芝區櫻田本郷町二	同 五七三六	宮澤出三郎
山 東 新 聞	丸ノ内仲通十一號館	銀 五五二	神山 忠次
房總日日新聞	京橋區南鍋町二ノ四	同 三五二〇	市村 和平
下野新聞	同 丸屋町五	同 四四二〇	市川 龍治
下野日日新聞	同 丸屋町五	同 四四二〇	市川 龍治
南信日日新聞	四谷區荒木町二七ノ三	呼 四三三四	宮本甚之介
和歌山日日新聞	同 丸屋町五	同 四三三四	宮本甚之介
福島民報	神田區美土代町一ノ二〇	大 六二六一	三瓶 仙輔
福島新聞	市外下流谷代官山一七	同 六二六一	安齋與重郎
福島民友新聞	赤坂區青山南町三ノ五八	青 一五四七	志津 隆章
京華日報	同 三ノ五八	同 一五四七	志津 隆章

朝鮮民報	牛込區南横町二二三	牛	一〇八〇	今井 淺南
遼東新報	芝罘新橋日産町三ノ一	銀	一九〇〇	佐野易之助
滿洲日々新聞	京橋區宗十郎町一三三	同	三四〇〇	小島 清友
奉天毎日新聞	小石川區關口水道町四六六	牛	三一三八	玉井喜重郎
順天時報	丸ノ内仲通十號館	同	二九八三	日本電報
青島日々新聞	青島山田一四九	青	二五四	杉浦益五郎

新聞關係諸機關一覽

一、本表は東京、大阪、に於ける新聞關係諸機關の一覽表である。表の諸項目は一々其の機關について問合せたものであるが、中には締切期日までに回答を得なかつた爲め、手許の材料により記入した分も多少はある。

一、配列の順序は東京、大阪の二種に分ち、大體に於て編輯關係を先にし營業關係を後にしてある。記述順序次の如し。

一、組織、目的。

二、事務所所在地。

三、役員名。

四、會員名。

五、一年史(自昨年四月、至本年三月)

右以外の特殊事項も必要に應じて記入し、不用又は不明のものは記入せず。

一、東京

■日本新聞協會

親睦を旨とし新報の發達を圖る

を目的とする新聞社、通信社、廣告代理業者團。

(事務所) 東京市京橋區館屋町十一番地

(役員) 會長 子爵清浦奎吾
相談役—東武(北海ムス)平野

文安(小樽)江 戸 周(いはらき)
小坂 順造(信毎)篠原 叶(上毛)
下村 宏(東朝)阿部充家(前國民)
太田 正孝(報知)桐原 捨三(東日)
大西理平(時事)瀧木博尚(博報堂)
大島吉吉(新愛知)上野精一(大朝)
小山松壽(名古屋)早速整爾(露日)
庄野金十郎(福日)山田珠一(九日)
大原義剛(九日)高木第四郎(九州)
奥田榮之進(露島)井村大吉(露日)
藤安辰次郎(露朝)副島道正(京城)
小山内大六(滿日)高木利太(大母)
頼母木桂吉(帝通)高木貞衡(萬年)
理事長—光永星郎(電通)

理事—山口喜一(北海ムス)
石井光次郎(東朝)市村和平(下野)
築田欽次郎(中外)西澤 圭(信毎)
江藤基三郎(弘報)佐藤 碧(大母)
勝田重太郎(新愛知)秋元政司(露日)
原山徳次郎(福日)河野碩平(朝報)
佐藤易之助(遼東)

監事—一力健治郎(河北新報)
越野宗太郎(帝通)與田利作(弘通)
評議員—金澤彦作(函館毎日)
山内信彌(北門)鈴木要吉(望陽毎)
長谷川淑夫(函館)岡田義胤(宗谷)
禿氏 岳山(岩手)武田 邦雄(東奥)
高橋嘉太郎(岩手)安藤和風(秋魁)
久須美東馬(新海)大石五郎(山形)

八田宗 吉(福島)寺澤 元良(福民)
横尾彌門(山形)渡邊 弘(常陸)
久須美秀三郎(北越)林政武(北國)
小柳調平(新海)丸山豊太郎(高田)
葎村喜三郎(富山)丸山盛雄(長野)
梅川新多郎(北陸)野口二郎(山梨)
井上忠雄(高岡)高木八郎(北陸毎)
今村 七平(福井)佐藤 三郎(中外)
山口恒太郎(中央)松尾 要(萬朝)
正力松太郎(露島)松本宗重(伊勢)
松下勇三郎(やまと)三宅啓(横濱)
布屋徹吉(正路喜報)勳一(大時)
牧内元太郎(露報)西田鏡吉(鼓日)
岡崎伊勢藏(露民)村山長舉(大朝)
與良松三郎(名古屋)能島進(大電)
寺崎乙治郎(靜岡)進藤信義(神戸)
後川文藏(京日出)山根文雄(京日)
久下豊忠(和歌山)渡邊 尚(又新)
柿原政一郎(中民)有森新吉(山陽)
山本三朗(中國)末元敏之助(關門)
秋田寅之助(馬關)吉富實太(防長)
三好榮次郎(山陰)與平珍(吳日)
絲原武太郎(山陰)岡崎國臣(松陽)
多田爲太郎(露報)木村精一(因伯)
御手洗忠孝(愛媛)野中楠吉(高知)
清水勇三郎(海軍)橋田早苗(土陽)
毛里保太郎(門司)今井浩三(四國)
内田好之輔(九日)川原茂輔(肥日)
中山平兵衛(長崎)飯田 巽(露島)

春秋會

變に於て第十二回大會を開催す。

○同十一月七日新報幹事の事務引継ぎ並に常任幹事の選舉を行ふ。

○大正十四年二月二日常任幹事會を開き、第十三回大會を熊本に於て開催に内定す。

新聞雜誌及び通信記者の社交俱樂部。

(事務所) 常任幹事方。

(役員) ○名譽會長—箕浦勝人(報知) ○常任幹事—山川瑞三(國民)、緒方竹虎(東朝)、○幹事—高田知一郎(報知)、城戸元亮(東日)光永星郎(電通)頼母木桂吉(帝通)、伊藤正徳(時事)、○會計監査—大西理平(時事)、坪谷善四郎(博文館)

(會員) 村上幸平(中外商業)、築田欽太郎(同前)佐藤三郎(同前)馬場 直美(同前)箕浦勝人(報知)添田 壽一(報知)町田忠治(同前)須崎芳三郎(同前)太田正孝(同前)高田知一郎(同前)中村唯一(同前)春秋原在文(東日)本山彦一(東日)福良 虎雄(同前)橋崎觀一(同前)高木 利太(同前)西村公明(同前)山崎光次郎(同前)城戸元亮(同前)

新聞關係諸機關一覽

則元由庸(長崎日)大津淳三(大分)	青木才熊(鹿)朝)岩切亭藏(宮崎)	常山一夫(大分)長野 潔(豐州)	野井慎太郎(日州)松岡富雄(臺灣)	宮地 近思(臺南)芥川 正(釜山)	宮部 敏治(京城)牧山 耕藏(朝鮮)	有馬純吉(京城日)金性深(東亞日)	(會 員) 名譽會員—大養毅	床次竹二郎、德富猪一郎、大岡青造、早崎行雄、添田壽一、村山瀧平、箕浦勝人、三宅雄二郎、三木善八、本山彦一、	通常會員—いはらき、博報堂	岩手日報、岩手毎日、岩手日日、伊勢新聞、因伯時報、函館日日、濱松新聞、函館毎日、函館新聞、函館商報、馬場毎日、哈爾濱日日	日州新聞、新潟朝日、日本電報通	新潟新聞、日刊山形、日本電報通	報知新聞、日通通信、北海ムス、北羽新報、北陸毎日、北陸ムス、北國新聞、北越新報、防長新聞、奉天毎日、北門日報、豐州新報、東京朝日、東京毎日、東京日日、鳥取新報、土陽新聞、富山日報、東京通信、徳島日日、徳島毎日、東奥日報、東北日報、十勝新聞、東亞日報、富山新報、中外商業、中央新聞、千葉毎日、中國民報、		
中國新聞、朝鮮時報、長春實業、朝鮮新聞、朝鮮民報、中國日日、中央商業、遼東新聞、大阪朝日、大阪毎日、大阪時事、大阪新日報、大分日日、大分新聞、大阪電報通	小樽毎日、小樽新聞、小樽商業、近江新報、岡山新聞、大牟田毎日	河北新報、海南新聞、和歌山日日	下越新報、神太時事、和歌山新報	唐津日日、讀賣新聞、鹿兒島新聞	米澤新聞、濱濱貿易、鹿兒島新聞	廣瀨毎朝、高田新聞、臺灣日日、臺灣新報、高岡新聞、大連新聞、大陸日日、大勢新聞、大陸通信、泰東日報、臺灣新聞、高田日報、宗谷新報、根室新聞、長野新聞、長岡日報、長崎日日、名古屋通信	南嶺時事、南信新聞、名古屋毎日	南信毎日、室蘭毎日、牟婁新報	濃飛日報、釧路新聞、吳 公 論	關門日日、熊野實業、吳日日新聞	群馬新聞、山形自由、關 東 報	山梨日日、山梨毎日、やまと新聞	山梨民報、八幡新報、萬 朝 報	山形民報、大正日日、宮崎新聞、滿洲日日、京城日報、萬 年 社	藤備日日、元山毎日、京城日日、福岡日日、福島民報、福島民友、

福島新聞、釜山日報、福井毎日、福井新聞、國民新聞、弘 報 堂

高知新聞、神戸又新、神戸新聞、越後新報、越後新聞、愛媛新報、江差新聞、帝國通信、旭廣告社、秋田新聞、愛知新聞、秋田魁新報

旭川新聞、佐渡新聞、相模中央、山陽新聞、山陰日日、山陰新聞、埼玉新聞、酒田新聞、紀伊毎日、九州新聞、九州日報、九州日日、岐阜日日、京都日報、京都日出、時事新報、松陽新報、金 水 堂

信濃毎日、信濃民報、正路喜社、下野日日、下野新聞、下野新報、信濃日報、靜岡民友、靜岡新報、信濃日日、上州新報、新 愛 知

上毛新聞、常陸新聞、自由通信、順天時報、四國民報、門司新報、木浦新報、仙臺日日、勢州毎日、青島新報、盛京時報、做 蟻 社

マンチユリアデーリーニユース、(大正十四年六月現在)

(一年史) 大正十三年七月四日幹事會を開き、十三年度大會を臺灣に於て開催することに決す。

○同年九月廿五日全員幹事會を開き、互選の結果光永星郎君(電通)團長に當選す。

○同年十月十三日より十九日迄臺

杉村廣太郎(東朝)牧野輝智(東朝) 原田 龍二(同前)下村 安(同前) 美土路昌(同前)緒方竹虎(同前) 伊達源一郎(東方)座間勝平(東方) 石川安太郎(黨朝)松尾 要(黨朝) 村上猶太郎(同前)坂口二郎(同前) 中島 氣輝(國民)山川瑞三(國民) 山根貞治郎(同前)長瀬吉次(同前) 菱沼 右一(同前)細野繁勝(同前) 伊藤 龜雄(同前)福田英助(都) 松下勇三郎(やまと)原 成吉(都) 田村全宜(やまと)服部三三(都) 大谷 誠夫(都)山本信博(同前) 明石徳一郎(時事)小川 節(時事) 伊藤 正徳(同前)大西理平(同前) 漆間 眞學(日通)光水星郎(電通) 上田 碩三(電通)竹村良貞(電通) 越野宗太郎(帝通)徳光衣(東方) 頼母木桂吉(帝通)秋田 清(社外) 木下立安(鐵道時)淺田彦一(博文) 坪谷善四郎(博文)安藤正純(毎夕) 永代靜雄(新聞研)神田正雄(社外) 高木益太郎(法律)藤田榮吉(社外) 長谷川福平(富山)佐藤彌松(社外) 増出義一(實業日)宮部敬治(社外) 頭本元貞(ラル)石川六郎(社外) 半澤玉城(外交時)馬場恒吾(社外) 高木信成(外交時)野澤藤吉(社外) 吉武源五郎(拓殖)關口一郎(社外)

国際記者協会

内外の新聞事業に關係あり、若しくは關係ありたる者の、親睦を謀り國際的知識の交換に資するを目的とする團體。
(事務所) 東京麹町區内幸町一ノ五、國際通信株式會社内。
(役員) 頭本元貞(會長)、上田碩三(幹事)、岩永裕吉(同前) 杉村廣太郎(同前)、評議員、十名(會 員) 頭本元貞(ラル) 石川安太郎(黨朝)石村誠一(大毎) 石井光次郎(東朝)板倉卓造(時事)

社團新聞記者協會

新聞通信記者にして二十年以上其の職に在りたる者にして、尙引續き其職に在る者及び一時其の職を失ひたるも更にその職に就かんとする者の、相互の親睦を圖り、品性を陶冶し、その社會的地位の向上を期する團體。
(事務所) 東京市麹町區内幸町衆議院構内。
(役員) 理事——由島誠一(専務)誠智類二、(會計)小谷雅之 本吉豐次郎、小野田正、木内順一 野澤藤吉、
監事——松崎市郎、稻見泰治、宮木昌常、
常議員——淺尾勝彌、常川忍澄 大野開作、菅野水眞、宮本洵、福田純、淺原正巳、柴田嘉兵衛、今石貞次郎、佐藤謙吉、菱沼右一、柿本通彦、松内則信、猪股平三郎 大久保八朗、十四年四月現在
(二年史) (一)死亡共濟給付者五名一、五〇〇圓(二)疾病共濟給付者四名一、三六〇圓(三)失業共濟給付者二十四名一、一六〇圓(四)寄附金募集は財界不況其他種々の理由により十三年度末に

於て中止したり。(五)今日迄の寄附金總額一六千有餘圓。

同盟新聞記者俱樂部

政府の許可を得たる全國日刊新聞通信社にして二ヶ年以上繼續發行せられたるものを以て組織し、貴衆兩院と諸般の連絡を圓滑ならしむるを以て目的としたる團體。
(事務所) 東京市麹町區内幸町衆議院構内。
(總 代) 四方田義茂(東日)、淺村 成功(大朝)小野田正(電通) 田島 誠一(自通)床枝房吉(報知)(名簿)(第五十議會現在)

東京の部

(新聞社) 二六新報社、報知新聞社、東京日日新聞社、東京毎日新聞社、東京毎夕新聞社、東京朝日新聞社、東京夕刊新聞社、中央新聞社、中外商業新報社、讀賣新聞社、大勢新聞社、やまと新聞社、萬朝報社、國民新聞社、帝國新聞社、都新聞社、時事新報社、運輸日報社、ジャパントイムス社、(通信社) 日本通信社、日本電報通信社、日本經濟通信社、日本聯合通信社、東洋通信社、東方通信

社、東京通信社、東京時事通信社 東京電報通信社、中央通信社、中外通信社、千代田通信社、朝野通信社、大陸通信社、太陽通信社、大東通信社、大日本通信社、内外通信社、國際通信社、英文通信社 帝國通信社、愛國通信社、明治通信社、新聞同盟通信社、自由通信社。

地方の部

横濱貿易新報社、北海タイムス社 伊勢新聞社、福岡日日新聞社、岩手日報社、下野新聞社、近江新報社、新報房社、千葉毎日新聞社、名古屋報知社、鹿兒島新聞社、高岡日報社、順天時報社、徳島新報社、小樽新聞社、名古屋新聞社、北越新聞社、滿洲日日新聞社、長崎日日新聞社、米國聯合通信社、新潟毎日新聞社、京城日報社、淡路新聞社、高田日報社、松陽新報社、因伯時報社、静岡日報社、河北新報社、防長新報社、長野新聞社、岐阜日報社、静岡國民新聞社、信濃毎日新聞社、臺灣日日新聞社、新潟新聞社、福島民報社、函館毎日新聞社、山形新聞社、常陸新聞社、岩手毎日新聞社、静岡新報社、群馬新聞社、山梨民報社、土曜新

各社會

東京市内日刊各新聞社々會部長團にして社會百般の出來事、各社共通の事件に對し研究し、並に懇親を深むるを以て目的とす。
(幹 事) 蓮塚金太郎、山口鼎太郎、本吉豐次郎(常任)
(會 員) 黒田直道(中外商業) 本吉豐次郎(二六)菊地政雄(東母) 御手洗辰雄(報知)岡倉一雄(毎夕)

永田俱樂部

島嶼新太郎(東日)名倉開一(東朝) 日南田慶富(黨朝)柴田勝衛(讀賣) 山口鼎太郎(やまと)下平融(夕刊) 運塚金太郎(都)菱沼右一(國民) 青柳 安茂(時事)中村龍三(中央)(十四年五月八日現在)
(二年史) 大震災後始終多忙のため總會を開きたること數回に過ぎず、その間川崎警保局長、太田警視總監を招待懇談した。
(事務所) 麹町區永田町内閣總理大臣官邸内。
(幹 事) 天野良和、大賀知周 大平安孝。
(部 員) 四十三社(三十六名) 竹林虎之助(毎夕)森田嘉助(聯通) 永長與藤次(讀賣)森田徹夫(二六) 河崎 義男(電通)中西 眞(報知) 重信 嵩雄(報知)堀野徳一(東母) 米窪 胤人(夕刊)日隈 曠(東通) 大瀧 安治(時事)大賀知周(東方) 町田重治(東洋通)獨立通信社(鉄) 中央新聞社(鉄)中央通信社(鉄) 朝野通信社(鉄)森 野生(大都)

井原頼明(千代通)天野良和(萬朝)赤川源一郎(大勢)中柳勝次(黨日)大東通信社(缺員)浮田秀正(太陽)内外通信社(缺員)橋口西彦(京城)鷹野虎雄(名古屋)三浦悦郎(國民)高山金一(やまと)土居常温(國際)山野好恭(帝國新)安達常明(東亞)簡井 敏夫(愛通)大平安孝(都)新愛知新聞社(缺員)染谷米三(自通)袴田 泰二(小樽)鷹野佳彦(大帝)アドウアタイザ、東輝英(讀賣)佐藤高一(タイムス)鎌田實(帝國)此經 春也(日通) (五月廿日現)

内閣記者會

東京大阪六新聞社の内閣擔任記者團。

(事務所) 永田町首相官邸内。(幹事) 二名づつ、三ヶ月交代(會 員) 窪田伊一(中外商業)高杉孝次郎(東日)杉山幸次(東日)大塚 喜平(東朝)上月 進(東朝)北川長三郎(中外)森田親一(大母)濱田常次郎(大朝)小野敏夫(時事)細越 政夫(時事)田口文雄(大時)(大正十四年六月現在)

霞俱樂部

外交の研究を目的とする日刊新聞通信社所屬記者團。(事務所) 外務省内。

坂下俱樂部

宮廷及び内閣に關する記事の報道を目的とする宮内省及内閣擔任の新聞通信記者團。

(事務所) 宮内省内。(幹事) 田中徳、堀井金之助(部 員) 松山 鏡(中外商業)島田吉太郎(二六)日本聯合通信社水野源一郎(日通)尾高三郎(電通)田口 章太(報知)古館三郎(東日)佐久間脩治(毎日)木村 東(東朝)東京毎日新聞(缺)細井吉造(夕刊)富田金三郎(千代田)岡見齊(東方)千田 萬三(中央)大竹 作(寫通)青柳 隆治(大母)高橋橋郎(大朝)岡田彦七郎(讀賣)野口隆信(黨朝)鷹野虎雄(名古屋)橋口西彦(京城)長尾一雄(やまと)土肥常温(國際)堀井金之助(國民)藤澤準二(英母)村尾 源之助(帝國)田中 徳(愛通)大谷忠四郎(朝日)安藤貞夫(都)小中村清(時事)大竹文輔(新愛) (十四年五月一日現在)

外政會

東日、時事、外交時報三社の外務省擔任記者團。

竹橋俱樂部

東京府に本社又は支社を有する日刊新聞社並に通信社の教育擔任記者團。

(事務所) 麹町區元衛町文部省構内。(幹事) 馬場義雄(會計)、下園佐吉(庶務)、伊藤豊(庶務)(部 員) 下園佐吉(中外商業)久保田清松(聯通)齋藤三郎(電通)馬場 義雄(電通)伊藤豊一(毎日)藤井隆太郎(萬朝)小野敏夫(時事)池田邦夫(やまと)相澤 潤(國民)鷹野 佳彦(帝國)長瀧 武(國民)吾妻 敏夫(帝國)村田昇司(時事)石崎 健司(自通)常川如是(都)今井泰三(新愛知)二六新報(缺)名古屋新聞(缺)太陽通信社(缺) (大正十四年五月一日現在)

映畫の効果を鑑み、松竹浦田鐵映所を觀察す。(三)同年六月二日神戸高等商船學校の進修丸試運轉試乗。(四)同六月廿四日普通學務局第四課長乘杉嘉壽氏松江高校々長に榮轉につき、送別宴を丸の内中央亭に開く。(五)同十一月二日、宗教局所管の鎌倉地方佛堂寺院の震災復興觀察を爲す。(六)同十二月十三日歳晚觀劇忘年の意味を以て、岡田文相、鈴置、松浦兩次官參與官、高等官五十餘名を新宿園に招待す。

橋會

文部行政に關する報道及び研究機關。

(事務所) 文部省内。(幹事) 月替交代。(會 員) 多久和新一郎(東日)本多助太郎(東朝)山下芳臺(報知)高宮 太平(東朝)栗林貞一(東朝)豊村 興(東朝)小松謙助(東日)加藤 主計(讀賣)來間 恭(東日)山田 幸雄(中央)(名譽會員) 岸井壽郎(東日)(大正十四年四月三十日現在)

文部記者會

東京市内日刊新聞社の文部省及び教育關係諸機關擔當記者團。(事務所) 文部省内。(幹事) 松山 鏡、田口章太(會 員) 長尾 一夫(やまと)佐藤喜一郎(時事)千田萬三(中央)倉若梅三郎(讀賣)田澤良夫(毎日)小島靜三郎(國民)田代金宣(都)青柳 隆治(東日)木村 正(讀賣)田口 章太(報知)松山 鏡(中外)安藤 豊(黨朝)下平 融(夕刊)

采女俱樂部

會員相互の親睦を圖り、産業行政の全般に亘つて研究、意見の交換を目的とする東京新聞通信記者團。

(事務所) 麹町大手町農林省及商工省内。(幹事) 二名宛一ヶ月交替。(部 員) 影山清雄(中外商業)日野宮仲吉(都)庵崎貞俊(報知)青柳義孝(やまと)中村耕造(豐國)笹澤 三善(東日)丹波秀伯(東朝)山越秀一(東京興)小松利一(中央)八木 長人(大朝)國田 倫(大母)北脇 隆(大時)小出成吾(國民)仙波 健(時事)柴田 嘉(帝國)

農林省出入の都下各新聞社會部記者團で、産業立國の趣旨に基き國力の充實と農村振興のために力を盡し、併せて部員相互の親睦機關。

瑞穂俱樂部

東京市内日刊新聞通信社の内務省擔任記者團。

(事務所) 麹町大手町農林省内(部 員) 淺野 豊(幹事) 淺野 豊(部 員) 大島俊夫(中外商業)島 谷三郎(報知)的場郁翁(東日)澤田進之丞(中央)柴 弘平(東母)小林 正作(夕刊)栗林正權(毎日)淺野 豊(やまと)藤崎 清(都)佐々木貞次郎(時事)國民新聞(缺)柴田義勝(名古屋)

社會研究會

國民各社の内務省社會局擔當記者團。

(事務所) 内務省社會局内(會 員) 兒玉季雄(中外商業)北川長次郎(中外)菱沼右一(國民)伊藤金次郎(東日)根本久治(東日)河野田鶴雄(東日)來間 恭(東日)

内政研究會

東京五社(朝日、日日、時事、國民、中外商業)大阪三社(毎日、朝日、時事)の内務省擔當記者團。

(事務所) 内務省内。(會 員) 奥玉季雄(中外商業)北川長次郎(同前)齋藤 武(日日)伊藤金次郎(日日)根本久治(日日)河野田鶴雄(日日)來間 恭(日日)服部龜三郎(朝日)齋藤準一(朝日)本多助太郎(朝日)菱沼右一(國民)

八田 武治(大時)齋藤 準一(東朝) 服部 龜三郎(東朝)木下信行(時事) 本多助太郎(東朝)栗林貞一(大時) 多久和新四郎(大時)齋藤武(東日) (十四年五月十五日現在)

遞信記者俱樂部

人格の完成、和衷協同、各自の 職責を完すべく組織されたる遞 信擔任新聞通信記者團。

(幹事) 龜町大手町遞信省内 (幹事) 國田倫、岡島章治、 吉田英治

(部員) 岡島章治(中外商業) 三澤 克巳(報知)國田 倫(東日) 東京朝日社(缺員)小松利一(中央) 小笠原 伸(讀賣)松田源重(報知) 笹澤 三善(大毎)村崎勝和(大朝) 青柳義孝(やまと)仙波 健(大時) 板津 直光(萬朝)仁保俊雄(國民) 吉田 英治(都)足羽英美(時事) 大竹文輔(新愛知)増田 長(電通) 日本聯合通信(缺)中村耕造(豐國) 長谷川龍吾(東洋)獨立通信社(缺) 大阪電報通信(缺)柴田 嘉(帝通) 柴田 健治(朝野)智久美雄(自通) (五月十五日現在)

春秋二回總會を、毎月一回十日 に例會を開催。 十二月六日航空局の招待にて所 澤飛行場見学、同乗飛行をなす。

財政會

都下有効新聞通信社の財政經濟 擔當記者相互の親睦機關。

(幹事) 龜町大手町大藏省内 (幹事) 伊元富爾、本多信治 (會員) 野田久太(中外商業) 伊元 富爾(同前)本多信治(讀賣) 久保平三郎(時事)前田繁一(東朝) 田丸 鍾雄(時事)渡邊 勉(東朝) 藤井 泰一(東日)鈴木宇一(報知) 田附晋次郎(東日)春日善吾(東日) 中津海知方(國民)柴 弘平(東日) 佐久間豐三(萬朝)中村猛夫(都) 新城 朝郎(都)喜多一重(國民) 柴田 義久(中央)里 兵衛(帝通) 佐伯有治(やまと)東京毎夕社(缺) (二年史) 春秋二季に總會開催

司法俱樂部

日刊新聞、通信、與行所、法律 雜誌社司法記者の親睦向上機關。

(幹事) 毎月一人宛交代。 (部員) 水本信夫(法律評論)

本吉豊次郎(二六)吉田軍藏(中央) 相川善太郎(報知)安島 譽(東日) 鳴尾景次郎(中外)佐藤十三(毎夕) 高木益太郎(法蘭)富岡重雄(東朝) 黒澤松次郎(法報)美和庸三(夕刊) 岡本四郎丸(帝興)田邊則雄(讀賣) 渡邊榮太郎(日興)沖邑品吉(萬朝) 矢崎房太郎(商興)岩本繁門(時事) 關澤幹夫(やまと)橋本康男(都) 關澤幹夫(やまと)佐藤謙吾(電通) 窪田 令雄(帝通)赤平善松(東興) 白石 正男(二興)十四年五月現

(二年史) 十四年一月中部員の 入退行はる。歴史あり珍本を蔵す る俱樂部文庫は十三年秋頃より屢 盜難に遭ひ今や殆んど見るべきも のなくなる。

鐵道研究會

鐵道及び關係事項の研究を爲す を目的とする都下新聞通信社の鐵 道擔任記者團。

(幹事) 野村儀一郎 (會員) 宮本 洵(やまと) 野村儀一郎(帝通)春日善吾(東日) 近江 哲藏(東通)渡邊 泰(二六) 横山 仁三(朝通)宮本洵(やまと) 吉植正亮(同前)平田 健(獨通) 志賀岩夫(運輸日)(七月十五日現)

木曜會

鐵道記者團。鐵道研究會を脱會 し別に組織せるもの。

(創立) 大正十三年七月十日 (事務所) 鐵道省内。 (幹事) 二名宛三ヶ月交代。 (會員) 平田一郎(中外商業) 一ノ瀬信義(都)村崎 勝和(東朝) 下條雄三(電通)白石 源吉(報知) 國田 倫(東日)松本 武雄(時事) 小出喜一(中央)土田 泰治(萬朝) 仁保俊雄(國民)有坂 敏夫(讀賣) 加藤 久(毎夕)崎山武夫(やまと) (十四年五月現在)

辛酉俱樂部

都下各新聞通信社の軍政擔任記 者團。

(事務所) 陸軍省内。 (幹事) 會計幹事二名づつ三 ヶ月交代、庶務、幹事二名づつ一 番。 (部員) 寒河江堅吾(東日) 天神林義次(中外)田中重雄(東日) 庄子廣吉(やまと)角屋謹一(萬朝)

及川六三四(電通)鈴木信海(帝通) 沖邑 品吉(帝通)後藤清郎(報知) 田畑 政治(東朝)磯田源一(讀賣) 山田 新吾(國民)内田 榮(讀賣) 山崎 義人(毎夕)小原一三(都) 細越 政夫(時事)此経信也(日通) 群山繁太郎(東洋)安藤常助(東亞) 五十嵐美雄(大毎)桑名健(大帝) 唐澤信夫(新愛知)住谷金吉(國際) 大竹 作(中外通)尾崎剛一(大朝) 井原頼明(千代通)中柳勝治(東日) 鷹野虎雄(名古屋)松田源重(讀賣) 濱田常二郎(東朝)高井信義(東方) 竹内順三郎(國民)田口文男(時事) 佐渡 高一(ムス)田島誠一(自通) 井上明夫(中央)林山貞一(二六) 大關 敏三(時事)美和庸三(夕刊) (大正十四年六月現在)

細越 政夫(大時)保利茂(名古屋) 佐藤 多吉(二六)山崎義人(毎夕) 庄子廣吉(やまと)角屋謹一(萬朝) 群山繁太郎(東洋)稻垣龍民(帝通) 及川六三四(大電)佐渡高一(ムス) 此経 春也(日通)鈴木信海(大帝) 染谷 米三(自通)中柳勝次(東日) 鷹野虎雄(名古屋)石田龍藏(獨通) 濱田常二郎(大朝)高井信義(東方) 松田 源重(讀賣)袴田泰二(小樽) 下園 庄藏(大勢)住谷金吉(國際) 山本彦三郎(大毎)秋山 達(日本) 唐澤信夫(新愛知)時事新報(缺員)

行政上會員各自意見の交換を試み 來る。

永川 俊美(朝日)下田三郎(萬朝) 加藤 正造(時事)高山末吉(時事) 和久田正虎(都)岩淵辰雄(日日) 武田 源助(讀賣)野中長壽(帝通) 多田滿長(大日通)土肥常温(國際) 加藤 盛信(國民)堀川 滿(帝通) 野田武夫(やまと)小野謙一(九日) 越智 類二(都)田島誠一(自通) 須田吉衛(大同通)加藤 久(毎夕) 伊藤兵吉(新愛知)諸富一郎(電通) 岡見齊(東方)横山四郎(報知) (客員) 重久 似(中外商業) 大久保八朝(時事)川口清榮(報知) 山田毅一(復興通)井井繼志(日日) (二年史) 大正十三年十月十九 日伊香保に於て秋季總會を開き、 會員の入會手續に改訂を加へ、體 面保持を勵行すべく申合せをなす

自治研究會

自治行政の研究並に會員相互の 親睦機關。

(事務所) 東京市役所内。 (幹事) 宮本洵、川合清一、 金子宗二、 (會員) 金子宗二(中外商業) 藤原由太郎(都)小宅謙二郎(萬朝) 藤田 義雄(報知)藤田 讓(二六) 上野 實輔(東朝)中西運造(中央) 宮本 洵(やまと)川合清一(時事) 山本彦三郎(東日)村高幹博(特別) (十四年五月一日現在)

櫻田會

憲政會本部出入新聞通信記者團 (事務所) 憲政會本部内。 (幹事) 四名づつ三ヶ月交代 (會員) 鍋島嘉爾(中外商業) 栗山長次郎(日日)藤田 讓(二六) 高宮 太平(朝日)河崎義男(電通)

都下各日刊新聞社の東京府市政 擔當記者團。

(事務所) 東京府市廳内。 (幹事) 三名宛二ヶ月交代。 (會員) 大草弘喜(中外商業) 島田吉太郎(二六)池部義雄(報知) 古館 三郎(東日)木村儀男(東日) 村松竹太郎(毎夕)山本榮(東朝) 山路金次郎(讀賣)福澤 吳(中央) 田中正太郎(萬朝)古谷市郎(時事) 大谷秀正(やまと)田中創喜(都) 竹内順三郎(國民)(五月十日現在) (二年史) 震災後部員の移動は げしく、過半は新顔となる。その 内容傾向にも變革あり、十三年十 一月前有樂俱樂部を現名の如く改 稱す。

如月會

政友本黨擔當新聞通信記者團。 (事務所) 芝區芝公園内政友本 黨本部内。 (幹事) 小出喜一、木村儀兵 衛 一名缺員。三ヶ月交代。 (會員) 青木 正(中外商業) 長谷川龍吾(東洋)橋口 勇(電通) 菲澤 信治(東朝)大賀知周(東方) 大塚英十郎(國民)依光好秋(讀賣)

黑潮會

各新聞通信社の海軍省並に海軍 司令部擔任記者團。

(事務所) 海軍省内。 (幹事) 二名づつ一ヶ月交代 (會員) 山崎富策(中外商業) 高杉孝三郎(東日)森山達枝(國民) 今村平太郎(電通)尾崎 剛(東朝) 井原頼明(千代通)篠崎 傳(都) 庵崎 貞俊(報知)角 恒吉(讀賣)

各新聞通信社の海軍省並に海軍 司令部擔任記者團。

憲政會本部出入新聞通信記者團 (事務所) 憲政會本部内。 (幹事) 四名づつ三ヶ月交代 (會員) 鍋島嘉爾(中外商業) 栗山長次郎(日日)藤田 讓(二六) 高宮 太平(朝日)河崎義男(電通)

革新記者會
 立憲國民黨本部所屬、各社擔任記者が「國民黨俱樂部」を組織し、國民黨の解體と同時に革新俱樂部の成立するに臨み、更めて本俱樂部となる。記者團として本俱樂部特異の傳統を襲き、相互の風格を尊重し、親睦を圖るを目的とする。
 (事務所) 衆議院構内革新俱樂部本部内。
 (幹事) 高宮太平、藤原智朗
 高橋圓三郎(任期三ヶ月)
 (會員) 下園佐吉(中外商業) 高橋圓三郎(報知) 佐藤多吉(二六) 河崎 義男(電通) 下條雄三(電通) 山浦 貫一(東日) 高宮太平(東朝) 赤羽 清美(時事) 日隈 曠(東通) 大關 敬三(大時) 織本 利(國民)

日比谷記者會
 都下新聞通信社社會部の警視廳擔任記者團。
 (幹事) イロハ順三名(一ヶ月交代)
 (會員) 木村 正一(やまと) 森口筆次郎(報知) 坂倉四郎(二六) 小座間 茂(電通) 江連四郎(電通) 佐久間文吉(東日) 關野 茂(報知) 市川 博慈(報知) 阪本義郎(東日) 北條 清一(東日) 伊佐宗太(東日) 生江澤連雄(東朝) 齋藤 康(東海) 植村 金作(毎夕) 河合 政(東朝)

東京運動記者俱樂部
 都下各新聞通信、雜誌社の運動記者團。
 (幹事) 森島直造、松本彰夫
 (部員) 東孝太郎(中外商業) 久保田高行(東朝) 植村隆郎(東朝)

苗俱樂部
 憲兵隊出入の都下九新聞記者團(事務所) 龜町區大手町憲兵司令部内。
 (幹事) 伊藤永止、生江澤連雄
 (部員) 松本米次郎(報知) 生江澤連雄(東朝) 重松政敏(毎夕) 田邊 則雄(讀賣) 望月 滿(東日) 白土律一(やまと) 山崎榮岳(萬朝) 橋本 康男(都) 伊藤永止(國民) (一年史) 大正十三年十一月一日創立。同年十二月憲兵隊側主催にて五反田に忘年會開催。同十四年一月六日憲兵隊幹部との新年會を本郷江知勝に開催。

瑞穂會
 各社米穀擔當記者團。堅實なる商況報道と相互の親睦を旨とす。
 (事務所) 東京日本橋區龜殼町一ノ二、商業通信社内。
 (幹事) 日香制。
 (會員) 菊池弘一(東方經濟) 高山周治郎(商株) 清田直吉(經濟) 杉山米堂(米ムス) 井阪 孝(大勢) 古橋友次郎(電通) 福井順作(電通) 川上龍太郎(商業米報) 社(缺員) 伊勢正五郎(財界) 茂木 繁(讀賣) 鈴木 萬造(萬朝) 壽田宜敏(萬朝) 井上新一郎(毎夕) 泉水彌作(時事) 菊地儀三郎(二六) 内藤晴夫(東海)

土田 恭治(萬朝) 森 幹生(都) 藤原 智朗(電通) 堀川 滿(電通) 星川 豐彦(中央) 田島誠一(自通) 朝野通信社 缺員 大阪毎日新聞社 鳥越 雅一(大朝) 倉岡 覺(讀賣) 木村儀兵衛(大朝) 加藤 久(東海) 伊藤兵吉(新愛知) 高山金一(太陽) 高森宗吉(やまと) 下園庄藏(大勢) (大正十四年五月一日現在)
 (一年史) 護憲運動に率先參加し、總選挙、第四十九、五十議會に於いて、常に民権伸張のために奮闘し來る。夫の治安維持法の提案に際し、主盟となつて終始徹底的に反對せるが如きはなり。

松上 倫美(東朝) 有吉忠一(夕刊)
 大久保北秀(中央) 須藤駒男(中央) 山口孫右衛門(中外) 手島勲(中央) 天草 敏郎(中外) 松田 定(中外) 兒島 正勝(晝夜) 福川良之(晝夜) 山崎 榮岳(萬朝) 河村儀彌(萬朝) 丸山 三郎(萬朝) 芹川惠風(讀賣) 高藤榮次郎(國民) 萩 博(讀賣) 吉田登茂松(國民) 野呂豊(やまと) 茂木 太市(電通) 秋山白作(都) 米山 誠一(都) 河野 薫(時事) 增崎 綱幸(時事) (十四年七月現在) (一年史) 大正十三年四月春季總會を尾久熱海に開催。同年七月より八月に亘り、刑事部調査出入禁止令の撤廢運動を試み奏功す。
 大正十四年一月當局に交渉して從來常に不公平を極められる非常線通行證及びこれに類する一切を各社平等制に改革す。

金融同志會
 都下各新聞、通信、興信所の日銀擔任記者團。
 (幹事) 野澤秀信、香月保、三俣淺治郎
 (會員) 小汀利得(中外商業) 三俣淺治郎(東日) 野澤秀信(報知) 野田 兵一(報知) 新城朝功(都) 山崎 靖純(時事) 田川重盛(都) 清水 武雄(時事) 香月 保(東朝) 後藤登喜男(東朝) 松藤秀雄(萬朝) やまと新聞(缺員) 喜多一重(國民) 毎夕 新聞(缺) 二六新報(缺員) 日本電報通信(缺) 中央新聞(缺員) 千代田通信(缺員) 帝國通信(缺員) 自由通信社(缺員) 前田 伴(國際) 大辻 全孝(興信) 讀賣新聞(缺員) (大正十四年四月末日現在)

航運研究会
 海運方面擔當記者の研究團體。

拓殖研究会
 東京大阪及び植民地所在の新聞通信社一社一名宛の記者團。
 (事務所) 東京丸の内、内閣拓殖局内。
 (幹事) 大平安孝、竹林虎之助
 (會員) 中柳勝次(臺灣日日) 佐藤幸一郎(電通) 藤澤信大(東朝) 竹林虎之助(毎夕) 森田親一(東日) 大谷忠四郎(大朝) 森 徹夫(二六) 安達常助(東亞通) 重信嵩雄(報知) 杉山 孝治(大毎) 菅野永眞(電通) 三浦 悦郎(國民) 大平安孝(都) やまと新聞社(缺) 橋口西彦(京城) 永長與藤治(讀賣) 中央新聞社(缺) 天野 長知(萬朝) (五月廿三日現在) (二年史) 大正十四年四月初鮮滿洲各地を視察す。

經濟記者俱樂部
 都下新聞通信社の東京商業會議所擔任記者團。
 (事務所) 東京商業會議所内。
 (幹事) 選舉制、二名づつ二ヶ月交代。
 (部員) 藤原 久人(やまと) 福島仁三郎(萬朝) 日高利市(東日)

經濟研究会
 會員相互の親睦を圖り經濟事項の研究を目的とする都下新聞通信社の經濟擔當記者團。
 (事務所) 東京商業會議所内。
 (幹事) 無記名選舉制、三名づつ六ヶ月交代。
 (會員) 三澤俊雄(中外商業) 中山英一郎(中外) 堀川勝造(中央) 長谷部天信(國民) 中山和吉(毎夕) 酒井留次郎(電通)
 (會友) 加藤景福、小林鶴男 (一年史) 大正十四年三月經濟記者俱樂部より分離、創立。

十八日會
 労働農村、水平問題研究記者團(事務所) 内務省社會局並に協同會館内。
 (幹事) 藤 東太、小座間茂
 藤 東太(報知) 光成信男(二六) 小座間 茂(電通) 的場郁翁(東日) 小林 廣向(中央) 福島謙造(東朝) 川崎 達夫(毎夕) 下平 融(夕刊)

金融同志會
 都下各新聞、通信、興信所の日銀擔任記者團。
 (幹事) 野澤秀信、香月保、三俣淺治郎
 (會員) 小汀利得(中外商業) 三俣淺治郎(東日) 野澤秀信(報知) 野田 兵一(報知) 新城朝功(都) 山崎 靖純(時事) 田川重盛(都) 清水 武雄(時事) 香月 保(東朝) 後藤登喜男(東朝) 松藤秀雄(萬朝) やまと新聞(缺員) 喜多一重(國民) 毎夕 新聞(缺) 二六新報(缺員) 日本電報通信(缺) 中央新聞(缺員) 千代田通信(缺員) 帝國通信(缺員) 自由通信社(缺員) 前田 伴(國際) 大辻 全孝(興信) 讀賣新聞(缺員) (大正十四年四月末日現在)

航運研究会
 海運方面擔當記者の研究團體。

瑞穂會
 各社米穀擔當記者團。堅實なる商況報道と相互の親睦を旨とす。
 (事務所) 東京日本橋區龜殼町一ノ二、商業通信社内。
 (幹事) 日香制。
 (會員) 菊池弘一(東方經濟) 高山周治郎(商株) 清田直吉(經濟) 杉山米堂(米ムス) 井阪 孝(大勢) 古橋友次郎(電通) 福井順作(電通) 川上龍太郎(商業米報) 社(缺員) 伊勢正五郎(財界) 茂木 繁(讀賣) 鈴木 萬造(萬朝) 壽田宜敏(萬朝) 井上新一郎(毎夕) 泉水彌作(時事) 菊地儀三郎(二六) 内藤晴夫(東海)

拓殖研究会
 東京大阪及び植民地所在の新聞通信社一社一名宛の記者團。
 (事務所) 東京丸の内、内閣拓殖局内。
 (幹事) 大平安孝、竹林虎之助
 (會員) 中柳勝次(臺灣日日) 佐藤幸一郎(電通) 藤澤信大(東朝) 竹林虎之助(毎夕) 森田親一(東日) 大谷忠四郎(大朝) 森 徹夫(二六) 安達常助(東亞通) 重信嵩雄(報知) 杉山 孝治(大毎) 菅野永眞(電通) 三浦 悦郎(國民) 大平安孝(都) やまと新聞社(缺) 橋口西彦(京城) 永長與藤治(讀賣) 中央新聞社(缺) 天野 長知(萬朝) (五月廿三日現在) (二年史) 大正十四年四月初鮮滿洲各地を視察す。

經濟記者俱樂部
 都下新聞通信社の東京商業會議所擔任記者團。
 (事務所) 東京商業會議所内。
 (幹事) 選舉制、二名づつ二ヶ月交代。
 (部員) 藤原 久人(やまと) 福島仁三郎(萬朝) 日高利市(東日)

經濟研究会
 會員相互の親睦を圖り經濟事項の研究を目的とする都下新聞通信社の經濟擔當記者團。
 (事務所) 東京商業會議所内。
 (幹事) 無記名選舉制、三名づつ六ヶ月交代。
 (會員) 三澤俊雄(中外商業) 中山英一郎(中外) 堀川勝造(中央) 長谷部天信(國民) 中山和吉(毎夕) 酒井留次郎(電通)
 (會友) 加藤景福、小林鶴男 (一年史) 大正十四年三月經濟記者俱樂部より分離、創立。

十八日會
 労働農村、水平問題研究記者團(事務所) 内務省社會局並に協同會館内。
 (幹事) 藤 東太、小座間茂
 藤 東太(報知) 光成信男(二六) 小座間 茂(電通) 的場郁翁(東日) 小林 廣向(中央) 福島謙造(東朝) 川崎 達夫(毎夕) 下平 融(夕刊)

航運研究会
 海運方面擔當記者の研究團體。

東京飛行記者俱樂部

岡部延一(やまと)中村久一(商通) 助(幹事) 松本彰夫、堀井金之助

東京スナッフ俱樂部

部員相互の融和向上を圖り技術上の研究を目的とする東京新聞通信雜誌社の寫眞部員團

親交會

寫眞製版術の研究並に相互の親睦を目的としたる、都下各新聞通信社在勤の寫眞製版部員團

都下各新聞社販賣部長の社交團

(幹事) 二名宛前幹事の指名にて毎月交代

漫畫記者團

都下各新聞社漫畫記者の社交團(事務所) 東京府下巢鴨宮仲二〇三宮尾重男方

- (世話人) 宮尾重男 (團員) 北澤樂天(時事) 岡本 一平(東朝)池邊 鈞(國民) 下川 四天(中央)矢野左行(東日) 代田 收一(都)在田 稠(時事) 小林克巳(やまと)中西立頃(中央) 宮尾 重男(毎夕)牛島一水(報知) 藤田 稻天(時事)藤生 豐(報知) 名取 春仙(萬朝)岩佐 新(東每) 森島 直造(時事)

- 寺尾要次郎(電通)雨澤三朗(寫通) 藤原信次郎(帝通)櫻井榮藏(實日) 宮田榮次郎(日寫)貝谷準一(萬朝) 三宅志知男(實日)水田繁造(帝通) 島田 直吉(都)關本實藏(東日) 鈴木龜吉(國民)

- 都下各新聞社外人記事係團 (事務所) 丸之内帝國ホテル内 (役員) 幹事二、會計一、 (會員) ジャパンタイムス、 東日、東朝、報知、中央、やまと 中外、萬朝、時事、國民、國際、 帝通、毎夕、アドバタイザ各社 代表一名宛。(五月五日現在)

- 一府一道新聞取次業組合 (一府一道新聞取次業) 會員相互の親睦を旨とし新報の發展を圖り、共存共榮の實を擧ぐるを目的とする東京諸新聞取次業者を以て組織する一府一道十七縣

新聞取次業組合

(事務所) 東京市京橋區南鍋町三丁目一番地根岸良吉方 (役員) 幹事長 根岸良吉 (東京) 會計監事 事務幹事 清水藤右衛門(熊谷)事務幹事 石橋貞二郎(成田)伊勢兵次郎(東) 今井廣之助(小田原)津山十郎(東金)吉田禮次郎(平)武田健輔(長野)柳澤太郎兵衛(上田)松本豐一(東京)江川勝太郎(靜岡)鈴木信一(横濱) (組合員) 一千四百名 (一年史) 大正十三年十月七日發會。同年十一月六日より大正十四年一月二日迄に、上越、宮城、福島、神奈川、埼玉、栃木、秋田、岩手、千葉、東京各府縣支部設置大正十三年十二月初旬埼玉縣秩父線東武線、仲山道本線に亘る各紙の置賣に對して清水、根岸兩事務幹事は、同縣支部役員と共に各社を歴訪交渉を重ね、定價賣實行項目を決定す。 大正十三年十月二十六日常任幹事會を開き、組合名稱、機關雜誌、組合細則、幹事増員に關する附帯決議をなす。

親交會

都下各新聞社廣告部長團 (幹事) 前任者の指名により三名宛三ヶ月交代

所を有する者の、親睦を圖り、營業上の福利を増進し、濫惡の弊害を矯正するを目的としたる團體 (事務所) 東京市京橋區南佐柄木町六、豐國通信社内 (役員) 常任幹事、谷口新造 (豐通)、第一次月番幹事、大和田省造(大河組)、平澤定次郎(廣通) (會員) 馬淵豐喜(馬淵商會) 大和田省造(大河)佐藤春造(博生) 平澤定次郎(廣通)谷口新造(豐通) 高谷寛三郎(正報)松村卓爾(三誠) 富永良太郎(告天)上田龜吉(三交) 丸山進三郎(日進)佐藤藤一(東通) 上山 銳彦(確報)井上信吉(明信) 二月部利一金蘭(福浦專二)明通 (一年史) 大正十三年十二月二十二日創立協議會。同十四年四月二十三日第一回總會

十日會

大阪各社東京支局長と東京廣告代理業者との社交團體 (幹事) 一ヶ月交代 (會員) 祖上祐三(大阪朝報) 古賀 文雄(大毎)天野四郎(大朝) 小林三太郎(大時)武田武(大日) 浮田水太郎(弘報)平野義信(帝通) 松本 一作(東華)瀧川統吉(萬年) 湯澤 清(廣告社)上條實(正路喜)

協同會

新報の進歩發達を目的とする都下廣告代理業者及び通信社の廣告代理業部の研究團體 (幹事) 江藤基三郎光永星郎 (會員) 博報堂、日本電報通信社、萬年社、京華社、弘報堂、弘告社、帝國通信社、正路喜社、 (大正十四年七月現在)

一致會

案内廣告界の向上發展を計り、相互の利益を擁護するを目的としたる案内廣告取次業者の組合 (事務所) 東京小石川區船場町三三三川世民社内 (幹事) 吉川 守邦(世民社) 板橋寛助(日弘社) (會員) 佐藤 好信(廣告堂)

地方新聞支局會

地方新聞東京支局の親睦團體 (事務所) 東京市京橋區南鍋町二丁目四、新潟毎日新聞社内 (幹事) 庶務 川崎新吉(新

東京廣告協會

全國新聞雜誌の廣告其他の廣告の取次代理業者にして東京市内に其の營業所又は支店若しくは出張

每會計—本田龍(小樽)、補佐—西澤 圭(信毎)小島清友(滿日)勝田重太郎(新愛知)、三瓶 仙輔(福島民)、樋口寅正(土陽)(會 員) 山本常太郎(岩毎)馬場幸治郎(伊豫)高津清雄(伊勢)戸田長次郎(函日)古川岩雄(函毎)北村 温平(函館)篠木榮藏(馬毎)川崎 新吉(新毎)江口藤雄(日洲)和田慶太郎(新潟)西村藤夫(豐州)宮崎由三郎(北毎)小野喜一(北越)中堀末吉(北ス)樋口寅正(土陽)堂島松太郎(北日)梅本輝吉(德毎)木村松之助(鮮毎)關 德平(中國)今井 淺南(鮮民)河野碩平(朝鮮)佐野易之助(遼東)本田 龍(小樽)平山長久(河北)松浦清平(大分)渡邊庄次郎(金澤)林 省三(香川)河内 時中(鹿朝)松田源重(橫濱)牧内元太郎(廣毎)德富 迪(臺灣)大西隆之助(臺南)秋元政司(臺日)德富三喜男(高田)森實 昴(長日)副谷拾太郎(名毎)櫻井鐵藏(吳日)長島新次郎(南信)中田 清(山民)河野馬喜德(關日)小島清友(滿日)渡邊彦四郎(山形)永井久吉(京城)北村 智好(福井)堀 克己(釜山)渡邊 利正(福新)三瓶仙輔(福民)安藤與重郎(福島)酒井謙吉(神戶)

佐藤駒太郎(又新)栗尾結城(高知)太田卯藤治(愛媛)村瀬吉次(愛知)野崎作太郎(秋田)村瀬米華(酒田)本間 正巳(山陰)赤澤政助(山陽)内田好之助(九州)花井市次(岐日)栗田貞一郎(九日)齋藤 憲(靜民)井上勝太郎(靜新)幸田敏三(四民)岩立慶三郎(信民)西澤 圭(信毎)松村 周吉(上州)市川龍治(下報)飛鳥江良知(廣中)船戶岩男(門新)勝田重太郎(新愛)市村和平(下關)松本七五郎(青島)(十四日四月現)

東京放送局

無線放送事業を經營し、無線電話の進歩發達を計るを目的とする社團。
(事務所) 東京丸の内報知社別館。
(役員) 總裁—後藤 新平
理事長—岩原謙三
常務理事—新名直和
理事—青山謙郎(安中電機)石井光次郎(東朝)石川源三郎(國際無線)上田碩三(電通)大倉發身(大倉組)小野賢一郎(東日)森野元太郎(古川電氣)加納與四郎(日本電線)煙山二郎(報知)小池國三(東京瓦斯)越野宗太郎(帝通)千野米作(前)

大阪

附其他

富士護謄) 松代松之助(日東電氣)守武幾太郎(國民)矢郎謙次郎(時事)山口喜三郎(東京電機)若目田利助(川北電氣)監事—中原岩三郎(工博)永野護 辻湊、技師長—北村初次郎(一年史) 大正十三年十一月十六日創立總會。同年十二月十日臨時總會を開き常務理事を互選す。大正十四年三月一日試驗放送開始同年三月二十日假放送開始。

大阪プレス俱樂部

大阪各新聞社及び通信社の有志記者團。
(事務所) 大阪市北區北野茶屋町、日出家。
(幹事) 常任幹事—和田信夫、高田元三郎、松田政之。
當番幹事—每月三名つゝ前幹事の指名により交替。
(部 員) 和田信夫(大阪朝日)岡本 鶴松(同前)東口眞平(同前)

府政記者俱樂部

大阪各社の府廳出入政治記者團
(事務所) 大阪府廳内
(幹事) 二名つゝ、毎月交代。
(部 員) 吉田良好(大阪電通)富田 正俊(大朝)渡邊綱雄(大朝)吉田 威夫(大朝)八木亮輔(夕刊)永井謙一郎(大毎)水口正一(大朝)柴田 平三(大日)渡谷 修(大朝)石井英(關西日報)中保與作(今日)

億兆記者俱樂部

大阪警察部出入記者團、大正十三年十二月如月會改稱。
(事務所) 大阪府廳内
(部 員) 染井左門(大阪電通)長澤 昌一(大日)津田與十(大毎)高橋 誠之(毎夕)北浦 精(今日)中島 直光(朝報)篠崎昌美(朝日)石田 明治(大時)簡江 保(大朝)高木弘一(新日報)和田大東(關西)木島 綠生(帝通)八木亮輔(夕刊)

三品俱樂部

大阪市内各新聞通信社の三品市攝政記者團。
(事務所) 大阪三品取引所内
(幹事) 年四期に分ち廻り持
(部 員) 岩男義臣(大阪今日)萩原 文柄(大時)西松亮三(經濟)東城 重輝(大朝)金保義友(大朝)隅原 清美(關西)河村加壽(朝通)藤崎光太郎(電通)高橋義憲(大毎)棚橋壽一郎(朝報)土屋工三(商報)中川英太郎(新日)八橋完(大中外)崎山 芳三(日日)守能正男(毎夕)(五月一日現在)

ムセン記者俱樂部

大阪通信局及び大阪放送局擔任の大阪日刊新聞通信記者團。
(事務所) 大阪通信局庶務課内
(幹事) 一名六月交代。
(部 員) 十二社十三名あり。(一年史) 大正十四年三月十五日創立。

東京新聞通信同盟

在阪東京新聞支局長の社交並に研究機關。
(事務所) 大阪市北區堂島船大工町五〇
(幹事) 田村唯一、關太一郎
(會 員) 田村唯一(やまと)大竹又次郎(萬朝)能島 進(電通)入江邦太郎(帝通)遠藤信一(二六)藤井良之助(東毎)關太一郎(報知)女鹿田觀虎(中外)本莊幸甫(中央)山崎 卓雄(國民)松田 濟(大勢)板東 靜平(夕刊)東京毎夕社(缺)

東京新聞記者團

東京新聞通信社の大阪支局員の

水曜會

社交並に通信上の研究團體。
(事務所) 大阪市北區堂島船大工町五〇
(幹事) 關太一郎、堀 利勝
(會 員) 南實太郎(中外商業)女鹿田觀虎(同前)粟田 勉(同前)田代利根次(報知)關太一郎(報知)沼田 英一(同前)北莊一郎(同前)芦太 菊治(同前)安田榮治(同前)西原 能市(同前)長谷耕作(萬朝)大竹又次郎(萬朝)丹羽吉夫(同前)中山 茂憲(同前)房助(同前)田村唯一(やまと)布川彌壽夫(同前)河野英次郎(同前)山崎卓雄(國民)濱田 晃(國民)八木甚三(帝通)入江邦太郎(帝通)浦神重雄(同前)神崎 勝久(同前)堀 利勝(電通)前西 兵輔(電通)高橋孝三(同前)染井 左門(同前)

東京記者俱樂部

東京各新聞大阪支局の大阪府廳記者團。
(事務所) 大阪府廳内。
(部 員) 東 石松(やまと)安田 榮治(報知)中山茂憲(萬朝)

在阪地方新聞社支局團

大阪に於ける廣告代理業者の團體。新聞廣告取扱に關し、相互禮儀を尊重し、共通の利益擁護を目的とする。
(幹事) 毎月交代。
(會 員) 日本弘業大阪支局。大阪電報通信社、做 蟻 社。萬 年 社、京華社大阪支局。旭廣告株式會社、帝通大阪支局。金 水 堂。(五月二十日現)

<p>中央新聞社</p> <p>社長 缺 副社長 山口恒太郎 主幹 結城禮一郎 秘書 望月 見吉</p> <p>編輯局(七二名) 理事 田村喜三郎 同 月性 登吉 整理部長 猪股平三郎 萬年 好二 長井 修吉 大澤 逸足 鈴木 純次</p>		<p>同次長 久野八十吉 工務係 江崎 達夫 勝島喜一郎 根本 繁治 三浦 正則 宮崎 爲藏 活版科 桃井榮太郎 梅野豐太郎 荏原 忠吉 小川佐太郎 小田 平吉 奧 七造 恩田 廣七 重盛新太郎 鈴木熊五郎 株尾 龍平 高橋 清七 塚田鎮之助 中村 松尾 森田秀次郎 山下 五郎 紙型科 山内 治郎</p> <p>加藤次佐吉 印刷科 森安梅三郎 池田 德雄 中島勝次郎 鑄造科 松田松之助 電氣科 松崎金太郎 寫真製版科 伊藤 政吉 增田覺太郎 (各員)(五名) 榎澤安次郎 岡本 一平 中村 不折 根岸 信 水谷乙次郎 社友 神田 正雄 囑託醫 平島 熊次</p> <p>合計 三五八名</p>		<p>丸山 戰次 鐘ヶ江健藏 佐々田清徳 政治部長 前田 禮治 川瀬 義成 森 莊三 山田賢太郎 戸田 文治 關口 定治 五百佳彪夫 森川 東海 富永宗四郎 福澤 晃 青木 平八 竹井 和平 堀川 勝造 元利 治瑞 倉繁 義信 新谷 眞 米山 義兄 前田 文吉 石橋 榮 社會部長 中村 龍三 飯田 應 千田 萬三 直海 善三 小林 廣介 澤田進之丞 大久保忠鑑 小松 徹三 須藤 絢男 甲山 顯 渡邊綱太郎 牛沼 環三 阪本 彦平 青山俊文二 大久保北秀 手島 勳 瀧谷 實 武川重太郎 松崎 市郎 廣瀬 五郎</p> <p>重役(四名) 專務取締役 築田欽太郎 取締役 佐藤 三郎 同 村上 幸平 同 永田 成美 同 丹波義之助</p> <p>編輯局(二〇六名) 局長(兼)佐藤 三郎</p>		<p>同次長 伊東圭一郎 渡邊紳一郎 神古 百市 支那部長 大西 齊 同次長 大田 宇之助 國松 文雄 (上海在勤)知 識真治 本郷 賢一 聯絡部長 谷 辰次郎 久保田榮吉 栗林 貞一 杉山 勝美 關戸半四郎 深澤甲子男 三木 喜延 電信電話部長 柿沼柳作 阿部清太郎 岩井千代三 大野 鶴雄 大庭 弘 熊崎 玉吉 倉光 昇三 兒玉 貞延 近藤鈺次郎 崎田 政隆 鈴木 虎三 高島 小み 土岐 正雄 西尾 千治 廣田富太郎 森澤 幹行 吉岡助次郎 吉田 七郎 米山 直吉 同 次長 成澤金兵衛 星野 辰男 瀧美右一郎 岩城 次忠 大久保好六 (大阪在勤)翁 久允 熊田年平 (大阪 在勤) 栗林茂枝、下田道夫 杉山胤太郎(兼)谷口德次郎 中里富次郎 錦織 嘉一 調查部長 關口 泰 飯島 保 石田 賢也</p> <p>內山 舜 重松 孝 鈴木 德二 菅野 泰雄 仲田勝之助 箱島孝次郎 原田榮一郎 (休職)松田 知之 片岡幸次郎 學務部長 土岐 善磨 (兼)坂崎坦 妹尾 太郎 竹中 繁子(兼)時岡三郎 中川陽太郎 中野 秀人 運動部長 小高吉三郎 植村 陸男 岡本 隆 阿部 逸平 (入營中休 職)河合勇 久保田高行 (兼)櫻木俊長(兼)丸田一郎 大朝週刊部東京在勤 若月 一步 城山登美子 計費部長(兼)村山 長壽 同次長(兼)名倉 開一 同 次長 久松 定夫 同 次長 大角 盛美 旭 正秀 雨宮 一百 小川 和澄 坂崎 坦 田中以佐乎(兼)竹中繁子</p> <p>營業局(二二五名) 營業局長 石井光次郎 文書係 豐原 瑞穂 相談役 神崎 嘉藏 販賣部長 刀爾館正雄</p> <p>同次長 高田 廣海 賣捌係 小村順之助 杉浦 寛 渡邊善次郎 郵送係 中山 泰吉 片岡幸次郎 發送係 堀川 光彌 (入營中休職) 伊島 純一 大濱要太郎 川島 周助 黑崎 勝治 瀧 義孝 谷川庄太郎那波多目初太郎 山地仙太郎 霜山 經助 調查係 田寺 正敬 鈴木喜一郎 關根良太郎 落合 實 田中 晴 計算係 關根良太郎 出版販賣係 田畑忠治 前田 貢 外交係 飯田益太郎 飯田益太郎 梅野 實門 大角 盛美 河野 保一 田中 寛次 田中又四郎 横山 盛夫 堀井 正三 横濱販賣局 菊次 曆藏 長谷川留吉 山下 桂三 札幌販賣局 山下 桂三 廣告部長 北村榮二郎 整理係 木下 清文 小宮山昌紀 小橋 憲一 松山 銜次</p> <p>計費係 志毛井確太郎 同次長 福田 米吉 會計係 中山 晴伸 林 作太郎 出納係 長田 利一 用度係 坂本 士平 中西 當夫 正池 猛 庶務部長 小早川彦一 (兼)豐原瑞穂 庶務係 天井 勝平 河村 重二 倉本 進 沼田寅次郎 野原真太郎 羽石 寛亮 古川彌太郎 株式係(兼)林 作太郎 印刷部長(兼)石井光次郎</p>	
---	--	--	--	--	--	--	--

<p>中外商業新報社</p> <p>社長 缺 副社長 山口恒太郎 主幹 結城禮一郎 秘書 望月 見吉</p> <p>編輯局(七二名) 理事 田村喜三郎 同 月性 登吉 整理部長 猪股平三郎 萬年 好二 長井 修吉 大澤 逸足 鈴木 純次</p>		<p>同次長 久野八十吉 工務係 江崎 達夫 勝島喜一郎 根本 繁治 三浦 正則 宮崎 爲藏 活版科 桃井榮太郎 梅野豐太郎 荏原 忠吉 小川佐太郎 小田 平吉 奧 七造 恩田 廣七 重盛新太郎 鈴木熊五郎 株尾 龍平 高橋 清七 塚田鎮之助 中村 松尾 森田秀次郎 山下 五郎 紙型科 山内 治郎</p> <p>加藤次佐吉 印刷科 森安梅三郎 池田 德雄 中島勝次郎 鑄造科 松田松之助 電氣科 松崎金太郎 寫真製版科 伊藤 政吉 增田覺太郎 (各員)(五名) 榎澤安次郎 岡本 一平 中村 不折 根岸 信 水谷乙次郎 社友 神田 正雄 囑託醫 平島 熊次</p> <p>合計 三五八名</p>		<p>丸山 戰次 鐘ヶ江健藏 佐々田清徳 政治部長 前田 禮治 川瀬 義成 森 莊三 山田賢太郎 戸田 文治 關口 定治 五百佳彪夫 森川 東海 富永宗四郎 福澤 晃 青木 平八 竹井 和平 堀川 勝造 元利 治瑞 倉繁 義信 新谷 眞 米山 義兄 前田 文吉 石橋 榮 社會部長 中村 龍三 飯田 應 千田 萬三 直海 善三 小林 廣介 澤田進之丞 大久保忠鑑 小松 徹三 須藤 絢男 甲山 顯 渡邊綱太郎 牛沼 環三 阪本 彦平 青山俊文二 大久保北秀 手島 勳 瀧谷 實 武川重太郎 松崎 市郎 廣瀬 五郎</p> <p>重役(四名) 專務取締役 築田欽太郎 取締役 佐藤 三郎 同 村上 幸平 同 永田 成美 同 丹波義之助</p> <p>編輯局(二〇六名) 局長(兼)佐藤 三郎</p>		<p>同次長 伊東圭一郎 渡邊紳一郎 神古 百市 支那部長 大西 齊 同次長 大田 宇之助 國松 文雄 (上海在勤)知 識真治 本郷 賢一 聯絡部長 谷 辰次郎 久保田榮吉 栗林 貞一 杉山 勝美 關戸半四郎 深澤甲子男 三木 喜延 電信電話部長 柿沼柳作 阿部清太郎 岩井千代三 大野 鶴雄 大庭 弘 熊崎 玉吉 倉光 昇三 兒玉 貞延 近藤鈺次郎 崎田 政隆 鈴木 虎三 高島 小み 土岐 正雄 西尾 千治 廣田富太郎 森澤 幹行 吉岡助次郎 吉田 七郎 米山 直吉 同 次長 成澤金兵衛 星野 辰男 瀧美右一郎 岩城 次忠 大久保好六 (大阪在勤)翁 久允 熊田年平 (大阪 在勤) 栗林茂枝、下田道夫 杉山胤太郎(兼)谷口德次郎 中里富次郎 錦織 嘉一 調查部長 關口 泰 飯島 保 石田 賢也</p> <p>內山 舜 重松 孝 鈴木 德二 菅野 泰雄 仲田勝之助 箱島孝次郎 原田榮一郎 (休職)松田 知之 片岡幸次郎 學務部長 土岐 善磨 (兼)坂崎坦 妹尾 太郎 竹中 繁子(兼)時岡三郎 中川陽太郎 中野 秀人 運動部長 小高吉三郎 植村 陸男 岡本 隆 阿部 逸平 (入營中休 職)河合勇 久保田高行 (兼)櫻木俊長(兼)丸田一郎 大朝週刊部東京在勤 若月 一步 城山登美子 計費部長(兼)村山 長壽 同次長(兼)名倉 開一 同 次長 久松 定夫 同 次長 大角 盛美 旭 正秀 雨宮 一百 小川 和澄 坂崎 坦 田中以佐乎(兼)竹中繁子</p> <p>營業局(二二五名) 營業局長 石井光次郎 文書係 豐原 瑞穂 相談役 神崎 嘉藏 販賣部長 刀爾館正雄</p> <p>同次長 高田 廣海 賣捌係 小村順之助 杉浦 寛 渡邊善次郎 郵送係 中山 泰吉 片岡幸次郎 發送係 堀川 光彌 (入營中休職) 伊島 純一 大濱要太郎 川島 周助 黑崎 勝治 瀧 義孝 谷川庄太郎那波多目初太郎 山地仙太郎 霜山 經助 調查係 田寺 正敬 鈴木喜一郎 關根良太郎 落合 實 田中 晴 計算係 關根良太郎 出版販賣係 田畑忠治 前田 貢 外交係 飯田益太郎 飯田益太郎 梅野 實門 大角 盛美 河野 保一 田中 寛次 田中又四郎 横山 盛夫 堀井 正三 横濱販賣局 菊次 曆藏 長谷川留吉 山下 桂三 札幌販賣局 山下 桂三 廣告部長 北村榮二郎 整理係 木下 清文 小宮山昌紀 小橋 憲一 松山 銜次</p> <p>計費係 志毛井確太郎 同次長 福田 米吉 會計係 中山 晴伸 林 作太郎 出納係 長田 利一 用度係 坂本 士平 中西 當夫 正池 猛 庶務部長 小早川彦一 (兼)豐原瑞穂 庶務係 天井 勝平 河村 重二 倉本 進 沼田寅次郎 野原真太郎 羽石 寛亮 古川彌太郎 株式係(兼)林 作太郎 印刷部長(兼)石井光次郎</p>	
---	--	--	--	--	--	--	--

やまと新聞社	
重役(二名) 社長 松下勇三郎 副社長 田中朝吉	編輯局(五名) 局長兼政治部長 田村全宣 政治部長 長谷川了 硬派編輯主任(夕刊) 上村全六 硬派編輯主任(朝刊) 原田豊介 宮本 洵 庄子 廣吉 池田 邦夫 野田 武夫 高森 宗吉 荒木 昇 河村 英雄 石坂 朝郎 崎山 武夫 高山 金一 經濟部長 大橋 敏郎 青柳 義孝 藤原 久人 田部 井俊夫 岡部 基一 山田 三郎 石黒仁三郎 宮内 喜官 岸 林平 社會部長 山口 勝太郎
同外交主任 吉田 要人 同編輯主任(夕刊) 小野田 求 同編輯主任(朝刊) 岡 芳樹 高木 稔 關澤 幹夫 木村 正一 白土 偉一 淺野 豊 三宅 正夫 長尾 一雄 小田 靜齋 細沼 秀 大谷 秀正 野呂 襄 學務部主任 吉田 忠喜 字實三十三 矢部 周 地方部長 山本 諄一 速記部主任 川 島 良 佐藤 徳次郎 校正部長 樋口 精一 平岡 大助 稻見 俊次 中山 芳武 菊地 武信 篠崎 徹司 庶務主任 加藤 幸枝 工場部長 長坂 善藏 工場監督(理事)	活版課長 高見 保三 鉛版課長 河合 盛太郎 印刷課長 神代 竹太郎 加藤 正平 總務局(二四名) 局長 清水 重造 營業局長 缺員 廣告部長 齋藤 徳松 村井 長祥 藤田 和夫 藤原 一郎 和田辰次郎 赤羽 英一郎 樋口 兼一 瀧美 康 中澤 宇三郎 山浦 彌四郎 戸塚 盛三 長谷川 泰助 永田 滿徳 販賣部長 大岡 亮義 齋藤 晴之助 越坂 平太郎 石井 醇二 金子 五郎兵衛 金子 喜三 用度課長 横山 貞輔 會計部長 八杉 正雄 石田 金之助
支局(二〇名) (大阪) 畑尾健治(横濱) 角田 富三郎(静岡) 工藤益二(宇 都宮) 金田兼吉(前橋) 小口 徳徳(千葉) 池田隆成(浦和) 對馬吉之助(横須賀) 山田清	重役(三名) 専務取締役 岩永 祐吉 總務監督 エル・スキート 大阪支社支配人兼經濟部 長 東川 嘉一 東京本社(四六名) 新聞部主任 相良 左 同兼務部長主任 新聞部主任 栗屋 關一 新開部主任 山口 巖 勢多左武郎 加藤萬壽男 福岡 誠一 鈴木 俊久 萩野 伊八 岡本 一男 (助手) 木島濱治 濱田 秀 雄、小林重一 小野勝三郎 統計係 鷺見 篤信 經濟部主任 川島 友三 水松 勝司 前田 伴 渡邊 鈺 伊藤 總 山本 松子 深町 愛子
國際通信社	重役(三名) 總務部 小林 徳賢 志賀 完 新井勝太郎 市川 太郎 稻島 きん (嘱託) 服部 弘 ローカル部主任 渡邊 純一 土肥 常温 外人記者 エル・スキート 庶務課長 石井 衛太 長岡 稔 大橋 見由 鳥塚 健三 中村 麗女 會計課長 石部 幸一 山田 千代 水野 太一 發送部主任 山本 政常 小池 茂治 山田清一郎 上村 藤吉 宮本 盛城 大阪支社(二七名) 庶務課長兼支社代理人 長野 武之丞 小松 半次郎 小松 芳子 長野 秀雄

菅原 三治 松本 友助 野矢 徹事 細井 吉次 増田 總一郎 菊地 唯雄 田谷 光義 降矢 曠 白石 龜壽 中村 銀作 鈴木 賢司 松盛 英雄 平川 平三 中井 賢治 西山 由一 木田 徳義 萬壽舎 山田 昌雄 西田 文次郎	經理局(二七名) 局長 長澤 貞介 會計部長 眞壁 武雄 本吉 清雄 加地 稻米一 寺井 鐵郎 檜山 教之助 井上 準 染谷 三郎 増田 善作 近藤 阿 奥村 子ヨ 庶務部長 宇都 喜之助 柿沼 官 伊藤 喜代太郎 用度課長 八尾 安平 佐伯 尚雄 齋藤 三郎 丁務局(二五九名) 局長(兼) 清澤 巖 佐瀬 千代松 染谷 仙藏 田口 龍雄 西尾 銀次 澁谷 悦作 吉田 重吉
讀賣新聞社	編輯局(八〇名) 社長 正力 松太郎 編輯局長 千葉 龜雄 編輯局主任(兼) 安達 祐四郎 第一部(整理部) 部長(兼) 千葉 龜雄 次 長 徳 永國太郎 玉虫 孝五郎 高杉 杏圓 相馬 劍爾 藤澤 茂三郎 原 一郎 土方 詢 宇野 盛 齊田 元二郎 不破 薫堂 加藤 謙 清水 彌太郎 木村 武雄 搦澤 幸治
第二部(政治部) 部長 中尾 龍雄 土岐 直彦 永長 與藤二 武田 源助 依光 好秋 添川 晋 磯田 薫一 加藤 五計 東 舜英 第三部(經濟部) 部長 稻垣 伯勝 平野 善之助 關 幸吉 太 多 信治 柏 通明 茂木 繁 小笠原 伸 有坂 敏夫 鈴木 榮助 永田 富士雄 第四部(社會部) 部長 柴田 勝衛 岡田 喜七郎 梅谷 松太郎 内田 榮 木村 正一 石崎 喜夫 鈴木 十郎	第五部(婦人部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第六部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第七部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第八部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第九部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉	第十一部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰雄 山田 健治 松本 豊吉
第十部(編輯部) 部長 安成 二郎 倉若 梅二郎 阿利 養之 永榮 友二郎 松浦 豊吉 仁本 熙 平井 ます子 矢野 文夫 水野 君子 校正部 三苦 亥吉 櫻井 永治 川口 元亮 鈴木 直太郎 石田 喜内 芦田 堅作 山部 連 地方係 三大 寺本 紹 堀尾 光吉 中川 幸吉 清水 四郎 高木 與次郎 連記部 福島 龜太郎 横田 辰	

同 桐島 像一	同 重役待遇 奥村信太郎 同 松内 則信 同 吉武鶴次郎 同 岡 實	編輯局(三二名) 主幹(兼) 高石眞五郎 編輯 奥村信太郎 主 事 松内 則信 編輯顧問 福良 虎雄 同 木下 東作 書記兼庶務係荒木利一郎 囑託 成田 篤 田村 明一	部長待遇 石村 誠一 (英國留學中) 赤坂 清七 大原 武夫 (兼)渡邊廣重(兼)澤田幸夫 (兼)池田龍藏 囑託 川島清次郎 內閣通信部長 小室秀雄 同 吉村 廣 同 星野 龍猪 井上勝太郎 谷 庄一郎 (東京駐在) 多久和新四郎 西村 龍藏 小池 良吉	同 久保田政衛 長谷川信得 (華社員)小田善作、山田 威、二瓶千代 同 社會部長 阿部眞之助 同 副部長 岩井 武俊 同 高田元三郎 同 待遇 上田正次郎 同 井上 輝二 西川正次郎 奥村恒治郎 同 鴨居 悠 村島 歸之 佐藤 與一 須古 清 高原 慶三 平野 嶺夫 玉置 德三 伊藤 恭雄 堤 爲章 長岡 憲文 橋本豐次郎 西村 健吉 角井龍之助 梶 秀也 岩崎 榮 長岡 四朗 野村 治輔 津田 與十 楠 五郎 顯考 與一 的場 正文 田中 仙丈 學士員 金森豐造 (兼)木造龍藏(兼)森 秀雄 (囑託)多田北嶺、(兼)中 尾保 經濟部長 松岡 正男 同 副部長 池田 龍藏 佐藤 善郎 武井 裕 (英國留學中) 喜多收一郎	同 西野 榮松 齋藤 憲治 西野入愛一 小野 靜雄 一柳 政夫 高橋 武憲 藤岡 啓 朝倉 孝雄 外國通信部長河野三通士 鈴木 三郎 楠山義太郎 吉岡 丈六 長野 敏夫 永戶 俊雄 南條 眞一 加藤三之雄 (見習員)東修、 (華社員)藤井專太郎 支那課長 澤村 幸夫 腰本 壽 三池友佐夫 (兼)佐伯大太郎(兼)棚橋朝 太郎 編纂課長 深江 彦一 名越國三郎 石割松太郎 松井 信一 毛利 宮彦 佐伯大太郎 大野木繁太郎 前田 三男 渡邊 均 石川 欣一 (東京駐在) 大石 泰藏 尾關 岩治 和田 茂生 坂本 勝 (華社員)石原保直、空照 英二、 (兼)北尾敏之助 中央聯絡部長 飯野教世 同 副部長 中島康千代 同 木下不二太郎	同 君島 知徳 北川島太郎 安東 克雄 岡 鏡次郎 大造 龍藏 福島 乾 平井圭三郎 椎名 靖 西田 方郎 (見習員)奈良仁介、井谷 大竹憲太郎 佐藤 賢 孝平、 川上福三郎 磯部 四郎 (華社員)士岐豊、村岸泰 山根 英郎 山本 貞藏 藤澤 信雄 森 都合 阪井 芳三 永岡 榮吉 小野三千廣 内海 寛 松尾 顯一 今田 春治 森 秀雄 井川 完 黒崎貞治郎 青木 茂作 菅井 榮治 高須 一雄 (兼)内海寛 (兼)菅井榮治 整理部長 岡崎 鴻吉 同 副部長 平野 岑一 同 浦田 芳朗 同 井上吉次郎 田村 省三 中野 清 和氣津次郎 長岡 克晴 前田 龍彦 中島 秀雄 加茂 勝雄 (兼)桑原忠夫 校正課長 小笠原語咲 同 助役 中村 謙三 岡本 鶴吉 柳澤 茂 大村 吳樓 畑田 三三 川口寛一郎 馬場 由三 葛本庄治郎 長谷 義勝 大工 常造 高橋 二郎 中西 靜麿 三宅 義昌 香川 源輔 窪田 武 清水 可次 越智志茂造	同 西野 榮松 齋藤 憲治 西野入愛一 小野 靜雄 一柳 政夫 高橋 武憲 藤岡 啓 朝倉 孝雄 外國通信部長河野三通士 鈴木 三郎 楠山義太郎 吉岡 丈六 長野 敏夫 永戶 俊雄 南條 眞一 加藤三之雄 (見習員)東修、 (華社員)藤井專太郎 支那課長 澤村 幸夫 腰本 壽 三池友佐夫 (兼)佐伯大太郎(兼)棚橋朝 太郎 編纂課長 深江 彦一 名越國三郎 石割松太郎 松井 信一 毛利 宮彦 佐伯大太郎 大野木繁太郎 前田 三男 渡邊 均 石川 欣一 (東京駐在) 大石 泰藏 尾關 岩治 和田 茂生 坂本 勝 (華社員)石原保直、空照 英二、 (兼)北尾敏之助 中央聯絡部長 飯野教世 同 副部長 中島康千代 同 木下不二太郎
------------	--	--	--	--	---	--	---

同 實來増太郎 (兼)大野野馬 京都支局長 上西半三郎 同 次長 藤枝 惠範 鹿野 秀雄 徳山 徳治 吉田 彌男 服部 武雄 藤井 晉猛 越智 祐男 小倉 三男 中川 孝史 片山 茂美 神戸支局長 金子伴次郎 竹谷 勲藏 大塚銀次郎 松室 一雄 松任 克巳 海老根正三 平田外喜二郎 高木 徳 中野 竹一 本田 親男 金子 秀三 (華社員)岡本重造 中央聯絡部長古屋出張所 長(兼) 木下不二太郎 岡部 緑 餘龍健之助 栗原三千夫 名古屋支局長(兼) 木下不二太郎 田中 賢治 高森幸太郎 杉浦 鴻 濱口樽一郎 笠井 寛 (華社員)安保一夫 廣島支局長 安井彦三郎 金澤支局長 勝田宗太郎 福岡支局長心得 新見信 京城支局長 名村 實雄	同 芥川 壽作 小泉 進作 東北支局長 布施 勝治 北京支局長 羽根 信量 足利 耕 大内 秀磨 大連支局長 水野 新幸 持田 賢士 武野 清志 上海支局長 村田 政郎 上海支局長 引田哲一郎 (見習員)引田哲一郎 倫敦支局長 デー・ゼー・エヴァンス 通信部長(天津)中村 五十一郎、(和歌山)喜多清 三、(岐阜)渡邊謙二、(奈良) 町野元三郎、(岡山)加藤純 一、(高松)佐藤定雄、(吳) 柿本吉良、(松江)河野實能 (徳島)松本靖雄、(釜山)嶋 谷陽、(奉天)持田賢士、(莫 斯科)黒田乙吉、(哈爾濱) 玉置房一、(紐育)上原虎重 通信所主任(華社員) (伏見)安井龜三、(堺)福原 一郎、(尼崎)關本源治、(舞 鶴)河野耕一、(山口)大宅 經三、 留學生(倫敦)橋山義太郎 英文大阪毎日主筆 加藤 直士	同 同編纂長 毛利八十太郎 一矢 慧 阪本 俊雄 辨居 伍六 高見澤民與 (東京駐在)指田文三郎 草野榮三郎 青野 健夫 北村 守光 (見習員)正富実人、辻井 彌一郎、桑原重太郎 (囑託)橋口平平、W.L. キングスバリー、アルド・ アドリアノ、 英文毎日事務主任(兼) 鳥田 昇平 (囑託)森山嘉多男 英文毎日協議委員囑託 (全部兼務)奥村信太郎 河野三通士 岡崎 鴻吉 鹿倉 吉次 エコーノミスト部主筆 花岡 敏隆 (西部) 編輯長 渡邊 廣重 中村 憲吉 木村孫八郎 (華社員)木村繁 川西 正鑑 谷口彌五郎 堀田 一甫 小原 敏丸 エコーノミスト協議委員囑 同	同 高石眞五郎 奥村信太郎 城戸 元亮 松内 則信 花岡 敏隆 エコーノミスト聯絡委員囑 託 羽野 秀介 點字大阪毎日 中村京太郎 秘書課長(兼)山田 潤二 桑原 忠夫(兼)渡邊周太郎 (囑託)中島達 地方巡察員 宮森 陸二 (兼)吉村 廣 人事課長 三浦 喜一 大成 樞 岩城義一郎 (見習員)井上練次郎、金 子義男、崎浦重起、野中盛 隆、三好敏夫、松本豊三、 原義男、久富達夫、近藤誠 一、吉岡禮次、 事業部長 橋詰 良一 同 助役 福知 新次 同 世川憲次郎 中島 祐文 岩崎 愛二 林 嘉一 (見習員)羽太文夫 (兼)上田正二郎(兼)森田梅 吉 (囑託)岩田巖、吉田誠治	同 同 助役 鹿倉 吉次 同 武田 榮 (兼)小倉 文菊 中野 美樹 山田保太郎 河村 薫 西田新三郎 大喜多漢治郎 日置東一郎 平田潤治郎 箕輪 清治 山田 淳一 千足吉次郎 平井 正徳 原 光男 富永 久三 岡本 信彦 淺利 義作 石田 均 杉山 勳三 中村 元一 藏田 菅根 (囑託)井上良之助 計算課長(兼)武田 榮 阪田 義亮 川村 敏夫 (華社員)高尾一郎、村野 富美子 (販賣部駐在員) 堀河澤 (活動寫眞班) 内海當三郎 森山 梅吉 阪上 昇 紀内 武夫	同 同 助役 鹿倉 吉次 同 武田 榮 (兼)小倉 文菊 中野 美樹 山田保太郎 河村 薫 西田新三郎 大喜多漢治郎 日置東一郎 平田潤治郎 箕輪 清治 山田 淳一 千足吉次郎 平井 正徳 原 光男 富永 久三 岡本 信彦 淺利 義作 石田 均 杉山 勳三 中村 元一 藏田 菅根 (囑託)井上良之助 計算課長(兼)武田 榮 阪田 義亮 川村 敏夫 (華社員)高尾一郎、村野 富美子 (販賣部駐在員) 堀河澤 (活動寫眞班) 内海當三郎 森山 梅吉 阪上 昇 紀内 武夫	同 同 助役 鹿倉 吉次 同 武田 榮 (兼)小倉 文菊 中野 美樹 山田保太郎 河村 薫 西田新三郎 大喜多漢治郎 日置東一郎 平田潤治郎 箕輪 清治 山田 淳一 千足吉次郎 平井 正徳 原 光男 富永 久三 岡本 信彦 淺利 義作 石田 均 杉山 勳三 中村 元一 藏田 菅根 (囑託)井上良之助 計算課長(兼)武田 榮 阪田 義亮 川村 敏夫 (華社員)高尾一郎、村野 富美子 (販賣部駐在員) 堀河澤 (活動寫眞班) 内海當三郎 森山 梅吉 阪上 昇 紀内 武夫	同 同 助役 鹿倉 吉次 同 武田 榮 (兼)小倉 文菊 中野 美樹 山田保太郎 河村 薫 西田新三郎 大喜多漢治郎 日置東一郎 平田潤治郎 箕輪 清治 山田 淳一 千足吉次郎 平井 正徳 原 光男 富永 久三 岡本 信彦 淺利 義作 石田 均 杉山 勳三 中村 元一 藏田 菅根 (囑託)井上良之助 計算課長(兼)武田 榮 阪田 義亮 川村 敏夫 (華社員)高尾一郎、村野 富美子 (販賣部駐在員) 堀河澤 (活動寫眞班) 内海當三郎 森山 梅吉 阪上 昇 紀内 武夫
---	---	--	---	--	--	--	--

毛利 忠男
 (屬託) 松本秀保
 遞送課長 土井 富藏
 小林 龜三 淺利末四郎
 兒玉富之丞 水原 正治
 田中 利
 (華社員) 條川伊三太郎、清
 森田丈助、松崎鐵三郎、清
 水利作、
 市外係 宮原 至
 (華社員) 溝口力、久保一
 郎
 廣告部長 重本長次郎
 同 助役 島田 昇平
 小野 一布 渡邊周太郎
 橋本 初造 辻本 寛治
 山田 眞一 (東京駐在)
 中村 侃爾 (同) 古賀文雄
 (同) 小塚莞爾 竹 儀平
 伊達 豊吉 (東京駐在)
 藤本 安治 岸田喜三郎
 谷山 良一 (東京駐在)
 河崎 靖夫 (同) 増田正徳
 三原 勝英 撫養 幸男
 藤本 哲夫 佐野 卯平
 (見習員) 小野頼孝、山添
 信吉、白羽武三、邊見登太
 郎、小倉光晴、井田直二、
 岩元信平、大畑猶彦

廣告部協議員(屬託)
 小倉彌太郎
 計算課長 岡佐 喜藏
 千早 嗣郎
 (華社員) 高橋伊三郎
 印刷部長 淺井仁三郎
 技師長兼助役 秋好 實
 田中伊太郎
 (華社員) 眞三壽、福岡多
 賀義
 (屬託) 山田多計治
 (クラブ) 印刷係
 主 務 高山憲之助
 (華社員) 古田義春、平野
 虎一
 活字係長 高平龜太郎
 同 助役 高森壽太郎
 同 豊田英治郎
 同 武田 菊松
 同 島中辰治郎
 (華社員) 大橋徳之助、加
 茂卯三郎、川口榮吉、井上
 龜太郎、清水恒三、勝廣次
 高森鶴一郎、高橋恒三、田
 中福藏、宇和野航治、櫻井
 三三、森山正之助
 船版係長 中村徳三郎
 同 助役 松崎 寅吉
 正木 柳三

(華社員) 樋口善次郎
 印刷係長 鈴木慶一郎
 同 助役 龍野 照吉
 同 大久保徳之助
 井上竹次郎
 (華社員) 谷野清助、松岡
 忠次郎、雲北鶴松
 寫真係長(兼) 北尾敏之助
 同 助役 館林 武夫
 堤 謙吉
 (華社員) 後藤幸太郎、池
 田仁平、高田正雄、野澤剛
 一、(東京駐在) 鈴木徳五郎
 青柳茂三郎、半田義士
 (英文活版係)
 主務(華社員) 吉田鶴三郎
 (汽機係)
 主務(華社員) 川端 逸夫
 會計部長 中里 弘多
 同 助役 福津 清
 同 森 與八郎
 橋本 末男 家水 一夫
 佐田 西吉 橋本 繁藏
 (見習員) 矢野春忠
 (華社員) 眞宮喜代一、柏
 井孝次郎
 庶務部長 藤井 公平
 同 助役 淺井嘉三郎
 今水 忠行 南 彦馬

牧 雄吉 林 賢一
 (華社員) 高木鉄太郎
 (屬託) 立半靜雄
 (受付係) 清水金三郎
 (華社員) 佐々木正之助
 兼掛岩次郎
 自動車運轉手取締(兼)
 南 彦馬
 赤井 恭治
 自動車運轉手取締補助
 (華社員) 岡野英三、小野
 岩次郎、横井勲吉、福田熊吉
 守衛長 平井 豊
 (華社員) 平川祐太郎、岡
 野喜一
 出版部長 山田 潤二
 同 助役 小倉 文菊
 編輯主任 北尾敏之助
 池田 久楠 吉成 恒久
 池田 善男 阪東 忠治
 池田 壽 牧野義七郎
 田中 富藏
 (見習員) 柄澤廣之
 (華社員) 西村宗太郎
 (屬託) 毛利宮彦
 (屬託) 中島達
 出版部協議員屬託
 島屋 政一 神代 龍亮
 検査員

**(屬託) 田中常次郎、森田
 興治、(東京駐在) 藤田榮吉
 (東京駐在) 井上敏一
 (見習) 池袋愛輔
 藤善園診療所
 理事長(兼) 本山 彦一
 理事(兼) 高木 利太
 同 (兼) 桐原 拾三
 主事(屬託) 中村 三徳
 (屬託) 吉田隆助、黒田茂
 二、石原ミツ、岡野シマ、
 井上敏代、中村三千代、森
 口幸之、阪口織之助、原肇
 木下東作、渡邊周太郎
 (臨時事務屬託) 村上徳太
 郎、多田英男、韓葉森
 (華社員) 春日井東助
 客員
 吉田 善佐 芥川龍之介
 小村俊三郎
 社友
 法學博士 堀江 一
 (待命休職) 岡部胤三、小
 倉彌太郎、尾上恒次郎、西
 田嘉吉、南喜山茂樹、水谷
 錦造、大口政夫、上野福松
 新屋茂樹、橋本葉、神村爲
 吉、佐々政徳、橋本米三郎**

大阪朝日新聞社

重 役 (一〇名)
 取締役社長 村山 龍平
 専務取締役 上野 精一
 同 下村 宏
 取締役 村山 長舉
 同 小西 勝一

編輯局長(兼) 高原 操
 同 高橋 謙
 同 石井光次郎
 監査役 杉村廣太郎
 同 (兼任) 辰井 梅吉
相談役 (三名)
 同 今村宗太郎
 同 高橋 謙
 同 石井光次郎

總務局 (二四名)
 (兼) 村山龍平(兼) 上野精一
 (兼) 下村 宏(兼) 村山長舉
 (兼) 小西勝一(兼) 今村宗太
 郎(兼) 高原操(兼) 石井光次
 郎
 總務局勤務 後醍醐正六
 計費部長(兼) 村山 長舉
 同 次長(兼) 木村豊二郎
 同 部長(兼) 野田 安重
 阿部 謙一 格由幸太郎
 總本 進 高尾 亮雄
 辻村 又男 中岡 昇
 中村喜一郎 堀江 猛
 村上 寛 村上 銳夫
 文書課 演田 收藏
 天野 徳藏 片岡 勝子

編輯局 (三二六名)
 編輯局長(兼) 高原 操
 同 幹(兼) 原田棟一郎
 同 (兼) 岡野英之助
 編輯局勤務 武居 巧
 大山千代雄 永井 榮藏
 長瀬 昇三 和田 信夫
 畑田 保次

庶務係主任兼後醍醐正六
 玉木 新造 山本重次郎
 (屬託) 中村平三
 整理部長 大江 理三郎
 同 原田 讓二
 朝倉 斯道 井上藤三郎
 井手 秀雄 一花 健造
 小倉 敏二 太田 桐太
 越智 二郎 菊地 仁郎
 小林 次郎 下井 干城
 鈴木 東民 武田 和夫
 樋口 正徳
 校正係主任
 荒井 豊 伊東八重彦
 伊藤 二朗 泉 正徳
 尾古 四郎 大久保正童
 葛岡 豊三 久保田敏夫
 窪田三樹夫 小林 猛夫
 酒井 芳藏 野田 義雄
 岡田楠一郎 竹原 賢
 玉島 貞治 辻市三郎
 橋本 謙爾 濱口彌十郎
 廣谷 銀藏 山名作之助
 山本 道男
 通信部長 山田 大介
 同 次長 内田 眞吾
 石川銀次郎 板野甲子郎
 上木 正博 神谷 十三
 小林 庸平 佐藤癸巳男

坂本 靜一 孫 輝雄
 仲野 芳夫 野入利三郎
 福井 章二 藤原 丈夫
 松下 元吉 三輪 龜松
 安井善之助 山田 二郎
 外務部長 岡本 鶴松
 伊藤 七司 熊本 重清
 小村 捷治 高橋清三郎
 恒川 眞 高橋清三郎
 丸山 政男 中平 亮
 支那部長 神尾 茂
 香取 桂一 黒根 祥作
 佐藤十良一 千原 楠藏
 中村桃太郎 (休職) 中山優
 經濟部長 和田 信夫
 岩井 寛 内海 丁三
 小川 壽夫 大木 榮
 狩野 正夫 金保 友義
 熊田 重人 佐伯清十郎
 白川 威海 清家節次郎
 永松 治郎 野村 宣
 森 誠一 矢部 利茂
 矢島 幸隆
 社會部長 木村豊二郎
 同 次長 石田 雄二
 同 安藤 壽 和田 義正
 同 今井 精造 恩田 和子
 同 小谷 虎夫(留學) 大塚弘雄
 同 香川 順孝 河北良太郎

北村 鏡子 木村茂次郎 赤井 清司 赤松 靜太
 黒石 壯夫 黒住 征士 淺野 義久 太田 正九
 小曾 仲(兼)近藤 仙吉 河野 龍 長 泰
 磯入 利八 藤崎 昌美 奈良 晉藏 服部政次郎
 澁谷 修 新宮壽天丸 比佐 友香 古家 新
 鈴木 節 鈴木 常吉 山中 伊尹(東京在勤)若月
 千田 良男 田中 豫章 一步(囑託)グレン・シヨ
 多賀 博 田淵 義一 一、(同)白石嵩、(同東京
 辻 真三郎 富田 正俊 在勤)城山登美子
 長谷川義一 花光 健三 運動部長 東口 眞平
 (休職)服部泰三 林 有造 同次長 中尾 濟
 春山 武松 樋口 正徳 有馬 壘 大石雄一郎
 平井常次郎 淵岡鶴之助 坂口 儀作 高井 三郎
 兵藤世平治 松本 憲逸 松本 終吉 渡邊 文吉
 水口 正一 宮内 豊勝 藤部部長(兼)原田 讓二
 宮崎 志朗 森 義雄 聯絡係主任 山口 信雄
 森本賢太郎 入山 作一 柳川 玄徹 木村 恒
 山本 彦一 柳原 愷 速記係主任 高島政之助
 横田巳之助 横山 精一 愛宕 秀敏 伊藤 慎助
 吉村 貞清 渡邊 綱雄 飯田進一郎 上野 幸治
 調査部長 藤田進一郎 大野 金作 荻田 友吉
 調査係 青山太次郎 藤原幸三郎 田畑 米吉
 橋本 隆一 藤岡 秀雄 高橋朝次郎 竹内 上一
 宮川 雄逸 内海 景普 東條 松鶴 中村三津五郎
 圖書係主任 西浦 力松 平田 利文
 伊吹 昭隆 逸見 峻 船戸 航 松内 宇吉
 横田 義徳 矢野 紫朗 村上新一助
 出版編輯部長 鎌田敬四郎 松原 順一 村上新之助
 同次長 渡邊 誠吾 矢野 紫朗 山田 勇

(クラブ部大阪在勤)翁久
 九、栗林茂枝
 海外特派員
 (上海)中村桃太郎、(倫敦)
 島谷亮輔、(紐育)福田市平
 (巴里)重徳來助
 各地通信員(部)
 (京都)局長 吉田 淳
 宇佐美繁丸 越智 經信
 河西 米壽 鈴木 東良
 高橋増太郎 築山 新三
 西村勇治郎 西村道太郎
 本郷 基雄 松本 義郎
 宮崎 小市 若林星太郎
 青木 眞 藤木 九三
 太田 楓太 池田淺次郎
 木村 邊 岡 成志
 田中 善治 武久綱四郎
 坪田 善吉 寺澤 鎮
 森川 舟三 葉 健二
 (名古屋)局長 岡崎圭計
 石塚 一雄 木村 大鏡
 佐々木芳郎 鈴木 正文
 田中 軍治 大上 旭
 (廣島)局長 有田 温三
 (同)支局五十崎夏次郎

編輯部
 岸川 益一 小川 賢三
 杉島 武平 櫻崎 小吉
 高柳 正三 常樂寺義雄
 矢野 紫朗 野中 寛治
 山田 二郎 山本 直一
 營業部主任 鎌田 傳助
 瀨川文次郎 徳永 三雄
 長瀬 武 西川 直
 西山 三郎 馬場茂太郎
 山本新三郎 飯田爲三郎
 (福岡)局長 坂井敏太郎
 (京城)局長 井上 牧
 倉橋 義雄 信夫韓一郎
 柳島 勁
 (以下各地通信部主任)
 (舞鶴)椎野康雄、(大津)坂
 本曾介、(和歌山)山崎康吉
 小川賢三、(彦根)五十嵐太
 刀郎、(奈良)村田謙次郎、
 (堺)近藤仙吉、(姫路)山名
 正太郎、(津)伊藤雲巖、(金
 澤)中津利人、(敦賀)八尾爲
 治郎、(岐阜)藤恒萬六、(各
 務原)黒田治佐久、(福井)瀧
 澤豊、(富山)大塚保二、(岡
 山)堀野眞一、岡田正夫、(山
 口)吉永加次夫、(吳)原田文

三郎、(松江)村上健一、(鳥
 取)古川善市、(高松)大脇有
 忠、(松山)藤本菊一、(徳
 島)田熊喜作、(高知)木村征
 夫、(長崎)福島久吉、(佐
 世保)安達實之助、(大分)河
 本清、(宮崎)島谷藤一、(能
 本)藤田晉治、(佐賀)青木廣
 本、(鹿兒島)兵頭恭雄、(臺北)
 蒲田丈夫、(平壤)新田唯一
 (釜山)青山鶴濱、(新義州)
 岸川益一、(奉天)岡山源六
 大井二郎、(北京)太田宇之
 助、(大連)特派員 武田之彬
 (名地駐在社員)
 (阪神沿線)堀治一郎、(尼
 崎)松浦實雄、(御影)木村
 敏男、(明也)竹岡誠治
 營業局(二七名)
 營業局長(兼)小西 勝一
 營業局勤務 五十嵐 秀
 販賣部長 前田 典三吉
 同次長(兼)忠田 兵衛
 賣別係(兼)五十嵐 秀
 菅野 芳盛 竹澤 貞
 谷木兵太郎 津止 重忠
 中尾國太郎 仁木 正一

藤島 五平 松井 武雄
 矢津 慶一 山崎長太郎
 郵送係 伊良子 奎
 田阪 兼盛
 發送係主任
 (兼)山崎長太郎
 乾 寅太郎 小西 藤吉
 前田 清作 宮地 勲
 森 慶一郎 森田 藤吉
 山原 實 横山捨五郎
 吉本 常士
 販賣整理係主任
 (兼)中尾國太郎
 (兼)五十嵐秀(兼)谷木兵太
 郎
 出版部長 忠田 兵造
 發行係 板垣 哲郎
 三谷 等 小松 美幸
 計算係(兼)岸 毅
 田中 一郎 夏目小一郎
 三谷 等
 外交係主任 蝶野 徳次
 秋田伊三太郎 荒木 秀一
 小橋 義次 殿村圭太郎
 野間 隆季 長谷川義助
 藤本 幸雄 松下清三郎
 矢木義太郎
 (地方販賣局)
 (名古屋)殿村禮吉、(松江)

山崎好平、(京城)藤員淳二
 島田謙一、高坂徳三、前田
 松藏
 廣告部長(兼)今村宗太郎
 外交係主任 田中幸太郎
 池田 忠七 太田 正一
 (兼)岡村彦三郎 木村秀樹
 木村己之吉 田淵 永雄
 瀧野 勇吉 谷口 貞固
 高野 猛 立石 泰輔
 中村 春三 平山 友賢
 村田 泰昌 松田 太郎
 榊本 素 和田静治郎
 整理係主任 辰巳善治郎
 淺野 隆 稻田 雄五
 木村 十郎 北側 政吉
 澤田幸治郎 鈴木彌三良
 橋上 晋吉 廣田 文士
 櫻治 御厨 昂
 水山 朝吉 河方 光喜
 簿計係主任 太田治三郎
 井上嘉一郎 葛城俊太郎
 萬城俊太郎 意匠係主任 岡村彦三郎
 (廣告部東京支部)
 部長 天野 四郎
 辰巳善治郎 神戶 岩吉
 原田兼之助 春原 安雄
 藤田 貞夫 升川 正太
 (兼)小西作太郎 宇田 賢

宮田新活部
 (東朝社廣告部大阪支部)
 (東朝社員)中村榮藏
 會計部長 大内 衛
 會計係 出雲 正一
 木村源之助 近藤 政士
 坂口 稔 鶴田 堅三
 中村 孝雄 根岸 香
 松本 共和
 出納係主任 北島 格
 用度係 神戶 信一
 酒井鶴之助 徳本侃二郎
 菅宮 外良 鉢山久次郎
 野田 安重 田中 長壽
 藤野藤三郎 竹原 吉一
 紙料科長 乙宗 精一
 大西巳之助 奥田 嘉市
 片山 彌藏 角倉銀次郎
 高本勘三郎 寺西 福松
 印刷科長 大西英太郎
 印刷科長 小出 政治
 同副科長 木下與四郎
 大橋繁三郎 杉浦純一郎
 岸田 尚一 杉浦純一郎
 (休職)武市久吉 茶谷信一
 東野喜太三 總井安太郎
 古寺政治郎 製本科長
 製本科長 野田 福藏
 中谷専太郎

津田 昇三
 西村彌太郎
 牧野榮太郎
 小西作太郎
 山崎長太郎
 松岡卯之助
 福井敏次郎
 宇野兵次郎
 岡 九一郎
 川口 一郎
 社領丈三郎
 田中榮太郎
 藤城義太郎
 山中 市松
 久保田正吉
 (囑託)(六名)河内 一彦
 (囑託)増本眞次郎
 (囑託)松田幾之助
 (客員)(三名)河野 恒吉
 山内 貞郎 渡邊 勝
 合計 五二九人

電機科長 佃 慶助
 小山政雄
 製版部長 柴 一雄
 製版科長 山田 芳徳
 丸山 正巳
 四版科長 越島 善次
 上田謙太郎 佐藤 清次
 岡島 次六 波々伯部方次
 東 昌夫 榊村 傳
 宮田 良一 鷺尾清太郎
 (囑託)(六名)河内 一彦
 久保田正吉
 (囑託)増本眞次郎
 (囑託)松田幾之助
 (客員)(三名)河野 恒吉
 山内 貞郎 渡邊 勝

追 加
 分の 備後切締

朝 刊 夕 刊



嚴 正 — 好 侶 伴

復 興 — 大 飛 躍

山 青 話 電
香 四 四 八 三 香 五 一 六 二 香 九 二
香 一 五 六 三 香 二 八 七 二 香 一 八 七 二
一 の 一 堀 間 卅 區 橋 京 市 京 東
社 聞 新 と ま や

最新刊

發行所

東京 橋本區 宗十郎町一七
振替口座 東京 九七三六番

正路喜社 販賣所

東京 丸の内區 神田區 七三八
大阪 東區 高島橋 五

- ▽ 菊判・箱入・極美装△
- ▽ 定價 貳圓五拾錢△
- ▽ 送料 二十七錢△



の 界 告 廣
盤 針 羅

株式 會社 正路喜社 編

▽ 新聞廣告の研究は商戰の第一線に立つに著るべき最も重要な問題であつて是が巧拙如何は其商業上、經濟上の勝敗の鍵であると言つていい

▽ 本誌は廣告代理業として四十年の經驗を有する正路喜社が昨秋帝國ホテルに第一回廣告文化講演會を開催し其講演の精華を加ふるに更に所界廣告の十數氏に依頼して完全な形とした編で、現今世界の廣告界が如何なる進程にあるかは本書一巻の中に納めてある

廣告科學の現況…………… 實業界社長、明大講師、井田十二郎
暗示と隱微に關する購買心の誘起…………… 東京商大教授、高橋實次郎
日米廣告業人觀…………… 印刷雜誌社長、郡山 善男
廣告に對する大なる誤解…………… 正路喜社社長、布屋 徹吉
廣告の現在と近い未來…………… 内田 魯庵
新聞廣告の歴史觀と國民經濟上の地位…………… 中外商業新報、築田敏次郎
廣告と發行部數…………… 東京朝日新聞編輯長、杉村謙太郎
統計上より見たる廣告料と購買料の關係…………… 小野 秀雄

廣告論壇…………… 報知新聞社社長、經濟學博士、大田 正孝
米國に於ける廣告販賣の一斑…………… 時事新報支那人、大岡 環平
百貨店の廣告及び販賣政策…………… いとう松房、廣 津 多男
生きた廣告文の作り方…………… 竹内 慎吉
廣告は購買に非ず…………… 望月 健
發明品の購買と廣告政策…………… 帝國發明協會幹事、工藤 謙
著作の研究考察批判…………… 藤原 義典、工藤 謙、那山 善男



頁十號每紙本

年五十二百九千一第用年五十五百五千一第第

特種	二五	廣告	第一
定額	五	行行	第二
材料	五	金金	第三
廣告	五	金金	第四
廣告	五	金金	第五
廣告	五	金金	第六
廣告	五	金金	第七
廣告	五	金金	第八
廣告	五	金金	第九
廣告	五	金金	第十

社報日新又神 發行所
 一五本杉人須 部午美保人須
 七〇五山青路電日一進現京東 局支東京
 五九五北縣電新田橋北阪大 局支阪大

神戶新聞

日刊通信發行 (明治廿年) 創立
 新聞廣告取扱 文藝通信
 本邦最古 **東京通信社**
 電話半區 (二〇四六) (四六八六) (六〇六一) (一六四一) 番番番番
 東京市麹町區永樂町一丁目一番地
 東京海上ビルディング七二一七二二二番地

日刊通信發行
 新聞廣告代理業

豐國通信社

社長 谷口新造

東京市京橋區南佐柄木町六

電話銀座 (一三七七) (一三七八) (二一六〇) 番番番

諸新聞大取次

根岸良吉事務所

東京市京橋區南鍋町二ノ二

電話銀座 二二一五〇

振替東京 二一〇一〇

大正十二年六月廿五日
第三種郵便物認許

刊 日

信通夜晝

濟經・治政・會社

東京市京橋區錦屋町壹番地

發行所 株式會社 晝夜通信社

電話銀座一九八・七七二七

◆非是に漬茶お◆ 永森



るほか治宇

茶じうほ

菓子店
あり

の大果果效告廣展發にく次に新刷

社報新越北

市岡長縣瀉新

の聞新諸に並報官
扱取告廣

營兼信通聞新

(假登業所)

丸の内三英社ビル
電話大手五三〇四
東京支店

榮町五丁目
電話元町七八三〇
神戸支店

京都市三條通烏丸東入

株式
會社 **京華社**

電話中
三〇〇〇
八八八

西區傳馬町六丁目
電話東三〇九三
名古屋支店

東區北濱四丁目
電話東三六三三
大阪支店



エビス
ザッポロビール

清涼飲料

リボンシトロン

新製品 ナポリン

鑑名

い(あ)一...マ わ二...三 の四...五 さ六...七
 は六...九 か三...六 く四...五 き七...八
 に九...〇 よ八...三 ち三...六 ち七...八
 ぽ〇...一 た〇...三 ま六...九 ち七...八
 へ二...三 そ...六 け...三 ち七...八
 と三...四 つ三...六 ふ六...九 し七...八
 ち...四 ね...六 こ六...九 ひ六...八
 り...四 な六...九 え七...八 ち七...八
 め...四 む四...七 て...六 せ...七
 を(お)四...三 う四...七 あ六...九 す七...八
 ぢ...四 ぢ...七 ぢ...八 ぢ...九

(詳細の索引は篇末にあり)



い(あ)

中ノネー(ハッシー) トラ
ンスパシヒク主筆(四十四歳)
コペンハーゲン大學卒業。加州
大學卒業。(著書)布哇島、小説
「ゼ、コード、オグ、ジ、カルス
ライズ」(趣味)旅行、讀書、ボ
ト、(現住)東京アドヴァタイザ
社内。

五十嵐丈夫 米澤新聞社
記者。米澤市。(明三十一年生)
米澤中學校(新聞部)大正九年
より前社に入社。(現住)米澤市
本場町

五十崎夏次郎(杏沖) 大
阪朝日新聞社門司支局長。伊豫。
(現住)下関市丸山町細江畔光明
山(電話八〇番)

井川秋(秋村) 豊州新報社
部長。大分縣大分市(明治九年
十一月生)中等學校卒業。(經
歴)兵庫縣刑部部長、明治三十
五年三月東京警監學校卒業。香
川縣第四部高等係刑部部長、明
治四十二年十月豊州新報社入社
(趣味)狩獵(現住)大分市荷揚
町一八

井岡亮輔 萬朝報社發送部

井上勝好 報知政治部(明
四三、八入社)京都府(明一八、
一二)生。父母妻子あり、京都宣
命館、中央大學卒業。(趣味)旅
行(現住)麩町區三番町六五

井上忠次 株式會社京華社
副參事本店營業課助役。大津市
(明廿四年十二月生)(新聞部)大
正二年六月三日入社(現住)京都
市田中上柳町三二(電話)上三三
九九

井上まつ子 東京毎日新
聞社。東京。(明三七年四月)東
京府立第二高等女學校卒(現住)
小石川區武島町一五

井上正明 帝國通信社(現
住)東京市外大森山王二六二四
(電話大森九〇九)

井上圓三 前中央新聞社整
理部長。埼玉縣見玉郡見玉町(明
廿七、四、廿三)生。(新聞部)東
京毎日新聞社々會部部長(現住)市
外東大久保四〇九

井上公夫(露舟) 東京毎日
新聞社々會部。新潟縣(明二六
九)生。高等小學校卒業後中學三
年修業退學(新聞部)明治四十
三年三月やまと新聞社入社、大
正十一年退社、大正十一年六月
報知新聞社入社、大正十三年六

月退社、同十三年六月二十現社
に入社(趣味)植木、演藝(現
住)神奈川県鶴見町豊岡(電話
四〇一)

井上靜穗 大牟田日日新聞
主幹。熊本縣宇土(明二八、六)
生(新聞部)大正九年四月九州日
日新聞社に入り同十二年三月同
社宮崎支局長、十四年四月九州
日日の分身大牟田日日主幹とな
る。(趣味)繪畫と靈術。(現住)
大牟田市不知火町(電話)二七五
番)

井澤弘 東京日日學藝課長
(大二入社) 栃木縣(明二二、
一一)生。妻。(現住)牛込南横町

伊原敏郎(青々園) 都新聞
社調査部長(五六歳)。(現住)赤
坂青山南町五ノ三五。(電話)青山
一〇六九)

伊東千吉(涙華) 宮崎新聞
社延岡支局長主任記者。宮崎縣延
岡小路。(明二五、三)生。延
岡天眞社二年修業、大阪藥學校
第三學期修業中退學。(新聞部)
大正三年宮崎毎日新聞社入社八
年退社、同十一年宮崎新聞社入
社。(趣味)運動。(現住)宮崎縣
延岡中町(電話)長百五十四番)

伊東浩逸(横山) 大阪共同

通信社主幹。神奈川県(明一一
二)生。中央大學、米國ミシガン
大學。(新聞部)神奈川県、靜
岡縣屬、大藏省官吏、日本鐵道
會社、萬朝報通信記者、中央新
聞記者、製鹽會社理事。(趣味)
酒、旅行、演說。(現住)大阪市
東區京橋二の二二。(電話)東四五
八、六五〇、北五六七〇番)

伊東圭一郎 東京朝日通
信部長(大四、一二入社) 盛岡
市(明一八、五)生。母と妻。(新
聞部)中外商業、靜岡民友。(著
作)二三あり。(現住)府下千駄
谷五三八(電話)青山三三三〇)

伊東孫市(錦水) 豊州新報
社、記者兼日出支局長、大分縣
速見郡藤原村(明一八、一)生。
(新聞部)大分縣別府市に於て西
海之實業雜誌發行、廢刊後、豊
州新報社に入社。(趣味)新聞
事業。(現住)大分縣速見郡日出
町。(電話)一三番)

伊藤正徳 時事新報編輯次
長(大二、入社) 水戸(明二二、
一〇)生。家族數人、慶應大學理
財科。(新聞部)經濟部より政治
科それより現任、戦時、講話、
華府の三度海外に特派。(著作)
海戦を想定して、破壊より建設
へ改造の戦ひ、潜水艇と潜水戦。

新報、主筆。滋賀縣(明一三、一)生。機に中等教育を受けたばかり學歷といふべきほどのものなし。(新聞歴)滋賀日報、大阪新報。(趣味)俳句。(現住)滋賀縣彦根町

板井武雄(栗園) 大分新聞社記者。大分縣(明三三、五、一三)生。專門學校卒業。新聞歴)大正十年二月入社。(趣味)演説、寫眞。(現住)大分市竹町

板津直光 萬朝報政治部。富山縣富山市(明三三、三、九)生。早稻田大學政治經濟學部卒業。(現住)東京市牛込區辨天町

板倉卓造 時事新報主筆。慶應大學教授。(現住)芝區白金三光町四五(電話三七七七)

泉哲 國民新聞社、法學博士(現住)府下保谷町字保谷

泉政吉(風浪) 臺灣新報社記者。宮城縣仙臺市(明二六)生。明治大學、日本大學、各法政學專攻。(新聞歴)東京の新聞記者生活を經て臺灣新聞から現在(趣味)政治。(現住)臺中市室町五二八。(電話一七五)

和泉大治 新聞販賣業。宮城縣牡鹿郡鮎川(明七、三、一六)生。(新聞歴)大正七年十月より新聞取次販賣今日に至る。(現住)北海道空知郡瀧川町(電話架設中)

稻原勝治 東京日日新聞編輯顧問。鳥取市(明一三、一)生。A B スタンフォード大學AM ハーグアード大學。(新聞歴)外交時報、大阪朝日新聞、英文東京日日。(趣味)散步、讀書。(現住)相州片瀬

稻垣伯勝 讀賣新聞社、經濟部長兼論說委員。大阪府(明一八、二、二五)生。明治四十二年七月早稻田大學、大學部商科學卒業。(新聞歴)東京朝日新聞政治經濟部記者、大正日日新聞(鳥居業川氏經營時代)經濟部次長兼論說委員。(趣味)音樂、農事(現住)市外世田谷町太子堂三二〇

稻垣政次郎(信濃) 帝國總督府參事官。(現住)東京府下大森源藏ヶ原(電話大森一〇七〇)

石井衛太 國際通信社庶務課長

石橋恒喜(麒麟) 萬朝報社會部。千葉縣(明治三四、一二)生。東京外國語學校卒業。(趣味)運動。(現住)東京市神田區裏藥師町九番野方

石橋正平 萬朝報社監査役。東京芝三田(二三、三)生。慶大文科中途退學。(新聞歴)記者生活十一年。(趣味)寫眞(現住)府下西栗鴨宮仲二〇九三

石部幸一 國際通信社、會計課長

石川六郎 前國民編輯局長。秋田縣(明一三、三)生。妻。早大英文科出。(新聞歴)勤續十五年。(思想)人道的社會主義とでも申すべきか。(趣味)廣い。淺い。(現住)東京市外上目黒八四四。(電話高輪二三三〇)

石川辰男 都新聞社記者。常陸笠岡(明二五、九、二)生。(新聞歴)東京日日新聞社。(趣味)荒地探し、職員事(女)(現住)府下瀧野川町四ヶ原五一

石川政芳(星影) 新潟毎日通信社廣告部外交員。長野縣下伊那郡飯田町(明一六、五)生。獨學。(趣味)讀書、俳句。(現住)四谷荒木町二七

今西吉治郎(吉雄) 東京日日新聞學藝課(大二三、一)生。早大英文學科卒業。(新聞歴)報知新聞社會部主任、家庭部主任、東京朝日演藝記者、萬朝報夕刊編輯。(著作)子供の讀み物種々(趣味)讀書、煙草。(現住)芝車町八三

今村重嗣(綱丸) 萬朝報經濟部。北海道旭川市(明二五、三、一五)生。東京立教大學卒業。南學士。(趣味)廣汎。(現住)東京府下池袋一六七外方

今村宗太郎 大阪朝日相談役兼廣告部長(明三九、八)生。京都府(明一〇、五)生。家族八人。專修大學理財科卒業。(新聞歴)本社經濟記者(明三九、廣告部長(大四))。趣味)讀書。(現住)大阪府市外藤屋北の口一八七(一)。(電話五三三七)

生野順一 帝國通信社政治部長

池田一藏 京華社副參事、本店營業課助役。大津市(明二八、三、二二)生。同志社大學經濟科卒業。(新聞歴)大正八年八月一日入社。(現住)大津市中保町五

池田龍藏(南次) 大阪毎日新聞社經濟部副部長兼エコー、スト編輯次長兼論說課。山形縣鶴岡市(明二五、一)生。慶應義塾大學理財科卒業、英米獨二ヶ年間留學。(趣味)讀書、酒、著述、旅行。(現住)大阪府天王寺正寺町六

池田有一 萬朝報政治部、和歌山縣(明三五、一一、五)生。大正一四年中央大學法學部卒業。(現住)市外瀧ノ川田端六五三

池田寅次郎 帝國通信社取締役

池田留三郎(一溪) 株式日報社主筆兼編輯長。大阪府(明一三、三)生。中學校程度。(新聞歴)明治四十年以降一貫。(趣味)風流、書畫、教育獎勵。(現住)尼崎市竹谷新田

池田安藏 東方通信上海支局英文課主任。長崎縣島原町(三十二)生。(新聞歴)大正三年より同五年迄倫敦に滞在してから英語の研究を爲す。(現住)上海英界路一人二號。(電話北三四八〇)

池田菊太郎 東京毎日新聞

石田禾洲(禾洲) 美濃大正新聞政治部長。岐阜縣安八郡南抗瀬村大字外野(明二九、九、二五)生。(新聞歴)美濃大正新聞(十九)生。伯利亞亞兵に従軍(二十三)生。(趣味)釣魚。(現住)大垣市南寺内町(電話一二五)

石田左近(櫻芳) 時事新報社家庭部。東京(明二二、三)生。明治大學法科、東京外國語學校專修科(夜學英語科)中途退學。(新聞歴)大六萬朝報社に入り、七ヶ年間外國人係記者を勤む。大十三年七月時事新報社に轉じ、社會部家庭部擔當す。(趣味)旅行、讀書。(現住)東京市外大井町字立合五一六

石田佐太郎(業水) 豊州新聞經濟部長。福岡縣宗像郡河東村(明二五、四、三)生。(趣味)淨瑠璃。(現住)大分市春日町

石田善佐 高田日報主筆(大八)入社。越後(明二六、八)生。早大政經科卒。(現住)新潟縣高田市中寺町

石塚恭江 報知新聞沼津特派員。靜岡市沼津(明二二、一)生。鐵道學校特等科卒。(新聞歴)新聞民友、時事新報を経て大正十年現社。(趣味)寫眞、旅行。

石川順(成郎) 新愛知新聞社外報部員兼論說委員。千葉縣成田町(明三五、三、七)生。上海東亞同文書院卒業。(新聞歴)大十三年十二月現社。(現住)名古屋市中區北清水町三ノ六

石川善平 都新聞社商況部次長。茨城縣(明九、一)生。(現住)小石川區白山前町四四

石河幹明 時事新報名譽主筆。現住)麻布區富士見町九(電話五〇一三)

石龜保 正路書社庶務課員。岩手縣盛岡市仁王下臺二二(明二一、一〇、二)生。盛岡高等農林學校中途。(經歷)横濱増田合名會社附屬松尾鐵業株式會社員(趣味)園藝。(現住)荏原郡世田

石川政芳(星影) 新潟毎日通信社廣告部外交員。長野縣下伊那郡飯田町(明一六、五)生。獨學。(趣味)讀書、俳句。(現住)四谷荒木町二七

今西吉治郎(吉雄) 東京日日新聞學藝課(大二三、一)生。早大英文學科卒業。(新聞歴)報知新聞社會部主任、家庭部主任、東京朝日演藝記者、萬朝報夕刊編輯。(著作)子供の讀み物種々(趣味)讀書、煙草。(現住)芝車町八三

今村重嗣(綱丸) 萬朝報經濟部。北海道旭川市(明二五、三、一五)生。東京立教大學卒業。南學士。(趣味)廣汎。(現住)東京府下池袋一六七外方

今村宗太郎 大阪朝日相談役兼廣告部長(明三九、八)生。京都府(明一〇、五)生。家族八人。專修大學理財科卒業。(新聞歴)本社經濟記者(明三九、廣告部長(大四))。趣味)讀書。(現住)大阪府市外藤屋北の口一八七(一)。(電話五三三七)

生野順一 帝國通信社政治部長

池田一藏 京華社副參事、本店營業課助役。大津市(明二八、三、二二)生。同志社大學經濟科卒業。(新聞歴)大正八年八月一日入社。(現住)大津市中保町五

池田龍藏(南次) 大阪毎日新聞社經濟部副部長兼エコー、スト編輯次長兼論說課。山形縣鶴岡市(明二五、一)生。慶應義塾大學理財科卒業、英米獨二ヶ年間留學。(趣味)讀書、酒、著述、旅行。(現住)大阪府天王寺正寺町六

池田有一 萬朝報政治部、和歌山縣(明三五、一一、五)生。大正一四年中央大學法學部卒業。(現住)市外瀧ノ川田端六五三

池田寅次郎 帝國通信社取締役

池田留三郎(一溪) 株式日報社主筆兼編輯長。大阪府(明一三、三)生。中學校程度。(新聞歴)明治四十年以降一貫。(趣味)風流、書畫、教育獎勵。(現住)尼崎市竹谷新田

池田安藏 東方通信上海支局英文課主任。長崎縣島原町(三十二)生。(新聞歴)大正三年より同五年迄倫敦に滞在してから英語の研究を爲す。(現住)上海英界路一人二號。(電話北三四八〇)

池田菊太郎 東京毎日新聞

石田禾洲(禾洲) 美濃大正新聞政治部長。岐阜縣安八郡南抗瀬村大字外野(明二九、九、二五)生。(新聞歴)美濃大正新聞(十九)生。伯利亞亞兵に従軍(二十三)生。(趣味)釣魚。(現住)大垣市南寺内町(電話一二五)

石田左近(櫻芳) 時事新報社家庭部。東京(明二二、三)生。明治大學法科、東京外國語學校專修科(夜學英語科)中途退學。(新聞歴)大六萬朝報社に入り、七ヶ年間外國人係記者を勤む。大十三年七月時事新報社に轉じ、社會部家庭部擔當す。(趣味)旅行、讀書。(現住)東京市外大井町字立合五一六

石田佐太郎(業水) 豊州新聞經濟部長。福岡縣宗像郡河東村(明二五、四、三)生。(趣味)淨瑠璃。(現住)大分市春日町

石田善佐 高田日報主筆(大八)入社。越後(明二六、八)生。早大政經科卒。(現住)新潟縣高田市中寺町

石塚恭江 報知新聞沼津特派員。靜岡市沼津(明二二、一)生。鐵道學校特等科卒。(新聞歴)新聞民友、時事新報を経て大正十年現社。(趣味)寫眞、旅行。

石川政芳(星影) 新潟毎日通信社廣告部外交員。長野縣下伊那郡飯田町(明一六、五)生。獨學。(趣味)讀書、俳句。(現住)四谷荒木町二七

今西吉治郎(吉雄) 東京日日新聞學藝課(大二三、一)生。早大英文學科卒業。(新聞歴)報知新聞社會部主任、家庭部主任、東京朝日演藝記者、萬朝報夕刊編輯。(著作)子供の讀み物種々(趣味)讀書、煙草。(現住)芝車町八三

今村重嗣(綱丸) 萬朝報經濟部。北海道旭川市(明二五、三、一五)生。東京立教大學卒業。南學士。(趣味)廣汎。(現住)東京府下池袋一六七外方

今村宗太郎 大阪朝日相談役兼廣告部長(明三九、八)生。京都府(明一〇、五)生。家族八人。專修大學理財科卒業。(新聞歴)本社經濟記者(明三九、廣告部長(大四))。趣味)讀書。(現住)大阪府市外藤屋北の口一八七(一)。(電話五三三七)

生野順一 帝國通信社政治部長

池田一藏 京華社副參事、本店營業課助役。大津市(明二八、三、二二)生。同志社大學經濟科卒業。(新聞歴)大正八年八月一日入社。(現住)大津市中保町五

池田龍藏(南次) 大阪毎日新聞社經濟部副部長兼エコー、スト編輯次長兼論說課。山形縣鶴岡市(明二五、一)生。慶應義塾大學理財科卒業、英米獨二ヶ年間留學。(趣味)讀書、酒、著述、旅行。(現住)大阪府天王寺正寺町六

池田有一 萬朝報政治部、和歌山縣(明三五、一一、五)生。大正一四年中央大學法學部卒業。(現住)市外瀧ノ川田端六五三

池田寅次郎 帝國通信社取締役

池田留三郎(一溪) 株式日報社主筆兼編輯長。大阪府(明一三、三)生。中學校程度。(新聞歴)明治四十年以降一貫。(趣味)風流、書畫、教育獎勵。(現住)尼崎市竹谷新田

池田安藏 東方通信上海支局英文課主任。長崎縣島原町(三十二)生。(新聞歴)大正三年より同五年迄倫敦に滞在してから英語の研究を爲す。(現住)上海英界路一人二號。(電話北三四八〇)

(現住)沼津市通楳町。(電話五七五)
石村誠一 大阪毎日新聞社 愛媛縣宇摩郡上分町。慶應義塾大學。ニュー・ヨーク、コロムビア大學。(新聞歴)明四十二年東京日日新聞社入社外國通信部長。大正十三年十月大阪毎日新聞社へ轉。(趣味)散步と草花と會談
石黒仁三郎 (現住)兵庫縣香櫛園員。社商況部。東京市本所區吉田町二六(明三九、一〇、一四)生。(新聞歴)大正九年一月現社へ。(趣味)スポーツ。(現住)東京市本所區吉田町二六
石倉惣吉(多異花) 米澤新聞社主筆。山形市外本澤村(明二二、二)生。山形中學卒業(新聞歴)山形新聞記者(四五、四)米澤新聞主筆(三、四)山形新聞編輯長(九、九)日刊山形編輯主任(一一、七)(趣味)文藝、繪畫、俳句。(現住)米澤市立町
石丸重義 土陽新聞社編輯局長。(明一九、一〇)生。(新聞歴)土佐新聞社(現住)高知市大川筋六〇。(電話二二一〇)
石坂朔郎 やまと新聞社、貴族院擔任。埼玉縣大里郡奈良村(明二九、七、二三)生。京都帝國大學法學部政治學科卒(大正十年三月)。(新聞歴)大正十年九月國民新聞社入社、大正十二年十一月退社、十三年五月やまと入社現在、(大正十年八月より九月迄約一ヶ月萬朝報に居た事あり)。(趣味)各種の運動競技、遊び事は何れでも。(現住)市外淀橋町角三〇三
石坂喜太郎 (開月子) 報知新聞社熊谷支局長。群馬縣(明一八、六)生。(新聞歴)明三十九年七月報知新聞社芝第二分局の店員になり。明四十二年五月報知社員に採用され販賣部に入り今日に至る。(趣味)文藝。(現住)埼玉縣熊谷町木町四丁目
石澤博 時事新報社參事、人事課長。(現住)府下目黒下目黒九五〇
石島悌次郎 國民新聞社編輯部。東京市神田區(明二六、一〇)生。(新聞歴)時事新報、讀賣新聞。(趣味)劇と江戸趣味。(現住)赤坂區仲ノ町六
石森久彌 (五城樓、追川) 朝鮮公論社社長、朝鮮新聞理事(三十五歲)仙臺東北中學卒業、明大商科、外語。(新聞歴)大正十四年五月朝鮮公論社の全權利を繼承して社主兼社長となる。(趣味)觀劇、長唄、柔道、野球、書畫。
(現住)京城市大和町三ノ六(電話三三二八)
石母田文雄 東京大勢新聞。宮城縣(明二六)生。(新聞歴)やまと、國民、橫濱毎朝、東京夕刊。(主義)皇室中心主義(趣味)政治。(現住)東京府下巢鴨町三の二七
石動清兵衛 帝國新報社通信部主任。芝區門前町(明一一、三九)生。(新聞歴)帝國新報創刊より終始勤続。(現住)日本橋區蛸殼町三ノ一二

赤坂區青山南町五ノ八四(青山二二七六)
馬場乾 東朝校正課長。(現住)麻布市兵衛町一ノ一〇
馬場達夫 二六新報理事兼政治部長兼整理部長兼映畫部長。岡山縣(明八、七)生。母妻、仙臺第二高等學校、同志社早稲田等。(新聞歴)ジャパン、タイムスに十年、紐育オリエンタル、レビユーに四年(著作)改造の叫、勞働問題と普通選舉、(思想)自由主義。(趣味)旅行。
(現住)四谷區南寺町一〇(電話)馬場常太郎 大阪時事新報社京都支局長。京都府紀伊郡納所村(明二七、七)生。(現住)京都府紀伊郡内村字泰長老。(電話伏見五八二番)
馬場直美 中外商業新報政治編輯部編輯。福島縣(明治一六)生。曾て早大に學んだことあり、校友に推薦さる。(新聞歴)明治三十八年五月萬朝報社に入社、政經部編輯部長、言論を擔當、大正一三年五月退社、同八月現社に入る。(著書)下らないもの數種。(趣味)旅行。(現住)府下大井町四九一二(電話大森一一一五五)

土生彰(笹東又ハ梧竹) 福井新聞主筆。福井縣武生町(元治元、九、二二)生。獨學。(經歷)武生町長、福井縣會議員、福井市會議員、衆議院議員。現在(趣味)漢詩和歌俳句。(現住)福井縣武生町浪花十七(電話四六六)
羽田宏 株式會社東京米穀商品取引所調査部。東京府(明二八、三、二九)生。専修大學經濟科日黒六四四
波津久清 中外商業新報社經濟部。早稲田大學出身。(現住)中野町二三三
原潤一郎 東京毎夕新聞社政治部編輯。富山縣上新川郡新保村(明一三、一〇、二六)生(現住)本郷區蓮葉町四五
原正紀 神戶新聞社編輯。京都府福知山町。京都府主筆。(新聞歴)日州副主筆。現住)宮崎市文化村
原田棟一郎 大阪朝日新聞社編輯。大阪府(明一三、三、二七)生。(新聞歴)明治三十二年一月大阪朝日新聞社へ入る、三十七年日露戰役出征、三十八年十二月凱旋、四十年十月上海特派員、四十二年一月歸社、四十四年十二月組育(特派員大正三年歸朝、爾來整理部長、八年政治部長、十年支那兼任、本年二月主筆。(現住)大阪市東區今橋五の十
原田達郎(愚僊) 秋田新聞大阪支局長。東洋自由新聞主筆。日本通信編輯長。大阪此花區上福島南三の二三(明二九、一、一)早稲田大學文科修業關西大學法科卒業。(新聞歴)大阪新報、阪輸入新聞經濟部、大阪新報、大正日日新聞を経て現在に至る著書として「女の世中」「人生探訪」「帽子の下から」「先へ」關西人物史」等あり。(趣味)讀書(特に哲學宗教に關したるもの)。(現住)大阪市此花區上福島南三の二三。(電話土佐堀四一〇二)
原田讓一 大阪朝日新聞整理部長兼編輯部長。備中(明一八、三、二六)生。明四一年六月早稲田大學英文科卒業。(新聞歴)卒業と同時に讀賣新聞に入社、報知新聞を経て大正三年東京朝日新聞に入社、その間從軍記者として青島に赴き、また歐米の新開界視察、大正十四年一月現社に轉ず。(現住)兵庫縣芦屋伊勢崎田五五八
原本郁郎 東京毎日新聞記者。静岡(明三三、二、一八)生。早稲田大學法學部卒業、貴族院速記練習所卒業。(新聞歴)雜誌「社會及國家」編輯。(趣味)文藝運動(殊に野球)。(現住)牛込區神樂坂神樂館。(牛込二八二)
林泉(哭山) 東京毎日新聞社。福島縣雙葉郡長塚村大字松倉(明三一、一、二三)生。大成中學校卒業、早稲田大學政經科卒業。(新聞歴)大正十三年十月一日現社へ。(趣味)政治、文學。(現住)東京市本郷區根津靈藥町一〇宮川方
林峻一 秋田魁新報社社會部

馬場幸次郎(幸學) 伊豫新聞社東京支局長。京都市(明七、八、二八)生。中等學卒業。文學專修。(經歷)官吏、外國商、館員、貿易業、會社員。(趣味)書畫骨董。(現住)東京市牛込區若松町八二。(電話四谷二七三〇)
馬場達夫(清唱) 二六新報社、整理、政治、映畫三部兼任。神田今川小路。番町小學、開成中學、早稲田大學英文科。(新聞歴)やまと新聞、二六新報、中央新聞、東京毎夕新聞、二六新報。(趣味)多趣味。(現住)府下大井町坂下二七二三
馬場龍海 東京朝日新聞社會部長(四十一歲)。弘立曹洞宗大學卒業(大正二年七月)。(新聞歴)大正二年九月東京朝日新聞入社今日に至る。(主義)大乘佛教主義。(趣味)酒少量と旅行。(現住)四谷花園町九五
春山武松 大阪朝日新聞記者(大八、四)入社。姫路(明一八、七)生。妻、都文館中學。第一高等學校を経て東京帝大文科哲學科文學部卒業大學院に三年間繪畫史研究。(新聞歴)東朝の客員となり美術方面に關係し後大

阪朝日に轉じ文藝美術擔當。(著作)宗達と光琳。光悦と乾山。日本の繪畫。(現住)兵庫縣武庫郡蘆屋字濱吳川六
春秋原在文 東京日日新聞副主筆。(現住)市外千駄ヶ谷町五八八。(電話青山一〇〇九)
秦野藤太郎 豊州新報社營業部。大分郡植田村(明一八、六、二八)生。大正十年十一月豊州新報入社。(現住)大分市大道町
服部錠三 都新聞第一部長(明一六、七、二四)生。早稲田大學政治科卒業。(新聞歴)報知新聞經濟部記者、高田新聞主筆、二六新報政治部記者、都新聞政治部記者。(現住)府下西大久保二七二。(電話四谷五四七)
花岡敏隆 東京日日新聞社經濟部長。(明一一、六、四)生。慶應義塾理財科卒業。(新聞歴)明治三十九年大阪毎日經濟部に入り五ヶ年後關門支局、京都支局、神戸支局を経て現在に至る(現住)東京芝白三光町四〇八(電話高輪一三〇八)
原龜夫 帝國新報社廣告部長。岡山縣津山(明一一、八、二二)生。(新聞歴)日本電報通信社等を経て現在に至る。(現住)府下

四人物史」等あり。(趣味)讀書(特に哲學宗教に關したるもの)。(現住)大阪市此花區上福島南三の二三。(電話土佐堀四一〇二)
原田讓一 大阪朝日新聞整理部長兼編輯部長。備中(明一八、三、二六)生。明四一年六月早稲田大學英文科卒業。(新聞歴)卒業と同時に讀賣新聞に入社、報知新聞を経て大正三年東京朝日新聞に入社、その間從軍記者として青島に赴き、また歐米の新開界視察、大正十四年一月現社に轉ず。(現住)兵庫縣芦屋伊勢崎田五五八
原本郁郎 東京毎日新聞記者。静岡(明三三、二、一八)生。早稲田大學法學部卒業、貴族院速記練習所卒業。(新聞歴)雜誌「社會及國家」編輯。(趣味)文藝運動(殊に野球)。(現住)牛込區神樂坂神樂館。(牛込二八二)
林泉(哭山) 東京毎日新聞社。福島縣雙葉郡長塚村大字松倉(明三一、一、二三)生。大成中學校卒業、早稲田大學政經科卒業。(新聞歴)大正十三年十月一日現社へ。(趣味)政治、文學。(現住)東京市本郷區根津靈藥町一〇宮川方
林峻一 秋田魁新報社社會部

味、觀劇、長唄、柔道、野球、書畫。
(現住)京城市大和町三ノ六(電話三三二八)
石母田文雄 東京大勢新聞。宮城縣(明二六)生。(新聞歴)やまと、國民、橫濱毎朝、東京夕刊。(主義)皇室中心主義(趣味)政治。(現住)東京府下巢鴨町三の二七
石動清兵衛 帝國新報社通信部主任。芝區門前町(明一一、三九)生。(新聞歴)帝國新報創刊より終始勤続。(現住)日本橋區蛸殼町三ノ一二

馬場

名教中身出身。(新聞歴)新秋田新聞社。(趣味)音楽。(現住)秋田市樽山廣小路

林榮美(麗泉) 日本教育新聞社長兼大阪府新聞主筆。(大一一、一八)生。三州豊橋(明二四、四)生。國學院大學國文科、ミューン大学史學科。(新聞歴)東京朝日通信員、報知録倉支局長、熊野實業主筆、紀伊毎日新聞主筆、時事日報主筆。著作)近代思潮十講。國民道德私見、基督教批判、歴史教授の革新(思想)惟神主義、日本主義(趣味)旅行、歴史、哲學。(現住)和歌山市貴志榮谷二五八

林田龜太郎(雲梯) 東京毎日新聞社主筆。熊本市熊本城二ノ丸(文久三、八)生。東京帝國大學法科大學卒業。(新聞歴)法制局參事官、臨時帝國議會事務局書記官、衆議院書記官兼農商務省參事官、衆議院書記官等に任ぜらる。歐米を視察す。現に衆議院議員、從三位勳二等。(趣味)讀書に關心。(現住)東京市麻布區筈町八。電話青山六〇一〇

濱田彌太郎(晃) 國民新聞大阪特派員。東京市芝區松本町(明三〇、一一、一一)生。神戶小學校、三田中學校卒業、第三高等學校二學年中途退學、立命館大學法科本科卒業。(新聞歴)大正十年九月日本民衆新聞社社會部長に採用、大正十一年九月東京日日、大阪毎日新聞濱松通信部に轉ず、大正十二年九月一日國民新聞社地方編輯部に轉ず、大正十三年三月十三日大阪に特派さる。(趣味)婦人問題の研究、創作、旅行。(現住)大阪市北區堂島中一丁目。電話北九八三、六七〇

濱中正一 大阪時事新報經濟部長。青森縣上北郡七戸町。明治四十四年慶應大學政治科出身。(新聞歴)慶大卒業後直ちに大阪時事新報社政治部へ入る次で經濟部に轉じ更に同社神戸支局長を経て現地位に至る。(現住)兵庫縣御影町字上ノ山。(電話御影九六三)

濱野福三 報知新聞社營業局長。茨城縣新治郡石岡町(明一四、六、二四)生。(新聞歴)明治四十四年一月一三日現社へ。(現住)府下代々幡町幡ヶ谷二〇六

濱島覺成 都新聞社第四部編輯。愛知縣知多郡大府町字北崎(明三二、一一)明治大學政治科卒業。(新聞歴)新愛知新聞社、讀賣新聞社。(現住)東京市外落合町上落合七九四

萩野伊八 國際通信社編輯部。秋田縣山本郡響村(明三六、六)生。日露協會學校卒業。(新聞歴)大正十三年五月現社へ。(現住)麴町區麴町八丁目一三

橋詰良一(せふ郎) 大阪毎日新聞社事業部長。尼崎市(明四、八、一九)生。(新聞歴)教員生活及二十年の記者生活。(趣味)幼兒生活に關れること、淨瑠璃を聞くこと。(現住)大阪府下池田町字室町七番町。電話池田二六六

橋本春次 都新聞社。東京(明三六、一)生。(現住)府下岩淵町字稻村四八八。電話架設中)

橋本義昭 時事新報社會計部主事。(現住)東京市外高田町雜司谷上屋敷一、一四二

橋本隆一 大阪朝日新聞社調査部(整理部)策動。京都府(明二九年)生。同志社大學政治科卒業(大正九年)。(新聞歴)大正十三年十月大阪朝日入社。(趣味)讀書並に蒐集。(現住)兵庫縣武庫郡片屋濱岸屋宇伊勢講田

橋本堯三郎(鳴舟) 北海日日新聞夕刊編輯長(三十五歲)早稻田大學文科卒業。(新聞歴)北海タイムス、北海道報社會部長、樺太日日新聞主筆、北海毎日新聞編輯長。(著書)北海の史蹟、日本名勝行脚、橋本系圖、井手の山吹、橋本風、橋本肥後守。(主義)穩健なる忠君愛國主義。(趣味)和歌、俳句、書畫。(現住)旭川市九條通十四丁目左三號

橋本松道(杜來兒) 奉天毎日新聞主筆。福井縣(明二二、一一)生。日本大學。(新聞歴)大正九年五月東京毎日新聞社より現在へ。(趣味)旅行。(現住)奉天十間房第四區社宅。電話四二番)

橋本豐 大分新聞社營業部。大分縣(二七歲)廣島廣陵中學卒。(現住)大分市長濱町(自宅電話一〇)

箸本太吉 中外商業新報。金澤市(明二五、七、一六)生。日本大學。(新聞歴)大正六年支那に特派され又大正十一年倫敦特派員として同地に在約二年英、日、歐米各國を視察して約二英里島郡長崎村字地藏堂九五二

長谷川亨(現堂) 元山毎日新聞編輯局長。島根石見國(明二二)生。(新聞歴)京城日報社關門支

局長、北鮮支局長を経て大正十三年六月現社に入る。(趣味)俳句、近頃園藝を初じ、旅行。(現住)朝鮮元山市春日町(電話七〇〇)

長谷部清一(抱石) 靜岡民友新聞社記者。愛知縣碧海郡櫻井村大字櫻井(明二七、六)生。愛知縣立第二中學校卒業。(趣味)麻球。(現住)靜岡市鷹匠町一丁目三七

長谷川光太郎 萬朝報編輯長。靜岡縣田方郡三島町(明二一、一〇)生。早稻田大學商科(新聞歴)報知新聞より現社へ。(趣味)觀劇、寄席、野球。(現住)市外世田ヶ谷代田東大原一三六(京王電車笹塚下車)

長谷川了(やまと) 新聞社政治部長。東京四谷區(明二九、九)生。岩倉鐵道學校卒業。日本大學中途退學。(新聞歴)帝國通信社政治部(大七、一〇)、國民新聞社外報部(同九、九)、華府會議に特派さる。(同二〇、一〇)やまと新聞社政治部(同二三、六)。(現住)東京市四谷區西信濃町一六

長谷川嘉重 中外商業新報社員。(明二二、一一、一一)生。慶應義塾本科二年修業。(經歷)明治四十二年より高等馬車並に自動車製造販賣業經營大正五年都合に依り廢止、大正六年より七年延嶺山(炭礦)經營、大正十年二六新報(就職)經營、十年農林新聞廣告部主任、同十一年より現職にある。(趣味)園藝、(現住)府下大崎町居木橋一五三

長谷川淑夫(世民) 函館新聞社長兼主筆(明四五、創刊當時より)。佐渡國相川(明四、九)生。母妻子供五人、帝大法科大學政治科選科二年迄。(新聞歴)北海新聞主筆、後持主社長、東京で雜誌王道主筆。(思想)自由主義にて建設的個人主義。(趣味)和歌、英文學、特に詩。(政黨)憲政會。(現住)函館區谷地頭町百。(電話二五〇五)

蓮田聖三郎 松屋吳服店廣告部長。(明二二、五、七)生。(現住)松屋吳服店內

伴博 國民新聞甲府支局記者。山梨縣南巨摩郡新川村。甲府商業卒業。(新聞歴)郵便局通信技手、映中日報記者、大正十二年四月現社へ。(現住)甲府市外相川村海原敷

伴野清市(櫻) 信濃毎日新聞社上田支局長。長野縣南佐久郡野澤町(明一一、一一、一八)生

(現住)上田市梅野町。(電話)上田二二〇

半田義一 國際通信社大阪支社發達部主任

半澤玉城 外交時報社主。宮城縣(明二〇、三)生。(新聞歴)やまと新聞及讀賣新聞編輯局長(現住)麴町區下六番町五〇。(電話四四六八五)

坂東英一(菁莪) 美濃大正新聞社營業部長。(明二四)關ヶ原に生る。大垣商業學校卒業。(新聞歴)明治四十三年現社へ。(現住)岐阜縣大垣市東長町。(電話七〇七番)

二島菊次郎(簾月) 東京朝日橫濱通信局長(大三八)生。福岡縣(明一八、三)生。早大專門部政經科卒。(新聞歴)因伯時報主筆編輯長、山陰日日編輯長。(現住)東京府下在原郡入新井町新井宿一一一七。(電話)大森九六六番)

新居房太郎 二六新報社營業局長。德島縣(明二五、四、二八)生。日本大學法律科卒業。(新聞歴)大正二年現社へ。(趣味)旅行。(現住)下邊谷六一九)

西川政義 帝國通信社福岡兼關門支局長。石川縣(明二六、一一)〇生。(現住)福岡市西中洲八八二。(電話)福岡一八〇六)

西川太治郎(映陽) 近江新聞社滋賀日報社取締役、編輯監督(六十一歲)。早大政經科卒業。(趣味)書畫。(現住)大津市材木町。(電話)三九

西川小三郎(錦江) 近江新聞社滋賀日報社常務取締役、營業監督(三十四歲)。早大政經科卒業。(趣味)旅行其他。(現住)大津市神出町。(電話)大津五九二)

西片朝三 滿洲報社長兼社主。新潟縣新井(明一〇、一、一一)生。米國南加大學醫學部、桑港醫科大學留學部。(新聞歴)醫師(自明治三十二年至大正九年三月)米國羅州府毎日新聞社長自明治四十年至同四十二年)滿洲日日新聞社副社長(自大正九年三月至自十一年十二月)滿洲報社主筆社長(自大正十年七月至今日)。(現住)大連市楠町一〇〇(電話)五、二二六

西田常三郎(冷月) 元山毎日新聞社長。岡山縣(明一三、八)生。早稻田大學。(新聞歴)學

校を出て、直に現新聞社創立。
(趣味)園藝、俳句、ゴルフ、麻雀、旅行。(現住)朝鮮元山府城洞。(電話五五〇)

西田廣吉

(抱水) 日本通信業部長。大阪府北河内郡藤原川(明二、二、一九)生。米國ニューヨーク、サートバート大學卒業。(新聞歴)銀行に二ヶ年間勤め後雑誌「實力の世界」を経営。著書として「關西事業史」「實力之人物論」あり。(趣味)乗馬。(現住)大阪府北河内郡藤原川。(電話藤原川三〇)

西村公明

東京日日新聞社部聯絡部長

西村博

(白水) 天津時報社長。大毎東日天津特派通信員。京都府伏見町。(慶應三、一)生。(新聞歴)明二十七八年京都日出新聞朝日新聞京都新聞等關係支那通信の事に興り同三十年支那に渡り天津にて漢字新聞(支那に於ける邦人新聞初開拓者)新聞報を経営し戊戌政變に遇ひ義和團匪事件に籠城し天津日日新聞(漢字)北清日報(邦字)兩新聞を起し現在の天津日報を経営す。(趣味)古金石、考古學、俳句(現住)天津日本租界常盤街(電話八〇)

保坂麗山

(建寅) 天業民報社編輯局幹部。東京(慶應武、參、二五)生。(現住)東京市外池袋

星野錫

帝國新聞社監査役。堀治一郎(十二絃)大阪朝日新聞社阪神沿道通信主任。佐賀縣唐津町(明二二、一)生。中學中途退學。(經歷)郷里の新聞を振出しに佐賀毎日、福岡日日等を経て大七現社に入る。(趣味)旅行。(現住)兵庫縣西宮市分銅町二一。(電話西宮七五四)

堀克己

釜山日報社東京支局長。富山市(明二二、六、二二)生

堀江敬吉

(禿山) 東京日日新聞社販賣部助役。大阪市(明二〇、五)生。(經歷)大阪毎日新聞社より現在に至る。(趣味)俳句、子供と散歩、此頃少しだが養鶏を初めて楽しんで居ます(現住)在原郡下日根五六〇

鮑振青

(秋影) 上海時報日本特派員。日本神戸(一八九七、六)生。神戸小學、上海第一中學、東京一高英米留學三年。(經歷)華盛頓大使館秘書勤務一年、日本に於て新聞事業従事二年、

細川虎太郎

遼東新報社家庭部擔當。和歌山市(明三一、二)生。中學卒業、同志社大學中

細沼秀

(小峽葵三) やまと新聞社編輯。武藏原野(明二九)生。大倉高商專修科卒。(新聞歴)中央新聞、大正日日。(現住)横濱伊勢町三ノ五九川本方

細貝邦太郎

ジャパン、エイクス論評部。新潟縣(明二、九)生。慶應大學文學部。(經歷)教育、翻譯、著作。(趣味)文學、宗教、能樂、圍棋。(現住)芝罘町八

ヘツヂエス

(マツタケ) (二十九歳) ジャパンアドヴァタイザ一主筆クリスチャンサイエンスモニター東京通信員、ドリュエリ、カレッヂ文科卒業、ミズリ一大學新聞科卒業。(新聞歴)二三米紙のニュースエヂター、ヂヤパンアドヴァタイザ一及びヒラデルヒヤ、パブリックレツヂャー誌北東通信員。(主義)寛大。(趣味)讀書、旅行

ヘンドール・ジエー

ジャパン、タイムス社。オーストリア、一八九八生。クインズランド大學。(趣味)編輯。(現住)麹町區有樂町三ノ二

兵頭泰雄

(併號六款) (三十七歳) 大阪朝日新聞庶務部通信部主任。大五慶應義塾大學部政治科及新聞科卒業。(新聞歴)大正五年愛媛新聞社へ入社、大正九年大阪朝日新聞社へ歸社。(著書)五し。(主義)禁酒、禁煙

本庄宰甫

(白石) 中央新聞社大阪支局長。岡山縣皆田郡久田村(明一〇、二、二)生。(經歷)明治四〇年よりやまと新聞、報知新聞、萬朝報各大阪支

本庄昇

(鳴鼓) 豊州新聞社主筆。愛媛縣宇和島市(明一一、一〇、七)生。中等學校卒業。(新聞歴)宇和島新聞編輯部主筆、妙宗其他の記者等。(趣味)旅行史蹟研究等。(現住)大分市千代

本郷晋

大分新聞社廣告主任(三十六歳)。中學卒。(經歷)大正四四大分新聞社へ入社。(趣味)釣、碁、尺八。(現住)大分市荷揚町

本多文雄

いばらき新聞主筆(明四二、一〇入社)。東京(明五、四)生。妻娘。東京專門學校文學科。(著作)小説二篇及雜著數種。(思想)相互扶助。(趣味)

本多徳一

(如洗) 萬朝報社常務取締役、營業局長兼務、有隣生命保險株式會社取締役、新潟縣西蒲原郡燕町(明一五、五)生。日本大學師範部出。(經歷)朝鮮總督府財務官、小樽木材株式會社庶務用度課長、有隣生命保險株式會社大阪東京各支部長(現住)本所區森川町一(電話小石川三二七四)

本野龍猪

(春日野綠) 大阪毎日新聞社内國通信部部長兼運動課。東京市(明二五、二、一七)生。第一高等學校。(新聞歴)大阪新報社、中央新聞社を経て大阪毎日(地方課、社會部編輯より現職)。(趣味)探偵小説。スポーツ。(現住)大阪市西成區玉出町五六二

星野辰男

(保篠龍精) 東京朝日新聞社、グラフ部次長。長野縣(明二五、一)生。東京外國語學校佛語科卒業。(新聞歴)文部省、輸出入商會社、東京高等學校を経て大一二末東朝社に入社。(現住)東京市小石川區林町六六

星野武男

(梅嶺) 天業民報社編輯主任。新潟縣(明二六)生

細野繁勝

國民新聞社治部部長兼論議委員。長野縣北安曇郡南小谷村(明一七、六)生。大正三年中央大學商科卒業。(新聞歴)やまと新聞政治部長より現社へ。(現住)市外淀橋町角答二ノ六八。(電話四谷五一五)

細野龍猪

(春日野綠) 大阪毎日新聞社内國通信部部長兼運動課。東京市(明二五、二、一七)生。第一高等學校。(新聞歴)大阪新報社、中央新聞社を経て大阪毎日(地方課、社會部編輯より現職)。(趣味)探偵小説。スポーツ。(現住)大阪市西成區玉出町五六二

星野辰男

(保篠龍精) 東京朝日新聞社、グラフ部次長。長野縣(明二五、一)生。東京外國語學校佛語科卒業。(新聞歴)文部省、輸出入商會社、東京高等學校を経て大一二末東朝社に入社。(現住)東京市小石川區林町六六

星野武男

(梅嶺) 天業民報社編輯主任。新潟縣(明二六)生

西口進卿

(紫漢) 馬關毎日新聞、編輯局長兼社會部長(三十歳)。早大に學ぶ。(新聞歴)臺灣新聞に四ヶ年馬關毎日三ヶ年。(著書)下村安氏序「南國物語」(定價四圓)。歌集、南の國の「阿里山夜話」(一幕)「霧社物語」(三幕)他數篇あり、長篇小説に「人類の家」あり。(主義)別にむづかしい主義はない。(趣味)劇。(現住)下關市秋田町二の三

堀田芳譽

大阪商工新聞編輯長、印刷材料新聞相談役。香川縣丸龜市(明一九、八、二)生。第一高等學校獨法科、東京市大經濟學選修。(新聞歴)東京新聞通信社勤務、山陽新聞經濟部長(現住)大阪府中河内郡布施町長堂。(大阪南四〇六六)

堀田善太郎

(如天) 國民新聞社編輯部長。富山市(明一六、七)生。獨學研修。(新聞歴)北陸新聞より大正二年國民新聞に入社。(趣味)乗馬、劍道。(現住)在原郡駒澤村字上馬引澤

堀田敬吉

(禿山) 東京日日新聞社販賣部助役。大阪市(明二〇、五)生。(經歷)大阪毎日新聞社より現在に至る。(趣味)俳句、子供と散歩、此頃少しだが養鶏を初めて楽しんで居ます(現住)在原郡下日根五六〇

早稲田大學理工科。(新聞歴)大九天業民報創刊以來勤務。(趣味)登山。(現住)東京澁野川田端三九九
星野周 京華社東京支店。栃木縣(明二九、三、二九)生。東京工學校。(經歷)通信省傳職。(趣味)園藝。(現住)府下上落合六三〇
本田龍 小樽新聞東京支局長(四十五歳)中學卒業。(新聞歴)函館日日新聞、北門新聞。(主義)皇室中心。(趣味)獵漁。(現住)芝區櫻川町一七。(電話青山六八四四)
本多徳一 (如洗) 萬朝報社常務取締役、營業局長兼務、有隣生命保險株式會社取締役、新潟縣西蒲原郡燕町(明一五、五)生。日本大學師範部出。(經歷)朝鮮總督府財務官、小樽木材株式會社庶務用度課長、有隣生命保險株式會社大阪東京各支部長(現住)本所區森川町一(電話小石川三二七四)
本多文雄 いばらき新聞主筆(明四二、一〇入社)。東京(明五、四)生。妻娘。東京專門學校文學科。(著作)小説二篇及雜著數種。(思想)相互扶助。(趣味)

何事にも。(現住)水戸市裏南町(電三三九)
本間穆 (白雨又は丘森之助) 萬朝報社藝部記者(家庭、演藝、子供萬朝報、新潟縣西蒲原郡漆山村(明二三、一、七)生。新潟縣立長岡中學校卒業。(經歷)一、小學校代用教員(尋常一年擔任)を三年勤めました。一、横濱税關官吏を八年勤めました。(趣味)演藝と園藝。(現住)東京府下大井町篠谷六一六九
本間久雄 國民新聞社客員
本郷晋 大分新聞社廣告主任(三十六歳)。中學卒。(經歷)大正四四大分新聞社へ入社。(趣味)釣、碁、尺八。(現住)大分市荷揚町
本庄宰甫 (白石) 中央新聞社大阪支局長。岡山縣皆田郡久田村(明一〇、二、二)生。(經歷)明治四〇年よりやまと新聞、報知新聞、萬朝報各大阪支

目下上海特派員日本駐在日奉職中(趣味)音學、運動、旅行、活動社交界、婦人問題。(現住)神戸市北長狹通二丁目。(電話三宮五三四)
北條貞次郎 株式會社京華社外務員(本店)。京都市(明一一、九、一六)生。(經歷)明治四十五年二月十日入社。(現住)京都市上京區田中飛鳥町一六
寶性確成(天堂) 大連新聞編輯長(大九、三入社。明二四富山縣生早大政經學科出身。(新聞歴)やまと、萬朝、國民、大連新聞。(著作)滿洲財界の鳥瞰(政黨)無。(現住)大連市撫津町二區三十五號地(電三三二一八)
細沼秀 (小峽葵三) やまと新聞社編輯。武藏原野(明二九)生。大倉高商專修科卒。(新聞歴)中央新聞、大正日日。(現住)横濱伊勢町三ノ五九川本方
細貝邦太郎 ジャパン、エイクス論評部。新潟縣(明二、九)生。慶應大學文學部。(經歷)教育、翻譯、著作。(趣味)文學、宗教、能樂、圍棋。(現住)芝罘町八
ヘツヂエス (マツタケ) (二十九歳) ジャパンアドヴァタイザ一主筆クリスチャンサイエンスモニター東京通信員、ドリュエリ、カレッヂ文科卒業、ミズリ一大學新聞科卒業。(新聞歴)二三米紙のニュースエヂター、ヂヤパンアドヴァタイザ一及びヒラデルヒヤ、パブリックレツヂャー誌北東通信員。(主義)寛大。(趣味)讀書、旅行
ヘンドール・ジエー ジャパン、タイムス社。オーストリア、一八九八生。クインズランド大學。(趣味)編輯。(現住)麹町區有樂町三ノ二
兵頭泰雄 (併號六款) (三十七歳) 大阪朝日新聞庶務部通信部主任。大五慶應義塾大學部政治科及新聞科卒業。(新聞歴)大正五年愛媛新聞社へ入社、大正九年大阪朝日新聞社へ歸社。(著書)五し。(主義)禁酒、禁煙

社を出て、直に現新聞社創立。
(趣味)園藝、俳句、ゴルフ、麻雀、旅行。(現住)朝鮮元山府城洞。(電話五五〇)
業部長。大阪府北河内郡藤原川(明二、二、一九)生。米國ニューヨーク、サートバート大學卒業。(新聞歴)銀行に二ヶ年間勤め後雑誌「實力の世界」を経営。著書として「關西事業史」「實力之人物論」あり。(趣味)乗馬。(現住)大阪府北河内郡藤原川。(電話藤原川三〇)
東京日日新聞社部聯絡部長
天津時報社長。大毎東日天津特派通信員。京都府伏見町。(慶應三、一)生。(新聞歴)明二十七八年京都日出新聞朝日新聞京都新聞等關係支那通信の事に興り同三十年支那に渡り天津にて漢字新聞(支那に於ける邦人新聞初開拓者)新聞報を経営し戊戌政變に遇ひ義和團匪事件に籠城し天津日日新聞(漢字)北清日報(邦字)兩新聞を起し現在の天津日報を経営す。(趣味)古金石、考古學、俳句(現住)天津日本租界常盤街(電話八〇)
天業民報社編輯局幹部。東京(慶應武、參、二五)生。(現住)東京市外池袋
帝國新聞社監査役。堀治一郎(十二絃)大阪朝日新聞社阪神沿道通信主任。佐賀縣唐津町(明二二、一)生。中學中途退學。(經歷)郷里の新聞を振出しに佐賀毎日、福岡日日等を経て大七現社に入る。(趣味)旅行。(現住)兵庫縣西宮市分銅町二一。(電話西宮七五四)
釜山日報社東京支局長。富山市(明二二、六、二二)生

逸見義亮

(趣味) 謠曲、俳句、園藝、運動 (現在) 鹿島市東千石町八四 (電話一六六三)

別枝長夫

(星香) 天業民報社 經理部長。鹿島縣明六、三、二四(生)。(現住)下谷區上根岸町七三

逸見義亮

東京通信社編輯次長兼紙型通信部主任。神奈川県中郡大山町(明二二、一〇)生。尋常小學。(趣味)文藝、美術、音樂、書。(現住)東京市麴町區四番町一〇

戸塚一郎

農民新聞社長(四十三歳)中學卒業後日本大學法律部に遊ぶ。(新聞歴)大正十三年一月二十六日祝典を記念として創立農村振興を目的とし、著書農村振興論を著作中。(主義)不運不黨。(現住)浦和町四〇一七(電話浦和二三)

土岐善磨

東京朝日新聞學

藝部長。東京淺草(明一八、六月)生。早稻田大學文科出身。(新聞歴)早稻田卒業後すぐ讀賣新聞に入り、社會部長たること数年東朝に轉じ、社會部次長を経て現任の職務に移つた。(趣味)古典、ローマ字宣傳。(現住)東京市外目黒八〇四(電話高輪五五八二)

土肥常温

國際通信社ロカル部主任(四十歳)早稻田大學政治科卒業。(新聞歴)大正三年二月現在の社に入社する以前に米國聯合通信社及びロイテル等に勤務。(現住)麻布區谷町七〇(電話芝七〇三五)

外狩顯章

中外商業新報社 藝部長。愛知縣岡崎在坂崎(明二二)生。(現住)東京府下碑金村東大原一、一六二

百々武雄

(F) 鋼路新聞 厚岸支局主任(三十二歳)札幌中學。(新聞歴)厚岸時事主幹、厚岩魁主筆。(趣味)生物社會學に關する讀書。(現住)北海道厚岸町大字梅香(電話厚岸局二二二)生。(現住)東京府下碑金村東大原一、一六二

藤極準一

(トカシ) (綠兒) 萬朝社會部(大九、二入社)富山縣(明三〇、四)生。中央大學政經部卒。(趣味)旅行、寄席、芝居。(現住)四谷坂町一〇〇

鳥居憲式 (現抱) 静岡民友新聞經濟部長。愛知縣碧海郡安城町(明二三、一〇、七)生。(新聞歴)貿易業から轉じて大正十二年七月現社へ。(趣味)美術、寫真、劇。(現住)静岡市傳馬町一八

鳥居政幸

静岡民友新聞社 常務取締役(卅二歳) (現住)静岡市西草深七六(電話一三一九) 遠矢才一 (一陽) 鹿兒島朝日市政記者(大二、一入社) 鹿兒島縣(明五、二)生。家族五人、鹿兒島市今藤染鹿兒島師範校、熊本德富猪一郎氏の大正義塾、東京三田英學校出身。(新聞歴)鹿兒島實業。(著作)俳人の鞋痕(南州翁略傳也)(思想)健實なる孔孟主義。(趣味)十有九年來中海水浴を實行し傍作詩及び書の趣味を有す。(現住)鹿兒島市稻荷町

豊田藤助

(兼邦) 豊州新報社 別府支局長。大分市(明一六、一、一五)生。(新聞歴)明治三十九年十一月豊州新報入社營業部勤務別府支局長、町會議員、市議員、消防組頭、政友本黨別府公友會幹事長、市教育會評議員。(趣味)讀書、書畫。(現住)大分縣別府市(電話六五七)

豊田謙一

(香友) 薩州新報社 別府支局營業部主任。大分市(明二四、一、一)生。(新聞歴)步兵特務曹長、別府支局營業部主任、帝國在郷軍人會別府市分會副長。(現住)別府市(電話六五七)

豊田光雪

(光雪) 尾道山陽日報社主筆(二十八歳)東京中央大學法科卒業。(新聞歴)大正九年山陽日報社に入り一寸退いて大阪時事、藝備日日、大阪毎日の地方部を擔當し大正一二年一月再度入社。(著作)地方に屬するもの數種。(主義)中立。(趣味)文藝。(現住)尾道市十四日町二一八(電話二八)

豊田二隅

大分新聞記者。大分縣(明三三、三、一五)生。(現住)別府市

豊島良昌

(學堂) 高知新聞東京支局、關東電氣株式會社專務取締役(明二〇、一)生。妻長男、中央大學法科卒業。(新聞歴)日刊實業通信社主幹。(思想)皇室中心主義。(趣味)園藝、音樂。(政黨)憲政會。(現住)四谷區番町三三(電話番町二九六四)

刀彌館正雄

東朝販賣部長

富田健一

(竹馬野人) 北國新聞社主筆(三十八歳)日本新聞、元山日報、日本電通、東京毎夕、大阪新報、金澤新報等。(主義)皇室主義。(現住)金澤市美木町四五

時國理一

(三田限) ジャマタイムス 傍らパンフレット通信發行。東京(明二五)生。一高、中央大學法科。(新聞歴)東京毎夕、毎日、電通、國際通信、二六新報。(現住)日本橋濱町二の二

富岡福壽郎

東京日日新聞仙臺支局長。茨城縣結城郡總上村小島(明二〇、三)生。下妻中學。(新聞歴)水戸いばらき新聞を経て現社へ。(現住)仙臺市本町三四(電話長二一八九)

富岡林太郎

萬朝報商況部長

富田岩代

(松北) 信濃毎日編輯顧問(明二〇)入社。松本市(元治元、四)生。子供十人。(新聞歴)二十四歳にして現社に入り後編輯長として十五年間更に現在に至る。(著作)坂田式稻作改

德美松太郎

(夜月、大客) 堂(現住)京都市日新聞文藝部主任(四

德永新吾

萬朝報社校正部長(電話高輪二)

德富猪一郎

(藍峰) 國民新聞社長兼主筆。熊本縣(文久三、一、二五)生。幼兒父湛水に家學を受く。兼政止水の塾に學ぶ。京都同志社。(新聞歴)明治二〇年「國民之友」を同廿三年「國民新聞」を發刊、同廿五年「家庭雜誌」を同廿八年英文「極東」を發刊す、同四十四年、貴族院議員に勅選、帝國學士院會員、國民教育獎勵會、青山會館を主唱創設す。(趣味)讀書、旅行、散步、樹木。(現住)東京府下大森山王(電話高輪二)

堂屋敷竹次郎

(岳海) 獨立「慈光」經營(明一四、一)生。本願寺文學寮及立命館大學等在學。(新聞歴)京都通信記者中外日報記者、九州毎日新聞主筆及編輯長等。(著作)「教育勸語真髓」(天寶)「大安住の地を求めて」その他人物評論等數種(主義)佛敎道德を根柢とする國家主義。(趣味)讀書の外何もなく。(現住)熊本市迎賓町二五二

德光衣城

東方通信社北京支社長。大阪(明一七、七)生。學歴早稻田大學政治經濟科(中途退學)(新聞歴)やまと、東京毎日、報知、大正日々の各新聞社を経て大正九年東京毎夕新聞社編輯局長となり十三年二月退社翌三月東方通信社へ入社直に北京支社へ赴任。(趣味)創作を耽溺する位が關の山。(現住)北京東城樓風樓二十號(電話東局一八四八)

禿氏岳山

(芳外) 岩手日報社專務取締役。福井縣今立郡片上村吉谷(明一八、十、一)生。歴東洋大學出身。(新聞歴)明治三十九年十一月本派本願寺の命を受け北米開教視察の爲め渡米、翌四十年六月加奈陀晚香坡市發行大陸日報(日刊四頁)主筆として入社、四十二年六月退社米國各地視察の上同年十一月歸朝、四十三年二月やまと新聞入社大

德富猪一郎

(藍峰) 國民新聞社長兼主筆。熊本縣(文久三、一、二五)生。幼兒父湛水に家學を受く。兼政止水の塾に學ぶ。京都同志社。(新聞歴)明治二〇年「國民之友」を同廿三年「國民新聞」を發刊、同廿五年「家庭雜誌」を同廿八年英文「極東」を發刊す、同四十四年、貴族院議員に勅選、帝國學士院會員、國民教育獎勵會、青山會館を主唱創設す。(趣味)讀書、旅行、散步、樹木。(現住)東京府下大森山王(電話高輪二)

德永新吾

萬朝報社校正部長(電話高輪二)

德美松太郎

(夜月、大客) 堂(現住)京都市日新聞文藝部主任(四

千葉龜雄

千葉新聞社編輯局長。山形縣酒田、籍は宮城縣遠田郡(明一、九)生。仙臺第一中學、早稲田大學、外國語學校清語科、つれも中途退學、國民英文科卒業。(新聞歴)文庫記者、日本及日本人記者、日本、國民新聞、時事新報、よみうり新聞等の社會部長、東洋大學新聞學教授、臨時國語調査委員。(趣味)讀書、旅行。(現住)府下大井町のえ塚四八四二(電話大森一〇一〇)。

千葉博己

東京毎日新聞社社長。廣島縣(明一七)生。中央大學。(經歷)諸會社重役、東京府會議員、參事會員たりしことあり。(趣味)政治、新聞經營。(現住)東京市牛込區矢來町二(電話牛込五五六一)。

千葉稻城

函館毎日編輯長(明四、一)入社。青森縣(明六、二)生。妻一男三女と一弟。(著作)北海史談、富の北海道、北海道名所古蹟等。(趣味)酒旅行。(現住)函館市天神町八三。

千頭享

(帆南) 土陽新聞社主筆(大八入社)(明一五)生。家族二人。(著作)等明原理(趣味)發明考案。(現住)高知市本町筋五丁目一〇〇。

遅塚金太郎

都新聞社理事、第二部長。静岡縣沼津市(明元、二、二九)生。(新聞歴)報知新聞の特派として日清役に従軍後、都新聞に入り今日に至る。(趣味)旅行。(現住)市外淀橋町角番一四八(電話四谷二四〇)。

近田兼平

臺灣新聞社庶務部長。愛知縣(明一七、二)生。師範學校出身。(新聞歴)教育家より製酒會社を経て大正十一年七月臺灣に酒專賣制施行するに専賣局に入り官吏生活をすること三箇年、後新聞社に入社せり。(趣味)小島、盆裁音楽。(現住)臺灣市臺中一七五。

近松千代磨

(巴魯) 萬朝報經濟記者。滋賀縣(明二七)生。早稲田大學大學部政治經濟科出身。(新聞歴)大正十年四月月社へ。(現住)東京市赤坂區槍町二二。

長泰

前大阪朝日新聞記者。福井中學校、第一高等學校、東京帝國大學法學部。(新聞歴)高等學校時代萬朝報に滿鮮支那

旅行記アルプス登山記

井澤氏等と寄せることあり大正十四年五月末大阪朝日退社。(趣味)自然と人生。(現住)兵庫縣武庫郡御影町那家字庄田二二六

張德秀

(靈山) 東亞日報社副社長。黃海道軍寧郡下孤里面孤山里(明二七、三、一〇)生。大正五年早稲田大學政治科大學部卒業。(新聞歴)明治四十一年鎮南浦理事職給任被命、明治四十二年平壤府廳職員被命。(趣味)讀書。(現住)京城府恩泊一六三(電話光化門九一四)。

忠田兵造

大阪朝日新聞社出版部長兼販賣部長。滋賀縣八幡町(明一八、六)生。神戸高等商業學校卒業。

季教範

(一波) 間島新聞編輯長(二十八歳)私立大學卒業。(新聞歴)間島時報以來今日に至る、他に朝鮮通信員業務。(趣味)讀書。(現住)間島龍井。

梁源模

(素泉) 東亞日報報取締役營業局長。全羅南道陽郡昌平里(明二六、四、三)生。大正七年早稲田大學政治經濟科大學部卒業。(新聞歴)大正九年

光州第一學校教員被任

大正十年同校解任。(趣味)音樂。(現住)京城府鐘路通六丁目六〇(電話光化門八一四)。

布屋徹吉

正路喜社取締役社長。和歌山市(明五、二)生。(新聞歴)明治二十四年入社大正元年合資會社代表社員大正十四年株式會社取締役社長。(現住)麻布區網代町一番地(電話高輪四六八六)。

を(お)

小原駒馬

(月南) 新愛知新聞社編輯局長(四十三歳)(新聞歴)土陽新聞主筆。(現住)名古屋市中區杉村町北屋敷七三三。

小原俊一

都新聞社會部部長。東京麻布理穴(明三四、一二、二六)生。早稲田大學英法科卒業。(新聞歴)今春卒業後直ちに都新聞に入社未だ新米なり。(趣味)演藝、ボート。(現住)府下中野町雑色三八九。

小原鶴城

新愛知經營新聞社編輯局長。岡山縣津山町(明二五、四、二)生。(新聞歴)

小野正雄

日本電報通信商會支局長(三十一歳)中學卒業(新聞歴)大正六年二月入社。(現住)住居市沙留町二二(電話二〇二八)。

小野平八郎

(東放夫) 東華新聞社長(三十五歳)東北帝國大學理學部卒業、理學士。(新聞歴)東華新聞副社長。(著作)七日の旅「科學の國」(主義)ニヒリスト。(趣味)舞踏及午睡。(現住)仙臺市町末無八(電話一三四〇)。

小野泰作

奉天毎日新聞經濟部長。橫濱市太田町一丁目一三(明二九、二、三)生。中央大學專門部。(經歷)銀業員、株式賣買。(趣味)運動競技、將棋圍碁。(現住)奉天十間房第四區社宅)。

小野富雄

(映二) 京城日日新聞社會部記者。熊本阿蘇(明三六、一)生。熊本幼年學校卒業後陸軍士官學校に轉ず、明大學法科中途退學。(趣味)散步。(現住)京城府本町五丁目二八松の家)。

小野瀨不二人

(前每夕) 明四五入社。徳島縣に生。母妻二女二男、中央大學、歐米遊學。(新聞歴)二六、中央、每夕

小田太郎

静岡民友新聞記者。静岡市(明三五、一)生。(現

小河内六一

(尺村) 臺灣新聞社和義特派記者、廣島市段原町(明一一、二)生。(現住)廣南和義郡和義州(電話一五三)。

小川彌作

(嶺山) 名古屋新聞伊那支局長、東京日日新聞通信員(四十一歳)。小縣靈業、早大校外生。(新聞歴)信濃日報記者、伊那日報編輯長より現在の名古屋新聞伊那支局長特派員。主義)皇室中心國家社會主義。(趣味)旅行、登山。(現住)長野縣上伊那郡伊那町)。

小川節

時事新報社編輯主事(四十歳)。慶應大學理財科出身。(新聞歴)時事新報北京特派員として四年間勤務。(著作)政争渦中の支那。(現住)府下、下谷谷一五一五(電話高輪五五七九)。

小川克己

時事新報社會部部長兼調査係長。千葉縣(明一六、六)生。(現住)東京府代々木町代々木二五二)。

小田原文夫

丹州時報社政治經濟部。京都府加佐郡由良村(明二九、八、一)生。法政大學政治科中途退學。(趣味)小動物、園藝。(現住)生地に同じ)。

小野田求

(素夢) やまと社會部少編輯、映畫部業務。岩手縣の山中(明三一、六)生。(新聞歴)十八九歳の頃から原稿生活、大正九年現社へ。(趣味)演劇、映畫、麻雀。(現住)中谷谷五六七遊林館)。

小野田正

日本電報通信社岩手縣江刺郡米里村(明一八、二、三)生。(現住)市外代々木宮ヶ谷一五一四)。

小野秀雄

大阪毎日新聞囑託、内務省囑託。近江國草津、明一八、八)生。母と妻あり、帝大獨逸文學科卒業、大學院學生。(新聞歴)萬朝報。(著作)日本新聞發達史。(思想)未製品につき名づくべきものなし。(趣味)文藝、音樂、園藝。(現住)本郷區駒込千駄木町五〇)。

小野賢一郎

(燕子) 東京日日新聞事業部長。福岡縣(明二一、七)生。(趣味)俳句、陶器書、畫。(現住)府下荻窪川南三五〇)。

小山内大六

滿洲日日社長。(新聞歴)中央新聞。(現住)大連市)。

小澤貫一

福島民報記者。福島縣大沼郡高田町(明三四、三、一)生。早稲田大學政治經濟學部卒業。(現住)福島市戸の内二二三)。

小澤二郎

(鐵次郎) 雷通信社社長(三十三歳)。逗子開成中學校卒業。(新聞歴)日曜新聞社長。(現住)神奈川県久良郡六浦町)。

尾家静雄

豊州新聞社記者。下毛郡真坂村(明三五、三、一五)生。大分縣立中津中學卒業。(新聞歴)大正十四年二月現社へ。(現住)大分縣大分市長濱町)。

尾高守

(蘭雲) 播磨毎日新聞社長(明三九、二入社)。美術俱樂部主幹、山口縣岩國(明九五、五)生。母妻男二女一、高等中學在學中より特に漢學佛語を勉強。(新聞歴)藝備日日、讀賣在社中北京天津に特派、盛城新聞主筆、釜山實業新聞主幹。(著作)北清事情、鞍山陽、外來語解。(趣味)旅行、繪畫、昆蟲採集。(現住)

尾間明 國民新聞社營業局長
大分縣佐伯町(明一〇、七)生。
(現住)在原郡世田ヶ谷太子堂
(電話青山二〇〇三)

尾間立顯 日本新聞編輯局
尾坂與市 東朝社會部(現住)
府下東鴨宮仲二八三八

尾崎秀眞(古邨) 臺灣日日
新漢文編輯長(明三四、入社)臺
灣總督府歷史編纂委員、中學會
長。岐阜縣(明七、一)生。故郷
に兩親門に兩兒、依田學海翁
に漢文學を學び、清生學舎に醫學
を修む、歴史地理研究。(新聞歴
報知新聞、雜誌新少年、小國民
學生團等の主筆。(事業)臺北中
學會長として教育事業に従事す
(思想)尙古敬神。(趣味)書畫鑑
識、古文書收藏。(現住)臺灣臺
北北門外四の五一(電話六三四)

越智類一(絶山) 都新聞社
政治部主任。松山市(明二一、
八、二〇)生。大正三年早稲田大
學政治經濟部卒。(新聞歴)大正
五年現社。(趣味)草花野菜栽培。
培。(現住)府下野方町字荒井三
二五

緒方竹虎 東京朝日新聞編
輯局長兼政治部長。早大卒、倫
理學。 (現住)市外大久保百人
町三三(電話四谷一四二四)

緒方正男(孤山) 鹿兒島朝
日新聞社經濟部長(三十五歲)
博約義塾卒。早稲田大學中途退
學。(職業)前株式會社鹿兒島鐵
工所營業部長、前南薩銀行書記
長。(新聞歴)九州日日新聞、鹿
兒島新聞。(著書)鹿兒島の女、
鹿兒島婦人雜誌(豫定)。(主義)
漸進主義。(趣味)盆裁、讀書。
(現住)鹿兒島市上龍尾町七六

織田民夫(牧歌) 東京朝日
通信部。愛知縣豐橋市(明二九
六)生。中學卒。(新聞歴)參陽新
報、名古屋新聞東京支店誌、福
島日日新聞。時事新報。(思想)
一口に云はれどヒューマニス
ト。(趣味)演藝一切、邦樂、清
元(哥澤珠によし)、長路を歩く
事。園藝、草花等。(現住)東京
市外世田ヶ谷町太子堂四五
大井千尋(千葉樓) 東京日
新新聞社支局長(明二、四)生
佐久郡岩村町(明二、二)生
(新聞歴)上州新聞、兩毛織物新
聞主筆を経て東京日日新聞社に
入社、同社横濱支局長を経て現
在に及ぶ。(趣味)運動、讀書。
(現住)長野縣長野市間御所町
(電話長野三七七)

大井善司 國民新聞社。群
馬縣群馬郡總社町大字植野(明
二四、一、三)生。郷里の小學校卒
業後私塾前橋義塾へ四年通學、
早稲田校外生(文學科)(新聞歴)
大正三年八月前橋市上毛新聞社
へ入社、同六月七月退社、其後
農業に従事、大正十一年六月東
京日日新聞社へ入社、同十二年
十月現社。(趣味)俳句、文藝
(現住)前記總社町の郷里

大出勇(東蕪) 報知新聞社大
田原支局長(四十五歲)。(新聞
歴)明治卅四年以來新聞業に従
事す。(主義)温情主義。(趣味)
新聞、文藝。(現住)栃木縣那須
郡大田原町(電話二一九)

大石雄一郎(呂久念) 大
阪朝日新聞社運動記者。奈良市
(明三〇、七)生。關西大學、大學
部商科。(新聞歴)大正八年八月
現社へ、社會部を経て大正十一
年運動部に轉じ現在に至る。(趣
味)讀書。(現住)大阪市東區德
井町一丁目二

大石俊一 世界新聞社長兼
主筆(明二三、八)生。駒澤大
學及び日本大學。(新聞歴)大正
十一年一月東京朝日新聞社に入社
し同十二年十二月退社同十四年
一月世界新聞社を創立して週間

大石正夫 東京毎日新聞記
者、静岡縣藤原郡川崎町(明三
二、二、一)生。早稲田大學政治
經濟科出身。(趣味)活動寫眞、
文學、繪畫、西洋音樂。(現住)
東京府下流谷伊達路一七九九
大石光之助 主婦之友社
(新聞歴)國民新聞經理部。米國
に留學。(現住)東京市外下目黒
四九八

大石五郎 日刊山形社長兼
主筆(五十一歲)。明治二十五年
山形中學校卒、同二十九年東京
法學院卒、同三十九年米國渡航
四十三年歸朝。(新聞歴)明治三
十三年十一月山形新聞記者、同
三十六年主筆、大正九年九月日
刊社長。(主義)皇室中心若民同
治。(趣味)繪畫、養鷄。(現住)
山形市香澄町八幡石五九(電話
五七〇)

大原益一(桑村) 信濃時事
文藝部長(大五、八入社)。飯田町
(明二二、二)生。飯田中學校卒、
早大文科理科修業。(趣味)演劇
(現住)信州飯田町

大橋敏郎(玄洋) やまと新
聞社經濟部長。福岡縣(明一八

大友喜作(朝嵐) 東京日日
校正課長(明四四、入社)。宮城縣

大友喜作(朝嵐) 東京日日
校正課長(明四四、入社)。宮城縣

大友喜作(朝嵐) 東京日日
校正課長(明四四、入社)。宮城縣

大友喜作(朝嵐) 東京日日
校正課長(明四四、入社)。宮城縣

大友喜作(朝嵐) 東京日日
校正課長(明四四、入社)。宮城縣

大谷常太郎(金波) 下野

大谷忠四郎 東朝政治部
(現住)府下平塚戸塚七七四の二
大竹博吉 東方通信社マ
コー特派員。愛知縣岡崎町(明二
三、三)生。露語も殆んど獨學。
(新聞歴)中央、國民、東京日日
讀賣。(趣味)政治及思想上の論
論。(現住)113 Holschmucka
Bldg. ya. Shunan mosan

大竹又次郎(年牛) 萬朝
報社關西支局長。千葉縣(三十
九歲)明大中途退學。(新聞歴)
大正元年五月現社。(趣味)詩

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大谷秀正 やまと社會部、
下谷(明三二、一、二〇)生。(趣
味)民衆娛樂芝居、映畫、寄席
(現住)神田錦町三ノ一五

大谷誠夫 都新聞社顧問。
(現住)府下青山原宿一七〇(電
話青山四八六)

大谷忠四郎 東朝政治部
(現住)府下平塚戸塚七七四の二
大竹博吉 東方通信社マ
コー特派員。愛知縣岡崎町(明二
三、三)生。露語も殆んど獨學。
(新聞歴)中央、國民、東京日日
讀賣。(趣味)政治及思想上の論
論。(現住)113 Holschmucka
Bldg. ya. Shunan mosan

大竹又次郎(年牛) 萬朝
報社關西支局長。千葉縣(三十
九歲)明大中途退學。(新聞歴)
大正元年五月現社。(趣味)詩

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大谷秀正 やまと社會部、
下谷(明三二、一、二〇)生。(趣
味)民衆娛樂芝居、映畫、寄席
(現住)神田錦町三ノ一五

大谷誠夫 都新聞社顧問。
(現住)府下青山原宿一七〇(電
話青山四八六)

大谷忠四郎 東朝政治部
(現住)府下平塚戸塚七七四の二
大竹博吉 東方通信社マ
コー特派員。愛知縣岡崎町(明二
三、三)生。露語も殆んど獨學。
(新聞歴)中央、國民、東京日日
讀賣。(趣味)政治及思想上の論
論。(現住)113 Holschmucka
Bldg. ya. Shunan mosan

大竹又次郎(年牛) 萬朝
報社關西支局長。千葉縣(三十
九歲)明大中途退學。(新聞歴)
大正元年五月現社。(趣味)詩

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

大塚保一 大阪朝日新聞社

富山通信部主任。兵庫縣掛保郡伊ノ村。姫路中學より神戸關西學院等。(新聞歴)姫路市に發行する繁城新聞社編輯長兼社會部長、大正十年大阪朝日に入社。山、幾多各通信部を経て現在に至る。(趣味)琵琶、寫眞。(現住)富山市諏訪川原二三(電話一三三〇)。

大塚恒吉 大阪時事新報社連絡部通信部長。新潟縣(明一四、二)生。慶應義塾商業學校(新聞歴)明三十八年大阪時事新報創刊と共に入社。(現住)大阪府住吉區松原町四〇ノ五。

大塚喜平 東朝政治部(大一三、入社)栃木縣(治二五、三)生。中央大學政治經濟部(新聞歴)東京毎日、讀賣、國民。(現住)府下馬込村谷中一三二。

大塚芳夫 豊州新報廣告部長。大分縣直入郡長湯村(明一四、二)生。(新聞歴)明治四十二年二月現社。(趣味)讀書、旅行、乘馬。(現住)大分市中島。

大塚廣次 時事新報工務部主事。(現住)三田豊岡町一三。

大月京平 (狂瀧) 臺灣新聞社會計課長。岡山縣(明三一、八、二)生。(趣味)寫眞、錢獵。(現住)臺中州臺中市榮町五四三。

大森元明 (明水) 近江實業新報營業部長。愛媛縣(明二五、一一、二七)生。中等教育を了へ應用化學の學修受く。(經歷)鈴木商店人造絹絲器具の構作所に在務せし事あり(大阪堅壘所員)。(趣味)讀書と語學(英)。(現住)彦根町。

大森三郎 (柳川) 九州朝日新聞社代表者(三十九歳)。中學程度。(新聞歴)明治三十八年佐世保軍港新聞に入り熊本毎日九日を経て久留米に來り獨立經營にて日刊新聞を發行すること十數年に亘り現在の九日朝日に至りて既に四ヶ年に達せり。(著書)は別に取上ぐ可きものなきも實業の西日本其他案内記筑後の華等の出版物を發行せること枚擧に過ぎなし。(趣味)又た莫然として捉へ難し。(現住)久留米市京町(電話一〇二八)。

大森眞龜太 (鐵華) 長崎日日新聞外交部長(四十歳)。(新聞歴)大正五年長崎日日新聞社に入る。(主義)漸進主義(趣味)

大内一郎 (逸堂) 福島民報主筆。福島縣安達郡針道村(明二四、三)生。(新聞歴)福島新聞に約十餘年、民報入社約四年餘。(趣味)政治。(現住)福島縣安達郡二本松町(電話一一九)。

大内衛 大阪朝日新聞社會計部長(四十五歳)。(現住)大阪市北區曾根崎上四ノ二五九(電話北六六七〇)。

大野元 東京毎日新聞記者。福島縣石城郡上遠野村(明三九三、二七)生。大正十四年三月早稲田大學專門政治經濟科卒。新聞歴)自大正六年六月一日至大正十一年一月一日、鐵道省福島運輸事務所勤務。(趣味)音曲、食道樂。(現住)東京市牛込區原町二ノ五七高橋方。

大野正一 都新聞社。東京芝ッ見(明三五、一、一)生。大森維團出身未來博士とならん(新聞歴)やまと新聞社より現社へ轉ず。(現住)府下大森入新井町新井宿血溜五七六。

大野開作 都新聞社。愛媛縣温泉郡(明二四、二、六)生。(現住)府下南品川三〇六。

大久保豊米 (鳴鶴) 大阪毎日新聞販賣部長(四十七歳)。大阪東京政治學校卒。(新聞歴)電報

新聞、毎日電報。(趣味)俳句。(現住)兵庫縣香櫛園森具。

大久保忠鑑 中央新聞社會部。神奈川縣小田原町幸一、(明三三、五、二五)生。早稲田大學社會哲學科。(現住)京橋區銀座四ノ一二近藤方(銀座六七四六)。

大久保好六 東京朝日寫眞課。(現住)千葉縣東葛飾郡我孫子。

大矢良太郎 國民新聞社廣告部長(四十八歳)。別に正規の課程を履ます。(新聞歴)明治四十一年四月國民新聞へ入社廣告部勤務以て今日に至る。(主義)皇室中心國家主義。(現住)東京府荏原郡品川町二日五丁目二六九(電話高輪二〇二〇)。

大山覺威 (雲峰) 日本子供新聞社長(明一五)生。(新聞歴)中央公論主幹、國民新聞記者、京城日報編輯局長、東京朝日連絡部長調査部長、新愛知東京支社長、毎夕新聞編輯局長。(趣味)讀書、文藝。(現住)大分市三芳。

大淵米吉 (米山) 室蘭日日新聞社編輯長(三十二歳)。小學校を出てばかり。(新聞歴)社長

の家に生長し社長新聞の創始に隨ひこれに従事し信任されて長になり他に内職に、雜誌を發行し苦き經驗を持つて居ます。(主義)家長社長崇拜主義(趣味)實業。(現住)社長の家(電話四一四)。

大江理三郎 (兼天) 大阪朝日新聞整理部長(五十歳)。(新聞歴)明四十一年大阪朝日入社。(著書)小説十餘編(趣味)新聞。(現住)大阪市西區四條通三二九(電話四三二一四)。

大澤貞治郎 報知新聞社通信部特派員。(趣味)魚釣、玉つき。(現住)函館市元町四六(電話三七七〇)。

大澤逸足 中央新聞。栃木町生(三十六歳)。(現住)府下平塚村戸越七八。

大城秀之助 豊州新報社整理部副部長。大分縣大分市三芳(明二八、一、二)生。中等學校卒業(新聞歴)大正八年現社。(趣味)讀書、文藝。(現住)大分市三芳。

大島宇吉 新愛知社長(明二七八)愛知縣(嘉永五、一一)生。富永梅雪先生に就き漢學を學ぶ。(新聞歴)自由黨員として侃々の論議を發行停止に遭ふ。

釣魚、園藝。(現住)長崎市上四山町一五四。

太田正孝 (水島散史) 報知社副社長(大八、一一)入社。經濟學博士早大講師、法政大學講師、静岡縣(明一九、一一)生。家族四人。東京帝大法科卒業。(著作)關稅行政の研究、湖畔の落人、社會と新聞、保稅制度論、羅馬風呂。(思想)文化主義。(趣味)文學。現住(東京市外大森山王二六一六(電話大森五七八))。

太田宇之助 東京朝日新聞社支那部長(三十五歳)。早稲田出身。(新聞歴)大正六年入社同年北京へ派遣され、八年上海特派員に轉、十二年歸社。(現住)神奈川縣鶴見花月園内(北京駐在中)。

太田與市 (良民) 板橋新聞社長(明二二、一一、一五)生。大阪中學品川英語學校出身(新聞歴)大阪日報通信記者。東京府民理事兼記者。釜山日報記者、東京府民新聞主幹、北豊島評論、北東京新聞、帝國良民新聞等經營現在に至る。(著書)朝鮮日記。(主義)思想デモクラツシ。(趣味)政治演説。(現住)東京板橋町九一四(四ツ又)(電話小七〇五七)。

太田鎮雄 樺太日日新聞社支配人(三十五歳)。長崎縣立五島中學校卒業、第五中等學校卒業。京都帝國大學政治經濟科卒業(趣味)運動。(現住)樺太豊原町大通南六ノ三。

黃爾旋 (衡堂) 臺灣新聞社漢文主。任新竹州新竹街(明三〇、九、二)生。龍潭書屋に於て十餘年經史、諸子、古文學、詩詞等を修め後、延慶書舎に國文其他普通教科を修了。(經歷)臺灣中華店公學校教員、新竹康赤十字社支那書記。(趣味)時文書畫。(現住)臺中市錦町二ノ六一)。

扇谷亮 (東興) (四十四歳)國民新聞社工務局長。獨逸協會を経て日本大學卒業。(新聞歴)國民新聞社へ入社以來工務を擔當二十ヶ年に至る。(著書)なし。(主義)皇室中心主義(趣味)書畫。(現住)芝區愛宕町三ノ一。(電話高輪五九五九)。

岡實 大阪毎日新聞社東京日日新聞社顧問。大阪(明六、九)生。新聞三十二年東京帝國大學法科卒業。(經歷)內務省、内閣法制局、農商務省に勤務外に帝大、商大等の講師たり、大正七年法學博士の學位を受く、大正七年

官を辭し平和會議勞動會議經濟會議等に參列、大正十二年十一月前記大阪毎日顧問となる。(趣味)釣、騎馬。(現住)東京市芝區白金三光町二七六(電話高輪五五四五)。

岡忠雄 ジャパンタイムス廣告部長。橫須賀市(明三三、九)生。大正十三年慶應義塾經濟學部卒業。(經歷)大正十三年四月株式會社宮崎工務所入社、大正十四年三月退社同年四月現社へ(現住)橫須賀市若松町三〇)。

岡延右衛門 萬朝報社會部。長崎縣北松浦郡黒島村(明三三、三、一五)生。早稲田大學政治經濟科。(著作)立憲政治の實體及其運用、愛に生きる人々、ローマ名士傳(翻譯)、詩集ささやき。(現住)東京市牛込區矢來町一ノ六梅崎方。

岡芳樹 やまと新聞社會部編輯。土佐國(明三一)生。廣島高師。(新聞歴)大正九年以來の記者生活です萬朝報から現社へ。(趣味)新聞史の研究、旅行。(現住)牛込區大神町三五)。

岡庸一 (清風庵學村) 朝鮮日報社長(五十四歳)。専修大學法科經濟科修業、早稲田大學政治文學科研究。(新聞歴)二十八

年より三十二年迄和歌山新報、和歌山實業新聞主筆、四十年より元山日報、南新日報経営今日に至る。(著書)最新韓國事情、馬山案内。(主筆)忠君愛國主義(趣味)讀書、園藝。(現住)朝鮮馬山府(電話二二〇六二)

岡幸七郎(西門)支那漢口漢口日報社長(五十八歳)。在支三十年支那研究に没頭するの如何等の學歴なし。(趣味)作詩。(現住)支那漢口

岡部等 奉天毎日新聞記者。熊本縣天草郡今津村(明三四、六、五)生。早稻田政治経済部二年修業。(趣味)旅行、音楽。(現住)奉天十間房第四區社宅

岡部甚一 やまと新聞社社長。山形縣(明一四、七)生。四十年早稲田大學卒業。(現住)大森不入斗五八四

岡田復三郎(孤煙) 國民新聞社記者(四十歳)。四十年早稲田大學卒業。(新聞)四十二年九月時事新報入社、四十二年五月時事新報退社、直に國民新聞社に入社今日に至る。(現住)東京府下和田堀内村字和泉六二

岡田義胤(牧民) 守谷新報社長。大分縣宇佐郡實家村(慶應三、四、二八)生。幼年大分下毛郡中津町白石磯塾に於て漢籍研究後東京神田區専修學校に入り中途退學。(新聞)明治二十三年北海道御料局官吏を帶職し在官五ヶ年前後民間に於て去る明治二十六年七月十五日現在の新聞を創刊し今日に至る二十三年間獨力にて經營。(趣味)園藝と體育法に努力。(現住)北海道宗谷館内町本道北三ノ二一六(電話二一五五)

岡田爲三 大阪時事廣告部長(明四一、入社)。(明二一、一一)生。家族五人、天王寺中學卒業。(現住)大阪市南區天王寺松ヶ鼻町(電話南七六五〇)

岡田純夫 中外商業新報社長(明二二、入社)。(明二六、四)生。(新聞)大阪時事、大正日日、山陽新報。中央新聞。(趣味)文藝。(現住)小石川區大塚坂下町六九

岡谷清次郎(天芥) 北國新聞社社長(石川縣金石町(明二五、三)生。金澤商業學校、京都法政大學(今の立命館大學)(新聞)石川新聞社、大阪毎日新聞記者を経て金澤毎日新聞社社長を経て大阪時事新聞社社長に就任、大正七

年現社。(趣味)讀書、園藝。(現住)金澤市濱山町二番町二五ノ二六(電話二八二五)

岡村藤三郎 東京毎日新聞社社長(新潟縣加茂町(明二八、三)生。中央大學法學部卒業(趣味)植木、辯論。(現住)府下北多摩千歳村高島山五九九

岡島章治 中外商業新報社長(長野縣(明三四、二)生。明治大學。(現住)松並町高岡寺九二七

岡島松次郎 大阪新報社長(大阪(明二三、五)生。(新聞)大阪時事新報。(現住)大阪市港區四條通(電話一四三四)

岡本一平 東京朝日新聞社客員(明四五、入社)。(北海道函館(明一九、六)生。家族四人。美術學校洋畫科出身。(著作)近刊泣蟲等の夜話、(ほ)胡瓜、其他漫畫文集數種。(思想)禪宗に歸依(趣味)趣味らしき趣味を嫌ふといふ趣味あり。(現住)赤坂區青山南町三ノ二四

岡本一男 國際通信社編輯(鳥取市(明三三、三、七)生。(新聞)大阪通信局を経て現社。(趣味)近距離旅行、讀書。(現住)牛込區五軒町二新倉

岡本鶴松 大阪朝日新聞外報部長。東京市(明一五、二)生(新聞)明治四十三年英字新聞ジャパン、アドヴァイザーへ入社同四十四年東京朝日新聞社へ入社、大正九年十月倫敦特派員として赴任大正十一年四月歸京大正十二年十月大阪朝日へ轉任今日に至る。(趣味)瞑想と讀書と音楽。(現住)大阪朝日新聞社内。

岡本隆(喜舞) 東京朝日新聞運動部(三十一歳)慶應義塾大學理財科卒。(新聞)東京毎日新聞より現在の朝日に入る。(趣味)和洋音楽。(現住)府下荏原郡大森町澤田一四八

奥村信太郎 大阪毎日新聞編輯局長重役待遇。大阪(明三三、三、七)生。早稲田大學政治経済部を卒業し「政學士」の稱號を有す。(新聞)大正十二年五月吳日日新聞社副社長に就任し同年七月同社

報部長。東京市(明一五、二)生(新聞)明治四十三年英字新聞ジャパン、アドヴァイザーへ入社同四十四年東京朝日新聞社へ入社、大正九年十月倫敦特派員として赴任大正十一年四月歸京大正十二年十月大阪朝日へ轉任今日に至る。(趣味)瞑想と讀書と音楽。(現住)大阪朝日新聞社内。

奥山清平 ジャパンアドヴァイザー社翻譯記者。東京(明三四、八、一四)生。東京神田國民英學會卒。(新聞)大正十年六月現社へ。(趣味)讀書、旅行、音楽、觀劇。(現住)小石川區水道一ノ五

奥平稔 吳日日新聞社長。吳市(明三〇、六)生。大正十一年早稲田大學政治経済部を卒業し「政學士」の稱號を有す。(新聞)大正十二年五月吳日日新聞社副社長に就任し同年七月同社

渡部彦四郎 山形自由新聞社社長(山形市(明二三、九)生。小學卒、其他獨學。(新聞)明治三十八年山形日報社營業部へ、四十二年同社廣告主任大正三年二月中央新聞社へ、大正九年七月現社へ。(趣味)酒と職業。(現住)東京牛込區下戸塚町三〇七(電話牛込六十九)

渡部竹次郎 帝國新聞社社長(山形縣(明二二、二、一)生。新聞)橫須賀武相新聞第二部長を経て現社。(現住)府下王子町四四一

渡部熊夫(翠波) 山陰新聞社社長(島根縣西伯郡尙徳村(明二九、一、二〇)生。(新聞)大正十年八月十日山陰日日新聞社社長、同十二年八月梅田忍齋氏山陰民報社を創立と同時に社會部長として入社東京國民新聞、大阪毎日の通信囑託(趣味)讀書、運動。(現住)島根縣今市町(電話一四八)

渡部喜一(双峰) 福島民友編輯長(大田(明四六、入社)。(明二七、一一)生。早大政治経済科(思想)實踐進行。既成政黨大改善。(政黨)憲政會。(現住)福島市曾根田下三(電話六六一)

渡邊玄 中外商業新報社(明三四、一、二七)生。日本大學文學部社會科。(新聞)名古屋新聞記者。(現住)東京府下巢鴨町一ノ一一三

渡邊源六(翠江) 時事新報社山形支局勤務。岩手縣和賀郡立花村(明三五、三、二四)生。(新聞)大正十一年九月岩手毎日新聞社入社、同十四年二月時事新報社。(趣味)文藝。(現住)山形市旅籠町時事新報山形支局内

渡邊文吉 大阪朝日新聞社運動記者。徳島縣(明三二、七、一)生。關西學院高等商業學科。(新聞)大正十二年三月五日現社。(現住)大阪市西淀川區大仁一二五

渡邊豪(天倪居士) 二六新報社理事、論說部。大分縣(明二〇、一一)生。縣立中學、東洋大學、帝大文學部選科、以上卒。(新聞)二六新報、九州日報、讀書新聞の各政治部。(趣味)旅行、政治及哲學に關する意見の大交換。(現住)東京牛込區喜久井町三四

渡邊幸男(登洋) 大分新聞編輯局長。大分市古國府(明二八、二、一)生。中等學校卒。(趣味)讀書、演藝。(現住)大分郡龍

長死去の後を受けて七月同社社長に就任。(現住)吳市堺川通三ノ一(電話三三九)

近江笛郎 大阪商業新報社社長。岡山縣久米郡福渡町(明三五、二)生。私立金川中學校。(新聞)山陽新報社、大阪朝報社、和歌山日日新聞社等。(趣味)文學、運動、登山。(現住)大阪府北河内郡三郷村大枝

和田恒彦(天華) 神戸新聞社取締役編輯局長(五十一歳)。學歴らしきものなし日本法學校中途退學。(新聞)やまと新聞大阪毎日新聞、大阪新報を経て神戸新聞社。(著書)史論關ヶ原役、史傳阪本龍馬、小説浪まくらその他數十種。(主義)國家主義。(趣味)何でもよい。(現住)神戸市五宮町二四五(電話元町二五一〇、元町二七八五)

和田知求(青眼) 山陽新聞社社長(明二二、三)生。妻一女。高知縣立第一中學出。(新聞)土佐新聞。(思想)世界統一主義(趣味)盆裁、食道樂。(現住)高知市外湖江村

和田勝洲(現堂) 東雲日報社取締役主筆(明二六、入社)。(前住)青森市(明四一、二)生。(現住)青森市長島(電話二五〇)

若尾庄吾(瀧水) 高知新聞名譽主筆(大七、一、入社)。俳句雜誌海月主幹。高知縣(明〇、一)生。妻一女一男。東京帝大政治科出(明三八)。(趣味)俳句(政黨)憲政會。(現住)高知縣下村

若月一步 朝日新聞社「週刊朝日」コトモ朝日編輯。(主義)獨裁專制。(趣味)無言獨居(書面及御來訪は一切東京朝日新聞社宛に願ひ度し)

若山武彦 中外商業新報社營業部長兼廣告部長。生地長野市成長ノ地福岡縣大牟田市。日本大學法科專門部卒。(新聞)大正四年十月現社へ。(趣味)園犬。現住市外西栗鴨町宮仲一九八七(電話小石川六一七六)

若松謙(太平洞) 都新聞社編輯。秋田縣(新聞)秋田新聞記者。(現住)市外上駒込染井八四三

巨敏夫 東京毎日新聞社政治部記者。新潟縣岩舟郡村上本町(明二三、五、一五)生。(現住)東京市麹町區尾井町六

和歌山實業新聞主筆、四十年より元山日報、南新日報経営今日に至る。(著書)最新韓國事情、馬山案内。(主筆)忠君愛國主義(趣味)讀書、園藝。(現住)朝鮮馬山府(電話二二〇六二)

漢籍研究後東京神田區専修學校に入り中途退學。(新聞)明治二十三年北海道御料局官吏を帶職し在官五ヶ年前後民間に於て去る明治二十六年七月十五日現在の新聞を創刊し今日に至る二十三年間獨力にて經營。(趣味)園藝と體育法に努力。(現住)北海道宗谷館内町本道北三ノ二一六(電話二一五五)

大阪時事廣告部長(明四一、入社)。(明二一、一一)生。家族五人、天王寺中學卒業。(現住)大阪市南區天王寺松ヶ鼻町(電話南七六五〇)

中外商業新報社長(明二二、入社)。(明二六、四)生。(新聞)大阪時事、大正日日、山陽新報。中央新聞。(趣味)文藝。(現住)小石川區大塚坂下町六九

北國新聞社社長(石川縣金石町(明二五、三)生。金澤商業學校、京都法政大學(今の立命館大學)(新聞)石川新聞社、大阪毎日新聞記者を経て金澤毎日新聞社社長を経て大阪時事新聞社社長に就任、大正七

東京毎日新聞社社長(新潟縣加茂町(明二八、三)生。中央大學法學部卒業(趣味)植木、辯論。(現住)府下北多摩千歳村高島山五九九

大阪新報社長(大阪(明二三、五)生。(新聞)大阪時事新報。(現住)大阪市港區四條通(電話一四三四)

東京朝日新聞社客員(明四五、入社)。(北海道函館(明一九、六)生。家族四人。美術學校洋畫科出身。(著作)近刊泣蟲等の夜話、(ほ)胡瓜、其他漫畫文集數種。(思想)禪宗に歸依(趣味)趣味らしき趣味を嫌ふといふ趣味あり。(現住)赤坂區青山南町三ノ二四

國際通信社編輯(鳥取市(明三三、三、七)生。(新聞)大阪通信局を経て現社。(趣味)近距離旅行、讀書。(現住)牛込區五軒町二新倉

山形自由新聞社社長(山形市(明二三、九)生。小學卒、其他獨學。(新聞)明治三十八年山形日報社營業部へ、四十二年同社廣告主任大正三年二月中央新聞社へ、大正九年七月現社へ。(趣味)酒と職業。(現住)東京牛込區下戸塚町三〇七(電話牛込六十九)

山形縣(明二二、二、一)生。新聞)橫須賀武相新聞第二部長を経て現社。(現住)府下王子町四四一

尾村富綱
渡邊清房(虛茶) 元山毎日
新聞社運動部長。熊本縣(明三
二、七、四)生。九州學院卒。(新聞
歴)朝鮮毎日新聞を経て十一年
六月現社へ。(趣味)運動、とり
はけテニス。(現住)元山府旭町
三ノ四

渡邊誠吾 大阪朝日新聞社
出版編輯部次長。新潟縣北蒲原
郡加治村(明一八、六)生。東京帝
國大學文學科、倫理學専攻。新
聞歴)米國に放浪中朝日新聞社
通信員となり、巴里講和會議華
盛頓軍縮會議に特派員として出
張。(現住)大阪市住吉區阿部野
町四二一(電話戒一八〇)

渡邊政次郎 帝國新聞社
印刷部主任。(明二二)生。(新聞
歴)東京毎日新聞社大勢新聞社
を経て現社へ。(現住)芝區新門
前町五

渡邊一男(芳夫) 新愛知新
聞社訪問記者。岐阜縣可
兒郡平牧村大森(明二七、二二)
生。神戸關西學院卒。(新聞歴)
扶桑新聞當時に現名名古屋毎日
入社後現社へ。(現住)長野縣諏
訪郡上諏訪町片羽(電話申込中)
渡邊紳一郎(あてびと)
東京朝日新聞外報部(二十六歳)

渡邊廣重 大毎經濟部副
長兼論說部員。仙臺市(明一八)
生。家族四人。中央大學法學部
卒。(新聞歴)大阪時事大正四
九月。大正七年現社に入る。八
年社命にて南支那、米領比律賓
英領ボルネオ、蘭領東印度、英
領海峽殖民地、シヤム、佛領印
度等の産業を視察す。(趣味)園
藝、弓。(現住)兵庫縣打出駅開

渡邊雪丸 神戸又新日報言
論部主任。備中國に生る。家族
三人。(新聞歴)大阪時事經濟部
(思想)其日暮し。(趣味)暇あれ
ば唯睡眠を食ふのみ。(現住)神
戸市中山手通七丁目番外四二ノ
一一

渡邊篤三郎(停舟) 長崎
日日新聞社社部部長(四十四歳)
(新聞歴)大正五年長崎日日新聞
社に入る。(趣味)盆鼓、圍碁。
(現住)長崎市立山町二七二

加藤幸枝(城北) やまと新
聞社。愛知縣(明一九、一〇)生。
(新聞歴)低級官吏から二箇
年間浪人生活大正九年三月現社
へ。(趣味)義太夫。(現住)東京
市下谷區湯島寺町二八

加藤源哉(弦月) 新潟朝日
新聞社編輯長。新潟縣新發田町
(明一七、一二)生。新潟縣立新發
田中學校出身。(新聞歴)大藏省
北海道廳の官吏生活前後通じて
六ヶ年、新發田新聞、新潟毎日
新聞の各創刊時代の社部部長、
同社並に東朝新發田支局主任を
経て現社に在ること既に七ヶ年
(趣味)文藝、美術、演藝、園藝
等。(現住)新潟市學校町二番町
(電話一七七九)

加藤幸祐之助 秋田魁新報
社政治經濟部記者。秋田市(明
丁四上手町(明三六、三、一一)
生。明治大學經濟科。(新聞歴)
大正十四年五月入社。(趣味)音
樂。(現住)秋田市龜ノ町四土手
一五)

加藤善一 都新聞社地方部
長。長野縣下伊那郡那村三三〇(明
一、六、五)生。中學を経て、
早稲田に一年学ぶ。(新聞歴)田
舎新聞社を経て現社へ。(趣味)
旅行。(現住)府下杉並町馬橋四
七八

加藤晴太郎 名古屋日報
社長。二三會社に關係。(明二四、
一)古屋生。父母(別居)妻と二男
一女あり。甲種商業卒。(新聞
歴)名古屋日日、名古屋日報、

加藤源吾(拓郎) 榊太日日
新聞社編輯發行印刷人、會計主
任。新潟縣平民(明三三、一〇、
二七)生。(新聞歴)大正六年五、
一日現社へ。(趣味)野球見物、
讀書。(現住)榊太豊原大通南六

渡邊貴知郎(敬天、斷崖)
内外新聞新聞社長。二三の公共
團體に關係中。東京(明二三、五)
生。母妻一女。早大政経科出身
(新聞歴)學窓より直ちに萬朝報
政治經濟部に入り専ら言論を著
す。(著作)無理に書かされた雄
辯第一。(思想)デモクラシー。
(趣味)讀書。觀劇。勝負事其他
(政黨)不偏不黨。(現住)市外浦
田矢口村字蓮沼

加藤萬壽男 國際通信社
編輯部(明三一、一二)生。東京
外國語學校英語科(大正九年)米
國シカゴ大學卒。(新聞歴)大正
十三年九月現社へ。(現住)下谷
區谷中坂町六一増田方

加藤芳朗 東京朝日新聞監
岡支局主任。新潟縣柿崎(明二
五、五)生。甲種商業學校出。(新
聞歴)横濱市貿易商増田増蔵商
店在勤四ヶ年、高川新聞社支
部二ヶ年、新潟朝日新聞四ヶ年
半を経て東京朝日新聞支局
に入り大正十三年現社に轉ず。
(趣味)演劇、史蹟めぐり。(現住)
盛岡市大澤川原小路

加藤良助(春柳) 讀賣新聞
浦和支局員。埼玉縣川口市(明
三九、三)生。大倉商業學校卒。
明治大學專門部法科一年途中退
學。(趣味)魚釣、讀書。(現住)
埼玉縣浦和町(電話三〇〇)

加藤久 東京毎日新聞記者
大分縣大分市(明三一、四)生。早

加藤進 報知社通信部(四十
三歳)早大政経科出身。(新聞
歴)やまと新聞を振り出しに東
京名古屋の各社を轉々して現社
に。(著作)水泳に關するもの數
種。(主義)無抵抗主義。(趣味)
水上運動。(現住)市外大崎町上
大崎一五三

加藤壽太郎(介春) 九州
日報編輯部長(明四三、四)入社
福岡縣下(明一八、五)生。妻女二
男一。早稲田大學英文科出身。
(著作)詩集獄中哀歌を仰ぎて
等。(思想)現實主義又は人間主
義。(趣味)各種の人物を見る事
集める事。(現住)福岡市養巴町
十三

加藤直士(如風) 英文大阪
毎日副主筆。(新聞歴)戦時倫敦
特派、巴里講和會議特派員、歸
朝論説に入るとして新嘉坡より埃及
迄。(著作)基督教の眞諦。現代
宗教哲學主要問題トリストイ人
生觀等哲學宗教に關する譯著澤
山。改造の歐洲より

加藤木清 シヤパンタイム

鹿野信九郎(紅風) 福井
新聞小濱支局主任(明三五、入
社)福井縣小濱(明一三、九)生
(新聞歴)明治四十五年より大阪
朝日新聞小濱通信員。(趣味)讀
書、園藝。(現住)福井縣小濱壺
番町(電話二六四)

鹿子木日出雄 日本電報
通信社會計部部長(三十歳)。私立
専修大學、經濟科卒。(新聞歴)
大正三年一月日本電報通信社入
社今日に至る。(趣味)趣味は多
々あれども多忙にして味ふ機少
なし。(現住)千駄ヶ谷現田二一
(電話青山一三〇六)

戒田一馬 二六營業局顧問
兼販賣部長(大七、二)入社。伊藤
松山(明一〇、四)家族五人、中學
卒業。(新聞歴)明治三五年以來
報知、大阪毎日、東京日日の販
賣部に勤務。(趣味)書畫。(現住)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

香取桂一 大阪朝日新聞社
調査部(三十歳)。山口高等商業
學校卒。(新聞歴)大正十一年六
月大阪朝日新聞社に入社現在に
至る(現住)大阪市北區上福島北
二の一〇九(電話土佐堀四〇一
六)

府下瀧の川

海江田善太郎 (突夫)

鹿兒島朝日新聞販賣主任(大...)

蒲田丈夫 (楚石)

新聞編輯特派員。京都(明二...)

樺島勝一

東京朝日社會部(現住)府下千駄ヶ谷八五六

門田勝衛 (稻葉、案山子)

愛知新聞主筆。論說。編輯(大...)

角森好藏

長兼政治部長(大八、八社)當...)

輕部秀治 (加瀬青)

東京毎日新聞社家庭部記者。秋田縣...)

川西爲美 (夢村)

元山毎日新聞社社會部長。岡山縣(明...)

川邊健太郎 (碧水)

長崎日日新聞支局長。福岡日日...)

川島良

やまと新聞速記者。千葉(明三五、二、二二)生。

川島喜彙

朝鮮時報社長(大九、二八)生。茨城縣(明一三、一八)生。

河内時申

株式會社鹿兒島朝日新聞社支局長。鹿兒島...)

河田孝行 (鳥城)

丹州時報事務取締役兼主筆。岡山(明一...)

河村峰太郎 (峰水)

關門日日營業部長代理部主任(明三...)

川邊眞藏

東京日日新聞整理部長。東京(明二四、一)生。大分...)

川上三太郎

東京毎日新聞社高等商業學校出身。(新聞歷...)

川上八百藏 (蒼村)

臺南新報編輯長(大正八年以來)四...)

川頭九郎次

新聞販賣業。佐賀縣(明二六、三)生。早大...)

川村十一郎 (天峰)

朝鮮及朝鮮朝鮮佛敎主筆。秋田縣(明...)

河野文雄

大分新聞社編輯局長。大分市上野八四(明三七、...)

河野讓 (桐谷)

天業民報社編輯主任。東京市(明一二、五)生。

河野玄隆

東京市下谷區櫻木町三九(現住)府下世田ヶ谷池尻三九九

河野勝 (半僧坊)

大分新聞社整理部長。大分縣北海部郡神崎...)

河野恒吉

大阪朝日客員。(現住)東京市外東中野塔山

河合勇

東京朝日新聞運動部(二十七歲)。早大英文科出身。

河合七郎 (櫻石)

北海タイムス社社會部長(三十九歲)新...)

川俣篤 (陽洲)

安東新報社長(滿洲安東縣)四十三歲。(趣...)

川崎達夫

東京毎日新聞社政治部記者。熊本(明二二)生

川崎文治 (小島)

常務毎日新聞社支社長。福島縣平町字長...)

片岡昇

時事社會部寫真係長(新聞歷)大正日寫真部

片山修吾 (洗月)

橫濱每朝新聞理事(明三七、四)生。長野...)

片山環 (江南)

高知新聞調查部主任(大八、六)生。高知縣...)

片桐貞雄 (荒城)

琢磨社編輯部。山形縣生。家族、母、妻...)

勝部本右衛門 (世權)

松陽新聞社支那人。島根縣鏡川郡...)

川崎新吉 (牛山)

新潟毎日新聞東京支局長(大四、二)生。

川岸喜六

報知新聞特派員。埼玉支局長(大六、五)生。

川島友三 (總南)

國際通信株式會社東京經濟部主任。千葉...)

河村峰太郎 (峰水)

關門日日營業部長代理部主任(明三...)

勝田重太郎 (慈雨多樓)

堅町本岡崎方(趣味)新聞編輯、名士訪問。(現...)

弘報堂常務取締役。長野市(明二〇、四)生。教員養成所出身。(新聞歴)京城日報社支配人秘書大邱支局長、釜山支局長、新愛知東京支社長。(著書)俳句研究俳句十講、義太夫研究。(現住)京橋區南船場一(電話)銀四六九七)

勝見甚吉 京都日日新聞社販賣部長(四十四歳)。私立成章義塾に於て中學程度修了。(新聞歴)大正四年六月二日前名關西日日新聞社へ入社、大正九年十月一日現在名改題。(現住)京都府西陣區倉町(電話)西陣九八七)

葛西清能 下野新聞特派員(大四、六入社)。時事新報、東京毎日新聞、上州新聞支局長、弘前市(明二、正)生。家族妻子。(現住)群馬縣館林(電話)二六二二)

金井重雄 ジャパン、アドヴァイザ、新聞社支配人。群馬縣北甘樂郡小野村(明一、九)生。米國法律學校卒。(新聞歴)米國香港日本會理事、兩毛人會幹事、佛教青年會幹事、桑港日本人實業同志會副會長、國民黨政務調査員、日米俱樂部理事、親和會幹部、衆議員候補者たる

相生町一 蔭山義三郎(興東) 帝國新聞社參事(五十一歳)。國民黨學會英文學科全修。(新聞歴)日本電報通信、英文通信、東京ウキクリ、雜誌、江湖、國華、雄辯等從事。(著書)陸山式歩行法(主義)新愛國主義。(趣味)運動と美術。(現住)小石川區大塚上町十二

こと二回。(趣味)書畫、錦繪、讀書(電話)牛込八二二)

金井泰二郎(紫雲) 都新聞社美術、趣味方面及月曜附録全部擔任。群馬縣高崎市(明二一、二)生。小學校中途退學。(新聞歴)明治四十三年中央新聞社社會部に入社、大正八年及大正十年社會部長となり大正十年四月退社同五月現社へ。初め第二部夜の編輯をなす。(趣味)美術植物、動物の研究。(現住)赤坂區青山南町一の三六

金輪武雄 正路喜社計算課長。熊本縣(明治二五、二、五)生。第五高等學校大學豫科中途退學。(新聞歴)同大學豫科在勤電氣化學實驗講座嘱託、株式會社九州電氣社支配人、熊本電氣株式會社社務課長事務取扱、明治電機工業所々長、葛馬礦業所の島建設事務所嘱託、株式會社現社へ。(趣味)旅行、讀書。(現住)東京府荏原郡駒澤村字上馬引澤

金丸茂(しげる) 筑陽日日新聞社記者。田川郡後藤寺町(明三一)生。工業學校。(新聞歴)大正十一年十二月現社へ。(趣味)詩、哲學。(現住)嘉穂郡飯塚町外片島

金子清吉 新潟縣刈羽郡比角村(明一八、九)生。高田中學校卒米國遊學。(新聞歴)時事新報外事、海軍記者、新通信創刊(大正十三年七月休刊)東亞キネマ企業部、活動雜誌ムーグイトアア發刊、現に一立商店支店經營(趣味)蓄音機に聴きふける事、講談耽讀。(現住)東京府橋區南鍋町銀座ホテル(電話)銀座三六一九)

金子鳳三 中央新聞整理部四谷明三六、三)生。(現住)淺草區阿部川町一三四

金子茂子 主婦之友。(新聞歴)國民新聞社會部

金子久太郎(楓堂) 埼玉新聞編輯長。埼玉縣(明一五)生妻あり。(新聞歴)埼玉日日社會部長、埼玉新聞政經部長(思想)忠君愛國。(趣味)書讀、(政黨)政友。(現住)埼玉縣浦和町一五三

金澤秀行 報知新聞社營業局長。山口縣(明二八、四、一三)生(新聞歴)大正十年一月現社へ。(現住)小石川區指谷町一三〇

鎌田實 帝國通信社記者。伊豫國宇和島藩(明一四、三)生。私立日本大學法科出身。(新聞歴)明治三十九年九月やまと新聞社に入社以來帝國通信記者太陽通訊社を創立再び現社へ。(現住)府下目黒四三二

鎌田多利吉 新小樽商況部長(明一四、四)生。妻母子供四人。(新聞歴)小樽新聞、小樽商業新報。(現住)北海道小樽區

(現住)支那北京城黃獸胡同十九號(電話)東局五四八)

兼崎理藏(地櫻孫) 下關市馬關日日新聞主幹(三十六歳)。大正十年京大獨法出。(新聞歴)最初。(現住)下關市本町四丁目

周田松枝 都新聞社社會部東京區牛區矢來生。神奈川縣立高等女學校卒、同校補習科修了(新聞歴)讀賣新聞記者、玄文社新家庭編輯。(趣味)旅行、演藝(現住)東京市上野櫻木町三九

鎌田敬四郎 大阪朝日新聞社出版編輯部長。福島縣三春町、(明一七、七)生。東京外國語學校英語科卒(新聞歴)明治四十四年一月東京朝日社へ、大正七年四月大阪本社へ轉。(現住)兵庫縣武庫郡山手屋(電話)青屋五六一)

神田幸作(靈華) 群馬新聞編輯局長(三十六歳)。(趣味)お伽講談。(現住)前橋市北曲輪町四五

神田茂一(晴耕) 高田日報編輯長(大四、入社) 長野縣生當年三十二歳。(現住)新潟縣高田市上寺町

神谷六造 東京大勢新聞社主幹(新聞歴)東京毎日新聞理事を経て現職。(趣味)書畫、骨董。(現住)東京市日本橋區堀切町一の三(電話)浪花四〇六六)

神古百市 東朝外報部。廣島縣福山市吉澤町(明三一、八、三)生。東京帝國大學法學部出、法學士。(現住)京橋區長崎町二の六森谷電信方

神崎嘉藏 朝日新聞社相談役(五十一歳)。慶應義塾理財科卒。(新聞歴)明治三十四年大阪朝日新聞社に入り後東京朝日新聞社に轉じ今日に及ぶ。(趣味)演劇殊に舞臺劇を好む。(現住)代々木宮ヶ谷一四五六

神吉英三 時事新報營業局

笠原菅夫 東京通信社廣告部長(明一九、三)生。(趣味)美術、(現住)麹町區三番町七九(電話)四谷四六九〇)

笠松豊一(東洋兒) ジャパン、アドヴァイザ、新聞社、畫家。金澤市(明三五、一)生。東京美術學校中途退學。(趣味)劇、夜の散歩。(現住)本郷駒込千駄木町四九

風見章 信濃毎日新聞主筆(四十一歳)。早稻田大學大學部政治科(新聞歴)大正二年より五年まで大阪朝日外報部記者、大正九年より十年まで國際通信社大阪支社主筆。(現住)長野市權堂町(電

上條實 正路喜社取締役。長野縣松本市(明一二、五、一一)生。(新聞歴)明治三十六年二月現社へ大正元年出資社員となり續て無限責任社員大正十四年三月組織變更と共に取締役に選任さる。(現住)東京市麻布區兵衛町一の六(電話)青山四三五一)

上總(天香、春風樓主人) 大阪日日新聞社主幹。大阪府泉南郡尾崎村(明一一、五、二三)生(新聞歴)明治三十八年大阪新報

柿原政一郎(霧仙) 中國民報社長兼編輯局長(四十三歳)。東京帝大文科(卒業せず)(新聞歴)大正四年一月中國民報入社大正七年六月四國民報創刊主幹(中民衆報)大正十三年一月現職。(現住)岡山市上四町十二(電話)二三三六)

柿沼柳作(汪水) 東京朝日新聞電信課課長(明三八、六)入社。埼玉縣(明三、正)生。家族九人。(趣味)鏡戲。(現住)麻布區廣尾町七九(電話)高輪五三三二)

神尾茂(雲山童子) 大阪朝日新聞支那部長。福島縣石川郡川東村(明一六、七)生。明治三十九年早稻田大學政治經濟學科卒、同四十二年東京同文書院商務科卒。(新聞歴)四十二年大阪朝日新聞東京通信員、大正二年大朝社神戸支局に入り四年七月上海特派員、同六年北京特派員に轉つき米國へ特派、同十一年九月歸社、同十二年六月現職。(現住)西宮市川東五七〇

神田九州男 大分新聞社經濟部長(明三〇、六、二九)生。中學卒、高等學校中途退學。(新聞歴)大正八年入社、社會部から編輯擔當三年大正十三年十一月より經濟部へ。(現住)大分市藤前サキ屋

神田清吉(時雨) 豐州新報佐伯支局長。佐伯(明二六、一一、二六)生。中學四年修業。(新

神吉英三 時事新報營業局

次長廣告部長。四十四年度慶應義塾卒。(新聞歴)大正十二年七月入社。(現住)麻布區新堀町四(電話高輪五五七〇)

梶山義三 夕刊大阪新聞社(新聞歴)元國民新聞大阪支店員。(主義)自由人。(趣味)讀書三味。(現住)大阪市東區仁右衛門町

柏原縣磨 帝國通信社政治部記者兼翻譯記者。長野縣(明三三)生。中學卒。正則高等英文學科卒。(新聞歴)大正十年四月大勢新聞政治部記者となり大正十二年五月現社。(現住)市内本郷區弓町二の三華樂館

柏本守人 中外商業新報社大分縣(明治三二、一〇、一一)生。中學卒。後關大その他に席を置く(新聞歴)田舎新聞より東京毎日を経て大正十二年二月現社。(趣味)古本流り、散步。(現住)東京市外杉並町高圓寺七一〇

菅野福一 滿洲日日新聞東京支店員。福島縣伊達郡石月村(明二八、一二)生。(現住)東京市外中野町二三八

與良松三郎 (雲生)名古屋新聞社主幹(五十四歳)。師範卒。新聞歴)明治四十年三月名古屋新聞社へ入り今日迄。(主義)マル(主義)。(趣味)酒と茶。(現住)名古屋富士塚町二(電話東四八〇八)

米野豊實 東京毎日新聞政治部長。新潟縣糸魚川町(明二五二)生。高田中學校。正則英語學校高等科。(新聞歴)高田日日新聞政治部長。中央新聞政治部長。(現住)市外代々木初臺四七九

米久保喜雄 (浩々) 名古屋市新愛知新聞政治部長。長野縣東筑摩郡片丘村(明一五、三)生(新聞歴)信濃毎日新聞記者を振り出しに名古屋毎日新聞政治部長を経て現社。(趣味)音楽、繪畫、彫刻

米本厚一 (鴨峰) 帝國通信社大連支店長。岡山縣(明一五)生(新聞歴)中國民報主筆兼編輯長(趣味)釣魚、運動競技。(現住)大連ニヒス町(電話八二六三)

横田莫人 名古屋日日新聞主筆(四十一歳)。早稲田。學三十六年卒。(獄歴)入獄二回、罰金二、起訴猶豫三。(新聞歴)報

知、やまと、九州日報、長崎新聞(長崎日日の前身)愛知新聞、平民新聞、勢運、(著書)信家人同盟創立者コーチン「労働者」[我等のサークルの彼等]「佛蘭西労働組合研究」無産階級の戦術「マゴドナルトの「産業統制論」(原名サンガカリズム検討)(主義)アナルコサンガカリズム(趣味)社會運動。(現住)名古屋中區門前町五の四四(電話南二八四一)

横山五市 大阪毎日エコノミスト東部(東京日日社内。静岡縣富士郡今泉村(明三一、八、一四)生。横濱商業學校。大正十二年四月慶應義塾大學經濟學部卒。(新聞歴)卒業と同時に現職(現住)府下南品川三ツ木八三七

横山貞輔 (天陽) やまと新聞社庶務部。鹿児島市(明二二、八、九)生。大九中央大學政治經濟科卒。(新聞歴)逓信省貯金局日本郵船會社、拓殖大學。(現住)小石川區丸山町一六

横山仁三 朝野通信社副社長(明三九、二八)生。鳥取縣(明一九二)生。妻子計五人。(新聞歴)中外通信内勤(思想)國家的自治主義。(趣味)圍碁、旅行。政黨)政友會。(現住)東京市外千駄

ヶ谷町五四〇(電話青山二三〇)

横山精一 大阪朝日新聞社會部(三十二歳)。(新聞歴)大阪朝報を経て大正九年三月一日朝日へ入社。(主義)皇室中心主義。(趣味)劇と角力と武道。(現住)大阪府三島郡吹田町濱の堂

吉岡時彌 (紫洋) 唐津時事新聞社營業部長。唐津(明二二、二)生。商船學校卒。(新聞歴)汽船會社、大正六年毎日通信社、大正通信社現に大阪時事新聞通信員。(趣味)船遊、魚釣。(現住)佐賀縣唐津町字坊主町

吉川保 東京朝日立川通信員。東京府南多摩郡學村相原(明三七、一二)生。(新聞歴)十七歳にして新聞通信員たり。(趣味)新聞通信。(現住)府下立川町衛成病院通

吉川庄一郎 都新聞社營業局長。(現住)市外馬込村東一〇五一

吉川守邦 (世民) 新聞廣告業世民社經營。府下西多摩郡檜原村(明一八)生。東京政治學校卒(明治三十八年)。(新聞歴)明治三十八年幸徳等の平民社に關係し、三十九年三月入獄七月出獄して幸徳等の日刊平民社に入

小跡七六

吉永源太郎 (淡山) 西澤日日新聞編輯長。熊本縣玉名郡春富村(明二二、一一)生。熊本縣立尋常師範學校卒。國語漢文論理教育を専門的研究。(經歷)熊本縣に拾ヶ年、福岡縣下に六ヶ年間中等教育に従事。明治三十九年退職造林開墾事業に従事大正三年大牟田に轉任後筑後三池毎日、西海日日新聞に執筆(趣味)漢詩。(現住)大牟田市木町六の一四三

吉村幸夫 婦人タイムズ主筆。綜合通信編輯監督。筑後久留米城下(明二二、五、八)生。東洋大學大學部哲學科出身。(新聞歴)日本婦女通信記者を出發に東京毎日新聞、大勢新聞、東京毎日新聞、再び東京毎日新聞を経て現在に至る。(趣味)歌(現住)東京市日本橋區通二の一六(電話六五三〇)

吉村福太郎 九州日報社内外電報電話市内版編輯主任、姉妹紙佐賀毎日、佐世保新聞編輯長。(明二四)生。(新聞歴)福岡日日記者、唐津日日主筆、唐津新聞社長を経て大正十二年現社に入る村井滋貴に師事し事あり。(現住)福岡市箕子

本社、四十一年兒徒嘯集事件にて入獄四十三年三月出獄、やまと新聞社に入社、同年七月幸徳の大逆事件に座し退社、四十三年九月より案内廣告業世民社創業大正十二年五月共產黨事件にて入獄同年十二月出獄後謹慎。

(現住)小石川橋除町三十三(電話小石川三三三七、三四九二)

吉川宗治郎 (白天樓) 教賀中外新聞主筆編輯長(三十二歳)。奈良縣天理中學校卒。(新聞歴)大和新聞、新大和新聞、大阪毎日新聞通信員、國民新聞通信員、國民新聞、名古屋新聞通信員。(現住)教賀港泉一五の六

吉川義章 日本電報通信社理事。京城支局長(三十九歳)。(新聞歴)明治四十五年一治初めて日本電報通信社に入社し以て今日に至る(其間大正十一年七月迄東京本社誌、政黨方面を擔當せり)。(現住)京城府古市町三十五番地八の二(電話本三三三二九)

吉田淳 大阪朝日新聞京都通信局長。埼玉縣北埼玉郡井原村(明一七、一〇)生。早稲田大學政治經濟科。(新聞歴)青島攻圍軍に二六電報通信員として従軍、

東京朝日政治經濟部、大阪朝日整理部、東京朝日整理部等に轉勤して英國に留學歸朝後現職。一年志願兵に服し後備兵中尉(趣味)乗馬、喫煙、農村生活。(現住)京都市西の京御與ヶ岡二五(電話西陣一〇三二)

吉田四郎 (彰利) 東京朝日新聞社長野支局長。群馬縣群馬郡室田町(明一七、一〇)生。横濱商業學校を経て東京高等商業學校入學二年にて退學。(經歷)日露の役に於て貿易事業に従ひ朝鮮仁川に於て貿易事務に携され轉じて北京に軍事教官に聘され上野新聞記者を経て東京朝日新聞社に入社。(趣味)運動(漕艇、野球)。(現住)長野市縣町乙七三(電話五三三二)

吉田徳作 (孤羊) 中央新聞學藝部(明三五、三)生。東京福音英語學校其他。(新聞歴)岩手毎日新聞。(趣味)讀書。(現住)府下高田町鶴山一五〇六

吉田忠喜 やまと新聞社學藝部。長野縣上水内郡南小川村(明二三、九、九)生。東京府豊島師範、日東大學卒。(現住)小石川區高田老松町四六

吉田軍藏 中央新聞裁判所詰。熊本縣(明三一、二、一六)生

釜山商業學校卒。(新聞歴)毎夕新聞、都新聞社を経て現社。(現住)大森町諏訪八五六

吉田程一 大阪時事新聞社京都支局長。大阪府河内國(明四、一)生。(經歷)百姓、牧師官吏、雜誌記者、新聞記者等(現住)京都市東山線松原下る群花園(電話下四四一〇)

吉田康昭 大分新聞記者。宮崎市大字江平町(明二九、三、二五)生。(現住)大分市塗師町

吉武鶴治郎 東京日日新聞營業局理事、重役待遇。(現住)小石川區關口臺町七三(電話架設中)

吉武研 (玉水) 豊州新報高田支局長記者。兩豐時報主幹。明治五年本社。(趣味)歌と寫眞(現住)大分縣西國東郡高田町(電話六九)

吉永半平 萬朝報政治部。福岡縣(明二五、一〇)生。早大法科。(經歷)百姓、労働者、商人、會社員、記者、浪人其他。(趣味)政治と民衆藝術。(現住)市外戸塚町諏訪八二

吉永加治夫 (閉湖) 大阪朝日山口通信部主任。備前(二十九歳)。(現住)周防山口町上立

九州日報社内外電報電話市内版編輯主任、姉妹紙佐賀毎日、佐世保新聞編輯長。(明二四)生。(新聞歴)福岡日日記者、唐津日日主筆、唐津新聞社長を経て大正十二年現社に入る村井滋貴に師事し事あり。(現住)福岡市箕子

吉野正平 下野新聞編輯長
宮城縣古川町生(三五歲)早稻田
に學ぶ。(經歷)雜誌の編輯や出
版業に従事。時事新報社會部編
輯。(趣味)各種競技運動、芝居、
音樂。(現住)東京都宮市二條町四
一三〇

吉澤萬助(董之) 京華社東
京支店外務員。栃木縣宇都宮市
(明一七、六一)生。佛教協和會
中學部二年修業。(新聞歴)大正
四年八月現社に入社。(趣味)芝
居。(現住)東京都府南品川一の二
三三

吉澤春吉 下野日日編輯長
(大九、一〇)入社。栃木縣(明三
六)生。(經歷)下野毎日。(趣
味)文學。(現住)宇都宮中河原
町五三

吉見幸雄 東京朝日新聞社
整理部長正課。愛媛縣下八幡濱
(明三〇、一一、二五)生。關西大
學法科。明治大學政治經濟科卒
(新聞歴)大阪朝日新聞社活版科
を経て現在。(趣味)圍碁、將棋、
讀書。(現住)府下野方町大字上
高田二二

葭村喜三松 富山日報社
事務長(明二九、一〇)入社。富山
縣魚町生(明一一、七)生。家族七
人

田原茂作 國民新聞社整理
部長(三十三歲)。築地工手學校
(新聞歴)讀賣、やまと、毎夕、
國民。(主義)勤くこと。(趣味)
新聞の大部、旅行。(現住)小石
川區大塚町七三

田上忠之(靈生) 養南新報
新社駐在記者(明二六)生。新聞
歴(大正一一年)養南新聞より轉
(趣味)乘馬、(著書)謎の生番
(現住)新竹新街南門(電話
二二六)

田中一(江水) 養南新報
社政治經濟部長兼大阪毎日新聞
社囃託。福岡縣(明一九、一)生。
早稻田大學法律科三學年中退學。
(新聞歴)福岡日日下關支局
長、臺灣日日政治部。(趣味)美
的百姓、旅行。(現住)臺北市大
正町一の三四(電話)一九三三

田中穂積 東方通信社。千
葉縣長生(明二六、一)生。(新
聞歴)國民新聞勤業部。雜誌「帝
國青年」。雜誌「時潮」。(現住)千
葉縣長生郡土睦村北山田

田中勝三 京華社副參事本
店計算助役。京都市(明二六、
一〇)生。(新聞歴)明治四十五年
七月四日現社へ。(現住)京都市
堺町通三條南入

田中豫章 大阪朝日新聞社
社會部記者。岡山縣美作津山(明
三〇、七、二)生。岡山縣立津山中
學卒。(大正五年)。(新聞歴)大
正九年美作新聞主筆大正十一年
本社へ。(趣味)旅行、讀書。(現
住)岸和田町岸城町一七五五(電
話四二五)

田中保藏(斐川、通天郎)
筑陽日日新聞社社長。福岡縣嘉
穂郡幸發町(明二〇、一〇)生。中
等學校。(新聞歴)明治四十年東
洋日の山新聞、郷土文學海潮音
及び俳句新聞を發行。(趣味)短
歌、俳句、政治。(現住)飯塚吉
原町(電話三三七)

田中五郎 帝國新聞社記者
(明三七、一一、二)生。長野工業
學校卒後佛語學修。(經歷)農商
務省。(趣味)讀書、スキー。(現
住)東京府下高田雜司ヶ谷五三
三大矢能伸方

田中朝吉 やまと副社長。
(大九、七)入社。伯州弓ヶ濱(明
二五、六)生。妻弟、中央大學。
(著作)美學と發明、法律相談。
(思想)前後期印象派。(趣味)繪
畫。(現住)東京府下大井町北濱
川二四九

田口作郎 報知新聞編輯部
(大一一、一)入社。秋田市(明一
七、二)生。父と姉二人。東京外
國語學校卒。(現住)府下杉並町
阿佐ヶ谷三二

田熊喜作 大阪朝日新聞總
島通信部主任。山口縣熊毛郡豐
田村(明二二、四)生。(新聞歴)
舊備日日新聞記者たりし事あり
大正八年現社へ。(趣味)讀書と
圍碁。(現住)德島市内町興濱(電
話九三四)

田熊福七郎(案外) 報知
通信部編輯主任(大三、七)入社。
栃木縣下(明二〇、八)生。家族
五人、法政大學法科卒。(新聞歴)
二雜誌、二新聞編輯。(事業)雜
誌「美談」の經營。(趣味)政治
と演説と法律。(現住)下谷區中
根岸八一(電話)下谷三七五

田子健吉(無何有) 福島民
友新聞編輯局長(三十四歲)。(現
住)福島市御倉町一一(電話)六七
九

田澤良夫(騎士) 東京毎夕
新聞社理事兼演藝編輯。東

鹿兒島市(明二四)生。(新聞歴)
明治四十四年やまと新聞政治部
に入り大正七年十二月東日入社
同社政治部副部長として、政友
會を中心に陸軍省、逓信省、國
民黨本部に活躍した。(現住)市
外原宿一八

田中澤一(養澤藍川) 天業
民報社文藝部長。東京(明二〇、
三)生。田中智學門下。(新聞歴)
雜誌「妙宗」月刊日進主義週刊
「國柱新聞」編輯主任。(現住)東
京府代々木上原一二二五
報東京支局主任。東京市(明二
〇、一一)生。中央大學。(新聞
歴)大正十三年四月現社へ。(趣
味)長唄、三味線。(現住)東京市
芝區高輪北町三九

田中しめ ジャパンタイム
ス社廣告部。佐賀縣藤津郡能古
見村山浦(明二二、二)生。日本
女子大學文學部出身。(新聞歴)
婦人雜誌記者。(趣味)文學、演
劇。(現住)芝區櫻川町一七

田中秀一 正路社社外支
部員。長野縣上伊那郡(明治二八、
一一)生。(新聞歴)明治四十一年
十一月二十八日現社へ。(現
住)府下世田ヶ谷池尻一二七

田中幸太郎 大朝廣告部
新聞社美術記者。東京市(明一
八、二)生。(趣味)音樂。(現住)
本郷區本郷四の三五松榮館
田北宗平 五分新聞社營業
部長。大分縣大分郡鶴岡町(明二
六、八)生。熊本縣立商業學校卒
(現住)生地に同じ(電話)四三二

田島誠一(江東) 自由通信
社政治部長。府下南葛飾郡瑞江
村(明一五、八、二四)生。早稻田
大學政治科卒。(新聞歴)神戸新
聞、東京日日新聞、帝國通信、
中外商業新報、自由通信記者、
全國同盟記者俱樂部總代、社團
法人新聞記者協會事務理事。(趣
味)撞球、回國生活。(現住)市外
月塚町宮田三九二(電話)大手四
六四一

田島愛次郎 正路社計算
課員。北海道(明三三、四、二〇)
生。立教大學商學部本科卒。(新
聞歴)大正十三年三月現社へ、
(趣味)運動。(現住)東京府下上
尾久四町一〇九六

田守好司 ジャパンタイム
ス社廣告部。奈良縣(明四〇、
六、一八)生。早稻田高等學院卒
(趣味)音樂。(現住)府下大崎町
字上大崎六〇六

多伊良實 報知新聞經濟部
記者(三十一歲)。中央大學商科

田村喜三郎(西男) 中央
新聞社理事兼演藝編輯。東

田村全宣 やまと編輯局長
(大二、一)入社。高知縣(明一三、
一一)生。妻男三。法律と英文學
(新聞歴)新土佐新聞、讀賣(思
慮)皇室中心國家主義。(現住)本
郷區田町二八(電話)小石川一五
〇七

田中新治 萬正社販賣部長
(大二、一)入社。高知縣(明一三、
一一)生。妻男三。法律と英文學
(新聞歴)新土佐新聞、讀賣(思
慮)皇室中心國家主義。(現住)本
郷區田町二八(電話)小石川一五
〇七

田中星水 東京毎夕新聞社
記者。(明二九、一〇、一五)生。
國學院大學中途退學。(新聞歴)
中央新聞社會部、中外商業新報
(趣味)食酒樂、演藝

田中精一(蛙聲樓) 岐阜日
日理事兼編輯長(明三七、入社)。
岐阜縣(明八、一一)生。中學中途
退學時習私校卒更に春雨私校に
於て漢字研讀。(著書)小唄體讀、
野の鳥、日日草。(現住)岐阜縣
初音町

田村益喜 天業民報社「政
治と經濟」編輯主任。高知縣(明
三一、八)生。京都帝國大學經濟
學部。(趣味)古典劇。(現住)東
京市外池袋一一二五川西方

田口斌 帝國通信社岡山支局
長。東京神田(二〇、五)生。京華
中學。(新聞歴)東京の新聞、雜
誌から地方新聞植民地新聞を経
て現社へ。(現住)岡山市西中山
下一四

田口章太 報知社會部外交

多田滿長 大日本通信社長

多和田新四郎 大阪毎日新聞東京駐在記者

大東長次郎 東京朝日新聞社

谷辰次郎 東朝報社社長

谷龍太郎 山陽新聞社

谷口之助 株式會社社長

谷口德次郎 東京朝日新聞社

谷口新造 豐國通信社長

立石美藏 帝國新聞社社長

立石匡 帝國新聞社廣告部員

高市盛之助 愛媛新聞社社長

高石眞五郎 大阪毎日新聞社

高畑一策 豐州新聞社

谷井基次郎 三保貞治

谷河梅人 臺灣日日新報

谷口德次郎 東京朝日新聞社

谷口之助 株式會社社長

谷口德次郎 東京朝日新聞社

谷口新造 豐國通信社長

立石美藏 帝國新聞社社長

立石匡 帝國新聞社廣告部員

高市盛之助 愛媛新聞社社長

高石眞五郎 大阪毎日新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高井實業新聞、福井日報

谷口徳次郎 湖東民報社長

谷口新造 豐國通信社長

立石美藏 帝國新聞社社長

立石匡 帝國新聞社廣告部員

高市盛之助 愛媛新聞社社長

高石眞五郎 大阪毎日新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高畑一策 豐州新聞社

高橋純一 帝國通信社社長

高橋象平 夕刊大阪新聞社

高橋達次郎 時事新報社

高橋三郎 國民新聞社

高橋鐵之助 豊州通信

高橋三郎 國民新聞社

高橋淳平 豊州新聞社

高橋勇 國際通信社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋見泉 大分新聞

高橋鐵之助 豊州通信

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋三郎 國民新聞社

高橋武夫 釜山日報

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋聿郎 大連新聞

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

高橋直通 高知新聞社

宮崎新聞を経て大正十二年六月現社。(趣味)盆栽、音論。(現住)宮崎市福島町(電話四七一)

高田安己(湖時) 樺太實業新聞社長、大泊毎日新聞社理事

高梨光司(弓里) 大阪日日新聞政治部長(大正二入社)大阪市政記者俱樂部幹事、鳥取縣下外江村(明二五、九)生。(著書)都市改造講話。(趣味)將棋、安來館。(現住)大阪市北區東野田町六の一七三(電話四六四六)

高野隆平 都新聞記者、茨城縣新治郡北村(明三二、四、二)生。水戸工業學校中途退學。私立海城中學校。(新聞歴)報知新聞、讀賣新聞。(趣味)旅行、讀書。(現住)府下南品川町二日五市七七

高桑正吾(鷹九羽) 函館毎日編輯長、函館(明一九二〇)

生。妻一男二女。東京中學卒、日本大學中途退學。(新聞歴)北海道日報、小樽新聞、新小樽(事業)エヌエムラント普及。(現住)函館市千代山五三

高倉理發(鳳城) 時事新聞社直轄書店主、肥前佐賀(明二四、十二)生。明治大學法學部法律科卒、新聞學研究講座、新聞夏季大學經營學科卒。(新聞歴)佐世保軍港新聞記者、中央新聞支局長代理、東京各社專賣所主任代理及擴張員、時事新報專賣所主任代理、大正三年日獨戦争の際青島へ出征。(趣味)銃獵、旅行、讀書等。(現住)東京市外濠橋町角八七九(電話四谷一〇〇三番)

高山郁平 東通通信部。早大文科。(新聞歴)都新聞、大阪毎日新聞等を経て。(現住)市外田端二二一

高澤初太郎(初風) 東京毎日新聞社社會部演義。東京芝居(明一四、五、一八)生。商業學校中途。(新聞歴)關西の二社を経て大正三年現社。(趣味)演義美術、旅行、音曲。(現住)四谷區永住町二。(電話四谷二二七一)

高木利太 大阪毎日新聞社

專務取締役。慶應義塾卒業。(趣味)讀書、靜思。(現住)兵庫縣本武庫郡本山村北畑。(電話御影一〇六〇)

高木唯一 大勢新聞經濟部長。香川縣(二七、八、二)生。京大出(趣味)舞踊。(現住)府下野方町新井二五八

高見保三 やまと新聞社庶務部。千葉縣安食町(明一四、十六)生。東京府師範學校、日本大學卒業。(趣味)養鷄、庭造り、農事、釣魚。(現住)淀橋町柏木百二十。(電話四谷二二〇〇)

高島仰(仰山) 室蘭日日新聞の營業部長(三十二歳)。小學校を出たばかりであり、(新聞歴)社長の家に育ちて社長が新聞を創めたから、これに従事し任されて部長となりました。(主義)家長社長崇拜主義。(趣味)實業(現住)社長の家(電話四一四)

高森宗吉(芳村) やまと新聞政治部長。千葉縣長生郡高根本郷村(廿八、六)生。中央大學法科

卒業。(現住)府下向島寺島町四一五

高森有吉(春史郎) 正路喜社庶務課長。東京府南多摩郡忠生村上小山田三二四八(明二二、九、二八)生。早稲田大學商學部卒業。(新聞歴)自大正十一年三月至大正十三年五月株式會社瀨谷銀行本店統計課に勤務現社へ(趣味)文學(詩作)。(現住)市外中野町字打越二〇七六

鷹野虎雄 名古屋新聞社。長野縣(明二〇、八)生。(現住)東京市外世田谷町

寶田通元 國民新聞社庶務部。特派員(三十歳)。早大、帝大、外語。(現住)紐育市(電話留守宅牛込三一五五)

辰井梅吉 大阪朝日新聞社常任監査役。大阪市北區堂島(明二、四、十二)生。商工中學、卒業商業學校を経て明治二十五年一月慶應理財科大學に入學廿六年十一月途中退學。(經歷)大阪朝日新聞社、經理課長監督部長を勤め大正八年八月より大正十一年八月迄取締役となり満期解任大正十二年八月現職に就任現在に至る。(現住)兵庫縣武庫郡魚崎町七二八番。(電話御影八一五)

辰己豊吉 日刊千代田通信社顧問、報知新聞株主、春秋會員、新聞協會理事佐賀縣小城町(明三、一)生。長崎縣外國語學校英語科、青山學院等に學ぶ。(新聞歴)佐賀新聞論説記者、福隆新報(前九州日報)報知、通信大臣秘書官(明四一)、大阪新報、中央。(趣味)新聞を讀み訪問談話する事。(政黨)無關係主義。(現住)小石川區大塚阪下町一六七。(電小石川二二二五)

龍澤慎作 東京毎日新聞社地方部長。(明七、五)生。(新聞歴)萬朝報社。(現住)東京市小石川區白山前町四(電話小石川四八七〇)

玉井浩 萬朝報編輯部員。三重縣桑名町(明二九、一)生。日本大學。(現住)東京淺草田中町八四吉田方

竹林虎之助 東京毎日新聞社。東京市(明二五、一)生。早稲田大學。(新聞歴)國民、大正日、中央、やまと。(現住)下谷區下根岸七一(電話下谷五)

竹中延壽 中央新聞社文藝部。岡山縣御津郡建部村(明二九、九、一)生。早稲田大學英文學科。(現住)府下目黒町三田五七

竹村良貞 帝國通信社取締

役。(現住)市外淀橋柏木九六五(電話四谷一三三〇)

竹内順三郎 國民新聞社會部。新聞(明三〇、五、一七)生。長野中學。(新聞歴)やまと新聞を経て現社。(現住)府下入新井町山王二六八六

竹内武夫 北海道室蘭市(明二九、九)生。(現住)札幌市北三條町二丁目木下方(電話六六二二)

竹内勝太郎 大阪時事新聞社。(現住)京都市鹿ヶ谷法然院町四一

竹内俊夫(脱湖) 釜山日報編輯局長(三十四歳)。(大正一三、三)入社。(新聞歴)關門日々釜山支局長、朝鮮時報編輯局長(現住)釜山府西町三三〇(電話二二一六)

竹内英省 高知新聞政治部編輯長。高知縣(明二六、二)生。妻と女兒二人。(著作)高知縣産業史。(思想)國を愛し人を愛し自由を愛す。(趣味)登山、讀書、健康法。(現住)高知市南奉公人町一

竹澤治平(唐南、健次郎) 東京朝日新聞社、通信部地方版編輯(四十八歳)。明治大學出身(新聞歴)明治三十八年戦役の際

第一軍に従軍し刀南生の名にて戦記並に寫真を東京朝日に寄せ主觀的記述の多き當時の發を脱せる客觀的文體に依りて文才を認めらる、除隊後三十九年より同社兩毛通信員となり四十二年から大正八年まで新聞通信部主任引續き静岡版編輯として本社編輯局に入り今日に至る。(宮城版編輯)。(現住)東京市小石川區青町七

武井文雄 萬朝報社出版部長兼人事調査部長。東京市(明二〇、三)生。(新聞歴)二六新報實業之世界理事(野依社長洋行中社長代理)社會教育會常務理事。(現住)本郷東片町一三五

武井志敏(東天) 博多日日新聞主筆。福岡縣船場郡須惠村(明三四、七)生。中央大學。(新聞歴)博多毎日、久留米毎日を経て現社。(現住)福岡市中島町濱新地(電話三一〇六)

武井守正 本郷に生る。帝大文科出身。(現住)本郷湯島三組町(電話四谷一三二五)

武市雄馬(風目) (五十餘歳)名古屋毎日新聞社主筆。總務理事。獨學。(新聞歴)大阪市より發行の關西日報に執筆する多年、大正十年七月名古屋に

赴任。(著書)希望、海國百觀、人物と文學、蒲生廿平傳、白河樂翁傳、運命の研究、其他。(主義)此欄内には記入の餘地なし。(趣味)矢張讀書と詩。(現住)尾根知多半島横須賀町

武田鈿 報知新聞社營業局(大正五、七入社)。愛知縣(明二四、九)生。(現住)府下大井町六一三三

武田鎌治郎(冷雨又嶺南) 東京日日新聞松本通信部主任。(明一五、三、一)生。(新聞歴)報知社名古屋支局特派員、扶桑新聞、報知社。(趣味)運動、登山、寫真、小鳥。(現住)松本市南土居尻町六二(電話一〇二七)

武田甲子太郎(許太郎) 天業民報社客員。東京(明四)生。東京帝國大學工科大学出身(工學士)田中智學門下。(新聞歴)管絃局技師、武田工務所長。(趣味)文藝。(現住)大阪市西道頓堀通一丁目(電話櫻川三一六二、三三六二)

武田和夫 大阪朝日新聞社整理部(大一一、五入社)。福井縣(明三〇、四)生。慶應義塾大學理財科。(現住)兵庫縣西宮市川尻二六二五

武田哲朗 帝國通信社務部

武田徳三郎(東城) 高田日報主幹。越後國に生る。(現住)高田市南五ノ辻(電一七)

武内止戈(浩々吟翁) 滿洲通信社長(大三、八入社)。大分縣(明二)生。妻二男一女、同志社卒。(新聞歴)營口にて滿洲新報社創設(明四一)、雜誌大陸社主幹(大二)。(思想)儒教の中庸主義。(趣味)讀書、古書畫。(政黨)なし。(現住)奉天信濃町七(電長六三)

武山宮信(二葉舎) 鹿兒島朝日新聞社南支局主任(大九、一八入社)。大島新報鹿兒島通信部主幹、奄美大島(明一九、一〇)生。妻及五兒あり。(新聞歴)鹿兒島新聞通信員、大阪朝日鹿兒島販賣部、大阪時事新報販賣部。(著作)新聞解説、教壇十年等あり。(思想)奉天享樂主義。(趣味)酒、讀書。(現住)鹿兒島市下荒田町三〇一

伊達源一郎(櫻堂) 東方通信社主幹。島根縣能義郡(四十八歳)。同志社政法大學卒。(新聞歴)國民編輯局長、同理事、國際通信編輯部主任、讀賣主幹。(現住)府下中津谷七六三(電話青山四九〇)

瀧澤豊(龍水) 大阪朝日新聞福井通信部主任。福井縣(明一四、一)生。(新聞歴)福井新聞(趣味)新聞事業。(現住)福井市佐桂枝上町八六ノ二四(電話九七〇)

丹波秀伯(彩子) (大江山生) 東京朝日經濟部。三重縣(明二四、一〇)生。家族二人、明大政經本科。帝大經濟科、外國語學校。(新聞歴)東京日日、新愛知財政經濟時報。(著作)我國勞動爭議の經過概要、失業者の問題、動力獨占の監視。(思想)理想主義。(趣味)高真。(現住)府下大森八景園二三七〇ノ八

瀧谷質(麗峰) 中央新聞社司法記者。廣島縣若原郡那賀村(明三三、五)生。(趣味)文藝、養雞園藝。(現住)東京市外野方町新井一〇三

瀧榮治 靜岡民友新報記者。靜岡市(明二八、九)生。(現住)靜岡市若松町六六

瀧田憲治 時事新報勤務。千葉支局長。茨城縣(明二八、四)生。(新聞歴)國民、時事(趣味)讀書。(現住)千葉市長洲(電話千葉四三三)

曾我精一 時事新報社調度部長。岐阜縣(明一六、九)生。(現住)東京市外世田谷太子堂四五〇

曾我鍛(正堂) 伊豫日日新聞主幹(大二、四入社)。大阪毎日松山特置員。愛媛縣(明一二、七)生。妻一男三女。松山中學卒。早大文科卒(明三八)。(政黨)不偏不黨。(現住)松山市三番町横(電七二九)

添田壽一(山濤) 報社顧問(大六、一就任)。東京商業會議所特別委員。福岡縣(元治元、八)生。家族七人。東京帝國大學政治經濟科卒。(新聞歴)中外商業新報社長、報知新聞社長。(著作)財政通論等。(思想)中正。(現住)豐町區富士見町一ノ一

會田作(香苗) 中外電通理事。島根縣大社町(明一九、一)生。同志大學中途退學。(新聞歴)東海新聞社、廣濟、記者。(趣味)社會事業、研究及政治。(現住)東京府下高田町高田一三六三

宋鎮禹(古下) 東亞日報社主幹。澤陽郡水此而南山里(明二二、五、八)生。明治大學法科大學

七

相馬友次(明郎) 東京日日新聞福島通信部主任。新潟縣岩船郡(明二一、一)生。(新聞歴)大正六年現社。(趣味)新聞。(現住)福島市曾根田字宮下二〇

莊田忠保(春柳) 福島民報社。福島縣若松市(明一八)生。東京高工卒。(新聞歴)市書記、商品陳列所主幹、福島商業會議所書記、勸業會社員。(現住)福島市島町榮町民報社

津田武 鹿兒島新聞主幹。(現住)鹿兒島市西田町(電一七〇)

都筑貞治 都新聞記者。岐阜縣益田郡萩原町(明二三、五、二九)生。(新聞歴)商業通信社を経て現社。(現住)在原郡平塚村月越一三五七

都筑氷骨 名古屋通信社主幹。愛知縣(明二三、八)生。愛知縣立二中學校卒。(新聞歴)前東

鶴卷民次郎(越山) 北海道タイムス函館支局長(明四〇、四入社)。新潟縣(明一一、一)生。家族三人。(著作)十勝の産馬、馬と馬術。(趣味)乗馬と馬の研究。(現住)函館市富岡町五(電一八一七)

塚原時太郎 東方通信社東京(明二〇)生。正則中學校東京郵便電信學校。(現住)東京日本橋區箱崎町二の八

塚田一甫 大阪毎日新聞社内。長野縣東筑摩郡神林村(明三一、二)生。大正十二年三月早稻田大學政治經濟學部經濟學科卒。(新聞歴)卒業と同時に現社へ。(趣味)登山、旅行。(現住)横濱市花咲町六ノ七九(電話横濱二〇九九)

塚田直治(秀山) 鹿兒島朝日新聞社記者。鹿兒島縣日置郡市來産(明五、五)生。(新聞歴)明治三十三年五月東京日日新聞、日報社に入り北清事變に際して特派せられ天津に於て病を得て十二月退社。大正十二年四月現在新聞社に入る。(趣味)文藝。(現住)兒島市武町一八〇六

塚本一生 讀賣新聞記者。熊本縣阿蘇郡宮地町(明三三、

京毎日電報、新愛知、名古屋新聞、中京公論主幹。(現住)名古屋市中區東新道町三

都築馨二(射陽子) 大分市大分新聞(愛媛縣(明二八、五、一五)生。京都高等實業學校本科卒。(經歷)大正十一年大分新聞に入社現在に至る。(趣味)讀書(就中農村問題)庭球、俳句、尺八。(現住)大分市荷揚町一三九

對間吉之助(潮船) やま新聞社浦和支局長。埼玉縣(明一六、一)生。(現住)埼玉縣浦和町(電話二三三)

坪内福郎(楚峰) 萬朝報社會部編輯記者(三十一歳)。早大専門部。(新聞歴)婦人雜誌新女性編輯長を振出しに青年雜誌編輯長東京朝日新聞家庭部主任を経て現社。(趣味)旅行、執筆(現住)大崎町上大崎七

土谷常次 株式會社正路喜社外交。山形縣(明一五)生。(現住)府下淀橋町角六三三

土屋護夫(梧風) 元山毎日編輯長兼經濟部長(大九、八入社)。伊豫國松山(明一七、七)生。(新聞歴)京城日報、釜山日報、朝鮮民報。(現住)元山府幸町

土屋清三郎 印刷會社主

鶴岡涉吉 萬朝報社案内廣告部主任。千葉縣君津郡清川村中尾(明二九)生。千葉縣立望陀農學校大正三年四月卒。(新聞歴)大正八年千葉縣米穀生産検査官任命大正十一年上京都新聞社に入社同年五月一日現社へ。(趣味)講演、武道、酒、旅行。(現住)府下中野町二七五三

角田廣司 京城日報編輯局長兼毎日申報編輯局長。千葉縣(明一九、八)生。(新聞歴)獨立通信記者、東亞電報通信編輯長、朝鮮新聞編輯局長、京城日報編輯部長。(趣味)旅行、讀書(現住)朝鮮京城南米倉町一一(電話本局三八六六)

辻村増藏(江東) 晝夜通信社主幹(大六、創立)。大井合資會社監査役。深川區(明一〇、一〇)生。妻一男三女。慶應義塾中途甲津學舎。(新聞歴)電通、東京

八

仙三會社を経営(四十四歳)。醫學を修業、奉職、開業。(新聞歴)明四十四年以來週刊邦文(日東之醫界)を経営し大正十年月刊英文「ジャッパン」メジカル、ウオールド」を興し同十一年月刊支那時文「東洋醫學」を興し邦文は専ら内地醫師に、支那文は支那醫師に、英文は歐米醫學界に讀まれてゐます。本年三月より日刊「新通信」を興しました。(現住)千駄ヶ谷五三三(電話青山二二五九)

鶴岡勝一(兼村) 東京日日新聞通信部主任。千葉縣茂原(明三〇、五)生。私立大成中學校卒。若林對茂氏に就て速記術修得。(新聞歴)新報、東海新聞、武相新聞、經濟界、鐵道畫報(趣味)射、劍道、古錢蒐集(現住)千葉縣銚子港口入二三六(電話二二四)

鶴岡涉吉 萬朝報社案内廣告部主任。千葉縣君津郡清川村中尾(明二九)生。千葉縣立望陀農學校大正三年四月卒。(新聞歴)大正八年千葉縣米穀生産検査官任命大正十一年上京都新聞社に入社同年五月一日現社へ。(趣味)講演、武道、酒、旅行。(現住)府下中野町二七五三

角田廣司 京城日報編輯局長兼毎日申報編輯局長。千葉縣(明一九、八)生。(新聞歴)獨立通信記者、東亞電報通信編輯長、朝鮮新聞編輯局長、京城日報編輯部長。(趣味)旅行、讀書(現住)朝鮮京城南米倉町一一(電話本局三八六六)

辻村増藏(江東) 晝夜通信社主幹(大六、創立)。大井合資會社監査役。深川區(明一〇、一〇)生。妻一男三女。慶應義塾中途甲津學舎。(新聞歴)電通、東京

土屋清三郎 印刷會社主

毎日。(思想)皇道を重んじ中學の漢學廢止に反對。(趣味)義太夫、歌澤、團扇、寫眞。(現住)深川區一色町河岸一號地

ね

根岸良吉

一府一道十七縣新聞取次業組合幹事長。埼玉縣本庄町(明四、一、二)生。(新聞歴)明治二十八年創業今日に至る。(趣味)旅行。(現住)東京府大森山王二六六九(電話大森二二九)

根岸眞三郎

東京米穀商。品取引所調査課長。埼玉縣(明二四、七、七)生。明治大學商科(現住)市外千駄ヶ谷五〇一

根本八太郎

(城東) 秋田縣新報社社正部主任(卅七)生。(新聞歴)秋田時事社を経て明治四十一年十一月秋田縣新報社に入社。(現住)秋田縣上中城町

根元重次郎

中央新聞社編輯局整理部(明三九、一)生。(現住)市外南品川三ッ木八七

な

名村寅雄

大阪毎日新聞社

京城支局長。(新聞歴)大阪毎日記者八年。教習、浦沙、奉天、北京特派員。販賣部助役。京城支局長。從軍記者二年。(趣味)記者生活、旅行。(現住)京城南大門二ノ一六(電話本三〇五〇、三六九七、一五七〇)

名倉聞一

東京朝日新聞社編輯部(四十二)生。早稲田大學卒業。伯林特派員。(新聞歴)東京朝日新聞社主任、調査部長を経て現在に至る。(著書)共和國獨逸。(現住)東京市外下落合町府管住宅一號地三六(電話牛込八四)

名古屋晴男

(秋水) 國民新聞通信記者(二十四)生。中學卒業後日大校外生となり獨學(法科終)(持業)柔道日録免許。(新聞歴)明治四十五年新日本之實業雜誌社田無支局長となり大正二年退社大正元年國民新聞八王子支局長名譽通信員囑托、爾來今日に及ぶ。(主義)實行(默々)(趣味)自治の改善教化。(現住)北多摩郡保谷村

那賀新一

豊州新報社廣告部員。大分縣大分郡明治村(明三五、四、一六)生。大分高等簿記學校卒業。(新聞歴)大正八年五月入社。(現住)大分市中島町一八

内藤晴夫

東京毎日新聞社商況部。廣島縣(明一九、一、二五)生。(現住)府下瀧野川四ヶ原九三六

成井貞三

都新聞出版部長(現住)府下杉並町天沼三六

成澤金兵衛

(玲川) 東京朝日新聞クラブ部長(大七、九入社)信州上田(明一〇、一、二)生。兩親妻二女一男、獨學。(新聞歴)米國にて邦字新聞中州日報經營(明四一—大二)。雜誌土地と家屋主幹、雜誌子實主幹(大四—七)。(著作)米國物語、西洋漫畫集其他。(趣味)寫眞。(現住)府下上野原七八〇

直海善三

中央新聞社編輯部特務係。石川縣鹿島郡七尾松本町一三(明三〇、五、一四)生。早大文科。(現住)横浜市神奈川栗田谷一五三

中井松治郎

(雅蕉) 函館商報社編輯長(三十一)生。仙臺甲種商業卒業後獨學。(新聞歴)大正二年入社以來今日に至る。(主義)別に主義はありませぬ唯常に足て書く事に努めて居ります。(趣味)旅行、俳句、劇。(現住)函館市大町一九番(電話七七六)

中原末吉

函館毎日新聞社編輯(大八、二入社)。(明二九、五、九)生。生家族三人。(趣味)演藝、運動。(現住)函館市春日町三二

中原芳太郎

(桂芳) 中國民報社教育記者(二十八)生。香川師範學校講習科卒業。(新聞歴)四國民報社五年、中國民報社二年。(主義)理想主義(趣味)文學。(現住)岡山市七番町九

中西春雄

時事新報社靜岡支局。東京市鶴町區內幸町(明三六、七、一三)生。私立豊橋商業學校卒業。(趣味)新聞學研究と運動競技研究。(現住)靜岡市水落町一、六

中西仙司

萬朝報社政治部編輯(明三三、一〇、一)生。早稲田大學政治經濟學部卒業。(趣味)テニス、讀書。(現住)東京市外下落合八八二

中尾龍夫

讀賣新聞社政治部部長。千葉縣(明一九、一、一七)生。中學部文館、陸軍士官學校、日本大學政治科及法律科卒業(新聞歴)步兵第三聯隊附、步兵第四十九聯隊附、甲府聯隊區司令部附、日支共同通譯編輯長、山梨日日新聞主筆。時事新報記者大正日日新聞記者、讀賣新聞記者

中尾清太郎

大阪朝日運動部副部長(大三一〇入社) 岡山縣(明二〇、一〇)生。妻一男一女一弟(新聞歴)名古屋新聞。(主義)唯凡ての有産者も無産者も學者も無學者もモット正直ならん事をのぞむ。(趣味)何事にも興味あるも特殊の趣味なし。(現住)大阪府泉北郡鳳町大島二二四〇

中尾清太郎

ライオン齒磨本舖廣告部顧問(明治六)生。早稲田大學法律科卒。(新聞歴)十餘年の學校教師、萬年社に二年餘、新聞社は帝國新聞、伊勢新聞(著述)「今日の廣告學」廣告と美術「聖書日日實行訓」等(主義)總て基督教の精神に立脚す。(趣味)特にボクサー、コンコロジ。(現住)鎌倉姥ヶ谷

中川靜

萬年社理事兼考案部長。長崎市(慶應二、一)生。早稲田大學の前身、東京專門學校(經歷)長崎商業學校教師、熊本商業學校校長兼教諭、神戸高等商業學校教授。(現住)神戸市葺合町二一八

中川榮一

報知新聞社營業局。埼玉縣(明二七、四、一〇)生

中川二郎

日本通信社主幹佐賀縣唐津町(明一四)生。法政大學卒。(新聞歴)大阪新報政治經濟部長を経て同東京支局長に入り大正三年大阪中外通信創立大正八年新聞界を退き大正電信工業會社事務取締役を日本電報局(現在)に入る。(趣味)讀書(現住)大阪住吉區住吉町三六五

中川歌津子

静岡民友新聞社。愛知縣(明三四、九、四)生。不二高等女學校出身。(趣味)文學、家庭手藝。(現住)静岡市西草深町七六

中川覺治

(杏果) 越後新報社記者。佐渡(明二三、八、一)生。私塾にて漢書及英語を學び後早稲田大學及慶應大學の講義録にて苦學。(新聞歴)明治四十三年北海道にて始めて記者となり爾來佐渡實業新報、佐渡毎日新聞、佐渡日報等の編輯長を経て後北越日報記者となり又北横濱市にて獨力雜誌を経営し大正八年より現社へ。(趣味)讀書、歌。(現住)新潟縣長岡市西千手

中川平兵衛

神戸新聞社(大二入社)愛媛縣(明二一、三)生。(現住)神戸市平野町神田町七

中垣内輝

北海タイムス社調査部主任。福井縣坂井郡(明二四、三)生。大正三年七月早稲田大學政經科卒、自大正三年九月至大正五年七月同校研究科にて財政經濟學專攻。(新聞歴)自大正四年一月至同五年二月千葉縣立原中學校教師囑托、自大正五年十月至同六年七月小樽高等商業學校柔道指南及監生囑托大正十二年八月現社へ。(趣味)哲學。(現住)札幌市南一條西一丁目一(電話二五三八)

中田拾松

大阪時事神戸支局長。福河加古川(明二五、一〇、二五)生。外語中途。(新聞歴)通信官吏、外國商館員、貿易商大阪新報を経て大正七年四月現社へ。(趣味)讀書。(現住)神戸市御藏通四下六七(電話本三七九四)

中田豊

報知新聞編輯庶務。(三十一)生。(新聞歴)山梨民報より大正七年現社へ。(現住)府下大森新井宿沼沼五二二

中津海知方

國民新聞記者。熊本(明二八、四、二九)生

中根榮

日本電報通信社理事兼編輯長。飛騨國(明一四、一)生。家族十人。(新聞歴)新愛知編輯長。(現住)東京市外大井町四七三八(電話九〇四)

中村唯一

報知新聞社編輯部部長。東京(明一四、一)生。東京帝國大學法科卒業。(新聞歴)明治四十二年東京毎日新聞主筆編輯長勤務、大正三年報知新聞調査部長論說部長兼任。(現住)東京市本郷區上富土前町一四三

中村長作

都新聞社編輯局寫眞部主任。石川縣(明一四、一)生。早稲田大學國語漢文科。(新聞歴)明治四十四年十月現社(現住)本郷區駒込淺草町七〇(電話小石川三六〇四)

中村勝治

新聞研究所副編輯長(大一一、一入社) 長崎縣(明二八、一)生。(現住)東京府下荏原郡馬込村東一〇二二

中村誠

新聞研究所。千葉縣長生郡五郷村(明三五、七)生。(新聞歴)十三年十月京濱タイムス社。(趣味)讀書、旅行。(現住)市外大森町南原四〇〇伊藤方

中村卯三郎

萬朝報社政
治經濟部(明二七、二六)生。
大正九年三月明大政治經濟學科
卒。(新聞歷)大正九年三月東京
毎日新聞社經濟部大正十年六月
現社。(趣味)散策と芝居、寄
席。(現住)府下杉並町阿佐ヶ谷
西向六七七

中村龍二(龍首)

中央新聞
社社會部長。東京市(明二五、
一一)生。(新聞歷)東京夕刊、二
六新報、帝國、東京毎日、雜誌
經營。(趣味)俳句、玉突、角力
(現住)淺草區三好町十

中村伊佐吾(峰月)

南信
毎日新聞記者。長野市(明二
九、一一、一三)生。東京開城中學
三學年に入り卒業後三月間開
治大學法學部に入る。(新聞歷)
新聞記者、警察官、小學校教員
等。(現住)長野縣伊那町青木町

中村武彦(孤星)

國民新聞
社甲斐支局長。茨城縣土浦町(明
二五、七)生。埼玉縣熊谷中學校
法政大學修業、外語學校修業。
(新聞歷)裁判所、稅務署、新聞
記者。(趣味)寫真、音樂、運動
(現住)甲府市日向町一(電話六
六五)

中村不折

朝日新聞社客員
(明三九入社)。帝國美術院會員

中村宗一(宗一郎)

鹿兒島
朝日新聞社編輯部。鹿兒島縣(明
三六、三)生。(大一一)鹿兒島市
立商業學校卒。(趣味)政治、經濟
(現住)鹿兒島市武町二九四

中村三彦

萬朝報政治部。
福岡縣京町郡川村(明三三、一
二、一八)生。大正十四年三月早
稻田大學明治經濟學部卒。(現
住)東京牛込神樂町都館内(電話
牛込三八九七)

中村光靖

東京日日新聞社
會計部長。岐阜縣大垣市(明一
七、四)生。明治四十四年七月早
稻田大學商科卒。(新聞歷)明治
四十四年八月大阪毎日新聞社入
社販賣部、大正五年四月下關駐
在員、同六年四月福岡市駐在員

中村喜代植

大阪毎日新
聞社監査役
長兼主筆(明三五、創刊隔日發
行)岐阜縣生當年五十一歳。(政
黨)憲政會。(現住)福井縣小濱町
清瀬(電話五四四)

中村寅次郎

神戶又新日
報經濟部主任(大九、一入社)。淡
路(明二一、九)生。家族五人。
(新聞歷)第一次大正日日。(思
想)白紙主義。(趣味)萬能。(現
住)兵庫縣六甲村(電話御影三五
〇〇)

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中村茂(耕南)

福岡日日新聞
地方部編輯(大七、三入社)。筑紫
妙玖傳道會理事、熊本市(明二
六、八)生。妻と姉と甥あり。
中學卒業後大政治經濟學及大日
本新聞學會新聞學修了。(新聞
歷)本社に在勤する事滿四年二
ヶ月。(著作)精神統一と仙術實
驗(思想)純日進主義(趣味)演
說、登山、旅行。(現住)福岡市
外箱崎町二八五二

中内義一(蝶二)

萬朝報編
輯顧問(明三八、九入社)高知(明
八、五)生。妻。東京帝大文科卒
(新聞歷)萬朝の外になし。(著
作)支那哲學及び文學、俳句等
に關する著書二三。(思想)樂天
主義(趣味)音樂及び劇(現住)
牛込區龜玉寺町二〇

中野賢治郎

萬朝報政治部
記者。岩手縣九戸郡久慈町(明
二七、九、一一)生。早稻田大學政
治學部卒。(現住)東京京橋萬朝
報社内(電話銀座五二〇〇一
五二〇八)

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中野秀人

東京朝日新聞社
學務部(二六歳)。早稻田大學
中途退學。(新聞歷)國民新聞よ
り朝日に轉す。(主義)實體主義

中山庸太郎(泰山)

都新
聞埼玉支局長。茨城縣筑波山麓
生(新聞歷)東京市日日、國民新
聞、常陸新聞編輯長。(趣味)銃
獵、書畫。(現住)埼玉縣浦和町
二〇一四(電話三〇八)

中山泰昌

新聞研究所出版
内報主筆。(現住)市外瀧の川町
中里一九一

中山富貞(青果)

萬朝報政
治部編輯。函館市(明二五、二、
一五)生。高商中途。(新聞歷)北
海道で文藝運動社を組織し後、
旬刊新聞發行、亞て二三の新聞
に社會部編輯擔當、大正十一年
上京、日本電報通信社、大正十
四年現社。(趣味)音樂、文藝
(特)短歌を愛す。(現住)東京
府下大森町不入斗一三一八

中山林圃(林圃)

南信日日
新聞社主筆。長野縣上伊那郡藤
澤村(明二一、七)生。中學校卒、
加速社社卒、日本大學夜學部修
業。(新聞歷)帝國通信、九州日
日新聞社、帝國通信社名古屋支
局長勤務、大正九年帝國通信社電
務課長、十年四月現社。(趣味)
文學、政治、茶園、犬猫飼育。
(現住)諏訪郡上諏訪町

中山楠雄

萬朝報社寫真製
版部長。尾道
市山陽日報社長(四十六歳)。(新
聞歷)明治四十年。米國より歸
朝して新聞記者となり十有餘年
を経て大正六年現山陽日報を買
取個人經營となし大正八年更ら
に株式組織となし専務取締役社
長となる。(主義)中立。(趣味)
政治。(現住)尾道市十四日町九
の一(電話二八)

中山仁平(水仙)

但馬日日
新聞社會計部長(四十九歳)。金澤
第四高等學校。(著作)民衆警察
と警察民衆(趣味)散策。(現住)
兵庫縣城崎郡八條村鹽津

中山英一郎

中外商業新
報編輯者(三十九歳)。專修學
校卒。(新聞歷)電報通信、東京
朝日新聞、時事新報、讀賣新聞
を経て現社(趣味)銃獵。(現住)
市外大久保百人町二六〇

中丸好太郎

外堂又は福
人(四十一歳)。(新聞歷)朝鮮新
報三ヶ年、京城日報八ヶ年、釜
山日報五ヶ年。(現住)平壤府本
町(電話五八)

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

中里弘多

大阪毎日新聞社
會計部長(明五、三)生。(新聞
歷)明治二十六年十二月入社勤

馬大鑑等。(思想)新日本建設。
 (政黨)已成政黨全部反對。(現住)高崎市本六九(電話七五七)
中平亮 大阪朝日外報部。明二七生。(新聞)大阪朝日外報部、シベリア特派員。大正八年五月浦潮を發し七月赤露に入り危難の間に實狀を探り九死に一生を得て九年六月莫斯科發ウエルフネウゲンスタより蒙古を經八月十日ハルビンに出で歸朝、十年三月出發東宮御渡歐の報道に埃及英佛を經て伯林府任、十一年四月セノア會議に派遣。(著作)赤歐露國の一年(日下私費海外留學中)

中本清吉

大分新聞大阪支社長(五十一歳)。(現住)大阪市北區東梅田町(電話北三三二一〇)

中筋康次郎

神戸又新理事(明三九、一入社)會津桐村會社、多摩川砂利會社、株式會社日本化粧品商會其他三會社取締役。和歌山市(明一一、五)生。妻一男。(趣味)諸種の事業。(現住)神戸市大井通附五の二二(電話本局三一〇)

仲田勝之助

東京朝日新聞社調査部(四十歳)。早稻田大學英文科。(現住)市外下路合一四三〇

仲谷善治

萬朝報社社會部石川縣(明三〇、一、五)生。明治大學法科。(新聞)中央新聞、東京毎夕を經て現社。(趣味)狩獵、登山。(現住)本郷四丁目一七朝明館(電話小石川五七三三)

永井萬助(兼)

東京朝日外報部次長(大三八、八入社)出雲國安來町(明一一、五)生。妻女三男二。(思想)精神主義なるべく中庸。(趣味)喫茶、音楽。(現住)小石川區久堅町七四の六〇

永井定治

ジャパニタイムス社廣告部長。東京市(明一八、五、一五)生。元東京高等商業學校卒。(新聞)學校卒業後銀行業に従事し歐州大戦前より戦後に亘り歐洲遊歴歸朝後支那各地を編歴し(大正十三年現社)。(趣味)讀書。(現住)東京府下千駄ヶ谷町八五六

永井久吉

京城日報東京支局長。宮崎縣高鍋町(明二三、九、二)生。(現住)府下幡ヶ谷七五六

永井榮藏(編譯)

大阪朝日京都通信局長(大二、八入社)出雲安木町(明一四、九)生。妻と養女と妻の母と、東京帝大經濟科卒(新聞)大阪朝日社會部警察週

りより現職。(思想)新忠君愛國、將來佛門に入るの素志あり(趣味)日本畫から洋畫に入り俳畫に脱線中、故淺井忠氏の系統(現住)京都市上京區柳川場(電話一〇二九)

永井謙一郎

大阪毎夕新聞社政治部、府政擔當。石川縣出身(明二二、二、一六)生。京都立命館大學法學部並に京都帝國大學經濟學部選科出身。(新聞)京都日出新聞政治部を振り出しに關西日報を經て現大阪毎夕新聞社に務む。(趣味)哲學政治の研究。(現住)大阪市港區市岡町二九三の四五

永井千鶴雄

二六新報會計庶務部長

永井福太郎

東京朝日通信員(明四一、一、一入社)南會社十數社の株主、靜岡縣(明一八、一)生。兩親妻二男二女中業卒、林私塾。(新聞)東京朝日通信員として山梨縣各地及靜岡縣沼津等に勤務。(著作)富士登山案内、富士山明細地圖。(趣味)撞球、圍碁、大弓、俳句寫真。(政務)中立。(現住)靜岡縣御殿場停車場前(電話二七)

永原茂樹(巨權)

東京日日新聞社整理部副部長(三十六歳)

東京外國語學校露語科卒。(新聞)大正元年學校卒業後直に東京日日新聞社入社今日に至る。(著書)「レニンの生ひ立ちとケレンスキー(主義)實行主義」(趣味)演藝、音楽。(現住)芝區琴平町三

永川俊美

東京朝日政治部次長(大五、六入社)靜岡縣(明二五、六)生。妻子とも三人、早大卒。(政黨)嚴正中立。(現住)府下荏原郡蒲田御園三二七

永代靜雄

新聞研究所長。兵庫縣(明一九、二)生。妻、長男、關西學院、同志社、早大。(新聞)東京毎日(田中及小原氏時代)毎夕(麻次及木村時代)中央(大岡及筒井氏時代)。(著述)十數種。(現住)東京市外大久保百人町二七七(電話四谷四二八〇)事務所京橋區南橋町二の五(電話銀座二五五五)

永田成美

中外商業新報社取締役(大正元八入社)久留米(明六、九)生。母、妻、慶應義塾卒(現住)芝區白金今里町八九(電話高輪一五六〇)

永松淺造

東京日日新聞記者。熊本縣(明二四、九)生。(新聞)東京毎夕、大正日日、(島

永島芳郎(玄城)

筑陽日日新聞社主筆。福岡縣宗像郡神村(明二二、六)生。中等學校。(新聞)小學教員(大正八年末現社)。(趣味)短歌、演藝。(現住)飯塚東町

永島金太郎

國民新聞社寫真課長(二十九歳)。(現住)芝區柴井町二〇

長井總太郎(黨章金升)

東京毎日新聞記者。東京(明元三)生。(漢學)鹽谷塾、小堀博士(和學)の門を出て服部波山の私塾等に學び歌伴繪畫を修む。(新聞)改進新聞、萬朝報、中央、やまと、讀賣、都の六社を經て現社。(雜誌)團々珍聞、東京マック、文藝俱樂部、其他に關係、目下講談俱樂部、面白俱樂部、キング、雄辯、其他寄稿。(趣味)茶の湯、俳畫、雜俳、其他歌謠。(現住)府下大崎町桐ヶ谷一〇〇(電話高輪四六七九)

長沼欽一

國民整理部長(三十四歳)明大中途退學。(新聞)讀賣、毎夕、國民。(現住)府下杉並町阿佐ヶ谷八六九

長沼應陽

熱海新報主筆、

長野潔(遠天)

豊州新報社社長。大分市(明一六、一〇、一九)生。早稻田大學政學士。米國マスタ、オファアーツ。(新聞)明治四十一年豊州新報社主筆後主幹、副社長、大正八年社長となる兩豐銀行取締役、政友本黨大分縣支部幹事。(趣味)政治、新聞。(現住)大分市荷揚町二(電話大分七二七)

長野武之丞

國際通信社大阪支社庶務課長兼支配人代理(現住)大阪府東區東區

長江定一(櫻洲)

東京毎日新聞社企劃部長。東京深川區佐賀町(明一九、二)生。慶應義塾卒。中央大學經濟本科卒。(新聞)四十四年古河礦業上海支店入社、四十四年戴生昌汽船局華湖支店長、大正五年西村商業株式會社事務取締役、大正十三

長瀨吉次

國民新聞編輯參事(四十四歳)國學院大學卒。(新聞)明治四十三年以來國民新聞社勤務。(主義)今日主義。(現住)麹町區飯田町六の一三

半井列(桃水)

東京朝日通信員(明二二、夏入社)諸雜誌執筆、俗語作歌、各種演藝會顧問。對馬嚴原萬延元、(二二)生。夫婦、藩校、尺氏の共立學舎にて文學。(新聞)曙新聞投書家

夏目秋一

東京日日新聞廣告部長。(現住)青山高樹町一四の二(電話青山五六七五)

榎崎觀一(桂園)

東京日日新聞社內務通信部長(四十二歳)。(新聞)大阪毎日京城特派員、大阪毎日支那留學生、大阪毎日北京特派員、東京日日外事部副部長、東京日日聯絡部長(著書)歐戰後の支那、朝鮮最近史等(現住)本郷區西片町一〇番地は二

並木仙太郎(淺峰)

國民新聞社、民友社編輯(四十八歳)郷里の小學校卒、獨學。(新聞)明治三十四年十月國民新聞社に入り校正部長今の調査部前身の事業に従事し日下現職。(著書)蘇峰文選、精神の復興等を編纂。(現住)府下大井町出石五一〇五

南條四郎(白嶺)

東京毎日新聞政治部長(明一五、三)生。日大中途退學。(新聞)東京市東區編纂掛、東京公論主筆、東京都政新報社長。(趣味)歌謠。(現住)四谷花園町一

難波英夫

前大阪時事新報社會部長。岡山縣(明二二、二)生。(新聞)京城日報時事新報(思想)自ら進んで標榜すべきものなし。(現住)大阪府南河内郡野田村新文化村

難波清人

中外市場部長(明二五、八入社)岡山縣(明二四)生。(現住)府下大森八景坂二二九六

武藤具三

讀賣新聞社二務部長。山梨縣東山梨郡野守谷(明一一、五)生。(現住)東京府下中野町一七二八

居素川氏時代)電通等を経て大正十年現在。(現住)府下大森山王二六二六

永島芳郎(玄城)

筑陽日日新聞社主筆。福岡縣宗像郡神村(明二二、六)生。中等學校。(新聞)小學教員(大正八年末現社)。(趣味)短歌、演藝。(現住)飯塚東町

永島金太郎

國民新聞社寫真課長(二十九歳)。(現住)芝區柴井町二〇

長井總太郎(黨章金升)

東京毎日新聞記者。東京(明元三)生。(漢學)鹽谷塾、小堀博士(和學)の門を出て服部波山の私塾等に學び歌伴繪畫を修む。(新聞)改進新聞、萬朝報、中央、やまと、讀賣、都の六社を經て現社。(雜誌)團々珍聞、東京マック、文藝俱樂部、其他に關係、目下講談俱樂部、面白俱樂部、キング、雄辯、其他寄稿。(趣味)茶の湯、俳畫、雜俳、其他歌謠。(現住)府下大崎町桐ヶ谷一〇〇(電話高輪四六七九)

長沼欽一

國民整理部長(三十四歳)明大中途退學。(新聞)讀賣、毎夕、國民。(現住)府下杉並町阿佐ヶ谷八六九

長沼應陽

熱海新報主筆、

熱海印刷常務、所澤(明二五、九)生。浦和中學、早大中途退學。(新聞)岐阜日日社會部長、西伯利從軍記者、飛騨日報主筆。(現住)熱海ホテル

長内清

北海タイムス編輯副社長(明三九、一、一入社)札幌市會議員、青森縣黒石町(明一六、一)生。早大文科卒。(政黨)政友會。(現住)札幌區南二條四十四丁目

長野潔(遠天)

豊州新報社社長。大分市(明一六、一〇、一九)生。早稻田大學政學士。米國マスタ、オファアーツ。(新聞)明治四十一年豊州新報社主筆後主幹、副社長、大正八年社長となる兩豐銀行取締役、政友本黨大分縣支部幹事。(趣味)政治、新聞。(現住)大分市荷揚町二(電話大分七二七)

長野武之丞

國際通信社大阪支社庶務課長兼支配人代理(現住)大阪府東區東區

長江定一(櫻洲)

東京毎日新聞社企劃部長。東京深川區佐賀町(明一九、二)生。慶應義塾卒。中央大學經濟本科卒。(新聞)四十四年古河礦業上海支店入社、四十四年戴生昌汽船局華湖支店長、大正五年西村商業株式會社事務取締役、大正十三

長沼應陽

熱海新報主筆、

武藤啓三郎 (春之助) (三十一歳) 渡飛日報社廣告販賣部長。中學校卒業。(新聞歴)學校卒業後直に入社今日に至る。(趣味)運動、文藝(現住)岐阜市今澤町八

室川義勝 (史郎) (三十六歳) 關門日日新聞編輯長。神戸高等商業學校出身。(現住)下關市本町三の五〇八(電話七九六)

向井長雄 (真柄哲) (北海タイムス社記者) 盛岡市明二七、二一四(生) (新聞歴) 詩人 映画脚本作者、銀行員、相場師 甘酒賣、喫茶店支配人。(現住) 札幌市南一條四六丁目

向井守政 東京朝日新聞記者、樺太特派員。山梨縣北巨摩郡日野村(明一八、一)生。(現住) 樺太豊原町(電話一三七)

向井勘兵衛 (夢野庵) (四十四歳) 神戸新聞社重役兼廣告部長。神戸漢川校出、バンド英學卒後獨學。(新聞歴) 神戸新聞創刊當時入社現に至る二十四年(研究事項)無線電信。(主義)敬神、敬祖。(趣味)旅行、長唄俳句。(現住) 神戸平野天王橋。(長電話本四七九七)

宗像秀藏 藝備日日營業部顧問(大一〇、一入社) 廣島校研

究中。福島縣三春(明九、六)生。八十三歳の母妻子供四計七人。東京英語學校中途。(新聞歴) 東京廣告社、報知大阪支局、東京毎日、帝通、旭通信社創立二年間經營。(現住) 廣島市上郷町七八(電話一七四六)

村井信雄 (雲山) 富山日報(大八、二)入社。滋賀縣(明一八、三)生。子供四人。早大政経科途中迄。(新聞歴) 帝國通信社(思想) アンチ資本主義。(趣味) 晩酌と野球(政黨) 憲政會。(現住) 富山市鹿島町四二

村尾源吉 (蘆舟) 帝國新聞社編輯主任。静岡縣田方郡(明二六、二)生。(新聞歴) 日本通信社を振出しに太陽通信及び雑誌「黒潮」の記者、報知新聞にもハンの一寸筆に置いていた事がある。尙燃料協會囑託として現に同會に關係して居る、又大正十年四月以降十一月迄現社に事務所を置き雑誌「燃料動力經濟」を發行した事もある。(現住) 府下吾郷町大畑七〇四

村上幸平 中外商業理事兼總務部長。(現住) 芝區豊岡町二(電話高輪二二六〇)

村上脩 新聞研究所總務部長。愛媛縣(三十歳)。(現住) 京橋

區南町研究所内 村上翁太郎 萬朝報社編輯長。島根縣(明一七、三、一八)生。早大政経科卒。(新聞歴) 明治四十二年萬朝報に入り大正五年退社して英國其他に外遊し大正十一年歸朝(大正十三年七月萬朝報に復社)。(趣味) 碁とスポーツ。(現住) 牛込區南櫻町五七(電話牛込三〇一〇)

村上健一 (夕浦) 大阪朝日新聞社松江通信部主任。(新聞歴) 明治三十七年秋尾道新聞入社を振り出しに藝備日日尾道支局主任次で四十四年夏大阪朝日新聞尾道通信員となり大正七年秋松江通信部主任に轉じ今日に至る。(主義) 直言直筆(主義) と云ひ得れば。(趣味) 高貴。(現住) 松江市西茶町四一(電話七二二)

村上圓次 (鐵何來) (四十二歳) 九州日日新聞主筆。法學士(新聞歴) 會社社員、學校教員を経て大正七年記者となる依然同會記者(著書) フライスの「民衆政治論より」制肘と均勢、兩院論(主義) 民衆主義。(趣味) 讀書、小島、晩酌。(現住) 熊本市内坪井一六七

村上典吾 (紅村) 福岡日日熊本支局主幹(大五、九入社) 熊

本市(明二、一)生。妻男二。私立中學卒業。東京總領事學校。(新聞歴) 大阪毎日。(風潮) 皇室中心主義。(趣味) 旅行と靜居。(現住) 熊本市界町二四

村上寛 (巽溪又は馬公) (四十七歳) 大阪朝日新聞記者。中等學校教諭。(新聞歴) 大阪朝日新聞より他に奉職の經歷なし。(著書) 最近に於ては「家庭に於ける新婦人」等(主義) 子供本位(趣味) 讀書。(現住) 堺市戎の町(電話一三六八)

村田攢雄 (茂津雄) 廣告代理業成商社、雜誌純正輿論、新聞無線電話機商社。岡山市(明二二、一、一五)生。(現住) 京橋區山下町一(電話銀座一五四九)

村田謙次郎 (泥庵) (俳諧獸牛子) 三重縣津市(明一〇)生。大阪朝日新聞奈良通信部主任。(新聞歴) 四五の地方新聞を経て現在に及ぶ、此間二十四年。主義(新聞) 國家主義。(趣味) 美術鑑賞其他。(現住) 奈良市坊屋敷町三(電話奈良五〇九)

村中茂 大分新聞社編輯局長。福岡縣八幡(明四〇、一、一八)生(現住) 大分市南新地

村山龍平 大阪朝日東京朝日社長。(現住) 兵庫縣御影郡家

(電話御影二〇四) 東京麻布區市兵衛町二の二(電話芝二二七三)

村山長舉 朝日新聞取締役大朝計畫部長兼印刷局長。(現住) 兵庫縣御影町郡家二八五(電話御影二〇四)

村松竹太郎 (吳山人) 東京毎日新聞社記者。(趣味) 長唄、琵琶、俳句、芝居。(現住) 小石川區瀧町三五

村松吉太郎 (桑川) 新聞研究所理事及び供給部長。静岡縣森町(慶應二、二、五)生。米國留學。(新聞歴) 輸出貿易專問傍ら少青年の教育に従事、二十三年間神戸基督教青年會理事長たり、現に日本國民禁酒同盟名譽主事たり。(趣味) 教育、講演讀書、俳句。(現住) 東京京橋區南鍋町二の五(電話銀座二二五五)

村瀨義音 天業民報編輯局長。東京小石川(明三七、五、一三)生。國民英學會英文科卒。(趣味) 文藝、音樂。(現住) 東京小石川區西丸町三一

宇賀三十三 やまと新聞

學藝部。高知縣(明三三、九、一)生。早大ロシヤ文學科卒。(現住) 東京市外長崎村五郎邸三九九

宇都喜之助 萬朝報社庶務部長。東京通信社營業部長(明一七、一、一)生。(新聞歴) 樺太日日、中外商業。(現住) 牛込區南町五

宇野政行 (蠶團) 九州日日新聞編輯部長(三九、一〇入社) 熊本縣(明九、二)生。母と妻と子供四人。(著作) 大觀小觀。(趣味) 骨董、園藝。(政黨) 憲政會(現住) 熊本市京町二の二〇

宇野木忠 東京朝日經濟部次長(大七、七入社) 山梨縣(明一八、九)生。妻と一兒。東京外國語學校卒。歐米特派員。(新聞歴) 本社より組員特派員。(大一〇、一)。(著作) 米と社會政策。(現住) 豊島區飯田町四の二。(電話四谷二四三七)

宇治田直義 (柏城學人) 外交時報社編輯局長。和歌山(明二七、三)生。家族は妻と一女。上海東亞同文書院科卒。新聞歴) 大阪新報上海特派員、東方通信社。(著作) 支那研究。共和以後。(現住) 市外淀橋柏木一二四

内田馨 關門日日新聞社

部編輯。山口縣(明三五、一一)生。明大法學科。(現住) 下關市壇之浦七二

内田佐和吉 漢口日日新聞社編輯長。長崎縣諫早町(明二六、六、一三)生。小學卒業後漢學を修む。(新聞歴) 上海日日社、大正七年一月現社へ。(趣味) 讀書、俳句を讀むこと。(現住) 漢口日本租界中街六六號(電話漢口四三三)

内田好之輔 九州日報東京支局長。帝國通信社取締役。(現住) 京橋區德十郎町一〇

内山茂松 (天壇) 報知新聞社々會部。兵庫縣城崎郡竹野(明二六)生。早稲田大學。(趣味) 文藝美術並花卉小禽。(現住) 府下巢鴨上野八三七

内山舜 東京朝日新聞調査部(大七、一)入社。静岡縣(明一五、一)生。家族七人。早大英文科卒。(新聞歴) 教育新聞編輯長(現住) 小石川區音羽町四ノ二

内海安吉 日本電通大連支社長(大三、三入社) 内外電報通信及經濟商況通信發行經營。宮城縣(明二三、四)生。妻二男一女。日本大學法科卒。(新聞歴) 日韓合併の際京城電報通信勤務後東京本社轉任。日韓戰爭從軍

記者として特派臺灣視察。大連社創立と同時に現職に任ず。(現住) 大連市大連通八五(電話四五〇)

内海喜平 (喜喜) 石巻日日社主任(大七、五入社) 渡波町(明二七、一)生。父母妻、女兒一人、兄弟四人。日本大學專門部政経科中途退學。(思想) 穩健なる社會主義。(趣味) 音樂。讀書。(現住) 石巻町仲町四

歌島藤次郎 (五社商峰) (二十二歳) 藝備日日新聞教育部。電機學校豫科二期修業、早稲田實業夜間部卒、日本大學社會部中途退學。(新聞歴) 大正十二年十月十八日藝備日日新聞に入社。(主義) 國家主義。(趣味) 教育研究小説。(現住) 廣島市國泰寺町一〇

浦田茂二郎 (孤城) 紀州新聞社長兼南海新聞主筆。三重縣伊賀國(四十歳) 關西、早稲田、日本大學等にて政治經濟を攻究。(新聞歴) 京都日報編輯局長。東京民聲新報、二六新報、伊賀新聞主筆。(趣味) 釣魚、旅行。(現住) 引本町(電話一一)

上田碩三 日本電報通信社取締役通信部長。(四十歳) 東京高等商業學校卒。(現住) 東京府

下大井町廣塚四七九三

上野忠正(中村) 宮崎日日新聞營業部。大阪府南區博船屋町三六(明三一、五、二八)生。大阪市立瀧美尋常小學校卒、明星商業學校卒、關西大學法律科修業。(新聞歴)大阪日日新聞演藝部、大和日報編輯部、大和日日新聞經營、宮崎日日新聞營業部。(趣味)讀書、辯論。(現住)宮崎市廣島通二六五號

上野精一 朝日新聞社事務取締役。大阪市、明一五、一〇)生。明治四十年東京帝大法科卒(現住)大阪市東區平野町一ノ五(電話大阪本局一三九)

上野留三郎 大阪萬朝報社々長(明一四、二、)生。專門學を修む。官吏生活から新聞記者生活へ。(趣味)大阪市住吉通天王寺町(電話船場二二、二二、二五三、三二二、三、電話南二二〇〇)

上野嘉永次(默狂) 新潟朝日主筆(大八、五入社)。越後(萬延元、六)生。家族二人。東京專門學校法科卒。(新聞歴)新潟新聞、北越新聞主筆、福井新聞信濃日報主筆、新樓房主筆。(著作)堀部安兵衛、丹羽思亭。(趣味)漢詩と俳句。(政黨)國民黨

植村金作(震洲) 都新聞社第二部記者。岐阜縣山縣郡富波村水品(明二八、一、六)生。大正六年三月攻玉社中學校卒。大正十一年四月中央大學經濟科本科卒。(新聞歴)大正十一年五月大東京新聞社會部記者として入社同年七月中央新聞社入社、同十二月國民新聞社へ、大正十二年六月都新聞社へ入社、第二部記者として現在に及ぶ。(趣味)社

植村金作(震洲) 都新聞社第二部記者。岐阜縣山縣郡富波村水品(明二八、一、六)生。大正六年三月攻玉社中學校卒。大正十一年四月中央大學經濟科本科卒。(新聞歴)大正十一年五月大東京新聞社會部記者として入社同年七月中央新聞社入社、同十二月國民新聞社へ、大正十二年六月都新聞社へ入社、第二部記者として現在に及ぶ。(趣味)社

植木善雄 大分新聞營業局長。大分市(明二六)生。慶應大學理財學士。(新聞歴)大正十三年五月大分新聞入社。(現住)大分市王子町

梅原北明 米國ヒラデル

(現住)新潟市白山浦二〇一七

上野臺次(二也) 福岡日日調查部長(大一一、三入社)。山梨縣甲府(明一九、一)生。父母妻長男。(現住)福岡市福日社内

上杉彌一郎 大阪時事取締役兼編輯局長(明四一、三入社)廣島縣(明一六、二)生。妻慶應義塾大學政治科卒。(思想)獨立自尊。(趣味)乘馬、撞球、圍碁、將棋。(現住)大阪市北區北梅田町四四七

植田丑五郎 下野日日理事社長代理編輯及營業監督(大七、二入社)。日光(明元、八)生。家族三人。(新聞歴)下野毎日、同日光支局長、時事、中央、毎夕の日光通信兼任。(思想)温情主義。(現住)宇都宮市梅田町一四一

植村陸男(陸郎)(三十五歲) 東京朝日新聞社運動部。第二高等學校英文科。(新聞歴)大正五年東京朝日調查部に入り後社會部に轉じ同十二年運動部獨立と共に同部に入る。(主義)實力主義。(趣味)運動萬般及映畫、音樂。(現住)市外雜司ヶ谷鶴巻町三八〇

植山矢一(天水)(五十歲) 九州日日新聞社編輯主任。鹿兒島尋常中學校造士館修業。(新聞歴)熊本日日新聞社、明治四十四年以來九州日日新聞社在勤。(主義)實業。(趣味)無趣味。(現住)熊本市正妙寺町五

植木植松(秋山) 豊洲新聞社販賣部長。大分縣西國東郡田原村(明一七、一)生。中等教育程度大分刑務署看守(明三四入社)。(現住)大分市王子町二五四

梅田又次郎(忍齋) 山陰民報社長。山陰縣津和野。新潟縣(萬延元、二)生。妻長男。陸軍士官學校、米國ケンキョ州中央大學マスターオブアーツ(新聞歴)故星亨機關報主筆。米國桑港新世界主筆、日露戰役中國新聞軍事通信員、松陽新聞主筆、北陸新聞山陰日日副社長取締役主筆等。(著作)讀史餘談、甚參懺悔、其他數種。(思想)平等主義。(趣味)讀書。(政黨)絕對なし。(現住)米子町西町(電

梅田又次郎(忍齋) 山陰民報社長。山陰縣津和野。新潟縣(萬延元、二)生。妻長男。陸軍士官學校、米國ケンキョ州中央大學マスターオブアーツ(新聞歴)故星亨機關報主筆。米國桑港新世界主筆、日露戰役中國新聞軍事通信員、松陽新聞主筆、北陸新聞山陰日日副社長取締役主筆等。(著作)讀史餘談、甚參懺悔、其他數種。(思想)平等主義。(趣味)讀書。(政黨)絕對なし。(現住)米子町西町(電

海野信正(夢一佛) 萬朝報社編輯局長。東京(明二六、六、六)生。獨逸語學會學校中學卒後中央大學獨法科及び上智大學文學科哲學科等に学ぶ。(新聞歴)明治四十四年米國書出版印刷業事北社創始、日本温泉協會編輯部、淺草區機關紙旬刊淺草タイムス編輯等を経て大正十三年六月現社へ。(趣味)川柳。(現住)本郷區南込坂下町二一四西北角

梅澤安次郎 東京朝日客員(明三二、入社)。埼玉縣(慶應元年一月)生。家族あり。(現住)東京市外中道谷字大向

牛山清四郎 信濃日報主筆(大九、八入社)。信州諏訪(慶應元、)生。妻。(新聞歴)信濃毎日論文記者、信越日日、東信新聞、信濃日報、深志時報、以上各主筆。(事業)飯山鐵道發企(思想)基督教主義、儒教主義、趣味)文藝、和歌、俳句。(現住)松本市北深西町

牛澤瓊三 中央新聞社社會部。長崎縣(明三〇、一、)生。大正十二年三月法政大學政治經濟科卒。(趣味)運動、食道樂、將棋、芝居(現住)市外浦田町北

野井憲樹(三五) 宮崎新聞編輯主任。縣立宮崎中學校卒、早稻田大學文科出身。(新聞歴)宮崎市日日新聞に約十年間在職次で宮崎新聞に移る。(主義)トルストイを尊敬す但し主義にあらす。(趣味)讀書。(現住)宮崎市末廣町三丁目

野井慎太郎(徳山) 日州新聞主筆(大四、一〇入社)。印刷業寫真業等の經營。宮崎縣(明一六、四)生。養母妻。正副中學校卒。第五高等學校卒。東京帝大法科出。(新聞歴)千代田民報

野村長一(胡堂)(四十四歲) 報知新聞編輯局相談役。帝大佛蘭西法科中途。(新聞歴)大正元年報知新聞へ入社、政治外交部社會部編輯、政治部編輯、社會部長を経て現在に至る。(著書)

野村幸盛(桂英) 東京報知新聞社販賣部長。大分縣(明三二)生。關西大學專法出身。(新聞歴)報知新聞大阪支局より本社へ。(趣味)讀書。(現住)東京市赤坂區櫻坂町五

野村政造 大阪時事廣告部助役(大九、二入社)。滋賀縣(明二〇、八)生。中學卒業後英語學校等。(新聞歴)二二地方新聞の編輯主筆。(著作)現代及將來の心理研究。(思想)唯心論個人生活觀派に傾く。(趣味)讀書。(現住)京都市大黒町松原下三丁目

野村潔己(四十五歲) 東方通信調查部長。上海東亞同文書院。(現住)四谷區番衆町三二。(電話)四谷二八七

野口要之助(華城、鳴雨) 都新聞社商況經濟記者。千葉縣香取郡佐原市。私立聖繪學舎卒(新聞歴)萬朝報より現社へ。(趣味)釣、尺八、書、易。(現住)府下大井町字原五三三四

野口義明 都新聞社會部。鳥取縣(明二九、一〇、一七)生。早稻田大學政治經濟科卒。(趣味)演劇。(現住)市外下塚五二

野口常喜(白也) 豊州新報

野口多内 萬朝報社取締役

野口二郎(繼英、都島) 二十

野澤秀信(二十六歳) 報知

野坂茂一(祐堂) 朝鮮民報

野崎眞二(テルミ) 朝鮮新

久保博道 東京毎日新聞社

久保健次郎(松波) (三十

久保田高行(二十三歳)

久保田榮吉(三十七歳)

久保田次郎吉 帝國通信

久野八十吉 東京朝日新

久野重吉(櫻亭) (五十三歳)

工藤廣 大分新聞社編輯局

工藤旨浩 奉天毎日新聞政

工藤儀三郎 函館新聞編

窪田俊一郎(流月、銀波)

栗原禮二(黎兒) (三十二歳)

栗原秀松 東京朝日新聞整

栗林貞一(春隆) 東京朝日

栗林照行 米澤新聞營業部

黒田直道(湖山) 中外商業

黒岩日出雄 萬朝報社取

黒根祥作(掃葉庵又は俊々

黒木勇吉 報知新聞社統

黒田乙吉 大阪毎日外通

黒内良吉(桃月) 桑名商業

黒田福三郎(西城) 静岡

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

技、俳句。(政論) 必要。(現住)

能島進 日本電報通信取締役

久保田辰彦(孤帆) 東京

久保田豊三(香浪) 臺灣

久保田高行(二十三歳)

久保田榮吉(三十七歳)

久保田次郎吉 帝國通信

久野八十吉 東京朝日新

久野重吉(櫻亭) (五十三歳)

工藤廣 大分新聞社編輯局

工藤旨浩 奉天毎日新聞政

工藤儀三郎 函館新聞編

窪田俊一郎(流月、銀波)

栗原禮二(黎兒) (三十二歳)

栗原秀松 東京朝日新聞整

栗林貞一(春隆) 東京朝日

栗林照行 米澤新聞營業部

黒田直道(湖山) 中外商業

黒岩日出雄 萬朝報社取

黒根祥作(掃葉庵又は俊々

黒木勇吉 報知新聞社統

黒田乙吉 大阪毎日外通

黒内良吉(桃月) 桑名商業

黒田福三郎(西城) 静岡

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

久保博道 東京毎日新聞社

久保健次郎(松波) (三十

久保田高行(二十三歳)

久保田榮吉(三十七歳)

久保田次郎吉 帝國通信

久野八十吉 東京朝日新

久野重吉(櫻亭) (五十三歳)

工藤廣 大分新聞社編輯局

工藤旨浩 奉天毎日新聞政

工藤儀三郎 函館新聞編

窪田俊一郎(流月、銀波)

栗原禮二(黎兒) (三十二歳)

栗原秀松 東京朝日新聞整

栗林貞一(春隆) 東京朝日

栗林照行 米澤新聞營業部

黒田直道(湖山) 中外商業

黒岩日出雄 萬朝報社取

黒根祥作(掃葉庵又は俊々

黒木勇吉 報知新聞社統

黒田乙吉 大阪毎日外通

黒内良吉(桃月) 桑名商業

黒田福三郎(西城) 静岡

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

久野八十吉 東京朝日新

久野重吉(櫻亭) (五十三歳)

工藤廣 大分新聞社編輯局

工藤旨浩 奉天毎日新聞政

工藤儀三郎 函館新聞編

窪田俊一郎(流月、銀波)

栗原禮二(黎兒) (三十二歳)

栗原秀松 東京朝日新聞整

栗林貞一(春隆) 東京朝日

栗林照行 米澤新聞營業部

黒田直道(湖山) 中外商業

黒岩日出雄 萬朝報社取

黒根祥作(掃葉庵又は俊々

黒木勇吉 報知新聞社統

黒田乙吉 大阪毎日外通

黒内良吉(桃月) 桑名商業

黒田福三郎(西城) 静岡

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

工藤梅次郎(朴民) 小樽

名

長、米澤(文久三)生。(新聞歴)米澤新聞創刊以來引續き勤務。(現住)米澤市上花澤小園町

栗林茂枝(二十九歳) 東京朝日新聞社グラフィック部記者大阪在勤。大正十年明治大学法科大学卒業。(新聞歴)大正十年十一月中外商業新聞社記者として入社同年十一月より東京朝日新聞社グラフィック部入社。(現住)大阪西區江戶堀北通二の九京屋旅館

栗林勝藏(古雅) いはらき古河通信員(大七、二入社)時事東京日日、國民通信員、關東タイムス編輯及び經營に關係。茨城縣古河町(明二三)生。家族四人。早稲田大學同大文藝科何れも講義録讀了。坂井久良氏に就て江戸文學研究。經濟學講習會入會中。(新聞歴)關東新聞古河支局長。(記事)川柳研究誌等。(思想)文化主義。(趣味)江戸文學、川柳、古典研究、心理哲學、繪畫。(現住)茨城縣古河町(電話二二八)

栗尾結城(蘭舟) 高知新聞社東京支局長。高知市(明二〇)生。家族妻子あり。獨學。(新聞歴)今日迄十五年間の記者生活、一新聞二雜誌を經營して失敗し現在に及ぶ。(著述)牛島の旗、時雨の袖、革命(思想)何でも可。(趣味)動物。(現住)府下千駄ヶ谷町九〇二(電話四谷二五三)

栗山寶四郎(荷香) 西尾日本主筆取締役(明二五、五入社)佐賀縣會議員。早稲田大學評議員。佐賀縣蓮池村(文久三、八)生。妻二男二女。中學卒。早稲田大學校時代卒。(新聞歴)長野縣信府日報主筆。(著作)憲法正解、神崎郡史。(思想)支那の經濟に歐米民主主義を加味したもの。(趣味)漢詩を賦するを樂む。(政黨)憲政會。(現住)佐賀縣神崎蓮池村

栗木榮太郎(煙雨) (五十歳) 大連新聞社代表者。(主義)觀音主義。(現住)大連市神明町九八(電話八二五九)

來間泰(廿九歳) 東京日日政治部。東京帝國大學卒。(新聞歴)時事新報。(主義)今日主義。(趣味)煙草に讀書。(現住)東京府下府合五四〇(電話牛込六三)

桑原馬之助 二六新報調査部長

桑野正夫(桃華) 東京演藝通信社社長。東京牛込細工町(明一四、二)生。(新聞歴)明治三

十四年やまと新聞社に入り、其の後雜誌の經營をなし、四十年毎日電報に入社、東京日日合併後同社に轉じ社會部にあり在勤十六年退社東京演藝通信を經營し通信の外「音學と映畫」「笑」「喜劇春秋」の雜誌三種を出版しつゝあり(現住)神田區駿河臺鈴木町一六(電話大手四八八三)

倉若梅二郎 讀賣社會部外交(大八、九入社)越後糸魚川(明二二、一)生。母妻子二。早稲田大學校時代卒。(趣味)讀書、圍碁、將棋。(現住)東京市外下目黒五五七

倉辻明義(白蛇) 東京毎日新聞社理事、主筆。伊豆大洲(明一〇、五、二)生。東京專門學校英語政治科、米國イリノイ、ロイ、カレッジ修業。(新聞歴)横濱新聞主筆、萬朝報記者、やまと新聞編輯長、帝國新聞主筆、富山日報主筆、東京毎日新聞主筆。(現住)本郷彌生町三(電話小石川二六九)

倉成庄八郎(青堂) 長崎民友新聞社總務部長。長崎市(明二五)生。日本大學法科卒。新聞歴)長崎縣廳奉職後會計検査院に轉動し十四年官を辭し萬朝報社に入社、同年十一月現社(趣味)讀書。(現住)長崎市東中町一五(電話二一八九)

藏田正次 東京日日新聞社販賣部長。兵庫縣多可郡松井床村(明一一、九)生。(新聞歴)明治四十年一月まで陸軍生活同年二月より大阪毎日新聞社販賣部に入社。(現住)東京府下下流谷二二三(電話青山六二〇六)

熊井又八郎 秋田新聞主幹。秋田縣(明二〇、三)生。帝大法科卒。(趣味)酒。(現住)秋田市中長町二〇(電話二一八)

熊澤利吉 東京朝日新聞社飯田通信員。札幌(明二三、九)生。(新聞歴)静岡民友新聞濱松支社編輯主任。(現住)信州飯田町東京朝日新聞飯田通信部

熊崎健一郎(立山人) (四十五歳) 時事新報社工務部長。教育家出身。(新聞歴)東京新聞(現名古屋新聞)三重成功新聞、伊勢新聞、大阪新聞(明治三十八年)時事新報大阪部、内地通信部長、地方部長、調度部長、工務部長(著書)簡易速記術、最新速記術、新式速記術編修、支那速記術。(主義)奮闘主義。(趣味)讀書、狂歌。(現住)東京在原郡入新井町新井六六七

中津町(電話中津五〇一)

矢野長次 時事新報販賣部市内主任。(現住)東京市外中野上町二七六五

矢野千城(二十九歳) 報知新聞社會部編輯員。(現住)府下野方村新井五〇三

矢野文雄 東京日日新聞社取締役副社長

矢澤重行 南信毎日新聞社編輯部。宮城縣(明二八、五、二)生。武蔵野學院社會事業職員養成所卒(大一一、二、一〇)。(新聞歴)目下南信毎日新聞社在職中。(趣味)文藝。(現住)長野縣上伊那郡宮田村

矢崎多次郎 東京毎日新聞地方部(明三三、三、二七)生。(現住)青山糞田一五一宅間方

夜久義一 二六新報廣告部長

築田欽次郎 中外商業新報專務取締役兼主筆(明三二、六入社)廣島縣(明八、八)生。母妻子。専修大學經濟部卒。中央大學法學部修業(現住)牛込區二丁目一六一(電話牛込三〇五八)

柳原留喜 豊州新報社別府支局會計主任。大分市外萩原(明三七、六、一)生。(新聞歴)大正八年一月現社。(現住)大分縣

名

草野茂松 香國民新聞編輯局參事。(現住)本郷區本郷五の四三

草間貢 報知新聞北海道監督札幌支局長(明四一入社)信州松本(明一一、二)生。私立和佛法律學校、日本大學卒。新聞歴)東京日日新聞社。(思想)相互扶助を人類道徳の最高義と信ず。(趣味)時折俗座を遊んで田圃に遊ぶ事。(政黨)憲政會支部幹事。(現住)札幌區北五條

楠茂市 都新聞社會部。三重縣北牟婁郡船津村(明二四、一、二四)生。早稲田大學文藝科大學及社會科出身。(新聞歴)早大を大正五年卒業同六年現社。(趣味)競馬、飛行機、角力、野球。(現住)市外下目黒九四一

楠瀬如龍(黒旋風) (四十歳) 高知新聞社主筆。(現住)高知市西唐人町一八(電話七六〇)

八尾安平 萬朝社用度課長

矢部謙次郎(四十二歳) 時事新聞社會事業部長。桐里の川越中學卒、國民英學會、早

稲田大學等に學ぶ。(新聞歴)廿歳の時長岡市の北越新聞に入り三月にして退社上京、國民新聞社に入り後現社に轉ず、大正八年八月千葉雄雄氏の後を受けて社會部長となり大正十二年十月現職となる。(主義)總て中可通が嫌ひ故らに何々主義を振廻す奴が嫌ひ。(趣味)酒(但し淺酌)運動競技、静夜漫談。(現住)府下大井町北濱川一九三(電話高輪八九三)

矢部周 やまと新聞學藝部。福島縣(明三〇、一〇、一)生。同志社大學、早稲田大學各半途(現住)日暮里町一〇〇九

矢部利茂(夢哲) (廿五歳) 大阪朝日新聞社經濟部記者。神戸高等商業卒(大十二年)。(新聞歴)大正十二年四月大阪朝日新聞社經濟部入社。(主義)基督敎主義。(趣味)古本流り、音樂。(現住)神戸市雲井通六丁目二七の二(電話三宮四三七四)

矢田義勝(掃雲) 報知新聞社會部(大四、一〇入社)俳句雜詩俳句と添削を發行。東京(明一五、二)生。父と妻子六人。早稲田に學び故正岡子規に師事す(新聞歴)福島民友、九州日日、伊豫日日、藝備日日等に社説を

書き劇評を書き其々たる事故に十六七年。(著作)江戸から東京へ、清水次郎長、澤村田之助、相馬事件、歌川稻荷、俳句の練り方其他數種(思想)人を考ふるは好き、人を見るは餘り好まず(趣味)俳句、新聞繪、音曲、小人閑居。(現住)東京市外大森不入斗三八四

矢野普也(維續) 二六新報社長。鳥取縣米子市道管町(三十八歳)米子明道中學、米子中學、早稲田大學政治科(新聞歴)東京日日新聞、中央新聞を経て現社政治部長たりしが大正十三年六月前社長秋田清氏より譲られて社長となる。(趣味)勝負事一般。(現住)小石川區丸山町一(電話小石川三三〇六)

矢野正世(錦浪) 東京毎日新聞社支配人。茨城縣(明二二、一)生。妻長女。(新聞歴)東京毎日營業部長。(著作)經濟途觀、大正柳柳、俳句大全。(趣味)俳句と川柳。(現住)芝區車町八

矢野恭步 豊州新報社中津特派員兼支局長(明二二、一〇)三)生。中學卒。(新聞歴)日州新聞を経て大阪朝日に轉じ大正十二年現社。(現住)原籍大分縣

中津町(電話中津五〇一)

矢野長次 時事新報販賣部市内主任。(現住)東京市外中野上町二七六五

矢野千城(二十九歳) 報知新聞社會部編輯員。(現住)府下野方村新井五〇三

矢野文雄 東京日日新聞社取締役副社長

矢澤重行 南信毎日新聞社編輯部。宮城縣(明二八、五、二)生。武蔵野學院社會事業職員養成所卒(大一一、二、一〇)。(新聞歴)目下南信毎日新聞社在職中。(趣味)文藝。(現住)長野縣上伊那郡宮田村

矢崎多次郎 東京毎日新聞地方部(明三三、三、二七)生。(現住)青山糞田一五一宅間方

夜久義一 二六新報廣告部長

築田欽次郎 中外商業新報專務取締役兼主筆(明三二、六入社)廣島縣(明八、八)生。母妻子。専修大學經濟部卒。中央大學法學部修業(現住)牛込區二丁目一六一(電話牛込三〇五八)

柳原留喜 豊州新報社別府支局會計主任。大分市外萩原(明三七、六、一)生。(新聞歴)大正八年一月現社。(現住)大分縣

別府市(電話六五七)

柳川玄徹

大阪朝日新聞連
絡部、富山縣西礪波郡若林村四
中(明二六、五、二四)生。東洋大
學卒。(新聞歴)大正七年東京朝
日新聞整理部に入社、大正十二
年七月大阪朝日新聞連絡部に轉
(現住)兵庫縣武庫郡精道村打
芳竹目七

柳田國男

東京朝日客員。
(現住)牛込加賀町二の六

柳村喜一

(柳村) 福井新聞
政治部及び通信主任(大正一一、
四復社)金澤市(明二五、一)生。
父母妻弟妹一男一女。獨學。(新
聞歴)福井縣福井支局。(思想)民本
主義。(現住)福井若松町五〇(電
話一一七三)

柳澤政吉

中外商業新報社
營業部。青森縣三戸郡五戸町(明
二四、一〇)生。早大文科。(新聞
歴)福島縣民政政治部長、福島日日
新聞社事務取締役兼主筆を経て
大正十三年六月現社。(趣味)
讀書。(現住)東京市外戸塚字諏
訪一〇〇

柳澤廣喜

都新聞社前橋支
局長。群馬縣吾妻郡東村大字菅
島(明三一、二、九)生。大五四早
大文科、同七年退學。(新聞歴)

大正九年二月埼玉新聞社に入り
同十年一月埼玉朝日新聞社に轉
ず、大正十年九月東京毎日新聞
社社會部、同十二年讀賣新聞社
大正十二年九月現社。(現住)
前橋市曲輪町乙九四(電話)九
八一

山邊林太郎

(三十四歳)
報知新聞社經濟部。大正九年東
京帝國大學政治科を卒。(新聞
歴)大正十年一月報知新聞社調
査部に入り大正十三年四月經濟
部へ轉じた。(現住)市外東鴨町
上駒込染井八四七

山川瑞三

國民新聞副社長
熊本縣が天草郡島子村。明元年
九月。(新聞歴)明治二十五年入
社。(現住)麻布區仲の町四(電
話青山六四五)

山川傳之助

(智應) 天業
民報社社長兼主筆。大阪(明一
二、三、一六)生。田中智學先生
門人。(經歷)小學教師、妙宗
記者。國振會講師。月刊日進主
義。國社新聞編輯長。著書、和
譯法舞。日進聖人傳十講等十餘
種。(現住)東京市下谷區上根岸
七三

山川信男

時事新報連絡部
大(一〇、五)入社。東京(明三四、
二)生。(事業)速記事務所。文藝

雜誌發行人。(趣味)音樂、運
動。(現住)芝區濱松町三の二一
(電話)芝四九二二

山田徳三

(似愚) 京華社外
務員。東京(明二七、二)生。
大倉商業學校。(經歷)内田造
船會社を経て現社。(趣味)清
元、演藝、散步。(現住)東京府
下平塚村小山一

山田勇雄

(石羊) 京城日報
社編輯部長。宇都宮市(明二四、
九)生。(新聞歴)報知新聞を振
出しに中央、大正日日、大阪毎
日、國民、中外商業。(趣味)新
聞を作る。(現住)京城日報
社内

山田寛司

時事新報社會部
記者。静岡縣原五和村(明
三四、六)生。慶應義塾法學部卒
(新聞歴)大正十四年三月入社。
(趣味)旅行、演藝。(現住)芝區
二本橋一の二〇

山田好文

(司海) 都新聞社
會部(編輯夜勤)(明二五、二、一
五)生。(新聞歴)萬朝報、報知社
會部。(趣味)自然に親しむ事。
(現住)東京市外中野町海屋敷三
九二九

本大學。(新聞歴)東京評論、橫
濱日報、横濱毎日新聞、自治新
聞、大勢新聞。(現住)府下荏原
郡平塚村戸越六八〇

山田三郎

やまと新聞社商
祝部。東京(明三九、一、三)生
(現住)府下大井町海邊二六〇九

山田奇作

(曉華) 信濃日報
編輯長。長野縣下高井郡湯田中
温泉(明二二、一、一三)生。尋
常高等小學校卒、補習二年修業
通信講習所卒。(新聞歴)明治三
十八年より四十五年迄通信事業
に従事、大正元年より三年迄北
信新報記者、同五年九月現社へ
(趣味)軟運動、書畫寫眞、草花
(現住)松本市地蔵清水町九(電
話一〇九〇)

山田清磨

やまと新聞横須
賀支局長(明一八、七)生。明治大
學政治科。(新聞歴)新聞記者た
る事十六年大阪、九州等の新聞
を経て大正四年十二月東京毎日
に入り横濱支局長、東京大勢新
聞横濱支局長、震災後現社に。
(現住)横須賀市若松町四〇

山田金次郎

青森市東奥
日報社記者。青森市(明一八、一
一)生。早稲田大學專門部政治
經濟科。(新聞歴)明治三十八年

十一月現社へ、大正八年八月監
查役、大正十三年一月以來取締
役。(現住)青森市浦町字野脇四
十一(電話一〇二四)

山田静蔚

やまと新聞社社
會部遊軍。群馬縣(明三五、七)
生。(新聞歴)上毛新聞、中央新
聞。(趣味)新聞の抜粹。(現住)
浅草區橋場町二二七

山田七五三

ジャパン
アドヴァイザリ記者。群馬縣
福島町(明二七、五)生。米國エ
ール大學グランチユエト、スタ
ール出身。(大正十年)(新聞歴)
ジャパントイムス記者(自大正
十一年至十三年)。(趣味)運動
(テニス)、讀書(現住)東京市外
中込谷四〇二

山田潤一

(四十一歳) 大阪
朝日新聞社。東京帝國大學法科
卒業。(新聞歴)大正十一年七月
大毎に入社。(著書)伯林脱出記
赤心録。(現住)兵庫縣芦屋

山田毅

(放天) 國民新聞弘通
部(大三、四入社)。加越能三ヶ
國境(明二〇、一)生。東京外國
語學校。早大何れも半途。(著作)
數種あり(思想)皇室中心主義。
(趣味)讀書と旅行。(政黨)憲政
派。(現住)東京市外西栗鴨町二

二五五(電話)小石川三三〇五)

山田毅城

(山花) 新潟新聞
編輯長(明二八、八)入社。佐渡郡川
(明九、八)生。家族六人。(新聞
歴)他社の味を知らず(著作)歌
集野調(思想)理想主義。(趣味)
政治と文藝、非政友。(現住)新潟
市東通

山田公一

(樂天) 岐阜日日
客員(大一一、八)入社。岐阜縣(明
一九、八)生。(新聞歴)萬朝報。
臺灣日日。臺南新報。遼東日報
神戶新聞。名古屋毎日。濃飛日
報(趣味)心靈研究。藝術(現住)
岐阜市四野町三(電話)二二三三

山田封介

(邪字夢) 浦潮日
報露字紙主筆(六七、七入社)。
福岡縣(明二二、一)生。正教
神學校出身。(著作)オプロモ
フ。鑿造手形。(思想)基督教主
義。(趣味)音楽、繪畫。(現住)
浦潮市マルケロフスキー、ペレ
ウロク五(電話)一〇一四)

山田威

(晚夏) 大阪毎日新聞
社山陰通信部(大正一一、一)入
社。雲州松江(明二八、二)生。
妻一男一女(新聞歴)大正日日山
陰日日。(思想)新時代主義。(趣
味)短歌、音楽を聞く事。口笛を
吹く事。(現住)松江市内中原

(電二七)

山田大介

大阪朝日新聞社
(新聞歴)學校を出ると直ぐ大阪
朝日に入社しましたから履歴と
いふ程のものはありません。主
義(自由主義)。(現住)大阪市外田
邊町字松原

山田公一

(民聲) 讀南新聞
經營。元若狹新報發刊總理。富
山市(明二五、四)生。母(新聞
歴)福井民友其他數社。(趣味)
飲酒、政談、(政黨)政友本黨。
(現住)福井縣小濱町(電二三三)

山谷宗重

(薰風) (三十六歳)
太陽新聞社長。中學校卒業。
明治四〇年以來販賣並に編輯に
携る。(主義)皇室中心主義。(趣
味)旅行演說。(現住)静岡縣島
田町(電話)一一九)

山根眞治郎

國民新聞編
輯局長。山口縣(明一七、九)生
中央大學。(現住)赤坂區青山高
樹町三(電話)青山一八八)

山根輝男

ジャパニア
アドヴァイザリ社。神戸(明二七、四
生。神戸商業學校卒。(經歷)三
菱會社。(趣味)句。(現住)府下
下戸塚五七二

山根文雄

(越城) (四十四歳)
株式會社神戸新聞社取締役、京

都日日新聞社主幹。(新聞歴)明
治四十年神戸又新日報に入社し
同四十二年神戸新聞社に轉勤、
政治部長經濟部長、東京、大阪
兩支局長を経て、大正十年四月
京都市日日新聞社主幹に就任、同
十二年九月株式會社神戸新聞社
取締役選ばれる。(現住)京都市
田中大塚町二三(電話)上八六〇)

山村喬樹

(皐雲、溪花) 天
業民報社編輯局。山口縣下關市
出生(明二六、七、四)生。法科
出身。(新聞歴)東京朝日新聞社
々會部。(趣味)文藝、旅行。(現
住)市外田端五三八

山内清

東方通信受信主任。
(大九、八入社)熊本(明一一、五)
生。家族妻と子供三人。東京中
央大學經濟科卒業。(新聞歴)大
阪朝日外國通信部。大正日日同
上。(思想)民本主義。(趣味)特
別になし。(政黨)なし。(現住)
東京市外大久保百人町二三八

山浦貫一

(閑逸山) 東京日
日新聞政治部。長野縣上川在川
邊村(明二六、三、二〇)生。新聞
歴)やまと新聞より時事新報。
(趣味)草花、玉突。(現住)東京
府大森不入斗五五六(電話)大森
一一五〇)

山浦乾太郎 都新聞社第三部長。日本橋區町一七、二二五)生。麻布森本町飯倉小學校出身。(新聞)羅紗屋の小僧を三年それから廿歳の歳現社へ。(現住)市外四久保三三

山野好恭 帝國新聞社取締役社長。岡山縣後月郡在原村。(明二八)生。(新聞)明治四十年以來本社經營。(現住)日本橋區濱町二の二七(電話)浪花一七七〇

山口鼎太郎 やまと新聞社部長。茨城縣(明一八、一)生。早稲田大學英文科卒業。(新聞)明治四十二年現社へ。(趣味)盆栽。(現住)府下瀧の川町上中里六二(電話)小石川六二八〇

山口成吉(白雲) (三十九) 鶴岡日報社。同上主幹縣會議員。明治四十四年早稲田大學大學部政治經濟科卒業。(新聞)大正元年兩羽實業新聞社主筆に聘され大正三年現鶴岡日報社を同志と創刊し其の主幹兼無限責任社員となる。(主義)政治上リ憲政會。(趣味)讀書、書畫。(現住)山形縣鶴岡町若葉町一(電話)五二二

山口利男(小夜男) 臺灣新聞社政經部長。東京(明治二六八、一六)生。東京東洋商業學校修業慶大中途退學。(新聞)國民報社、日本電報通信社より現職に。(趣味)劇と創作の讀書。(現住)臺中市壽町一の五四〇、(電話)三〇〇

山口和三 新潟時事編輯長(大二三)入社。越後國(明二一)生。妻と一男。中學卒業後法政大學、中央大學に入り法律經濟を學ぶ。(新聞)東京通信社、東京毎日。(思想)自由進歩主義(趣味)園藝、將棋。(政黨)政友(現住)新潟市同社内

山口普英(普峰) 日本電報通信社名古屋支局主任。熊本縣菊池(明一五、一一)生。瀧江晚香齋漢學塾に於て漢學並に普通學を學びしことあり。(新聞)小學校教育に従事すること約十年明治四十年現社へ。(趣味)讀書旅行。(現住)名古屋市外守山町文化村

山口晴盈 靜岡新聞社政治部長。靜岡縣磐田郡原村(明三五、四、二八)生。(新聞)中央新聞を経て大正五年時事新報に入り同十年同社甲府支局長となる。同十二年十一月現社へ。(現住)靜岡市一番町二二五

山崎照道(五十歲) 帝國新聞社理事。東洋英和學校卒業。(新聞)ニューヨーク、ヘラルド乃至米國聯合通信社員。北海道日新聞乃至北海道報事務理事兼主筆。(著書)ルーズベルト全集、クロームウエル傳、離日本奮闘の教訓、日蓮主義雜著など(主義)日蓮主義。(趣味)法華三昧。(現住)東京市外柏木大町一〇一〇(電話)大手二五八

山崎傳之助(霞舟) 和歌山日日新聞社長。印刷業。和歌山縣勢多共益會々長。山梨(明六、六)生。家族三人。日本大學卒業。(政黨)憲政會。(現住)和歌山市四番町一(電話)六八五、一九二八

山崎秀永(三省) 中外商業新聞社足利通信部。栃木縣足利郡御厨町(明一二、八、二七)生。(趣味)養鶏、釣魚、統計。(現住)足利市永樂町三六二四

山下石藏(曉汀) 丹洲時報社編輯長。舞鶴町(明二三、五)生。(新聞)大正二年入社。(趣味)魚釣り、酒。(現住)加佐郡餘内村字圓満寺

山下善助 萬朝報社政治編輯部。福岡縣久留米(明二六、一

山本昌一(嵩南) 時事新報社取締役。山口縣阿武郡須佐町(慶應元、一二)生。慶應義塾卒。(新聞)明治二十九年三月時事新報社に入る、三十八年五月同社合名組織となるや業務擔當社員となり、大正九年五月更に株式組織となるや常務取締役となる。同十二年六月病の爲め常務を辭し現在に至る。(趣味)讀書と漢詩。(現住)東京市府下入新井町新井宿子母澤九一三(電話)大森五一七

山本智雄 萬朝報社地方部編輯。秋田縣平鹿郡川西村(明三一、二)生。聖學院中學、早稲田。(現住)牛込區藥王寺町八三伊集院方

山本信博 都新聞社編輯局長。愛媛縣松山市(明一〇、一)生。東京帝大政治科卒(新聞)大森新井宿一六七八(電話)大森九〇六

山本地榮 東京朝日社會部

山口福太郎 都新聞社記者。東京市本所區番場町(明三一、一)生。東京市立商業學校卒。(新聞)中央新聞社(趣味)旅行と繪畫と俳句。(現住)市外瀧の川町中里四二二

山口喜一(政民) 北海タイムス編輯長(明四〇、八)入社。福島縣下(明一四、一一)生。家族七人同志。明治學院。東京政治學校(新聞)信濃實業主筆會津日日主筆、北海船主筆。(著作)煙草非官營論、政民策論。(思想)國家社會主義。(趣味)武藝。(現住)札幌區山鼻町二五、(電一〇四七)

山口宏 靜岡民友新聞社社會部外交記者。岩手縣盛岡市(明三七、三)生。(新聞)電氣職工講習所の先生。(現住)靜岡市音羽町二〇五

山崎好平(四十六歲) 大阪朝日新聞社山陰販賣事務所(新聞)山陰販賣事務所、大阪朝日新聞社社員(著書)酒類營業器類石數表、事實特許、山崎式泡澤測定器。(趣味)書畫骨董。(現住)松江市堅町一三(電話)七二二

山崎光次郎(四十一歲) 東京朝日新聞政治部長。

山本昌一(嵩南) 時事新報社取締役。山口縣阿武郡須佐町(慶應元、一二)生。慶應義塾卒。(新聞)明治二十九年三月時事新報社に入る、三十八年五月同社合名組織となるや業務擔當社員となり、大正九年五月更に株式組織となるや常務取締役となる。同十二年六月病の爲め常務を辭し現在に至る。(趣味)讀書と漢詩。(現住)東京市府下入新井町新井宿子母澤九一三(電話)大森五一七

山本智雄 萬朝報社地方部編輯。秋田縣平鹿郡川西村(明三一、二)生。聖學院中學、早稲田。(現住)牛込區藥王寺町八三伊集院方

山本信博 都新聞社編輯局長。愛媛縣松山市(明一〇、一)生。東京帝大政治科卒(新聞)大森新井宿一六七八(電話)大森九〇六

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山本策平(萬歲) 佐渡日報主筆(大八、八)入社。越後(慶應元八)生。妻女二。新潟學校英語學部。漢學塾。外に易斷姓名列斷を學ぶ。(新聞)中央、橫濱

山崎房藏(英泉) 京都日出新聞社政治經濟部長。京都府丹波國、國加佐郡岡田中村(明一五、一〇、二〇)生。(新聞)後島日日新聞、京都通信、大正日日新聞(趣味)讀書と郊外散策。(現住)京都市上京區吉田西河原町五(電話)八四〇

山崎好平(四十六歲) 大阪朝日新聞社山陰販賣事務所(新聞)山陰販賣事務所、大阪朝日新聞社社員(著書)酒類營業器類石數表、事實特許、山崎式泡澤測定器。(趣味)書畫骨董。(現住)松江市堅町一三(電話)七二二

山崎光次郎(四十一歲) 東京朝日新聞政治部長。

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山崎照道(五十歲) 帝國新聞社理事。東洋英和學校卒業。(新聞)ニューヨーク、ヘラルド乃至米國聯合通信社員。北海道日新聞乃至北海道報事務理事兼主筆。(著書)ルーズベルト全集、クロームウエル傳、離日本奮闘の教訓、日蓮主義雜著など(主義)日蓮主義。(趣味)法華三昧。(現住)東京市外柏木大町一〇一〇(電話)大手二五八

山崎傳之助(霞舟) 和歌山日日新聞社長。印刷業。和歌山縣勢多共益會々長。山梨(明六、六)生。家族三人。日本大學卒業。(政黨)憲政會。(現住)和歌山市四番町一(電話)六八五、一九二八

山崎秀永(三省) 中外商業新聞社足利通信部。栃木縣足利郡御厨町(明一二、八、二七)生。(趣味)養鶏、釣魚、統計。(現住)足利市永樂町三六二四

山下石藏(曉汀) 丹洲時報社編輯長。舞鶴町(明二三、五)生。(新聞)大正二年入社。(趣味)魚釣り、酒。(現住)加佐郡餘内村字圓満寺

山下善助 萬朝報社政治編輯部。福岡縣久留米(明二六、一

山本昌一(嵩南) 時事新報社取締役。山口縣阿武郡須佐町(慶應元、一二)生。慶應義塾卒。(新聞)明治二十九年三月時事新報社に入る、三十八年五月同社合名組織となるや業務擔當社員となり、大正九年五月更に株式組織となるや常務取締役となる。同十二年六月病の爲め常務を辭し現在に至る。(趣味)讀書と漢詩。(現住)東京市府下入新井町新井宿子母澤九一三(電話)大森五一七

山本智雄 萬朝報社地方部編輯。秋田縣平鹿郡川西村(明三一、二)生。聖學院中學、早稲田。(現住)牛込區藥王寺町八三伊集院方

山本信博 都新聞社編輯局長。愛媛縣松山市(明一〇、一)生。東京帝大政治科卒(新聞)大森新井宿一六七八(電話)大森九〇六

山本地榮 東京朝日社會部

山崎房藏(英泉) 京都日出新聞社政治經濟部長。京都府丹波國、國加佐郡岡田中村(明一五、一〇、二〇)生。(新聞)後島日日新聞、京都通信、大正日日新聞(趣味)讀書と郊外散策。(現住)京都市上京區吉田西河原町五(電話)八四〇

山崎好平(四十六歲) 大阪朝日新聞社山陰販賣事務所(新聞)山陰販賣事務所、大阪朝日新聞社社員(著書)酒類營業器類石數表、事實特許、山崎式泡澤測定器。(趣味)書畫骨董。(現住)松江市堅町一三(電話)七二二

山崎光次郎(四十一歲) 東京朝日新聞政治部長。

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

山本政常 國際通信社發達部主任。佐渡相川町(電話)五五

山本周一(舊姓中村) 名古屋新聞地方部長。大正三、七、八社。(明二五、三、二)生。塚族妻。(現住)名古屋市中區下野杉町二の二〇

(政黨)政友會。(現住)長野縣桐
野山町

山本信太郎 (李兵衛廣洋)
(三十九歲)神戶新聞社漫遊記者
姫路中學校卒、東京美術學校卒
(新聞歴)神戶又新日報社より神
戸新聞社に入る。(主義)漫遊主
義。(趣味)酒と女。(現住)神戶
市西代下四谷一

山本諒一 (柳葉) (四十五
歳)やまと新聞社地方編輯部長
記者(べき事なし)醫學に志し中途
より文筆にたづさる(新聞歴)
二六新報、東京日日新聞、新潟
毎日新聞、新發田新聞、やまと
新聞。(著作)は多く月々の雜誌
にあり。著書は古いものに袖屏
風など。(趣味)芝居。(現住)市
外日暮里町一〇八八(電話)下谷
二二一〇

山森利一 (淡水) 報知新聞
社論説部。富山縣(明)二、六、一
一)生。明四〇、三、富山中學校
卒。同四四、七、早稲田大學工
科卒。(新聞歴)明治四十四年に
早大卒直ちに渡支四十五年一月
から六月まで富山日報社に筆を
執り、約一年間支那各地を巡遊
歸國後毎夕新聞社に半年ほど居
り大正四年十日現社へ。(趣味)
土いぢり。(現住)東京市外戸塚

町富田四百
安井末三 (秋香) 京都日日
新聞滋賀通信主任。大津市(明
二七、五)生。母、妻。(新聞歴)近
江新報。京都日之出新聞。滋賀
日報(主義)穩健を旨とする國家
主義。(現住)大津市島之關

安岡秀夫 (南極老星) 前時
事新聞常任監査役。編輯監督(明
二六、一一)入社。高知縣下(明六
四)生。妻一子。慶應義塾(著
作)ジャドソン十九世紀史。日
本と支那と。(趣味)特殊の美術
及文學。(現住)本郷區西片町一
〇(電話)小石川二〇一五)

安田勝馬 廣島日日社會部
長。(大九、一)入社。廣島縣(明二
九、一一)生。修道中學出身。(趣
味)愚案(現住)廣島市日島中町
(電話)三三九

安田義一 東京毎夕新聞社
社會部記者。横濱市(明)三、一
〇、二)生。早大政治經濟科卒
同法學部英法科修業。(現住)横
濱市本牧町九〇一宮原館(電話)
三二八九(横濱)

安田英一郎 前新聞研究
所廣告部員。岡山縣(明)三、四
生。岡山中學、青山學院、法政
大學等に學ぶ。(新聞歴)大正十

二年七月現社に。(趣味)活動寫
眞、スポーツ、園藝。(現住)
牛込神樂坂

安田寛夫 大分新聞社營業
部員。大分縣北海部郡向井町。
(明)二八、一一、二四)生。(現住)
大分市下町

安田彦三郎 正路喜社取
締役。神奈川縣(明)二、五)生
(新聞歴)明治二十八年九月現社
へ、大正元年出資社員となり續
て無限責任社員となり大正十四
年三月組織變更と共に取締役任
任。(趣味)運動、寫眞、旅行
(現住)東京市赤坂區青山高樹町
十四

安成二郎 (凡馬) 讀賣新聞
婦人部長。秋田縣阿仁合町(明
二二、一)生。(新聞歴)大正八年
九月讀賣新聞社に入り、中途退
社、半年ほどして再び入社。(趣
味)俳句、短歌。(現住)大久保
百人町二二

安平市太郎 (恒雄) 國粹
日日新聞社營業部長。兵庫縣(現
住)大阪市西淀川區大仁町一二

マツタイエン、エフ、エルウイン
(二十六歲)ジャパンアドグアタ
イザイ編輯員。(學歷)ミソリ
大學出身。(現住)麻布區廣町
六七

眞壁光 都新聞社、家庭欄擔
當。北海道札幌市(明治)二七、
一一)生。目白女子大學附屬高女
卒業後大學部家政科に學んだが
途中にて退學。(趣味)洋畫、お伽
噺を作る事、音楽芝居。(現住)
麹町區三番町八四

眞壁武雄 萬朝報社會計部
長。

眞名子兵太 (禿山) 中外
商業新報外報部。福岡縣八女郡
北川内村大字眞名子(明)二九、二
二)生。明治大學中途退學、渡
米スタンフォード大學へミルト
ン法律專門學校。(新聞歴)北米
合衆國桑港の新世界新聞。加州
オークランド市英字紙インクワ
イヤー新聞。大正十三年九月現
社へ。(現住)小石川區大塚仲町
四一

間瀬悟郎 臺灣日日新聞社
記者朝刊編輯兼活動寫眞部長。
(明)二八、八)函館生。早稲田大
學政經科出身。(新聞歴)大正九
年中央新聞、やまと、中央新聞

り現社へ。大正十三年十二月
り翌年二月まで支那を視察。(趣
味)映画。(現住)臺北市東門町
五三(電話)二五四七)

間瀬健志 布哇新報東京支
局記者(明)三六、一、一三)生。山
梨縣。日本大學社會科に學ぶ。
(新聞歴)帝國通信社編輯部。(趣
味)スポーツ。(現住)市外南品
川東廣町五六七

米田實 東京朝日新聞社編輯
顧問(明)一一、一二)生。オレ
ン州立大學、カリフォルニア州
立大學院、アイオワ州立大學院
等卒業。東京帝大より法學博士
號を受く。(新聞歴)入社後外報
部長、論説委員長を経て相談役
現に東京商科大学「外交史」講座
擔任となる。(現住)東京市外雜
司ヶ谷九一五

丸山戰治 (泉樹) 中央新聞
社整理部。福島縣石城郡四ツ倉
町(明)三九、九、一八)生。(趣味)
讀書。(現住)府下高田町一五六
大森方

丸山豐治郎 高田日報社
長、越後國に生る。(現住)高田
市上寺町(電)一〇五)

丸山小五郎 (梧樓) (三十
九歲)信濃日報社編輯部長(新

開歴)明四四年現社に入る(著
書)青年と青年會(主義)社會改
良主義。(趣味)讀書。(現住)松
本市二の丸三番地(電話)六〇六)

丸茂菊喜 (天雲) 公友新報
社長。山梨縣(明)一四、九)生。
(新聞歴)大阪の帝國新聞記者。
公友新報(長野市)創刊。(趣味)
讀書。(現住)長野市箱清水

松井學 大阪時事新報社京都
支局。京都府(明)二八、二)生。
(現住)京都市鹿ヶ谷寺之前町一
〇〇

松井廣吉 (五十九歲) 松江
市松陽新報主筆。(著書)日本内
閣論。日本帝國史。戦争時代。
三國時代。柏軒論集。(現住)松
江市母衣町七五

松井善四郎 (二十三歲)
秋田縣新報社會部記者。青森商
業學校中途退學。(新聞歴)大正
十三年二月秋田縣新報社に入社
(現住)秋田市西根小屋町(電話)
四六四

松原傳吾 (木公) 報知社外
報部長。宮城縣(明)一五、三)生。
妻。早稲田大學中途退學。(新聞
歴)河北新報。米國カナダの五
六邦字新聞に執筆経験あり。著
作)死後の運命。探偵小説陰謀

團。(思想)無抵抗主義。(趣味)
園藝、讀書、釣魚。(現住)東京
市外世田ヶ谷太子堂四三二

松原至大 東京日日新聞調
査課。千葉市(明)二六、三)生。
早稲田大學英文科を大正四年に
卒業。(新聞歴)子供の雜誌の編
輯に従事すること一年、現社へ
轉じてから内閣通信部、學藝部
を経て現任。(趣味)おもちや
書畫、野球見物。(現住)千葉縣
市原郡八幡町

松尾竹藏 東京時事新報社
販賣部(發送係)。青森縣三月町
(明)三四、五、二四)生。攻玉社中
學校出身、中央大學理學科途中退
學、社會政策學院第十回修了生
(趣味)音楽、運動。(現住)市内
下谷區入谷町五加治方

松尾要 萬朝報專務取締役
(大)十二)入社。東京市會議員。
(現住)麻布區森元町一ノ二七、
(電話)青山六二二三)

松林喜八郎 (羶羊) 長野
新聞社關西特派員。大阪支局長
(明)二四、一)生。(趣味)淨瑠璃、
運動、釣魚。(現住)大阪市北區
萬歲町四三(電話)特長北五六三
〇〇)

松尾宇一 宮崎日日新聞主

轉。宮崎縣(明)一九、七、一〇)生
京都法政大學經濟科卒。(新聞
歴)明治四十年現社へ。(現住)宮
崎市廣島文化街。(電話)四二六

松尾鐵次 (十八公) 對馬日
主筆(大七、九)入社。佐賀縣
(明)二二、一二)生。妻長女。(新
聞歴)長崎民報。九州日の出新
聞。大正六年長崎にて長崎毎日
新聞創立經營七年廢刊。(事業)
大正五年雜誌「くわなる發行」(趣
味)酒。演藝。俳句(政黨)なし
(現住)長崎縣原本社内社宅。
(電)三六

松岡源太郎 神戶又新日
報姫路支局長。姫路生。(現住)
姫路市堅町三二(電)七四

松岡富 臺灣新聞社長。
熊本縣(明)三)生。札幌農科大學
出身。(新聞歴)永年熊本縣に縣
會議員、明二九年製糖業に従事
し帝國製糖會社を創立し數年
間社務に従事し現に新竹製糖會
社の專務取締役たり十數年前よ
りヒリッピン開拓に従事し現に
ヒリッピン産業株式會社專務取
締役、臺灣總督府評議會員大正
六年現社へ。(趣味)讀書、ゴル
フ。(現住)臺中市(電話)三三〇

松川鑛四郎 石巻新聞社

主、宮城縣(明九、一〇)生、家

族二人(新聞歴)明四三迄東北新

聞に關係(趣味)將棋。(現在)宮

城縣石巻町仲町(電二〇三)

松川實 中央評論經營。大阪

北區高垣町(明二六、五、一)生。

中央大學法科卒。大四、五、現

社を獨力經營して今日に至る。

(趣味)園芸、讀書(現住)大阪

北區高垣町二

松田平治 (楠亭)大阪共同

通信社記者。福岡縣。(明二二、

五、一〇)生。早稻田大學、法政、

廣島市役所及商業會議所書記。

關西日々新聞社々會部記者。大

阪毎日新聞社經濟部記者。(趣

味)音樂。(現住)大阪市東區京

橋二、二二

松田德松 群馬新聞社會部

主任(大正七、二)入社。前橋市

(明三四、八)生。家族二人。獨

學。(現住)群馬縣木瀬村天川大

島三三七

松田知之 東京朝日新聞調

査部(休職)(大四、一二)入社。

名古屋(明一四、九)生。早大

政治科卒。(新聞歴)シヤム、

タイムス。(趣味)讀書。大正十

二年大阪朝日名古屋支局長勤務

中失明す。(現住)府下中野町字

南根町七四

松下元吉 大朝山口通信部

主任。(現住)山口縣山口町上野

小路七六

松本一作 京華社東京支店

營業課長。大分縣日田郡(明八、

一)生。明治法律學校卒。大日

本鹽業株式會社東京支店長より

本社營業部長となり大正三年八

月日本石油株式會社秋田製油所

主任に轉職。(現住)麻布區森元

町一ノ二七、四

松本音吉(哀秋) (二四歲)

下野新聞記者。(新聞歴)大正

十年野州新聞を振出しに帝國通

信社やまと新聞を経て下野新聞

社に入社。(主義)自然主義。(趣

味)詩文。(現住)宇都宮市一條

町六二九

松本辰三 やまと新聞地方

部。東京(明二五、一〇)生。大

正一〇年現社。(現住)市外駒

澤村上馬引

松本武雄(二八歲) 時事新

報經濟部。慶應大學理財科卒。

(現住)麻布區我善坊町一。

打越二〇六九

松田金三郎 (三十一歲)

東京切抜通信社々員。日本大學

法科卒。(新聞歴) (大六、六)東

四實業新聞發刊(趣味)讀書旅

行。(現住)京橋安女町二二東京

切抜通信社

松波千海 全北日報社長。

熊本菊池(明二二)。(現住)朝鮮

全羅北道全州

松村貫一 下野新聞、社會

部長。明四〇、早稻田大學國文

科卒業。(現住)宇都宮市池上町

三十

松村玉三 大分新聞社會

部記者。大分縣白杵町(明三〇、

七、一)生。白杵新聞、白杵日日

新聞。(趣味)石佛研究、花、じ

り。(現住)別府市

松村金助 (奥州)時事新報

社經濟部。青森市新町(明三

四、六、二七)生。(學歷)大

三、三、慶應義塾大學經濟學部

卒。日本大學法學部在學。(經

歴)慶應卒業後直ちに現社。(趣

味)山川跋涉。(現住)芝三田四

國町二ノ一天津館

松内則信(冷洋) 大阪毎日

編輯主事。東京(明九、一)生。

編輯主事。東京(明九、一)生。

文學院卒。二十三歳にして初め

て萬朝報に入り、三九年現社東

京支店勤務となり今日に至る。

(現住)大阪府下池田室町

松浦五兵衛(五五歲) 靜

岡新聞社長。前代議士。(新聞

歴)大二、以來現社長となる。

(主義)政友本黨。(趣味)銃獵。

(現住)東京麻布弁町一四。

松浦實雄 大阪朝日記者。

香川縣(明三三、八)生。内海實

業學校卒業。(趣味)讀書(現住)

尼崎市蒲城内五六

松浦錠太郎(陳晃) 靜岡

日報社長。濱松新聞營業局長。

愛知縣下(明七、五)生。妻二男

二女。(新聞歴)報知新聞名古屋

支局長。同大阪支局營業主任。

同神戸支局長。大阪新報直營部

主任。同京郵收局主任。國民及

實業演説通信員(思想)皇室中心

(趣味)旅行。同志の會合。(政

黨)中立。(現住)濱松市紺屋町

一〇九

松浦清平(四三歲) 大分新

聞東京支社長。(現住)東京芝區

新橋田町一九。

松山清吉(松生) 都新聞社

商況風雲錄擔當。山形縣山形

市旅館町(明二六、一、二〇)

生。正則英語及獨逸協會學校に

學ぶ他國民中學、文章學院、早

稲田大學等通信教授に依る。山

形日日新聞記者。東京大勢新聞

記者を経て現社。(趣味)尺八

文學、音樂類。(現住)牛込袋町

信陽館内

松江伴三(二水) (四〇歲)

信濃時事新報主事。(現住)長野

縣飯田町

松江登里男(綠) 週刊新

報編輯主事。茨城縣笠間町。明

二九、七)生。早大文科中途退

學。福島日日新聞編輯主任。福

島日報社會部長。日本評論社出

版部編輯主任を経て現職。(趣

味)演藝、歌謠、舞踊の研究。

(現住)福島市會根田

松崎市郎(天民) 中央新聞

社編輯局遊軍。美術(明一一、

五)生。丁稚、労働者より大阪

朝報、大阪朝日、國民、東京朝

日、毎夕、都、二六を経て中央

記者生活二十五年。著書二十五

冊あり。(趣味)撞球、カメラ。

(現住)東京赤坂丹後町四番地。

松宮幹樹 奉天毎日新聞社

長。福井縣。(明一三)生。大

阪毎日を経て現社。(現住)奉

天十間房四區

松下勇三郎 やまと新聞

社長(大正三、就任)東京市(明二

三三)生。家族母妻第二人、姉

報社に大阪時事新報廣島支局長

を経て大一一、一一、現社に入

社し今日に至る。(主義)精力主

義。(趣味)取立て、云ふ程のも

の無し。(現住)大阪市外城北村

字赤川

前田和希 東京朝日新聞通

信部長。千葉縣(明二七、八

入社)家族二人。(學歷)日本大

學卒。中央大學卒。(新聞歴)や

まと新聞社會部外交主任。(現

住)東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町

三三六

前田渡 東京毎日新聞社會

部遊軍記者。熊本縣(明三五、

九)生。中央大學中途退學(現

住)中途谷八四八鈴木方。

前田與三吉 大阪朝日販

賣部長。(現住)兵庫縣西宮町市

庭二四四〇

前田禮治 中央新聞政治部

長兼經濟部長。弘前(明二四、

四)生。法政大學政治科中央大

阪新報政經主任を経て現社。

(趣味)俳句。(現住)東京市平込

區喜久井町二〇

前田文吉(蓮山) 新潟時事

主義。(大二三、入社)。(新聞

歴)時事新報。(著作)政界夜話

其他(現住)新潟市同社内。

前田久吉(華城) 夕刊大阪

新聞社社長。大阪市西成區吉田

町(明二六、四、三)生。大阪

師範學校。(經歷)實業界より身

を起して夕刊大阪新聞社を經營

す。(現住)大阪市西成區吉田町

五六八。

前田祐太郎(幕山) (五九

歲)室蘭日日新聞社長。(新聞

歴)明治三十七年本紙の前身室

蘭時報を發行以來今日に至る發

休盛衰幾轉遷を経て居ります。

(主義)逸而不作信而好古主義ア

ンチアモクワツタイム(趣味)

讀書(和漢洋)。(現住)室蘭市幕

四町三

前田繁一 東京朝日經濟部

兼政治部長(大九、五入社)。兵庫

縣(明二五、一)生。妻と一男。

日本大學法科出。(新聞歴)龍野

新聞發刊。神戸又新。やまと社

會部。萬朝經濟部。(趣味)産業

行政就中農村問題や商取引に關

する讀書。(現住)府下大森町新

井宿於伊勢原一九九六。

正木鐵雄 上毛新聞社會部

長兼新玉新聞編輯長。(現住)

前橋市紅雲町四一

牧内元太郎(洋東) 株式

會社橫濱朝報新聞社々長兼東京

支局長。長野縣上田市。(明元

59

四、八)生。明二四、七、早稲田大學即ち當時の早稲田高等專門學校政治科卒。(經歷)明二五札幌區の北門新報主筆として赴任。同二八、五、横濱市に來り東洋通信社を設立し三、一、二より併せて英和文にて編輯せる内外商通報を發行更に三六、九、一、横濱毎朝新報と改題し日刊に改め今日に及べり。(趣味)乗馬、讀書、庭園。(現住)大森不入斗一、四七〇

牧野輝智 東京朝日新聞編輯局長。熊本縣(明一四、一)生。早大卒。明四四、現社(政治經濟部長)任。(現住)東京市外千駄ヶ谷五六二

牧野鐵藏 報知社營業局長。東京(明一五、四)生。明四二、二入社(現住)京橋區西船町五番地

牧野靜男(湖北) 靜岡民友新聞社々會部記者。仙臺市二十人町(明三四、一、二八)生。學歷と稱すべく特記すべきものなし。大阪新聞通信社より轉ず。(趣味)深更又は宵の街のそよ風歩き。(現住)靜岡市多川邊二七五

牧山耕藏(玄瀨) (四四歲) 朝鮮新聞社長兼議院議員。早稲田大學大學部政治經濟學科卒。(明三九)(新聞)現に朝鮮新聞社長。東亞電報通信社長。朝鮮公論社主(本京城)(主義)政友本黨。(現住)京城太平通二丁目一五

田大學大學部政治經濟學科卒。(明三九)(新聞)現に朝鮮新聞社長。東亞電報通信社長。朝鮮公論社主(本京城)(主義)政友本黨。(現住)京城太平通二丁目一五

増永浩(郭公) 天業民報社客員。神奈川(明三〇)生。東京帝國大學法學部及經濟學部。法學士、經濟學士、天業民報社編輯主任。現在は東京電燈會社員。(趣味)自然。(現住)東京市本郷區千駄木町五〇

万年好 中央新聞社々會部。東京(明三四、二九)生。早稲田大學理工科卒。太陽通信(趣味)美人裸體畫蒐集。(現住)芝區櫻田前町一八島田方

結束武二郎(三五歲) 國際通信社新聞部主任兼聯絡部長。東京郵便電信學校卒。(新聞)現社に在り以前雜誌に關係せり。(現住)市外淀橋町柏木三四二

煙山一郎 報知全書部長。明四、一入社(新聞)婦女通信。内外調査通信。日本新聞。(思想)

至誠人に當り事に當る。(現住)東京市外大森木原山一五二五

京田武男 東京日日新聞事業部(大一一〇、一)事業課新設と共に入社)體育協會水泳部常任委員。東京市本郷區(明二二)生。家族父母妻子あり。早稲田大學政治經濟學科卒。(新聞)二六新報。國民新聞外報部及社會部。特に運動擔任。(著述)最近の水泳術。乘馬熱と乘る競技。(思想)デモクラシー。(現住)市外下目黒五二二

ブレフエヤー・エイチ・エル シヤパン、タイムス社書記。横濱(一、九〇七)生。英國ウイクトリア大學。(趣味)スポーツ。(現住)府下世田ヶ谷

不破又男 シヤパン、タイムス社廣告部。大阪(明三三、三、六)生。大阪高商大九、中途退學。諸印刷出版業。(現住)市外田端一〇六加藤方

不破瑳磨太 シヤパン、タイムス社總支配人。佐賀縣唐津町。(明二〇、五、三)生。シヤ

マン、タイムス記者、國際通信編輯主任、同營業部長、東方通信總務部長。(現住)東京府下瀧川町上中里一四九

不動健治(紫明) (二八歲) 帝國通信社寫眞課長。大阪市立工業學校を経て關西大學商科學(新聞)大一一〇、三、入社寫眞課創設(著書)寫眞雜誌、藝術寫眞(趣味)長唄、音樂(現在)東京市小石川區春日町五〇。大阪府西區江の子東の町二十番地

布施勝治 大阪毎日新聞社北京支局長。越後(明一九、一〇)生。(新聞)在露十年、その間巴爾幹戰爭(從軍)歐洲戰爭及び露國革命(ペトログラードにありて)、伯利亞出兵(浦潮斯德にありて)等の事、赤黨に會し大八、九には世界一過、赤黨橫斷、蒙古邊疆(著作及び記事)露國革命記。赤黨通信。勞農黨國より歸りて。(現住)北京大每支局内

府川角藏 報知新聞社小田原特派員。神奈川縣足柄下郡足柄村萩窪一五六(明三一、一、四)生。日本大學政治經濟學部門部一年卒。讀賣新聞小田原通信員。大一一、一一、一六、報

知新聞社に入社(小田原特派員)現在に及ぶ。(現住)小田原町南一ノ八六四

藤井育造(素仙) 馬關毎日新聞編輯長政治部長通信部長。(大二、四)入社。山口縣(明九)生。妻子三名。(趣味)俳句園藝。(現住)下關市田中町二

藤井雅治 株式會社京華社外務員(本店)兵庫縣多可郡洋萬村(明二二、五)生。大六、七、一七、入社。(現住)京都市小川通元誓願寺南入

藤井浩然(落葉) (四〇歲) 越後新報社主筆。明四一、早稲田大學文學部卒。(新聞)高田日報新潟毎日新聞編輯長。(著書)傳信の要。孝養集等編述。(現住)新潟縣長田市觀光寺院町

藤井靜宣(草宣又は葱嶺狂人) 教友新聞編輯部主任。(明二九、三、四)生。京都市烏丸、大谷大學大一、卒。於東京朝日樓上、新聞大學第一回終了。(經歷)大一一、四、一より京都市東山中外日報社東京特派員として東上し大一一、三、二、退社、直ちに淺草區松清町三九番地に教友新聞社を興し現在に至る。(趣味)活動して人々と對談すること(原稿用紙に向うこと)(現住)

東京市外巢鴨町西巢鴨

藤井尚治(黒龍) 樺太日々新聞主筆(大一一〇、九)入社(富山縣(明二二、二)生。甲種農業學校(富山縣)卒、東洋殖民學校、東京卒。富山縣東礪波郡養谷村有給助役。北陸タイムス記者。シヤパンマガジン記者。東京毎日新聞政治部長。富山新報主筆。經濟雜誌ガイマヨリ記者。婦人家庭記者。名古屋日報編輯長(趣味)人物研究。(現住)樺太豊原町東三條南三丁目東京赤坂區青山北町六ノ四七

藤井善助(五五歲) 近江新報社編輯日報社長。東亞同文書院。(趣味)書畫。(現住)京都市疏水慶流橋畔

藤原丈夫 山陽新報社會部(大一一〇、三)入社。岡山縣津浦町(明三〇、九)生。天城中學、エスヘラントを學ぶ。(新聞)大正日日新聞岡山通信部、山陽新報、大阪時事新報。(趣味)短歌、子供と遊ぶ事。マンドリン。(現住)岡山市内山下樓馬場

藤原 陰(二五歲) 岡山日日新聞。關西大學。(新聞)兎島時事新聞。(趣味)玉突。(現住)岡山市外

藤原久人 やまと新聞社經

濟部記者。廣島縣(明二五、七)生。(現住)芝區愛宕町二ノ一四

藤田竹治 郡新聞工場部長(現住)四谷區花園町九二

藤田貞雄(村雨) 福井新聞編輯長(明四三、八)入社。福井郡三國町(明一七、四)生。兩親妻男三女二(趣味)文藝。(現住)福井市淡町七九

藤田繁盛 大朝洋通信部主任(現住)津市西檢校町一七ノ九

藤田信見(三一歲) 京都市日新聞社大阪支局。高等學校卒(新聞)大一一二、一〇入社(現住)大阪府北區曾根崎上四丁目二六〇、京都市日大阪支局

藤野久雄(三八歲) 株式會社近藤利兵衛商店廣告課長。早稲田大學英文學科卒(新聞)早大卒業後伊東胡蝶園廣告部に滿七年餘勤務後一一、九、現在の社に入る。(現住)府下荏原郡大井町四〇九七

藤野至人(靜堂、落村) 消防新聞社主筆(大五、八)創刊。出版業至文社主筆。備後尾道(明二二、六)生。母と妻と一妹一兒あり。早大法學部に學ぶ。(新聞)防長毎日東京支局、帝國政治部(思想)人道主義。(趣味)讀書。園藝(現住)芝區愛宕町一

ノ二五。京橋區南鐮町日本寫眞通信社寫眞員。埼玉縣比企郡伊草村(明三一、二)生。郷里小學校卒業後上京。工業學校卒。東京京橋區中外通信社寫眞製版部より福島日々新聞、山形新聞の寫眞記者を経て、大正十二年より現在社に入り通信用寫眞部員として勤む。(趣味)退社後の散步。(現住)東京市外下田端一三七九

藤澤約一 東京通信社通信部。長野縣上伊那郡(明一三、七)生。(現住)東京府東葛飾郡立石六一九

藤木九三 大朝洋通信部主任(現住)神戸市灘内橋通六丁目八

藤木義幸(不二樹美汀) (三六歲) 小石川新聞社主筆。島國奉公義會を主宰す。大九、七早稲田大學政治經濟部卒。(新聞)大六、九、入社(小石川新聞)爾來本日に及ぶ。(主筆)最近は國家社會主義を主張す。(趣味)和歌、謠曲等凡て音樂類。(現住)東京市小石川表町三八

藤平權一郎 報知新聞社記者。千葉縣夷隅郡上野村南山

田。(趣味)古本集、東洋關係外人の房、牛島關係の一切。(現住)世田ヶ谷町羽根木一七二九。

藤平謹一郎 下野新聞社長(新聞歴)下野新聞取締役次を取給役社長。(現住)宇都宮市松ヶ峯町。

藤本政吉(市山) 長野新聞編輯局長。長野縣上水内郡古岡村(明一七、四)生。(趣味)文學(現住)長野市縣町五。

古川哲治 新潟毎日編輯局長(大八、四)入社。新潟市(明一五)生。家族五名。(現住)新潟市寄居町。

古川清 新愛知經營新聞編輯局長。福井縣大野郡勝山町(明三五)生。(趣味)甘藷。(現住)福井市東上町六〇。

古長輝隆 大分新聞社編輯局長。大分縣大分郡西庄内村大字畑田九二(明三七、二二、二六)生。日本大學法政學部卒。而して現在獨學中。(大一一、一〇)大分縣農會辭職後現在に至る。(趣味)文學。(現住)大分市天子町潮原。

古木森治(四一歳) 中國日日新聞社營業部長。獨學。(新聞歴)播磨民報、廣城新聞時代より

現今に至る。(現住)姫路市忍町三一五
深川角藏(四三歳) 映中日報社長。東京府立第一中學校中央大學出身。(新聞歴)大七、東京毎日、時事となり同八、映中日報社主幹となり同一二、一〇現映中日報社社長となり現在尙ほ東京毎日新聞社理事を兼任。(主義)社會思想向上、農村振興。(趣味)乘馬、弓術、圍碁、英獨。露語研究(現住)山梨縣甲府市錦町十八番地。
深浦宗壽(三三歳) 秋田縣新報社政治經濟部記者兼計數部長。大四、本誌時報。大八、東京市豊國通信社を経て大九、四現入社社。(現住)秋田市龜ノ丁四土手町。
深町作次郎(如秋) 上海經濟日報社長。佐賀市(明二七、二)生。妻と一男。(思想)國家社會主義。(趣味)讀書。(現住)上海武昌路第七一號。
深瀬薫(芳流) 土陽新聞演藝部編輯主任(大七、七八)入社。高知縣(明二七、三)生。妻子供一人。早稻田大學(著作)兒童劇脚本、正行、片断大名、時代劇世話劇、現代劇、喜劇等數種。(事業)春秋二回のお伽大會と縣

内外お伽講演。(趣味)演藝、童話(現住)高知縣土佐郡小高坂村
二川凌雲(清水) (三八歳) 備前日日新聞社御手洗支局長。(現住)備前縣豊田郡御手洗町。
福井廣 時事新報社販賣部主事地方主任。東京市外大井町山中四三二五。
福井輝三 日本電報社通信長崎支局長(大四、一〇)入社。静岡縣(明二九、八)生。兩親と妻(著作)活用速記術。(思想)自由博愛主義(趣味)皮肉を云ふ事(政黨)なし(現住)長崎市千島町二一五。
福家勇 樟太日日新聞社編輯局長。香川縣綾歌郡山田村大字山田下字東北山(明三〇、一一、一五)生。北海タイムズ記者、樟太日日新聞記者。(現住)樟太豊原一南五の十九。
福岡誠一 國際通信社編輯部(當二九歳)東京帝國大學法學部卒。(現住)東京府下中野町上ノ原八〇七。
福田平七(耕耘) 萬朝報上田支局長。三重縣松坂町字魚町(明一八、六、二五)生。三重一中及京城日韓語學校。京城東洋日報三八年より四二年迄、其後歸朝諸雜誌經營大一、毎

夕新聞社(入社國際新聞局本所新聞刊準備員として入社震災により解散大一二、新愛知北信支局長として就任、一三、五、萬朝報(轉社)。(現住)長野縣上田市旭町。
福田寅治 大阪今日新聞社常務理事。兵庫縣出石郡。明一三、一〇、五)生。(趣味)角力、圍碁。(現住)大阪市東淀川區十三南町七〇三。
福田正俊(殘花) 關西日日新聞社長。兵庫縣明石町(明五七九)生。中學卒。大一一、九兵衛縣會議員に當選す憲政會兵庫支部幹事明石市政研究會顧問(趣味)圍碁及旅行。明石市人九下二〇一、三。
福田英助 新新聞長(現住)龜町區内幸町一ノ五新新聞社編輯局長。
福田吉藏 東京日々新聞外國課長。
福田祐英(白濱) 岩手毎日主筆(大九、一〇)入社。青森縣(明五、九)生。家族七人。(新聞歴)陸奥日報主筆、福島民報主筆、東京毎日政治部、北海道報主筆、濃飛日報主筆。(思想)國粹主義。(趣味)讀書(政黨)友會。(現住)盛岡市大澤川原小

となり其後石陽新報並に東北毎日新聞社合併の結果現職にあり(趣味)新派の畫並に自動車運轉(現住)福島縣石川町。
小林庸平(松山莊主人) 大阪朝日日新聞社記者通信部員。(原籍地)埼玉縣北葛飾郡栗橋町。(明一六、六、一一)生。早稻田中學校、早稻田大學、第二高等學校を経て京都文科大學に學ぶ。(大五、一一)大阪朝日日新聞社入社、通信部勤務、同三月社員、爾來、通信部にありて編輯に従事して現在に及ぶ。(趣味)新聞の編輯、草木研究、音樂。(現住)兵庫縣西宮市濱町九〇。
小林竹次郎(柏葉) 中越毎日新聞社長兼主幹。新潟市。(明二一、二、一五)生。東北日報記者、越後新聞記者、新潟毎日記者等記者生活二十年。(現住)新潟縣三條町八幡小路。
小林武彦 大日本麥酒株式會社庶務課長。千葉縣上總國一宮町(明三、一〇、五)生。中央大學法政科卒。學校卒業後法學士朝倉法律事務所の監督を託され(明三四)札幌ビール株式會社に入り會社が現在の大日本麥酒株式會社となるや引續き勤務水學

路九六。
福田壽郎 やまと新聞社通信部。三重縣南牟婁郡阿田和村。(明二九、一〇)生。明四四、七、やまと入社。(現住)京橋木挽町三ノ二一。

福田市平 東京朝日外報部記者(大一一〇、二)入社。熊本市(明一九、一一)生。早大政治科(思想)平凡主義。(趣味)漫談(現住)小石川區久堅町一〇八。

福永隆市(天頂) (三〇歳) 北備毎日新聞社長。明大出(新聞歴)北九州に有ける十有七社。(著書)記者生活の十年、近代繪畫と其の人。(主義)國家主義(趣味)劇。(現住)德島縣三次町。

福良虎雄 大阪毎日地方通信部長兼中央聯絡部長。(著作)數種。(事業)外遊數度。(現住)大阪府豊能郡岡町松原通三丁目

福山壽久(天蔭) 東京日日新聞社地方副部長(明一六)生。(新聞歴)信濃毎日新聞。やまと新聞。東京日日新聞。(現住)市外巢鴨町宮下一六五九。

福澤徳太郎 日米新聞社員(大五、一一)入社。外に浴場新聞自營。横濱(明一二、二)生。家族六人。(新聞歴)横濱貿易新

報。(主義)皇室中心。(趣味)旅行。(現住)武州保土ヶ谷町保土ヶ谷三一。
福島龜吉(海王星) 東京日日新聞社通信部(大八、一一)入社。東京(明二六、五)生。母と妻。(思想)社會主義的國家主義(趣味)俳句。旅行。寫眞。(政黨)なし。(現住)横須賀市公郷二三七七。
福島彌太郎 株式會社正路喜社會計課長。德島縣名東郡加茂村大字上助任。(明三〇、三)生。大七、三、甲種佐賀縣立佐賀商業卒。大一一、一二二〇正路喜社(入社)。(趣味)繪畫、寫眞、運動、庭球、野球フラインク。(現住)東京府下南品川三ツ木館ヶ崎八七九大和田方。

小泉瀧次郎 株式會社京華社外務員(本店) 京都市。明二八、四)生。(大九、七、二)入社。(現住)京都市上京區新出水通土屋町東入。
小泉源四郎 シヤパンヌイムス社幹部室秘書。東京(明

三四)生。慶應義塾商工學校卒業。北米沙市アロドウェイ高等學校卒業後ニウオレンニス市チュレンン大學中途退學。(趣味)野球、ゴルフ、玉突、寫眞、旅行(現住)府下矢口村小林。
小泉元輔(塊子) 福島民友社。政治部編輯主任。(新聞歴)大正九年秋同社に入社以來今日に至る。(趣味)俳句。繪畫(現住)福島市舟揚町一六。
小池義雄 株式會社正路喜社會計課長。東京市。(明三四、七、二四)生。(大三八)入社(趣味)運動、讀書(思想)社會問題に關するもの。(現住)芝區愛宕町二丁目四番地。
小出義男 名古屋新聞社編輯局長(大一一三、二)入社。名古屋(明三二、八)生。中等教育修了。(新聞歴)名古屋通信社(現住)名古屋市中區東山町一の九七。

小早川彦一 東京朝日庶務部長。(現住)府下田端六〇八
小林八郎(白雨) 東北毎日新聞社石川支局長。福島縣東白川郡高城村伊香。(明三〇、一、八)生。東北學院出身。小學校教員奉職五ヶ年後石川町に於て憲政派機關誌石陽新報社長

と入り其後石陽新報並に東北毎日新聞社合併の結果現職にあり(趣味)新派の畫並に自動車運轉(現住)福島縣石川町。
小林庸平(松山莊主人) 大阪朝日日新聞社記者通信部員。(原籍地)埼玉縣北葛飾郡栗橋町。(明一六、六、一一)生。早稻田中學校、早稻田大學、第二高等學校を経て京都文科大學に學ぶ。(大五、一一)大阪朝日日新聞社入社、通信部勤務、同三月社員、爾來、通信部にありて編輯に従事して現在に及ぶ。(趣味)新聞の編輯、草木研究、音樂。(現住)兵庫縣西宮市濱町九〇。
小林竹次郎(柏葉) 中越毎日新聞社長兼主幹。新潟市。(明二一、二、一五)生。東北日報記者、越後新聞記者、新潟毎日記者等記者生活二十年。(現住)新潟縣三條町八幡小路。
小林武彦 大日本麥酒株式會社庶務課長。千葉縣上總國一宮町(明三、一〇、五)生。中央大學法政科卒。學校卒業後法學士朝倉法律事務所の監督を託され(明三四)札幌ビール株式會社に入り會社が現在の大日本麥酒株式會社となるや引續き勤務水學

にて在職二十五年其間東洋硝子株式會社の監査役となり會社解散迄就職。(趣味)將棋、讀書、俳諧。(現住)麻布區霞町二十二丁目。長野縣長野市櫻枝町三五番地。東京中學(新聞歴)嘗て長野日々あり後實業界に入り(大、一、四、一)現社。(趣味)園芸、讀書。(現住)本郷區駒込林町二五。

小林政子 都新聞社。第二部(相談部)東京日本橋區通四丁目四番地。(明二五、一一、一)生。東京府立第三高等女學校本科及び補習科卒業。日本女子大學保健傳習所へも學びし事ありしが病氣の爲中止。(現住)大久保百人町二四六。

小林源太郎(克堂) 播摩國民新聞社長(大九、一〇、八)入社。姫路市(明九、一一、二)生。母妻姉甥。(新聞歴)姫路日報。姫路新聞。神戸新聞。大阪朝日。(思想)基督教主義。(趣味)職業即趣味田園趣味。(現住)姫路市龍野町五丁目六。

小林五郎 中央新聞社社會部記者。(明三一、四、六)京都市に生る。早稻田大學政科卒。

小林哲太郎(休養冠) (四

四歳)日高民報社長。明三六、函館中學卒。明三九、東亞國文學院卒。(第三期生。(新聞歴)大七、日高新聞社經營大正一一九月、日高民報と改題同社經營(現住)北海道日高國浦河町。

小林橋川(四四歳) 名古屋新聞社編輯局長主筆(新聞歴)近江新聞主筆四十年勤務。繼いて名古屋新聞に入りて今日に至る(現住)名古屋市中區裏筒井町。

小林廣介 中央新聞社社會部編輯。栃木縣下野郡野木村野治。(明三八、一一、二六)生。明大法科卒。(現住)真鴨庚申塚二二八。

小林彦太郎(涼波) 山梨日日主筆(大八、四、八)入社。甲府市(明一一、八)生。家族六人。獨學。(新聞歴)山梨民報。山梨毎日編輯長。(趣味)狩獵(現住)甲府市廿八町三三。

小林秀雄 東京毎日新聞、社會部外交部長。兵庫縣丹波郡新宮。(明二八、三)生。京府中學明大中途退學(新聞歴)大阪毎日新聞大正日日新聞大演電報通信東京毎日新聞。(趣味)喜劇演花節。(現住)東京市外區葛城下一六五三。

小橋亮作(凌光) 名古屋新聞

開政治部市政擔當(大一一、二、一)入社。能登中島(明二七、一一)生。家族兩親と妻。岩倉鐵道學校修了、新嘉坡フランス、コンマニヤル、スクール夜學部。(新聞歴)南洋新聞社會部、福井毎日政治經濟部長、福井日報政治部長、大阪毎日金澤通信部、北國新聞。(思想)人道主義。(趣味)文藝と新聞に興味を持つ外何の趣味なし。(現住)名古屋市中區白川町三、七。

小西作太郎 大阪朝日印刷部長。(現住)兵庫縣武庫郡今津町古今洋一〇六二。

小西英夫(龍耳樓) (三三歳) 德島毎日新聞社政治經濟部編輯兼學藝部擔任。(新聞歴)大一一〇六、德島毎日入社。遊藝外交、大一一、二、特別大演習從軍。(著書)歌集、瑠璃草。(主筆)祖國中心主義。(趣味)短歌。讀書旅行。(現住)德島市常三島町熊の丁四三。

小堀英一 中外商業新報廣告整理課。栃木縣。(明二二、八、八)生。大一一、三、入社。(現住)東京府下瀬ノ川町中里二二三。

小鍛冶金太(守玄) 新潟毎日主筆(大五入社)。新潟縣(明

九)生。妻と一男あり。明治法律學校卒。(新聞歴)東京人民新聞主筆。中央主筆(著作)北越民政考。北越民權史。(思想)實證主義哲學。(政黨)政友會。(現住)新潟市學校町通二番町。

小金龜次郎(晚潮) ジャパンタイムズ社。庶務主任。京都(明八、六)生。早稻田大學文學科。(明三三、卒)。兵庫縣立龍野中學校、清國北京東文學堂、山西大學堂、山西高等農林學堂等の教職に就き專賣局囑託を経て今日に至る。(趣味)旅行骨董、書畫、植物。(現住)東京市外千駄ヶ谷町八一五。

小谷雅之(陽樓) 帝國通信社經濟部長。(大六、五入社)。新聞協會理事。東京通商株式會社監査役。岡山縣(明二五、五)生。妻二男。高等商業出身。(新聞歴)山陽新報經濟部長。時事評論編輯長。(趣味)薩摩流の舞踏。千家流の茶道。園芸。芝居能。(現住)市外中野町字中野下町四一五三。

小高吉三郎(代四郎) (四〇歳) 東京朝日新聞運動部長。早大及外語西語科に學ぶ。(新聞歴)舊東京日日新聞社會部に入り解散後横濱貿易社會部長と

なり辭して朝日に入る。數年間横濱通信局長たり。(現住)四谷區花園町六四。

小柳博(二八歳) 下野新聞學藝部長。大五、縣立宇都宮中學卒。一〇、早稻田大學政經科卒。(現住)宇都宮市二條町。

小松國孝(見龍) 東京毎日新聞總編輯局長。福島縣石城郡小名濱町。(明二六、七)生。本籍地小學校卒業後同地石上義塾に四年間通學。大五、五、三、まよ新聞編輯支局に入局大八、三、より田浦町に於て諸新聞の賣捌に従事目下横須賀市、逗子町、鎌倉町、金澤等に支店あり。(趣味)乘馬。(現住)神奈川縣鎌倉町大町一〇五二。

小松徹三 中央新聞社社會部。埼玉縣児玉郡共和村今井(明二二、一)生。群馬縣立藤岡中學校を出て早稻田大學に學ぶ。日刊通信及雜誌社等を經營、著書に明治流血史談、創作「燃え出づる魂。俳優情話等あり。(趣味)風俗研究と芝居。(現住)市外大森馬込北久保五八八。

小坂圓治(三九歳) 京都市出新聞社會部長。(新聞歴)京城日報、岡山新聞、山陰新聞(現住)京都市上京區鹿ヶ谷御所殿

町一八。
小坂新夫 東日社會部(大一一、二入社)。熊本市(明二六)生。(新聞歴)釜山日報、朝鮮新聞、報知新聞。(現住)市外目黒三田二二〇。

小崎憲藏(旺朗) 元山毎日新聞社、經濟記者。熊本縣。日新聞社、經濟記者。熊本縣。(明二〇、九)生。學歴なし。支那語を學べり。在哈爾濱北滿州社同哈爾濱新聞社、朝鮮新聞哈爾濱特派員、在滿洲極東日報、滿洲日報軍事記者(以上八年)及び現在。(趣味)旅行、擊劍、柔道其他。(現住)元山府泉町四丁目九。

小木曾修一(旭見) 岐阜日日編輯主任(大八、八)入社。明四二、以來月刊教育新聞編輯。岐阜市(明一四、一)生。母妻次男三女。(趣味)文藝。(現住)岐阜市外細柳。

小湊邦保(二三歳) いばらき新聞株式會社。速記者。茨城縣教育會學教員養成所卒業茨城縣師範學校に學び次右社速記部長宮本儀三郎氏に就いて速記術を研究す。(新聞歴)大二、六、一一、右の社に入り目下在勤中。(現住)水戸市上市新屋敷櫻小路横山北裁方。

小島良三(青楓) 中外商業新報社廣告部主事。千葉縣葛飾郡行徳町(明一九、一)生。自大七、一〇、至大一一、二、萬朝報廣告部大正二、二、中外商業新報社に入社廣告部に勤務現在に至る。(趣味)俳句。(現住)千葉縣行徳町。

小島清友(草光) 滿洲日々新聞東京支社長兼大阪支社長。廣島市松川町(明二五、八)生。(趣味)旅行と讀書。(現住)東京市外荏原郡碑文谷一八〇二。

小森源四郎 株式會社正路喜社外交員。福岡縣八幡市立町三丁目(明二六、四、二八)生。(現住)東京市外下目黒五五七。

小森秀次郎(華城) (三八歳) 愛知新聞社營業部長兼販賣課長。三重縣立富田中學校岩倉鐵道學校、(新聞歴)やまと新聞大阪支局、大阪實業界(週刊)發行經營、決算時報發行(月刊)經營、(著書)文と劇(主筆)圓滿主義(趣味)酒樂に關するものは一切好む。(現住)名古屋市中區老松町六丁目。

小森誠一(兒森青與血) (二六歳) 報知新聞社調査學藝部。福岡八女中學に學び熊本鎮四中

學に轉じて卒業。(新聞歴)大一一、二、五入社。(趣味)繪に旅行。(現住)市外大久保東大久保一三。

古藤政一(著葉) 山陰日日理事政經部長(大七、五入社)。鳥取縣(明二五)生。家族二人。東京正則豫備校出。(新聞歴)松陽新聞山陰日日鳥取支社長。一〇、本社。(趣味)讀書。(現住)鳥取縣孝子。

古賀増太(茂生) 豐州社編輯。日田社在記者。大分縣日田郡日田大字竹田。(明二六、四二五)生。日田郡立工業學校卒。大二、日田貯金株式會社入社。同八日本官製工業株式會社入社。同一〇、豐州新聞社日田通信員に採用され今日に至る。(趣味)俳句、繪畫。(現住)日田町大字北豆田。

古賀壽一 大分新聞記者。福岡縣(明三四、一、二)生。中央大學商科第四部卒。大一一三五、二四、大分新聞社編輯部に入社現在に至る。(現住)大分市柳町富士屋内。

古賀進 萬朝報、政治部編輯。佐賀縣(明二六、一一)生。九州日報、東京日日新聞、萬朝報記者等、尙大原社會問題研究

所員を編成されたことによりま
した。(趣味)社会統計及記録の
彙集。(現住)麻布区斧町二八。

古閑友行

大阪中外商業新
報社編輯。早稻田大學政治經
濟科卒。國民新聞編輯部、日刊
大阪商工新聞社、中外商業新報
社。(趣味)讀書、撞球、尺八、
園藝。(現住)大阪市北區北扇町
五七(大阪市營住宅)

兒玉

農(田子生) 郡新聞
社記者。茨城縣行方郡行方村。
(明二八、一〇、三)生。早稻田大
學政、文、講義録等を讀んだ丈
けてあります。中學五年程度英
語。(趣味)別に無けれども強い
て云へば女々しう。(現住)寺
島町二三五。

兒玉精一郎

シャパン、
タイムズ社販賣部主任。東京、
明一八、三、一八)生。東京帝國
大學卒。(趣味)運動。(現住)牛
込區原町二丁目三八。

後藤武男

時事新報社。東
京、明二六、七、一六)生。慶應義
塾大學部政治科卒業。(大五)米
國留學(大九)米國特派員、ロン
ドン特派員、文部大臣秘書官、
現任。(趣味)園藝、旅行。(現
住)府下代々木二九三。

後藤和一郎

(兼山) 豊州

新報社豊州支局長。大分縣遠見
郡龜川町。元治元、七、一六)生。
漢學修小學校教員。大分縣青
延取給所支那人、大分縣青延
業組合取締役事務監督、廣明禁
鎖主湯の花製造販賣組合主任。
(趣味)詩歌を好み園藝及び生花
茶道を嗜む。(現住)大分縣遠見
郡龜川町。

後藤寅

(杜人) (二四歳)
仙北新報社、社会部長。秋田工
業學校卒業。(趣味)和歌、詩、
劇、運動。(現住)秋田縣仙北
郡大曲町。

後藤喜間太

(鶴水) (四二
歳) 前大分新聞社編輯局長兼主
筆。中等學校卒。(新聞歴)報知
新聞社、大分新聞社。(著書)工
業帝國「工場めぐり」(主筆)最
室中心主義。(趣味)俳句、魚釣
(現住)大分市中島浦。

後藤秀人

(秀峰) 豊州新報
社。政治部長。大分縣(明一九、
一〇)生。中正日報、大分新聞
記者を経て大九、七より豊州新
報記者となる。(趣味)冒險(現
住)大分市中島町。

後藤茂彌太

(摘泉) 豊州
新報社記者。大分縣田原郡。明
三二、三)生。私立中學三年修業
縣立農業校卒業。(新聞歴)大一二

大分縣豊州新報社入社。豊後高
田通信部版記者。(趣味)讀書
寫真。(主義)皇室中心。圓滿。
(現住)大分縣四國東郡高田町。

後藤祐太郎

(是山) 九州
日本文藝部長。明四二、六)入社。
大分縣下に生る。(著作)肥後の
勤王。肥後に於ける文人畫。肥
後國誌(趣味)登山、將棋。(現
住)熊本北千反畑町。

五來欣造

(素川) 讀賣新聞
社友。早稻田大學教授。茨城縣
(明八、六)生。妻一男一女。東
京帝國大學佛法卒。佛蘭西留學
(新聞歴)明三五、讀賣入社。大
三讀賣主筆。四、退社。七、雜
誌大觀創設主幹。(著作)政治哲
學社會革命の將來(思想)デモク
ラシー。社會進歩主義。(趣味)
哲學。(現住)千葉縣船橋町。

河野恒吉

(岳洋) 大阪東京
兩朝日新聞社社員、軍事評論。
明七、三)山口縣生。妻と四男二
女。陸軍士官學校、同大學卒。(思
想)皇室中心、國粹擁護。徳智
體三育向上。軍備縮小文化向上
國力培養内容充實。國際協調共
存共榮。(現住)東京市外中野町
横ノ山三七四。

河野立隆

(藍川) 東京朝日
新聞編輯局長庶務課長。愛知縣北

宇和郡吉田(五五歳)東山嶽卒。
其他帝國大學にて醫學(新聞歴)
(明二六)東京朝日新聞社社会部
に入り爾來外交、内勤、三十一
年勤続。(主義)樂天主義。(趣
味)登山玩水。(現住)東京市外
世田ヶ谷池尻三九九。

河野源吉

長崎日日新聞株
式會社營業部長。(六一歳)東京
大學員備門。(政黨)政友會。
(現住)長崎市勝山町二六。

河野三通士

大阪毎日外
國通信部長。明四四、四)入社。
大分縣(明一八、一一)生。家族妻
と二女。東京外語卒業。(現住)
兵庫縣川邊郡西村崎之庄。

郡山幸男

(經堂) 印刷雜誌
社長。鹿児島縣(明一八)生。妻
一男二女あり兩弟は新聞記者。
(新聞歴)讀賣。自由通信(著作)
記者生立の記。プロレタリア同
想錄。歐洲政界奇談等の譯。(目
志)前社會主義。(現住)牛込區
横寺町五〇。

越野宗太郎

(秋峯) 株式
會社帝國通信社、常務取締役。
(明三、五、五)生。明二六、明治
大學卒業、後直ちに現社へ。外交
記者、政治部擔任。明三七、地
方通信部長。大八、編輯長(趣
味)仕事をすること。(現住)府下

近藤健吉

(虎堂) (明六)生
豊橋新報社主筆。師範教育を受
け法律學研究文官試験合格。(新
聞歴)明四〇、豊陽新報主筆と
なり大一一〇、二、豊橋新報主筆
となり主幹を兼ね(著書)大和心
工場の乘、兒童日記、國之礎等
を著述刊行す。(主幹)不偏不黨
(趣味)歌詩。書畫。(現住)豊橋
市百人町。

近藤復己兒

福山大日報
社主。(大四、一二)入社。廣島縣
(明元、七)生。家族八人。寺子屋
出身。(新聞歴)明三九、大四五
て福山新聞經營。(趣味)小島、
盆栽。(政黨)政友。(現住)福山
市延廣町二五八ノ三。

近藤壽一郎

大阪時事新
報、富山縣、岡山縣(明二六
三)生。母妻。(新聞歴)山陽新報
名古屋毎日新聞。(趣味)園藝。
(現住)大阪市外豊津村垂水五九
五〇。

紺野四郎

(三七歳) 時事新
報編輯主筆。(新聞歴)東京日日
やまと。東京朝日新聞社(趣味)
新聞を讀む事。(現住)府下中野
町五七五。

今野

東京毎日新聞社
社会部、宮城縣仙臺市鐵砲町二

〇九、日本大學社會學部在學中。
(新聞歴)報知新聞社々會部見習中
都合に依り退社現社に勤務。(趣
味)園藝、將棋、寫真等。(現
住)芝區櫻田善衛門町四、

元

エル・ス・キート 國際通
信社總務監督。
エドガース・ニユー
トン・ダブリュー、
シャパン、タイムズ社。フアイ
イスタン、レビユー、米國、
千九百年生、市俄古大學、華盛
頓大學。(趣味)自動車操縦、フ
ナオ。(現住)青山南町六丁目一
二五。

江戸文

いばらき新聞社
營業部長。(大三、八)入社。茨城
縣(明三、四)生。家族六人。早
大商科卒。(現住)水戸市上市南
町。

江野澤恆

シャパンタイム
ズ廣告部。千葉縣木更津、二
三、一〇、三〇)生。米國、ヘ
イシアワイ廣告專門學校。米國
シヤトルゴストインテリセン
サー紙、紐育市エシアナックワ
リードビュロー、紐育市マイド
ウチター石油會社輸出部。(趣

(味)樂萬、釣魚。(現住)埼玉縣
蕨町。

江崎銀衛

國民新聞編輯
賣局主任。(四二歳)新聞歴)報
知新聞から國民(移つて一六年
間静岡縣下で國民二萬其他三萬
の新聞を扱ふ。(現住)静岡市吳
町。

衛藤勇

(祖岳) 朝鮮民報
社支配人。(明二二、三)生。自
修國學。(新聞歴)明四四、現社
に入り各部に勤務(趣味)體育運
動及講演(現住)朝鮮大邱府東雲
町二九〇。

衛藤徳馬

(岸柳) 大分新聞
社營業部長。大分縣大野郡上緒
方村冬原。(明三五、二、一八)
生。(現住)大分市新川。

惠美孝三

讀賣論說記者。
(大九)再入社。大日本新聞學會
主。京都府生。妻と一、長男哲
男。獨逸ベルリン大學修業。(新
聞歴)二六、中央、富山日報。帝
國新聞。やまと。毎夕。(著作)
國家と宗教。日本文藝辭典。世
界の變局その他。(現住)下谷區
眞島町一。

衣斐龍雄

(結聲) 三州タイ
ムス社長兼主筆(大一〇、九)創
刊。四尾記者團幹事。東京本郷
(明二九、一二)生。母妻弟妹

各一。法政大學中途。(新聞歴)
實業之愛知社會部長。尾三實業
新報主筆。(趣味)讀書と執筆。
(現住)愛知縣四尾新和泉。

榎米吉

(素綱) 青島新報
株式會社取締役、主筆編輯長。
和歌山縣(明一六、一)生。日本
中學を経て中央大學經濟科に學
ぶ。中外通信經濟部主任、青島
新報編輯長。大一一〇、六、青島
に於ける全部の新聞雜誌の合同
成り新たに青島新報創刊せらる
に當り取締役として入社編輯
部を主宰す。(趣味)讀書。(現
住)支那青島魚山路六號。

蝦原幸作

東京朝日新聞社
水戸通信部主任。東京市芝區明
舟町一九(明二四、一六)生。大
倉商業學校卒業。横濱毎朝新
聞、國民新聞横濱支局誌を経て
現社(大三八、八)入社、横濱支
局より一〇、一二、水戸(轉任
後備歩兵上等兵(趣味)薄く廣し
(現住)水戸市上市天王町九〇六

籠

東太報知新聞社記者
(三二歳)寺小屋出身。(新聞
歴)國民から報知に。(著書)震災
見聞記其の他いろいろある。主
義)資本主義の下廻り(趣味)
酒。(現住)市外池袋一〇八一。

遠藤

(秋外) 東京日日

新聞社。山形通信部主任。福島縣安達郡旭村。(明一九、五)生。中央大學法科。福島民報記者。福島民友記者。福島日日新聞主幹。三重新聞營業部長。茨城毎日記者。東京日日新聞記者。同字部宮通信部主任。同内閣通信部員。大一一、九、一、辯護士登録。(趣味)讀書、音樂、劇その他(現住)山形市香澄町木ノ實小路一七五。

遠藤麟太郎(援外模)大阪朝日經濟部長。(新聞歴)同社上海特派員。(現住)武庫郡精道村打出濱。

遠藤末吉 中央新聞廣告部長。(現住)下谷區上根岸八二。

遠藤重美 國民新聞編輯局地方部編輯。(三三歲)中學、以後講義録購讀。(新聞歴)山陰日日新聞。松陵新報。大阪朝日新聞。(趣味)新聞製作。(現住)東京市外濠橋町柏木五五四。

手塚強之介 都新聞社、宇都宮支局。宇都宮市寺町。(明二九、一〇、一)生。順天卒法政中退。時事、東朝(長野)横濱(趣味)狩獵、現住)山形市香澄町木ノ實小路一七五。

て

濱)を経て震災後現社に入る、嘗つて二年許り中學の嚮導教諭をなす。(趣味)運動、特に野球(現住)宇都宮市四條町。

天川恭太郎(七夕)時事新報甲府支局首席助手社會部及産業關係(大一一、〇、四入社)山梨縣(明二九、三)生。妻男一女二。中學中途工手學校に移る(新聞歴)甲斐新聞。國民甲府支局詰として三年間勤務(趣味)狩獵(現住)甲府市布袋町四七。

手島益雄 内外通信社主筆。廣島縣廣島市。日本大學。新公論社記者。愛國婦人記者。日本電報通信社名古屋支局長。(趣味)著述と俳句。(現住)本郷區彌生町三。

寺田稔彦(瑛) 報知新聞社調査部。高知市。(明二七、三、二四)生。大七、早大政治經濟科卒。大七、九、新愛知東京支局に入り、大八、六、報知新聞に入り社會部、横濱支局、通信部企画部を経て一三、八、調査部に納まる。(趣味)運動と芝居。(現住)東京市外馬込村谷中一〇六一。

寺本清太郎(久華) 靜岡民友新聞社經濟記者。三重縣桑名郡桑名町。小學校上等二級。

安倍季雄 時友社主任。(新聞歴)明四〇、時事新報社に入社引續現社。(著書)「愛のふるさと」「林檎の花びら」「パットの響」「母のおもかげ」「光榮の勝利」「ホームラン」吉野幹男「王城の怪火」等。(主義)獨立自衛主義。(趣味)野球、講演。(現住)小石川區若荷谷町一六。

安達實之助(任天) 大阪朝日新聞佐世保通信部主任。(現住)佐世保市泉町八六。

安達覺 帝國通信社監査役(兼任)

安藤和風(時雨霽) 秋田魁新報常務取締役兼主筆。(六〇歲)小學も中學も専門も満足に卒業せず學歴殆どなし。(新聞歴)大久保鐵作主幹大毅主筆の秋田日報記者たりしこと、及秋田魁新報在勤二〇餘年(著書)俳句に關するやくざ著書二三種あれども固より云ふに足らず。(主義)世界主義。人類兼生物愛主義(趣味)旅行。讀書。思索。(現住)秋田市山三枚町。

安藤金平 株式會社安藤井筒堂常務取締役。(三八歲)早稲

田大學政治經濟科卒。(主義)人類愛の主義。(趣味)其他主義を遂行すること。(現住)日本橋區堀込町二丁目五。

安藤重吉 都新聞社記者。千葉縣那古。(明四、一〇、一〇)生。東京毎日新聞記者。(趣味)なんでも好き。(現住)府下淀橋町柏木一四四。

安藤正純(鐵腸) 現勤なし。東京(明九、九)生。東洋大學卒。早稲田大學政治科修了。外國語學校修了明教新誌(教界唯一の新聞)主筆。加賀金澤政教新聞主筆。日本新聞記者、同社より日露役に從軍記者たり、大阪朝日東京朝日を通じて十九年間、朝日新聞株式會社取締役、東京朝日編輯局長たり。現に衆議院議員たり。歐米各國に周遊す。(現住)淺草區松葉町三九。

安中昌信(羽陽) 天業民報社編輯局長。山形縣。(明三〇、一〇、三一)生。國學院大學道義科卒。本年四月入社。(趣味)讀書と旅行。(現住)小石川區大塚窪町一。

安齋與重郎(幸村) 中外商業新報社經營福島新聞東京支局主任。福島縣伊達郡伏黒村。(明一三、一二、一八)生。慶應

義塾中學部並に福島縣立實業學校卒。福島民報記者として七ヶ年。福島日々新聞社編輯長として三ヶ年、後營業部長に轉じ、大一一〇以來福島新聞東京支局として今日に及ぶ。(趣味)讀書。盆栽。(現住)東京市外下濠谷代官山八一七。

阿部暢太郎(麗瀧) 福岡日日新聞社編輯長。(四二歲)嘗て明治大學に學ぶ。(新聞歴)明治四十一年五月福岡日日新聞に入り今日に至る。(主義)自由民主主義(現住)福岡市箕子町海岸。

阿部眞之助 大阪毎日新聞社、社會部長。群馬縣(明一七、三)生。群馬縣立富田中學、第二高等學校、東京帝國大學文科大學社會學。滿州日日新聞社に三年間勤務。明四四、東京日日新聞社へ入社政黨方面擔任。名古屋、京都等の支局長を経て今日に至る。(趣味)大抵のものに興味あれど何れも中途半端。(現住)大阪市中ノ島二丁目一三。

阿部元吉 展拓社、雜誌産婆界主幹。福島縣(明二六)生。慶應商業、明治大學政治經濟科東京日日販賣部事業部に十年間

勤務。十三年出版代辦業展拓社を建設す。(趣味)新聞雜誌の研究。(現住)東京市外尾久町上尾久二四二一。

相原熊太郎(羽陵、桐苑) 都新聞社第四部長。愛媛縣温泉郡坂本村。(明一六、四)生。松山中等學校、第六高等學校、東京帝大文科大學。日本通信、東京毎日新聞を経て四年より都新聞にあり。(趣味)雜草の研究、郷土文化の研究。(現住)東京府下井荻村上荻窪三四三。

相川善太郎(愛蕪) 報知新聞司法記者。(二八歲)法政大學經濟部。大一一二年度卒。(新聞歴)大一一〇、一一〇、二八、やまと新聞入社。大一一二、二八、やまと報知社へ轉勤。(主義)平和主義(趣味)旅行、音樂。(現住)府下中野町新井一〇三。

相澤藤之助 豊州新報社營業部。大野郡今市村。(明一二、二四)生。大八、八、二〇、現社。大分市田室町。

相澤 照 國民新聞記者。(四六歲)立教學院(新聞歴)國民新聞記者。(現住)小石川區宮下町五八。

會田 忠(文彬) 濱松新聞社會部長(大八、七八)社。靜岡

有田 莫 豊州新報大分市販賣部部長。(明二七、七、四)生。大八、一〇、六、より販賣所に入り今日に及ぶ。(現住)大分市荷揚町。

有田富太郎 豊州新報大分市販賣所主任。大分郡明治村

有田富太郎 豊州新報大分市販賣所主任。大分郡明治村

有田 莫 豊州新報大分市販賣部部長。(明二七、七、四)生。大八、一〇、六、より販賣所に入り今日に及ぶ。(現住)大分市荷揚町。

會田 忠(文彬) 濱松新聞社會部長(大八、七八)社。靜岡

相澤 照 國民新聞記者。(四六歲)立教學院(新聞歴)國民新聞記者。(現住)小石川區宮下町五八。

相澤藤之助 豊州新報社營業部。大野郡今市村。(明一二、二四)生。大八、八、二〇、現社。大分市田室町。

相川善太郎(愛蕪) 報知新聞司法記者。(二八歲)法政大學經濟部。大一一二年度卒。(新聞歴)大一一〇、一一〇、二八、やまと新聞入社。大一一二、二八、やまと報知社へ轉勤。(主義)平和主義(趣味)旅行、音樂。(現住)府下中野町新井一〇三。

相原熊太郎(羽陵、桐苑) 都新聞社第四部長。愛媛縣温泉郡坂本村。(明一六、四)生。松山中等學校、第六高等學校、東京帝大文科大學。日本通信、東京毎日新聞を経て四年より都新聞にあり。(趣味)雜草の研究、郷土文化の研究。(現住)東京府下井荻村上荻窪三四三。

安齋與重郎(幸村) 中外商業新報社經營福島新聞東京支局主任。福島縣伊達郡伏黒村。(明一三、一二、一八)生。慶應

明三、六、九)生。明四五、營業部長として入社大八、大分市販賣所主任となる。(現住)大分市荷揚町。

有田温二

(悠々)又は(かもめ)大阪朝日新聞社廣島支局長。(五五歳)。早稲田大學政治經濟科卒業。現に早稲田大學評議員たり(前代議士にして勳四等)(新聞歴)岡山、山陽新報、廣島備日々新聞等の記者たりしが其後大阪朝日新聞社に入り今は廣島支局長。(著書)「藤山備水」あり。(政黨)憲政會の代議士たりしも政黨の革新を呼號し來る(趣味)謡曲、畫、(現住)廣島市大手町四丁目四四。

有馬秀雄

(曉曉)今は用ひず。報知新聞社通信部。水戸の産(明二三、一)生。(著書)新聞を二三歩いただけ。(趣味)「女」景山女談評釋』『新聞記者の裏おもて』等。(趣味)寫眞旅行。(現住)東京市神田區仲猿樂町一七。

有森新吉

山陽新報社長(大一一〇、三)生。岡山市(萬延元年正月)生。東大專科經濟科卒業。明一七、獨逸留學ストラスブルグ大學卒。(新聞歴)明三三、より暫く山陽新報主筆たりし事あり。

り。(政黨)庚申俱樂部所屬代議士。

青野健夫

大阪毎日新聞社英文毎日經濟記者。神戸(明三二、二、三)生。神戸商業卒。大七、三、三井物産入社、神戸、カルフタ、東京本店轉勤。大一一、三退社。大阪毎日入社、今日に到る。(趣味)テニス、散步。(現住)神戸市上筒井通五丁目十一番屋敷。

青柳隆治

東京日日社會部編輯(大八、一)入社。長野縣(明二三、一)生。妻と一女。早大英文科卒業。(新聞歴)久しく雜誌記者。(思想)主義に因はれるは緩ひ。(趣味)讀書と植木いぢり。(政黨)政黨は大嫌ひ。(現住)東京市外巢鴨町上駒込三九九。

青柳安茂

時事新報社會部編輯(大六、五)入社。山梨縣(明三三、九、一六)生。明大。中央、讀賣等。(趣味)文學演藝。(現住)市外上落合六四八。

青山俊文

中央新聞社會部編輯(明三三、九、一六)生。明大。中央、讀賣等。(趣味)文學演藝。(現住)市外上落合六四八。

青山與平

都新聞社會部編輯。北海道旭川市三條通七丁目右十

號(明三五、六九)生。早稻田大學商學部卒。今春卒業後直ちに都新聞に入社。未だ新米なり。(趣味)ホート、野球を観ること。(現住)府下戸塚五七二橋本勘次郎方。

青山松藏

(荷汀)美濃大正新聞編輯局長。(明二一、一、竹夕鼻町)生。何の學歴もなし。明三九、以來美濃大正新聞社に勤続今日に至る。その間岐阜縣囃子講師、地分教化團體役員に擧げらる。(趣味)琵琶、相撲。(現住)岐阜縣大垣市田町。

青木伊平

三重新聞主筆。(明二四、元日)生。妻あり。(新聞歴)名古屋新聞。石川毎日。大阪新報。(現住)津市殿町。

青木芳太郎

イムス廣告部。横濱市。(明三一、二、二)生。慶應大學理財科一年中途退學。歩兵四十九聯隊入隊。石炭業に従事し後生糸仲業に入る。(趣味)運動、及タマツキ。(現住)府下荏原郡平塚村小山一七七。

青木九十六

(向陽)岐阜日日新聞社營業部長。(五三歳)本業部益智高等小學校卒業其他學歴なし明治大學校外生修了位なり。(新聞歴)明二四、一二、八

社廣告事務擔任大ニ、營業部長兼廣告部長に就職。(主義)不盲實行政治に入らず。(趣味)謡曲(現住)岐阜市秋津町。

青木純一

東京朝日新聞高田通信部主任。福岡市外千代町(明二八、六、一〇)生。高等商業學校三年まで。福岡毎日主筆兩館日、高田新聞、新潟毎日等を經て東京朝日に入社。著述「ア」の傳説」外五種。(趣味)諸國の土人形を集むること。(現住)高田市兩替町。

栗屋關一

國際通信社新聞部主任。山口縣。(元治元年、一〇、一)生。(現住)芝區白金三光町二七三。

赤井安正

近江實業新報社長。京都市。(明二七、九、二)生。(現住)彦根町土橋。

赤井松太郎

都新聞計畫部長。(現住)府下戸塚町下戸塚三八四。

赤座權介

大阪新報經理局長兼外交部次長。岡山縣(明一六、九)生。夫婦子供三。早稲田大學英文科修業。日本大學英法科卒。(新聞歴)東京國民新聞(現住)京都市外伏見見樂。

明石徳一郎

時事編輯局長。(現住)麹町區三番町二

東 俊雄

(天紅)九州日日新聞社政治部長。(四一歳)東京帝國大學政治學科卒。(新聞歴)大六、九州日日新聞社入社今日に至る。(著書)記載すべきものなし。(主義)國家主義。(趣味)俳句。(現住)熊本市魚屋町三丁目一三。

東 孝太郎

(北龍)中外商業新報社運動課記者。北海道函館市相生町四六番地(明三八、八)生。日本大學商科(趣味)スキ。 (現住)東京市京橋區八丁堀仲町一番地。

東 庄吉

折込廣告社主。長野縣上水内郡豊野町(明二六、四)生。小學卒業獨學。郷里にて信濃毎日新聞の販賣及通信をなし大六、一、出京。新聞販賣組合東京事務所及東京毎日新聞社販賣部に勤務大七、七、三〇、京橋區錦屋町に折込廣告社を創立。震災後本郷に營業所を移す。(趣味)子供に玩具を與へて喜ぶ事、仕事。(現住)東京市本郷區向岡彌生町三番地。

東 清次郎

大分新聞主筆兼編輯局長。出生鹿兒島縣、原籍茨城縣。(明一六、三)生。(現住)大分市春日町七七八。

新井鶴雄

萬朝報社會部。

新井甲子男

東京日日新聞通信員(大九、一)入社。栃木縣(明六、八)生。子女五名。(新聞歴)國民新聞通信員たる事九年。(思想)皇室中心主義。(趣味)音楽と盆舞。(現住)栃木縣栃木町西後町。

荒尾慎一郎

(葉舟)五一歳)武相新報、相模毎日新聞兩社長。日本大學卒。(新聞歴)北民、北辰日報、北海、越後日報、長野日日、朝野新聞、二六新報、貿易新報、記者たり。(著書)葉舟文庫、横須賀大觀。(主義)日進主義不偏不黨。(趣味)旅行、讀書。(現住)横須賀市若松町一

荒卷豊一郎

朝鮮新聞社政治部。大分縣大分市(明二四、二)生。大分縣立大分中學校出身。大三、以來郷里大分にて大分實業新聞自治協會機關紙自治週報等を經て「新大分」を創刊し後豊州新報社に入社、大一一三年の初夏渡鮮して大邱朝鮮民報社に入り、朝鮮新聞に轉ず。(趣味)讀書、野外散策。(現住)京

城府岡崎町二五

時事新報社々々事業部主事。富山市。三十歳。中央及専修大學に在學せしことあり。(學問歴)富山新報、内外通信社、時事新報社(趣味)演説。(現住)小石川區大塚坂下町一五四。

荒木武行

中外商業新報社編輯局長(明二九、八、五)生。福島民友その他田舎小新聞の通信員、探訪、編輯を數年相勤め大九、一、より上京、東日、時事より「中外」現在に至る。記者生活殆ど十年。(趣味)芝居、雜書亂讀、美食。(現住)東京府世田ヶ谷町。

荒木九郎造

豊州新報社營業部外交部長。大分縣大分郡別保村。(明一〇、一)生。大分縣立大分郡別保村。

荒木貞雄

(布泉)豊州新報社(大分市)主筆、編輯局長。大分縣杵築町。(明一一、一〇)生。(學歴)大阪泰西學館卒業、京都同志社在學の後東京にて苦學、政治、經濟、文學等の諸學科を修む。(經歷)明治三十四年以來中央、大阪毎日、東京朝日、時事、中外商業の各社に歴勤して

天野四郎

株式會社大阪朝日新聞社廣告部、東京支部長。(明二五、一一、二)生。妻一男一女。京都帝國大學經濟學科卒業後三製製紙會社。大一一、現社。(趣味)乘馬。ゴルフ。テニス。其他。(現住)府下瀧野川町田端三九。

天野麟作

(岩畔)東亞電報通信社編輯長。(大一一、八、八)生。越後(明二)生。一兒あり(新聞歴)東洋千代田電報各通信朝野通信編輯長。(思想)國家社會主義。(趣味)俳句と旅行。現住)東京市外高田字鶴山一四九〇。

淺井林三郎

(綠菫)全國事業新報社長(大一一〇、四)生。京都。(明二四、四)生。清和中學

立命館大學出身。(新聞歴)京都新聞、關西日日、京都時事支局長。(著作)洛西別考録。(趣味)寫真、琵琶、生花。(現住)京都市上京區東小川上立賣上ル

淺井仁三郎 大阪毎日新聞社印刷部長。大阪府。(明四、八)生。大阪毎日在勤三十五年。他に經歷なし。(現住)大阪市西區江戶堀南通二丁目

淺田源一(耕岩) 株式會社正踏取締役。岡山縣。(明八五)生。明三三、七、正踏取締入社大元、出資社員となり後無限責任社員となる後取締役となる(趣味)旅行、日々の業務。(現住)芝區高輪南三〇番地

淺村成功 東京朝日新聞政治部長。(四〇歳)東京帝國大學政治學科卒。(新聞歴)時事新報社より現社へ。(主義)皇室中心の愛國。(趣味)運動、劇。其他。(現住)東京府下新井宿根岸一四六〇

淺海琴一 豐城新報毎日主筆(大一〇、四入社)。大分縣(明一八、二)生。妻あり。京都帝大法學部中途退學。(新聞歴)二年間越佐新報主筆。(思想)人格的貴族主義(政黨)政友會。(現住)長岡市外四郎丸村一九八七

淺野彌一郎(吳天) 北陸萬朝報主幹。富山縣高岡市。(明一五、一)生。宮城縣立第一中學校。埼玉新報、北陸新聞、高岡新報、石川新聞、北陸タイムス、福井實業新報、福井日々新聞(以上各社會部長)新愛知福井支局長、福井日報主筆。(趣味)高山跋涉。(現住)福井市城町三ノ九

淺野 豊 やまと新聞社會部。茨城縣稻敷郡鳩崎村。(明二八、二)生。取立て、言ふ程の學歴なし強て言へば圖書館出身とて申すべきか。四年前現社に入社現在に及ぶ。(趣味)讀書、旅行。(現住)小石川區音羽町二ノ一四

朝來野義雄 豊州新報社記者。大分縣大分郡野津村。(明二七、三、二)生。私立中學卒。大正十三年三月豊州新報社へ入社。(現住)大分縣大分郡植田村

麻生 豊 報知社漫畫部。(二八歳)畫としての學歴なし。(著書)ノキナトウサン(趣味)なんでも。(現住)府下杉並村高圓寺八反目二一五

秋月左都夫 前京城日報社長。(六八歳)日向高鍋藩校に於て國漢英學を修め明一七、二四、迄白、英、獨に留學す。(新聞歴)大六、讀賣新聞に入つて社長となり同八、巴里講和會議に臨む爲め退社。同一〇年京城日報社長と爲り今日に至る。(現住)京城府竹添町一の二一番地

秋山安三郎 東京朝日整理部員。(四〇歳)(新聞歴)報知七年。(趣味)芝居と女。(現住)大森新井宿四

秋山久太郎 株式會社正踏取締役。東京市深川區永代町。(明三一、六、一)生。私立慶應義塾大學部理財科卒。大一〇、一〇、東京市日關貿易株式會社へ入社同二、九、退社、大一一、四、株式會社正踏取締入社現在に至る。(趣味)音楽、文學。(現住)東京市小石川區大塚窪町二十四番地

秋山白作(自靜) 郡新聞社社會部。靜岡縣志太郡廣幡村。(明三三、三)生。早稻田大學法科卒。大一一、三、郡新聞社會部に入社、遊軍として活動今日に至る。(趣味)スポーツを行ふ、と見ること。政治。(現住)府下戸塚町下戸塚四六一

佐藤貞治(露江) (三四歳)石巻日日新聞社主筆兼編輯長。(新聞歴)十八歳のときから記者生活に這入つたのみ。(著書)二三あり。(主義)國家社會主義。(現住)宮城縣石巻町海門町

佐藤三郎 中外商業理事兼政治部長。(現住)芝區二本横四二ノ二一號

佐藤吉治郎(夜牛) 臺灣新聞社臺北支局長。仙臺市に生る(明二六、四、中學程度。東北新聞、國民新聞(明四二、より大九、一〇)を経て大九、一〇、臺北新聞入社。(趣味)俳句。(現住)臺北市若竹町二、一

佐藤四郎(三九歳) 遼東新報社編輯長。早稻田大學政經科(新聞歴)臺北、臺灣日日。(著書)南國、臺灣殖民發展史、關領印度殖民史論。(主義)議會主義。(現住)大連市外聖德街り區二八

佐藤至善 新愛知新聞社會部長(明四一、二入社)。名古屋(明二〇、二)生。妻と一男一女。(新聞歴)新愛知、岐阜、金澤、東京各支局長。(趣味)日曜の遠足位で餘暇なし。(政黨)政

佐藤健次郎(紫蝶) 福島民報社記者。(明三三、五、二九)生。福島中學校卒業。(趣味)芝

佐藤民治(無我) 株式會社京華社事務取締役。(慶三、一)千葉縣に生る。東京法學院出身(明三三、一、一九、京華社に入り引續き今日に至る。(趣味)草花(現住)麻布區霞町一八

佐藤 登(綠平) 大分新聞記者。大分縣白杵町。(明二七、一、二、六)生。中學校卒。(趣味)一二、六)生。中學校卒。(趣味)演藝。(現住)大分市萬屋町

佐藤新衛 中外商業新報社總務局長。岩手縣。(明一二、二)生。明四〇、中外商業新報社に入社したまふ。(趣味)釣魚。(現住)下釜谷五二三

佐藤順造 日本婦女通信社長兼編輯長(明三七、二)入社。岐阜縣古川町(明五、一〇)生。家族學。第一高等學校、國民英學會。(新聞歴)國益新聞、千葉日報。(著作)大日本婦人雜誌入社交名簿婦人年鑑。(現住)牛込區市ヶ谷田町三の八

佐藤末太郎(海泉) (五一歳) 豊州新報社駐在記者。明三〇、大分縣看守及巡查を奉職し就きて今日に至る。(新聞歴)明四一、三、より駐在記者となり今日に及ぶ。(主義)政友會(現住)大分縣北海部郡佐賀關町

佐藤易之助(無有生) (六〇歳) 遼東新報社東京支局長主任同人社、二松學舎、佛學塾にて

佐藤智慧子 シヤパンタ イムス社幹部室秘書。宮城縣栗原郡高清水町。(明三四、六)生。日本大學文學部社會學科卒。(趣味)讀書、音樂。(現住)牛込區

佐藤勇生 東京日日社會部編輯。大分縣(三一歳)大分郡立工業學校商科。(新聞歴)大分、四、大分新聞入社、大六、同紙姉妹紙中津新聞發刊に際し主任記者として特派、七、六、歸社、大八、報知新聞入社、同年一二大阪支局長、大一一、東京日日新聞入社。(著書)纏りたるものなし。(主義)その時の心持により變る。(趣味)あまり上品な方にあらず。(現住)東京府下田端五三〇

佐藤藤一 東京通信社理事總動部長。伊豆。(明二〇、五)生。立教學院卒。(趣味)自然を愛する事。(現住)市外高圓寺八五四

獨學、日本大學出身。(新聞歴)仁川朝鮮日日新聞記者を振出し東京日日新聞政治部長、大分新聞主幹を経て。(著書)「大分縣人士錄」「別府温泉」「漫畫の別府」其他。(主義)穩健實實。(趣味)洋畫。(現住)大分市新春町

新小川町 佐藤良次(古夢) (五四歳) 酒田新聞社主筆。早稻田大學政治科入學(明四一)校友。(新聞歴)明三四、以來酒田新聞主筆たり其他地方雜誌數種主筆を兼ね。(著書)數種あるも一地方に限る物故登載すべき價値なし。(主義)革新俱樂部。(趣味)文學、美術。(現住)山形縣酒田町下内匠町四六

佐藤勝三郎 神戸又新報編輯局長(明四二、入社)。長野縣生。家族九人。東京專門學校(思想)皇室中心主義(現住)神戸市平野馬場町三三七

佐藤克己 二六新報社編輯局長。京華社事務取締役。(慶三、一)千葉縣に生る。東京法學院出身(明三三、一、一九、京華社に入り引續き今日に至る。(趣味)草花(現住)麻布區霞町一八

居、活動寫眞、易學。(現住)福島市新町八四

友會。(現住)名古屋市四區南藤町九

佐藤新衛 中外商業新報社總務局長。岩手縣。(明一二、二)生。明四〇、中外商業新報社に入社したまふ。(趣味)釣魚。(現住)下釜谷五二三

佐藤順造 日本婦女通信社長兼編輯長(明三七、二)入社。岐阜縣古川町(明五、一〇)生。家族學。第一高等學校、國民英學會。(新聞歴)國益新聞、千葉日報。(著作)大日本婦人雜誌入社交名簿婦人年鑑。(現住)牛込區市ヶ谷田町三の八

佐藤末太郎(海泉) (五一歳) 豊州新報社駐在記者。明三〇、大分縣看守及巡查を奉職し就きて今日に至る。(新聞歴)明四一、三、より駐在記者となり今日に及ぶ。(主義)政友會(現住)大分縣北海部郡佐賀關町

佐藤易之助(無有生) (六〇歳) 遼東新報社東京支局長主任同人社、二松學舎、佛學塾にて

サチン・ミカエル、シヤパン・タイムス廣告部長。(一八八五、五、一五)生。市街古大學。新聞事業と學校教師。(趣味)なんでも。(現住)大森。

佐渡高一 シヤパンタイムス記者布哇新報支局長。宇和島市。(明三二、二)生。日本大學大學部政治科卒。五年前より布哇新報東京特設員となり一年前よりシヤパンタイムス記者を兼ねるに到る。(現住)赤坂區一ツ木町七〇三番地

佐藤 巖(翠湖) 大分日日新聞社社長。(三八歳)大分縣師範學校附屬小學高等一年修業後

秋元法規 國民新聞社私通部。(九歳)當時縣立中學卒。關西大學。(新聞歴)大一一、二、二七、國民新聞社入社。(現住)府下荏原郡平塚村戸越五六五

鮎川 威 東京毎日新聞社會部。東京。(明二九、一、二二)生。早稻田大學商科卒。(現住)府下池上村上ノ壘一八七

雨森兼次郎 事業と廣告社長。(現住)東京本郷區龍岡町卅四

修學。(新聞歴)日本新聞社、毎日電報社に入り後今の遼東新報社に入社。(著書)なし。(主義)不言實行。(趣味)園藝と讀書。(現住)府下大森不入斗五三二

佐野博章(三〇歳) 遼東新報社東京支局營業部員。京華中學出身。(新聞歴)大八、遼東新報社入社。(著書)なし。(主義)努力一貫。(趣味)演劇と音楽。(現住)府下蒲田町御園三四一

佐久間豊三 萬朝報社經濟部長。(現住)府下杉並町成宗九三

佐久間傳太郎(呑堂)五六歳)株式會社下野新報社、事務取締役。(主義)一貫主義。(趣味)政治。(現住)宇都宮市傳馬町

佐伯岩見 やまと新聞記者。富山縣中新川立山村岩崎寺(明二二、二、一八)生。早稲田大學政治經濟卒。(現住)府下杉並町成宗九三

佐々政徳 東京日日社會部副部長。(現住)東京日日社會部

佐々田重徳 東京通信社政治經濟記者。大二三、九、八生。島根縣(明三三、五)生。山口高等商業學校卒(大一一、三、三)(趣味)政治、讀書、運動。(現住)東京日日社會部

住)府下落合一ノ三六三 佐々木茂索 時事新報文藝主任。 佐々木貞次郎(三四歳) 時事新報社會部。早稲田大學政治經濟科卒。(新聞歴)現社(主義)享樂主義。(趣味)落語。(現住)東京府下大井町北濱川一、九三

座間勝平 東方通信社通信部長。千葉縣安房郡(明一七、六)生。國民英學會、獨逸語專修學校卒。二六新報記者、報知新聞調査部長。(趣味)演劇。(現住)赤坂區青山町六丁目一〇三

齊藤謙藏(弔花) 關西日報主幹。(明一一、二)生。獨學。大阪新報、神戸新聞、大阪毎日、東京日々、二六(趣味)田園生活、日々の選挙を助ける癖。(現住)泉州濱寺

才津原積(白刃) (二九年七月)若松朝報社戸畑時事新聞社社長。大五、四、明治大學豫科第一部英法入學。大九、七、明治大學法科大學英法科卒。(新聞歴)大九、九、大日本通信社入社(大一一、六、東京通信社入社、大一一、九、若松朝報社に主筆として入社し、同一一、二、社長となり傍ら戸畑時事新聞を買収して兩社を經營しつゝある。(主義)宇宙の萬物に對し同圓異中心主義。(現住)讀書、酒、前進者報進後進者指導。(趣味)福岡縣若松市西新町

里見岸雄(留川) 天業民報社客員。東京(明三〇、三)生。早稲田大學文學科哲學部、田中智學先生門下。早稲田大學文學士天業民報記者、關見日本文化研究所長。(現住)兵庫縣西宮町

里見謹吾(猿公) (明二二、生)政治經濟通信社主筆。新聞歴)中國民報記者、北陸新聞記者、みくに新聞主筆、日本電

報通信記者、國民新聞記者、新愛知新聞社理事兼東京支局長、中央新聞政治部長同政治部編輯長、帝國通信社客員、讀賣新聞記者。(著書)帝國議會の内幕暴露、近海富源、伊豆七島實用作之講話等其他數種。(現住)麻布區谷町四

澤田寅吉 都新聞社。滋賀縣(明三五、二)生。滋賀縣立長濱農學校卒後獨學。大阪時事新報社經濟部から東京萬朝報を経て現社に入る。(趣味)酒、旅行。(現住)東京市本所區

澤田忠次郎(燕松) 帝國新聞論議擔任(大九、二)入社。各雜誌寄稿。家族三人。同志社大學。明大法科卒。(新聞歴)日、國民、中央、讀賣、毎夕。(著作)明治大帝。明治五十年史。鹿けられた女に代つて。生の悩み戀の悩み、女の心男の心。日本女史其他。(趣味)旅行と犬。(現住)東京市外大久保二〇三

澤田敬三(大觀小樓主人) (三八歳) 日刊但馬日日新聞社社長。縣立豊岡中學校卒。京都平安 養正文科出身。(新聞歴)神戸又新日報社から郷里に歸り但洲日報電報新聞を創刊し大一一〇、一切を合併して今日に至る

坂部壽之助(穂州) (三一歳) 報知新聞社經濟部。專修大學專門部出身。(新聞歴)運動界雜誌經營讀賣新聞等を経て現社に至る。(著書)運動界。(主義)皇室中心主義。(趣味)撞球。(現住)大森不入斗九二三

坂部藤二 國民新聞社販賣部長。(現住)市外世田ヶ谷太子堂三一八

坂口儀作(琴水) (三六歳) 大阪朝日新聞社、朝日スポーツ、獨學(殆んど)。(新聞歴)明四三、から富山縣高岡市の高岡新報。九州版、京都附録編輯よりスポーツに轉。(著書)なし。(主義)己れのことばは己れが主筆。(趣味)總ての運動、田園、旅行。(現住)兵庫縣武庫郡鳴尾村本郷

坂本宗一郎(子輝) 德島毎日社會部長(大六、九)入社。德島市(明一九)生。妻と二男一女。德島中學校卒。(思想)國家社會主義。(趣味)俳句、演劇、音楽。(政黨)政友會。(現住)德島市職町四丁目

坂本正雄 日本電報通信社米國留學生。明二五、高知縣に生る。早稲田大學政治經濟科。日本労働總同盟五周年までの會長の書記と機關雜誌の主任。

坂下繁太郎(斜川) (明一

時事と朝日を纏て大一二、一、一、から現在。(著書)「廿世紀の男女」友愛會五周年史、南米移民案内「フオオ百話」等。(現住) 1034 Grant St, Berkeley, U. S. A.

坂本皆介 大朝舞鶴通信部主任。(現住)京都市舞鶴町南田邊。

坂本昌道(東水) 湖南日報社編輯局長。(新聞歴)明四四、京城日報社に入社、大元、六、湖南日報社に入り今日に至り、釜山日報大田支局長を兼務す。(主義)人道主義。(趣味)旅行、運動、淨瑠璃。(現住)朝鮮大田春日町一丁目五五。

坂本準治(樂天)秋田魁編編輯長(明二二、七八社)。秋田市明元。現住)秋田市上中城町。

坂本彦平(猿冠者) 中央新聞社編輯主任。神田區宮木町一番地(明一九、三、一〇)生。商工中學校卒。(現住)神田區宮木町。

酒井初次郎 めさまし新聞社長。長崎縣島原町(明二五)生。島原中學校、早稻田大學文學科及政治経済科に學ぶ。姫路、豊城新聞、島原新聞に執筆、大四、島原毎日新聞に入社、大九

酒井謙吉(巷陽子) 神戸新聞社東京支局長。東京深川(明二五)生。無學歴。電報新聞、毎日電報、東京日々を経て神戸新聞に入社す。(趣味)新聞事業。(現住)東京市麩町區平河町四ノ一三。

酒井金太郎 都新聞會計部長。(現住)赤坂區新町五ノ三。

相良 左 國際通信社新聞部主任。相良一休(三三歳) 九州日報社田川通信主任、大阪朝日伊田通信員。中卒。(新聞歴)大七現社に入社以來今日に及ぶ、大

南群日報に主筆として入社、大一一〇、五、歸郷して現めさし新聞を獨力經營し今日に至る。(趣味)別に取り立て、特記するものなし。(現住)長崎縣島原町。

酒井宗吉(如水) 東京日日新聞甲府通信部主任。東京(明二五、一一、二)生。常盤新聞を振り出しに茨城日日新聞記者たり、後報知新聞社に入社、熊谷前橋支局長を経て大九、東京日日新聞社に入社濱松在勤二年大一二、甲府特派員に任命。(趣味)童話の講演。(現住)甲府市紅梅町二。

相良喜十郎 中津日々主幹。耶馬溪(明二二)生。獨身。私立中學校卒。(新聞歴)二豊新聞大分日々、大八、現紙創刊。(思想)温情主義。(趣味)琵琶(新聞)大分縣中津町。

堺 三司(晩花) (四三歳) 若松新聞社東京新聞社々長。政治機關宗教機關紙。明三八、東洋大學卒。(新聞歴)明三九、より現在迄新聞記者生活。長崎鎮西日報福岡市九州日報を経て現在若松市に在り。(主義)憲政會(趣味)園藝、旅行。(現住)若松市山手通四丁目。

貞頼卓男 山陽新報政治部主任(大一一〇、三再入社)。岡山(明二七、六)生。妻。明治大學政治科卒。(新聞歴)山陽新報大阪時事。(趣味)将棋、花牌、狩獵(政黨)無。(現住)岡山市東田町八二。

櫻田松太郎(五五歳) 大阪毎日新聞社常任監査役。神戸高等商業學校卒。(新聞歴)明三一、大阪毎日新聞社營業局に従事。(現住)大阪市外岡町松原通

木村松之助 朝鮮毎日新聞東京支社長。東京府武蔵國生地(明七、八)生。(趣味)園藝、撞球、等々。(現住)市外澁谷町中澁谷五七二。

木村政次郎 東京毎日新聞社長。ラヂオ新聞社長。(現住)芝區白金三光町三九三。

木村正文 東京毎日新聞合資會社出資者。(現住)麻布富士見町五。

木村正之(二七歳) 國民新聞社寫真課主任。ヒロコリゲンカスクール出身。(新聞歴)國民大九、九、入社。(趣味)藝術寫真。

木村朝太郎(松翠) (四六歳) 關西日日新聞、明石新聞兩社編輯長。(新聞歴)千數新聞社近江新報が最初。(著書)著しきものなし。(主義)不偏不黨。(趣味)畫、號國信。(現住)明石市相生町。

木村作次郎(竹場) 美濃大正新聞社長。(明五)大垣市に生る。法學院に學ぶ。明三五、獨力で新聞を起し今日に至る、その間衆議院議員、岐阜縣會議員、大垣市會議員等に擧げらる。(趣味)政治、謠曲。(現住)岐阜縣

木村儀兵衛(終浦) 都新聞社政治部。山口縣小串町(二八、五、一〇)生。學歴新聞歴共に擧げて數ふべきもの無し。大七、上京、時事新報社に約三年勤務を経て現社に入社滿三年。(趣味)格闘の趣味、無し、但し政治は好き也。(現住)東京市外四ツ原九七三。

木村元三郎(横針) 東奥日報社取締役編輯長(明三三)入社。弘前市(明三、二)生。(現住)青森市東奥日報社。

木村清一(三九歳) 因伯時報株式會社事務取締役。慶應義塾大學理財科出身。(主義)政友會派。(現住)鳥取市本町二丁目。

木村征夫 大阪朝日新聞社高知通信部主任。福岡縣(明二七、一一、二)生。(現住)高知市西唐人町五七。

木下東作 大阪毎日新聞編輯顧問兼運動課長。京都(明一一、八)生。東京府一中、第一高等學校、東京帝國大學、同大學院。(經歷)東京帝國大學醫學部、大阪高等醫學部、大阪醫科大學、後大阪毎日新聞。(趣味)運動。(現住)大阪市住吉區住吉町一〇五二ノ五。

木下信行(三一歳) 時事新報社政治部。(新聞歴)時事新報社(大八、二、入社)。(現住)東京市外松澤村松原八。

木下不二太郎 大阪毎日中央聯絡部(明四三)入社。大阪(明一四、一〇)生。母妻二女子。(思想)悠々自適主義、宗教的。(趣味)園藝、劇、舞踊。(現住)名古屋市中區老松町三ノ五二。

木本精八 豊州新報社工務局長。大分市王子町(明二三、三、三)生。明三七、一一、二八入社。(趣味)讀書と登山。(現住)大分市王子町三丁目。

城戸元亮 東京日日新聞編輯主任。大阪毎日新聞常務取締役。(現住)府下花原郡入新井町新井宿一三二九。

喜多清三(三九歳) 大阪毎日朝歌山特派員。縣立神戸第一中學校卒、早稻田大學退學。(新

一丁目 櫻木俊晃(三二歳) 東京朝日新聞社整理部在勤早稻田大學大學部政治経済科卒。(新聞歴)大八、一〇、東京朝日新聞社社會部に入り、大一二、二、現整理部に轉ず。(趣味)旅行及登高。(現住)府下南品川三ツ木館ヶ崎八七八。

笹山準式(醇温客) 大阪經濟日報社主筆。香川縣(明一九、九)生。新聞記者生活二十餘年。(現住)大阪市東淀川區十三四の町三六六。

笹木義一(紅雨) 新愛知新聞金澤支局長。石川縣(明一九、一〇)生。海軍生活を多年なれ海外に航したること屢なり、殊に明治四十二年米國に赴き排日問題の最も甚しき時に其の實況を視察研究にす。(現住)金澤市長町五番五。

神原 登(稔水) 宮崎日々新聞社會部記者。宮崎縣東諸縣郡(明三五、六、二五)生。(現住)宮崎市。

鷺田成男 萬朝報運動競技部長。鹿兒島新聞編輯長。(新聞歴)大阪毎日。(現住)鹿兒島稻荷町二五。

木下乙市 中外商業新報編輯。伯耆國(明二二、六、三)生。加州大學、南加大學。(新聞歴)世界記者(桑港)華府會議特派員、チンタオリヂャ主筆(英文)出版譯書「純正哲學概論」。「新文明再建の精神」。(現住)市外野方町新井一四八。

木下信行(三一歳) 時事新報社政治部。(新聞歴)時事新報社(大八、二、入社)。(現住)東京市外松澤村松原八。

木下不二太郎 大阪毎日中央聯絡部(明四三)入社。大阪(明一四、一〇)生。母妻二女子。(思想)悠々自適主義、宗教的。(趣味)園藝、劇、舞踊。(現住)名古屋市中區老松町三ノ五二。

木本精八 豊州新報社工務局長。大分市王子町(明二三、三、三)生。明三七、一一、二八入社。(趣味)讀書と登山。(現住)大分市王子町三丁目。

城戸元亮 東京日日新聞編輯主任。大阪毎日新聞常務取締役。(現住)府下花原郡入新井町新井宿一三二九。

喜多清三(三九歳) 大阪毎日朝歌山特派員。縣立神戸第一中學校卒、早稻田大學退學。(新

三瓶仙輔 福島民報社東京支局長。

三大寺本紹(活堂) 讀賣新聞地方版編輯主任。(明治一〇、一一、滋賀縣に生る)。中學卒後哲學館(東洋大學前身)關西法律學校等に學ぶ。京都新聞記者、萬朝報大阪支局長、讀賣新聞社會部編輯、岡崎入欄、身の上相談等を経て現在に及ぶ。尙業きに造士新聞、京都評論等二三雜誌を刊行したる事あり。(趣味)神の研究と遠摩像の蒐集(現住)東京市四谷區大番町六。

木川忠一郎(野毛山人) 東京朝日通信主任(明三八、四入社)。東京(明六、一)生。家族三人。(新聞歴)東日。(著作)伊藤公演説集。(現住)東京市外中澁谷四〇〇。

木村 東(素貧富) 東京朝日新聞社社會部。熊本縣菊池郡四合志村野々島(明二七、二)生。中央大學政治経済科出。大八、四、讀賣新聞社社會部に入り農商務省、逓信省擔任、同九年十二月現在に轉じ、宮内省坂下タラアに籍を置く。(趣味)都市

木村松之助 朝鮮毎日新聞東京支社長。東京府武蔵國生地(明七、八)生。(趣味)園藝、撞球、等々。(現住)市外澁谷町中澁谷五七二。

木村政次郎 東京毎日新聞社長。ラヂオ新聞社長。(現住)芝區白金三光町三九三。

木村正文 東京毎日新聞合資會社出資者。(現住)麻布富士見町五。

木村正之(二七歳) 國民新聞社寫真課主任。ヒロコリゲンカスクール出身。(新聞歴)國民大九、九、入社。(趣味)藝術寫真。

木村朝太郎(松翠) (四六歳) 關西日日新聞、明石新聞兩社編輯長。(新聞歴)千數新聞社近江新報が最初。(著書)著しきものなし。(主義)不偏不黨。(趣味)畫、號國信。(現住)明石市相生町。

木村作次郎(竹場) 美濃大正新聞社長。(明五)大垣市に生る。法學院に學ぶ。明三五、獨力で新聞を起し今日に至る、その間衆議院議員、岐阜縣會議員、大垣市會議員等に擧げらる。(趣味)政治、謠曲。(現住)岐阜縣

木村儀兵衛(終浦) 都新聞社政治部。山口縣小串町(二八、五、一〇)生。學歴新聞歴共に擧げて數ふべきもの無し。大七、上京、時事新報社に約三年勤務を経て現社に入社滿三年。(趣味)格闘の趣味、無し、但し政治は好き也。(現住)東京市外四ツ原九七三。

木村元三郎(横針) 東奥日報社取締役編輯長(明三三)入社。弘前市(明三、二)生。(現住)青森市東奥日報社。

木村清一(三九歳) 因伯時報株式會社事務取締役。慶應義塾大學理財科出身。(主義)政友會派。(現住)鳥取市本町二丁目。